

科目名	【新カリ】グローバルコミュニケーション			授業形態	演習
英語科目名	【新カリ】グローバルコミュニケーション			対象学年	3年
開講学期	2022年度後期			単位数	2単位
代表教員	和氣 秀文			ナンバリング	BAS3304
担当教員	和氣 秀文、鄧 翺宇、坂本 彰宏、室伏 由佳、スポーツ健康科学部教員共通				
授業概要					
全体内容	<p>本科目は、演習の授業形態で行われる。スポーツ健康科学に関する専門的知識又は技能をもとに、変容し続ける国際社会の場で活躍できる資質及び国際的視野を身につけることを目指し、グローバル化社会には欠かせない語学力、国際人に求められる幅広い教養とセンス、コミュニケーション能力を涵養する。</p>				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 国際交流で起こりうる様々なシーンで、会話や文書によるコミュニケーションを取る事ができる。 2. 英語で履歴書(CV)や自己profile(biography)を作成することができる。 3. スポーツ健康科学に関わる国際問題についてディベート(公的な主題について異なる立場に分かれ議論する)を繰り広げ、多角的な観点から解決法や代替案を提示できる。 4. 海外遠征・留学・研修の際に必要な準備や、リスクマネジメントを自主的にすることができる。 				
授業の位置づけ	この科目は、コース科目群・コース共通科目の選択科目である。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は「スポーツ健康科学を中心とした幅広い知識と教養、及びそれらの活用能力」及び「協働で課題を解決するために必要なコミュニケーション能力」という学位授与方針の達成に寄与する。				
履修上の注意、履修要件	<p>【履修要件】 特になし。</p> <p>【履修上の注意(科目独自のルール)】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の総出席が2/3を満たさない場合は単位を認定しない。 2. 授業中やディベート試験中での発言が一切無い場合は厳格に評価をする。 				
成績評価の方法					
評価方法	レポート課題3回(40%)、受講態度を基とする平常点(20%)、口答試験1回(40%)を総合して評価する。				
評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. 履歴書、自己profile、フォーマルレターを英語で作成する事が出来る(レポート)。 2. 国際交流に必要なフレーズを英語や中国語で表現することができる(平常点)。 3. ディベートでfor/against(賛成/反対)の両意見を述べ理解し、グローバルな解決法や代替案を提示することができる。(口頭試験) 				
試験・課題に対するフィードバック方法					
後日に授業内で模範解答や評価ポイントを提示し、解説する。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考文献					
授業内で担当教員より配布される。授業に関連する資料をインターネットから検索し参考にしても良い(取扱注意)。					
その他					
連絡先・オフィスアワー	<p>【連絡先】 担当：和氣 秀文 E-mail：hwaki[at]juntendo.ac.jp ※[at]を@に変更してください。</p> <p>【オフィスアワー】 日時：火曜日午後 場所：スポーツ健康医学研究所3階 生理学系実験室(9304号室)</p> <p>上記の時間帯には予約無しに質問や相談に応じますが、他の学生からの訪問に対応している可能性もある為、事前にe-mailで予約をすることが望ましい。</p>				
担当教員の実務経験					
備考	<p>【学修時間】 この授業は演習の授業形態による2単位の科目であり、90時間(授業30時間以上を含む)の学習を必要とする内容をもって構成する。</p> <p>【その他】 新型コロナウイルス感染症の発生状況により、授業計画等の変更をお願いする可能性がある。</p>				
授業計画					
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間	

1	和氣 坂本 室伏 部	テーマ： ガイダンス	授業の概要や成績 評価方法について 学ぶ。担当教員か らの自己紹介を聞 く。	(予習：2時間) 授業形態、内容、成績評価法についてシラバス を熟読する。 (復習：1時間) 授業形態、成績評価法、注意事項について理解 を深める。
2	坂本	テーマ： 英語での挨拶、自己紹介、質問、返答の仕方を学ぶ	英語で交流する際 のフレーズを学 び、学生間で実 際にコミュニケー ションをとる。	(予習：2時間) 基礎的な英語フレーズについてテキストやイン ターネットサイトなどで予習しておく。 (復習：2時間) 学習した英語フレーズを自ら言える、書ける様 にする。
3	坂本	テーマ： 英語で文書を作成する (1)	履歴書 (CV) や自己 profile (biograph y) を英語で作成す る。	(予習：2時間) 履歴書作成に必要な情報をリストアップする。 自己profileに記載する自身の情報をまとめて おく。 (復習：3時間) 履歴書と自己profileを完成させ、提出に備え る。
4	坂本	テーマ： 英語で文書を作成する (2)	フォーマルレター の書き方を学び、 英語で作成する。	(予習：2時間) フォーマルレターで使われるフレーズや形式を インターネットサイトで調べておく。 (復習：3時間) フォーマルレターを完成させ、提出に備える。
5	坂本	テーマ： スポーツ健康科学に関する時事問題を知る	スポーツ健康科学 に関する国際的な 時事問題をイン ターネットや既存 知識を介してリス トアップし、背景 と実情を知る。	(予習：3時間) 時事問題が掲載されている記事やインターネッ トサイトを探す。 (復習：2時間) 時事問題の背景と事情への理解を深め、解決 策について考える。
6	坂本	テーマ： ディベートをする	スポーツ健康科学 の国際的時事問題 についてディベ ートを行う。 For/againstの両 観点から議論し、 意見をまとめる。	(予習：2時間) 時事問題の中で、特に気になる項目を選別し、 ディベートに備える。 (復習：2時間) 学習したディベート法に従い、他の学生と好き なトピックについてディベートをしてみる。
7	部	テーマ： 中国語での挨拶、自己紹介、質問、返答の仕方を学ぶ	中国語で交流する 際のフレーズを学 び、学生間で実 際にコミュニケー ションをとる。	(予習：2時間) 基礎的な中国語フレーズについてテキストやイン ターネットサイトなどで予習しておく。 (復習：2時間) 学習した中国語フレーズを自ら言える、書ける 様にする。
8	部	テーマ： 中国語を正しく発音する	中国語のネイティ ブ発音を学習す る。	(予習：2時間) 中国語の発音を調べる事が出来るインター ネットサイトを見つける。 (復習：2時間) 学習した発音が再現できるよう、他の学生と練 習する。
9	部	テーマ： 中国語での施設紹介	中国語圏からのゲ スト訪問を想定 し、学内施設を中 国語で案内する方 法を学ぶ。	(予習：2時間) 学内にある施設の中国語名について、インター ネットサイトを活用し、予習する。 (復習：3時間) 学習した案内用語を使い、他の学生と練習す る。
10	室伏	テーマ： 海外遠征・出張の手順と注意点	スポーツ遠征や出 張で海外に行く際 に必要な手順とリ スクマネージメン トについて学ぶ。	(予習：2時間) 海外で起こりえる事件、事故について調べてお く。 (復習：2時間) 海外での国際交流参加を想定し、何が既に出 来ている、何が出来ていないかについてセルフ チェックをする。

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	【新カリ】スポーツコーチング演習（陸上競技）	授業形態	演習		
英語科目名	【新カリ】スポーツコーチング演習（陸上競技）	対象学年	3年		
開講学期	2022年度前期、2022年度後期	単位数	4単位		
代表教員	山崎 一彦	ナンバリング	COA3306		
担当教員	山崎 一彦、仲村 明、高梨 雄太、杉林 孝法、スポーツ健康科学部教員共通				
授業概要					
全体内容	<p>本科目は、演習の授業形態で行われる。「陸上競技のコーチング演習」、「体操競技のコーチング演習」、「水泳のコーチング演習」、「サッカーのコーチング演習」、「バレーボールのコーチング演習」、「バスケットボールのコーチング演習」、「卓球のコーチング演習」、「柔道のコーチング演習」、「剣道のコーチング演習」、「ダンスのコーチング演習」の中から1つを選択し、その種目のコーチングの理論を学習し、実践を通して指導方法を身につける。</p> <p>「陸上競技のコーチング演習」においては、走跳投（短距離・リレー・ハードル・中距離・長距離・跳躍・投てき）の競技専門的特性およびルールをより深く論理的に理解する。また、ある単一種目のみの指導だけでなく、走・跳・投すべての種目について指導ができるようになることを目的とする。経験者および未経験者を配慮したグループ分けをし、それぞれの種目に関しての知識を確認および議論ができるグループワークを展開する。それらの知識を駆使しながら、学生同士が指導演習をしながら専門的技術を学んでいく。</p>				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 陸上競技における科学的なトレーニング方法が理解できる 2. 陸上競技におけるコーチング方法の実際について理解を深めることができる 3. 陸上競技におけるパフォーマンス向上のための基礎的な科学的根拠を理解することができる 4. 陸上競技の授業およびコーチングをすることができる 				
授業の位置づけ	この科目は、コース科目群・競技スポーツコース科目・スポーツコーチング科学コース科目の必修科目である。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目はスポーツ種目の理論と実践の演習を通して、「スポーツ健康科学を中心とした幅広い知識と教養、及びそれらの活用能力」、「コミュニケーション力」および「倫理観」を身に付けるための科目の1つとして開講される。また、スポーツコーチングコースおよびスポーツ競技コースの必修授科目として、「スポーツ科学の知識に基づき、現場で指導できる能力ないしは研究できる能力」という学位授与方針の達成にも寄与する。				
履修上の注意、履修要件	<p>【履修要件】 1年次開講の陸上運動を受講しておくことが望ましい。</p> <p>【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】 課題ごとに、口頭試問や実技試験を実施し、フィードバックしながら進めていく。</p>				
成績評価の方法					
評価方法	課題達成度（50%）、知識の獲得度（20%）、授業態度・取り組む姿勢（30%）を総合的に評価する。				
評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. パフォーマンス向上のための基礎的な科学的根拠が理解できている。（口頭試問） 2. 陸上競技に関する基礎的な動作ができる。（実技試験） 3. 陸上競技に関する基礎的なトレーニング方法が理解できている。（口頭試問、実技試験） 4. 授業態度・取り組む姿勢が積極的である。（平常点） 				
試験・課題に対するフィードバック方法					
<p>【成績評価の基準】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. パフォーマンス向上のための基礎的な科学的根拠が理解できている。（口頭試問） 2. 陸上競技に関する基礎的な動作ができる。（実技試験） 3. 陸上競技に関する基礎的なトレーニング方法が理解できている。（口頭試問、実技試験） 4. 授業態度・取り組む姿勢が積極的である。（平常点） 					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考文献					
授業中に適宜、資料を配布します。					
その他					
連絡先・オフィスアワー	<p>火曜日 9時～11時 担当：山崎（短距離走，ハードル走，リレー） 1号館5階1522室</p> <p>E-mail：kayamaza@juntendo.ac.jp 担当：鯉川（中長距離走） 1号館5階1521室</p> <p>E-mail：nkoikawa@juntendo.ac.jp 担当：杉林（跳躍） E-mail：taka.sugibayashi@juntendo.ac.jp 1号館5階1525室</p> <p>担当：仲村（中長距離走） E-mail：aknaka@juntendo.ac.jp 1号館5階1524室</p> <p>担当：高梨（投擲） E-mail：ytakana@juntendo.ac.jp 1号館5階1523室</p>				

担当教員の実務経験	陸上競技においてオリンピック出場経験、実業団活動経験のある教員、日本スポーツ協会公認コーチ資格、JOCナショナルコーチアカデミー修了の教員、競技中央団体の日本代表監督およびコーチ経験のある教員が、陸上競技の現場において求められる知識や技術をわかりやすく解説・演習します。			
備考	<p>【学修時間】 この授業は演習形式による4単位の科目であり、授業60時間と準備学習120時間の計180時間の学修を必要とする内容をもって構成する。</p> <p>【その他】 この授業科目は、資格との関連はない。</p>			
授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	山崎 鯉川 仲村 杉林 高梨	授業目的および概要の解説、シラバスの解説、評価方法を受講者が理解する。 また、予習・復習方法についても理解し、実行できるようにする。	講義形式で行い、陸上競技のコーチングに関する興味付けを行う。 陸上競技の歴史について解説する。	(予習：2時間) シラバスを読み、授業展開を確認しておく。 (復習：3時間) 陸上競技のトラックの歴史について調べ、奥深い理論が学べるようにしておく。
2	山崎	短距離走の歴史とルールについて理解する。	短距離走の歴史について解説し、その背景について受講者は討議する。 また短距離走のルールの変遷を解説し、現代におけるルールを理解した上で、背景と対策について討議する。	(予習：2時間) ルールブックより、短距離走のルールについて読んでおく。 (復習：3時間) 短距離走のルールと歴史的背景をまとめておく。
3	山崎	速く走るというメカニズムをエビデンスベースで理解するために講義を中心とした知識を得る。	講義形式で知識を増やしなが、グループ分けをして、速く走るということを深掘りしていく。	(予習：2時間) 世界一流競技者および日本一流競技者の動作をなるべく多くの動画をみて、速く走るという動作などを整理しておく。 (復習：2時間) 速く走るというエビデンスを整理し、更に参考書や文献検索をして理解を深める。
4	山崎	エナジェティクスな部分と効率といった動作の部分から、速く長く走るということを解説する。	「速く長く走る」というテーマで解説で得た知識をもとに、グループワークでトレーニング方法をデザインする。	(予習：2時間) スポーツ生理学などから運動エネルギー代謝について復習しておく。 (復習：3時間) 速く長く走るためのエナジェティクスを本講義で行ったことと自身で調べたことをまとめておく。さらに運動の効率というところは力学的視点から整理しておく。
5	山崎	スマートフォンおよびタブレット端末を用いて、計測のできる動画撮影方法を学び、実際に撮影する。	身近にあるスマートフォンやタブレット端末を用いて、簡便かつ正確に計測や分析のできる方法を学び、実際にスプリント走の撮影を行う。	(予習：2時間) インターネットやSNS等の一流競技者から一般競技者までのスプリント走を検索しなるべく数多く閲覧しておく。 (復習：2時間) 本講義で撮影した自身または他人の動画を講義で学んだ分析方法から、時間分析をしておく。
6	山崎	スプリント走の時間分析をした結果をグループで集め、それぞれの評価をする。また、そこから、速く走ることの要因について学ぶ。	速く走るというメカニズムをエビデンスを解説し、トップアスリートと本講義で撮影した動画を比較しながら、コーチング視点からディスカッションする。	(予習：2時間) インターネットやSNS等の一流競技者から一般競技者までのスプリント走を検索しなるべく数多く閲覧しておく。 (復習：2時間) 本講義で撮影した自身または他人の動画を講義で学んだ分析方法から、ディスカッションした内容で指摘された部分を訂正し改善する。
7	山崎	受講生がグループを作り、疾走動作をし動画撮影を行う。	速く走るというメカニズムをエビデンスを解説し、トップアスリートと本講義で撮影した動画を比較しながら、コーチング視点からディスカッションする。	(予習：2時間) 撮影した動画を自身の動画を編集してディスカッションや分析に備える (復習：2時間) ディスカッションした内容を復習し、分析ができていない部分を加えて分析する

8	鯉川仲村	中長距離 陸上競技長距離走者のコーチに求められる諸要因について理解を深める。	講義・グループワーク 各項目学生に自分の求める理想のコーチ像を発表させる。5-6名のグループで理想のコーチ像に関して、明確なビジョンを意識させる。	(予習: 3時間) 長距離走に關しての個人的な印象や感想、自分の求めるコーチ像のイメージをまとめる。 (復習: 2時間) 陸上競技長距離走者のコーチングに關するレポートを作成する。
9	鯉川仲村	中長距離 長距離走者の年間スケジュール(トレーニング・競技会等)の目的や狙いについて理解を深める。	講義・グループワーク・発表 事前に配布された資料を参照し、陸上競技のトレーニング総論をまとめる。 (復習: 2時間) 日本の長距離走者が年間計画の中で抱える問題点を整理する。	(予習: 2時間) 事前に配布された資料を参照し、陸上競技のトレーニング総論をまとめる。 (復習: 2時間) 日本の長距離走者が年間計画の中で抱える問題点を整理する。
10	鯉川仲村	中長距離 長距離走者のランニング技術について学習する。	講義・グループワーク 様々なタイプのランニングフォームについて解説し、着目するポイントを紹介する。ランニングを行う上で意識している点に關し、グループワークを行う。	(予習: 2時間) 事前に配布した課題に対して回答する。 (復習: 2時間) 授業内で解説された効率の良いランニングフォーム習得のためのポイントをまとめておく。
11	鯉川仲村	中長距離 長距離走者のランニング技術について実践する。	実技・演習 様々なタイプのランニングフォームについて振り返りを行い、グループ単位で実践指導を行う。	(予習: 2時間) 事前に配布した課題に対して回答する。 (復習: 2時間) 演習で行った実践指導を事例的にまとめる。
12	鯉川仲村	中長距離 能力測定の目的とデータの活用方法について理解を深める。	講義 講義形式で蓄積した様々なデータの紹介と解説を行う。	(予習: 2時間) 事前に配布した課題に対して回答する。 (復習: 2時間) データの活用方法に關するレポートを作成する。
13	鯉川仲村	中長距離 大学駅伝に向けた順天堂の取り組みについて学ぶ。	箱根駅伝の歴史的な背景や順天堂の箱根駅伝に向けたチームビルディングを紹介し、着目点を解説する。	(予習: 2時間) 配布資料をもとに箱根駅伝の歴史的な背景を調べてくる。 (復習: 3時間) 中長距離の総括として、授業内で解説したポイントを抑え、レポートを作成する。
14	山崎鯉川仲村	短距離、ハードル、リレー、中距離、長距離で演習したことで、専門的なコーチング実践について振り返る	ディスカッション 13回までの演習内容を復習をする (復習: 2時間) ディスカッションした内容を復習し、今後のコーチング実践に活かせるようにする	(予習: 2時間) 13回までの演習内容の復習をする (復習: 2時間) ディスカッションした内容を復習し、今後のコーチング実践に活かせるようにする
15	杉林	跳躍種目の技術①(走高跳)	走高跳の技術変遷、ポイントを解説する(講義)	予習・復習・レポート課題 (予習2時間) 走高跳の歴史についてまとめる (復習3時間) 走高跳の技術ポイントを確認する
16	杉林	走高跳の専門的トレーニング	走高跳の専門的トレーニングを実践し、指導法を理解する(実技)	予習・復習・レポート課題 (予習2時間) 走高跳の競技ルールを確認する (復習3時間) 指導法のポイントを整理する
17	杉林	走高跳のコーチング	現在のパフォーマンスを分析し、パートナーと相互に指導し合う(実技)	予習・復習・レポート課題 (予習2時間) 自身の技術課題を確認する (復習3時間) パフォーマンスの変化をまとめる
18	杉林	跳躍種目の技術②(走幅跳)	走幅跳の各技術の特徴、ポイントを解説する(講義)	予習・復習・レポート課題 (予習2時間) 走幅跳の技術の種類についてまとめる (復習3時間) 走幅跳の技術ポイントを確認する
19	杉林	走幅跳の専門的トレーニング	走幅跳の専門的トレーニングを実践し、指導法を理解する(実技)	予習・復習・レポート課題 (予習2時間) 走幅跳の競技ルールを確認する (復習3時間) 指導法のポイントを整理する

科目名	【新カリ】スポーツコーチング演習（体操競技）	授業形態	演習		
英語科目名	【新カリ】スポーツコーチング演習（体操競技）	対象学年	3年		
開講学期	2022年度前期、2022年度後期	単位数	4単位		
代表教員	原田 睦巳	ナンバリング	COA3306		
担当教員	原田 睦巳、富田 洋之、スポーツ健康科学部教員共通				
授業概要					
全体内容	<p>本科目は、演習の授業形態で行われる。「陸上競技のコーチング演習」、「体操競技のコーチング演習」、「水泳のコーチング演習」、「サッカーのコーチング演習」、「バレーボールのコーチング演習」、「バスケットボールのコーチング演習」、「卓球のコーチング演習」、「柔道のコーチング演習」、「剣道のコーチング演習」、「ダンスのコーチング演習」の中から1つを選択し、その種目のコーチングの理論を学習し、実践を通して指導方法を身につける。</p> <p>「体操競技のコーチング演習」においては体操競技が現在に至るまでの歴史や発展経過を学ぶとともに、体操競技における専門知識に触れ、採点競技の特性や器械運動および、体操競技特有の実践的指導方法を理解することにより、教養のあるスポーツ指導者の育成を目指す。</p>				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 体操競技の歴史について説明することができる。 2. 体操競技の専門知識を説明することができる。 3. 体操競技の実践的指導方法を理解し、実施できる。 				
授業の位置づけ	この科目は、コース科目群・競技スポーツコース科目・スポーツコーチング科学コース科目の必修科目である。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、スポーツ健康科学部の学位授与方針に定める「スポーツ健康科学を中心とした幅広い知識と教養、及びそれらの活用能力」を身につける。				
履修上の注意、履修要件	<p>【履修要件】 器械運動の単位取得後にこの授業を履修することが望ましい。</p> <p>【履修上の注意（科目独自のルール）】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 動きやすい服装。 2. 1回の授業について3分の2以上の出席時間がない場合は、その回の授業を欠席扱いとする。 				
成績評価の方法					
評価方法	定期試験（40%）、実技試験（40%）、平常点（20%）を総合して評価する。				
評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. 体操競技の歴史や専門知識について説明することができる。（定期試験） 2. 体操競技の実践的指導方法を理解し、実施することができる。（実技試験） 3. 授業やグループワークの取り組みなどの受講態度を評価する。（平常点） 				
試験・課題に対するフィードバック方法					
課題に関して正確に理解させ、評価や助言はその場でフィードバックする。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
	体操競技のコーチング（第4版）	金子明友	大修館書店		
	わざの伝承	金子明友	明和出版		
	自分を操る	富田洋之	産業編集センター		
参考文献					
授業中に関しては適宜、資料を配付する。					
その他					
連絡先・オフィスアワー	<p>【連絡先】 担当：富田 洋之 E-mail：htomita[at]juntendo.ac.jp ※[at] を@に変更して下さい。</p> <p>【オフィスアワー】 日 時：火・水曜日10：00～11：00 場 所：1号館5階1511室（体操競技研究室）</p>				
担当教員の実務経験	国際体操連盟において技術委員の業務にあたった経験を生かし、体操競技の指導現場において求められる知識や技術をわかりやすく解説します。				
備考	<p>【学習時間】 この授業は、講義の授業形態による4単位の科目であり、授業時間60時間と準備学習120時間の計180時間の学修を必要とする内容をもって構成する。</p> <p>【その他】 新型コロナウイルス感染症の発生状況により、授業計画等の変更をお願いする可能性がある。</p>				
授業計画					
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間	

1回	原田睦巳 富田洋之	ガイダンス	講義 前期授業の目的及び概要、シラバス、評価方法等について説明をする。	【予習：2時間】 シラバスの熟読し、内容を理解しておく。
2回	原田睦巳 富田洋之	講義：オリンピックについて 演習：講義内容を踏まえたグループ討議	講義およびグループワーク オリンピックについて配布資料およびスライドを用いて講義を進めるとともに、IOCの取り組みについてグループで討議を行う。	【予習：3時間】 オリンピックについて資料を読み、疑問点について調べる。 【復習：3時間】 講義で得られた内容や他のグループ発表で得られた知識をまとめる。
3回	原田睦巳 富田洋之	講義：体操競技の歴史について 演習：講義内容を踏まえたグループ討議	講義およびグループワーク 体操競技の源流について配布資料およびスライドを用いて講義を進めるとともに、グループで討議を行う。	【予習：3時間】 体操競技の歴史について資料を読み、疑問点について調べる。 【復習：3時間】 講義で得られた内容や他のグループ発表で得られた知識をまとめる。
4回	原田睦巳 富田洋之	講義：日本の体操競技の歴史について 演習：講義内容を踏まえたグループ討議	講義およびグループワーク 日本の体操競技の歴史について配布資料およびスライドを用いて講義を進めるとともに、グループで討議を行う。	【予習：3時間】 日本の体操競技の歴史について資料を読み、疑問点について調べる。 【復習：3時間】 講義で得られた内容や他のグループ発表で得られた知識をまとめる。
5回	原田睦巳 富田洋之	講義：体操競技種目「ゆか」について 演習：「ゆか」の歴史およびその仕組みや特徴に触れ、実習を行う	講義および演習 体操競技種目「ゆか」について配布資料およびスライドを用いて講義を進めるとともに、現在の「ゆか」に触れ、仕組みや特徴を理解する。	【予習：2時間】 体操競技種目「ゆか」について資料を読み、疑問点について調べる。 【復習：2時間】 講義で得られた内容や器械器具の仕組みや特徴をまとめる。
6回	原田睦巳 富田洋之	講義：体操競技種目「あん馬」について 演習：「あん馬」の歴史およびその仕組みや特徴に触れ、実習を行う	講義および演習 体操競技種目「あん馬」について配布資料およびスライドを用いて講義を進めるとともに、現在の「ゆか」に触れ、仕組みや特徴を理解する。	【予習：2時間】 体操競技種目「あん馬」について資料を読み、疑問点について調べる。 【復習：2時間】 講義で得られた内容や器械器具の仕組みや特徴をまとめる。
7回	原田睦巳 富田洋之	講義：体操競技種目「つり輪」について 演習：「つり輪」の歴史およびその仕組みや特徴に触れ、実習を行う	講義および演習 体操競技種目「つり輪」について配布資料およびスライドを用いて講義を進めるとともに、現在の「つり輪」に触れ、仕組みや特徴を理解する。	【予習：2時間】 体操競技種目「つり輪」について資料を読み、疑問点について調べる。 【復習：2時間】 講義で得られた内容や器械器具の仕組みや特徴をまとめる。

8回	原田睦巳 富田洋之	講義：体操競技種目「跳馬」について 演習：「跳馬」の歴史およびその仕組みや特徴に触れ、実習を行う	講義および演習 体操競技種目「跳馬」について配布資料およびスライドを用いて講義を進めるとともに、現在の「跳馬」に触れ、仕組みや特徴を理解する。	【予習：2時間】 体操競技種目「跳馬」について資料を読み、疑問点について調べる。 【復習：2時間】 講義で得られた内容や器械器具の仕組みや特徴をまとめる。
9回	原田睦巳 富田洋之	(授業内容) 講義：体操競技種目「平行棒」について 演習：「平行棒」の歴史およびその仕組みや特徴に触れ、実習を行う	講義および演習 体操競技種目「平行棒」について配布資料およびスライドを用いて講義を進めるとともに、現在の「平行棒」に触れ、仕組みや特徴を理解する。	【予習：2時間】 体操競技種目「平行棒」について資料を読み、疑問点について調べる。 【復習：2時間】 講義で得られた内容や器械器具の仕組みや特徴をまとめる。
10回	原田睦巳 富田洋之	(授業内容) 講義：体操競技種目「鉄棒」について 演習：「鉄棒」の歴史およびその仕組みや特徴に触れ、実習を行う	講義および演習 体操競技種目「鉄棒」について配布資料およびスライドを用いて講義を進めるとともに、現在の「鉄棒」に触れ、仕組みや特徴を理解する。	【予習：2時間】 体操競技種目「鉄棒」について資料を読み、疑問点について調べる。 【復習：2時間】 講義で得られた内容や器械器具の仕組みや特徴をまとめる。
11回	原田睦巳 富田洋之	(授業内容) 講義：体操競技種目「女子跳馬」について 演習：「女子跳馬」の歴史およびその仕組みや特徴に触れ、実習を行う	講義および演習 体操競技種目「女子跳馬」について配布資料およびスライドを用いて講義を進めるとともに、現在の「女子跳馬」に触れ、仕組みや特徴を理解する。	【予習：2時間】 体操競技種目「女子跳馬」について資料を読み、疑問点について調べる。 【復習：2時間】 講義で得られた内容や器械器具の仕組みや特徴をまとめる。
12回	原田睦巳 富田洋之	講義：体操競技種目「段違い平行棒」について 演習：「段違い平行棒」の歴史およびその仕組みや特徴に触れ、実習を行う	講義および演習 体操競技種目「段違い平行棒」について配布資料およびスライドを用いて講義を進めるとともに、現在の「段違い平行棒」に触れ、仕組みや特徴を理解する。	【予習：2時間】 体操競技種目「段違い平行棒」について資料を読み、疑問点について調べる。 【復習：2時間】 講義で得られた内容や器械器具の仕組みや特徴をまとめる。
13回	原田睦巳 富田洋之	講義：体操競技種目「平均台」について 演習：「平均台」の歴史およびその仕組みや特徴に触れ、実習を行う	講義および演習 体操競技種目「平均台」について配布資料およびスライドを用いて講義を進めるとともに現在の「平均台」に触れ、仕組みや特徴を理解する。	【予習：2時間】 体操競技種目「平均台」について資料を読み、疑問点について調べる。 【復習：2時間】 講義で得られた内容や器械器具の仕組みや特徴をまとめる。
14回	原田睦巳 富田洋之	講義：体操競技種目「女子ゆか」について 演習：「女子ゆか」の歴史およびその仕組みや特徴に触れ、実習を行う	講義および演習 体操競技種目「女子ゆか」について配布資料およびスライドを用いて講義を進めるとともに現在の「女子ゆか」に触れ、仕組みや特徴を理解する。	【予習：2時間】 体操競技種目「女子ゆか」について資料を読み、疑問点について調べる。 【復習：2時間】 講義で得られた内容や器械器具の仕組みや特徴をまとめる。

15回	原田睦巳 富田洋之	ガイダンス	講義 後期授業の目的及び概要、シラバス、評価方法等について説明をする。	【予習：2時間】 シラバスの熟読し、内容を理解しておく。
16回	原田睦巳 富田洋之	講義：技の構造・指導法について 演習：講義内容を踏まえたグループ討議	講義およびグループワーク 技の構造的特徴や指導法の基礎について配布資料およびスライドを用いて講義を進めるとともに、グループで討議を行う。	【予習：3時間】 「体操競技のコーチング論」第5章[技の構造]、第6章[技の指導法]を読み、疑問点について調べる。 【復習：3時間】 「直接指導法」「間接指導法」の内容をレポートに詳細にまとめる。
17回	原田睦巳 富田洋之	講義：補助の意義と技術について 演習：講義内容で得られた知識をもとに実習を行う	講義および演習 技の構造的特徴や指導法の基礎について配布資料およびスライドを用いて講義を進めるとともに、体操競技場にて実習を行う。	【予習：3時間】 「体操競技のコーチング論」第6章《4》補助の意義とその技術を読み、疑問点について調べる。 【復習：3時間】 課題技を例に挙げて具体的な補助方法を検討し、レポートにまとめる。
18回	原田睦巳 富田洋之	講義：「ゆか」の技の体系（接転系）について 演習：講義内容で得られた知識をもとに実習を行う	講義および演習 「ゆか」の技の体系（接転系）について配布資料およびスライドを用いて講義を進めるとともに、体操競技場にて接点技群の実習を行う。	【予習：2時間】 「体操競技のコーチング論」第7章《1》①接点技群を読み、疑問点について調べる。 【復習：2時間】 「ゆか」の技の体系（接転系）についてレポートに詳細にまとめる。
19回	原田睦巳 富田洋之	講義：「ゆか」の技の体系（宙返り系）について 演習：講義内容で得られた知識をもとに実習を行う	講義および演習 「ゆか」の技の体系（回転系）について配布資料およびスライドを用いて講義を進めるとともに、体操競技場にて前方宙返りの実習を行う。	【予習：2時間】 「体操競技のコーチング論」第7章《1》③宙返り技群を読み、疑問点について調べる。 【復習：2時間】 「ゆか」の技の体系（宙返り系）についてレポートに詳細にまとめる。
20回	原田睦巳 富田洋之	講義：「ゆか」の技の体系（宙返り系）について 演習：講義内容で得られた知識をもとに実習を行う	講義および演習 「ゆか」の技の体系（回転系）について配布資料およびスライドを用いて講義を進めるとともに、体操競技場にて前方宙返りの実習を行う。	【予習：2時間】 「前方宙返り」の段階練習、注意ポイントをまとめておく。 【復習：2時間】 講義で得られた内容と「前方宙返り」についてレポートに詳細にまとめる。
21回	原田睦巳 富田洋之	講義：「ゆか」の技の体系（翻転系）について 演習：講義内容で得られた知識をもとに実習を行う	講義および演習 「ゆか」の技の体系（翻転系）について配布資料およびスライドを用いて講義を進めるとともに、体操競技場にて頭跳ね起きの実習を行う。	【予習：2時間】 「体操競技のコーチング論」第7章《1》②翻転技群を読み、前方に回転する技について調べる。 【復習：2時間】 講義で得られた内容と「頭跳ね起き」についてレポートに詳細にまとめる。

22回	原田睦巳 富田洋之	講義：「ゆか」の技の体系（翻転系）について 演習：講義内容で得た知識をもとに実習を行う	講義および演習 「ゆか」の技の体系（翻転系）について配布資料およびスライドを用いて講義を進めるとともに、体操競技場にて前転とびの実習を行う。	【予習：2時間】 「体操競技のコーチング論」第8章《1》②翻転の基本技術を読み、疑問点について調べる。 【復習：2時間】 講義で得られた内容と「前転とび」についてレポートに詳細にまとめる。
23回	原田睦巳 富田洋之	講義：「ゆか」の技の体系（翻転系）について 演習：講義内容で得られた知識をもとに実習を行う	講義および演習 「ゆか」の技の体系（翻転系）について配布資料およびスライドを用いて講義を進めるとともに、体操競技場にて前転とびの実習を行う。	【予習：2時間】 「前転とび」の段階練習、注意ポイントをまとめておく。 【復習：2時間】 講義で得られた内容と「前転とび」についてレポートに詳細にまとめる。
24回	原田睦巳 富田洋之	講義：「ゆか」の技の体系（翻転系）について 演習：講義内容で得られた知識をもとに実習を行う	講義および演習 「ゆか」の技の体系（翻転系）について配布資料およびスライドを用いて講義を進めるとともに、体操競技場にて後転とびの実習を行う。	【予習：2時間】 「体操競技のコーチング論」第7章《1》②翻転技群を読み、後方に回転する技について調べる。 【復習：2時間】 翻転技群の後方に回転する技についてレポートに詳細にまとめる。
25回	原田睦巳 富田洋之	講義：「ゆか」の技の体系（翻転系）について 演習：講義内容で得られた知識をもとに実習を行う	講義および演習 「ゆか」の技の体系（翻転系）について配布資料およびスライドを用いて講義を進めるとともに、体操競技場にて後転とびの実習を行う。	【予習：2時間】 「体操競技のコーチング論」第8章《1》②翻転の基本技術を読み、後転とびについて調べる。 【復習：2時間】 講義で得られた内容と「後転とび」についてレポートに詳細にまとめる。
26回	原田睦巳 富田洋之	講義：「ゆか」の技の体系（翻転系）について 演習：講義内容で得られた知識をもとに実習を行う	講義および演習 「ゆか」の技の体系（翻転系）について配布資料およびスライドを用いて講義を進めるとともに、体操競技場にて後転とびの実習を行う。	【予習：2時間】 「後転とび」の段階練習、注意ポイントをまとめておく。 【復習：2時間】 講義で得られた内容と「後転とび」についてレポートに詳細にまとめる。
27回	原田睦巳 富田洋之	講義：技の自己観察・他者観察の意義について 演習：講義内容で得られた知識をもとに実習を行う	講義および演習 技の自己観察・他者観察の意義について配布資料およびスライドを用いて講義を進めるとともに、体操競技場にて自己観察・他者観察の実習を行う。	【予習：3時間】 「体操競技のコーチング論」第6章2. [技のコーチング方法論的基礎]を読み、疑問点について調べる。 【復習：2時間】 「自己観察」「他者観察」の内容を具体的な例を挙げてレポートに詳細にまとめる。
28回	原田睦巳 富田洋之	講義：トレーニング計画について 演習：講義内容を踏まえたグループ討議	講義およびグループワーク トレーニング計画について配布資料およびスライドを用いて講義を進めるとともに、グループで討議を行う。	【予習：3時間】 「体操競技のコーチング論」第4章 [トレーニング計画]を読み、疑問点について調べる。 【復習：2時間】 講義で得られた内容を踏まえて、指導者となった場合の具体的なトレーニング計画を立案する。
		定期試験		

科目名	【新カリ】スポーツコーチング演習（柔道）			授業形態	演習
英語科目名	【新カリ】スポーツコーチング演習（柔道）			対象学年	3年
開講学期	2022年度前期、2022年度後期			単位数	4単位
代表教員	廣瀬 伸良			ナンバリング	COA3306
担当教員	廣瀬 伸良、竹澤 稔裕、スポーツ健康科学部教員共通				
授業概要					
全体内容	<p>本科目は、演習の授業形態で行われる。「陸上競技のコーチング演習」、「体操競技のコーチング演習」、「水泳のコーチング演習」、「サッカーのコーチング演習」、「バレーボールのコーチング演習」、「バスケットボールのコーチング演習」、「卓球のコーチング演習」、「柔道のコーチング演習」、「剣道のコーチング演習」、「ダンスのコーチング演習」の中から1つを選択し、その種目のコーチングの理論を学習し、実践を通して指導方法を身につける。</p> <p>この授業は柔道創生期から伝承される武道運動の理解をすすめ、柔道指導者として必要とする理論と実技力を身につけるとともにその意義を理解する。講道館柔道における柔道技術の原理（投の理・固の理）と理合、構造を理解して五教の技に代表される技術体系を学び、実技を身につける。また、日本古来の投げ技、固め技の原理と理合いを凝縮した形を学び、対人調整力やコミュニケーション能力、またそれらを総合させ表現する能力などを身につける。競技柔道においては試合審判規定の理解を深め、審判能力の向上と実践力を身につける。授業内容についての予習・復習レポートを作成するとともに形の演武や技術のプレゼンテーション能力を育くむ。</p>				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 柔道の歴史や発展過程を学び、柔道コーチングにおける意義を理解することが出来る。 2. 柔道の技術体系である「五教の技」について理解を深めるとともに技能を身につけることが出来る。 3. 講道館制定の「投の形」、「固の形」、「柔の形」について理解を深めるとともにその技能を獲得出来る。 4. 講道館柔道試合審判規定およびIJF国際審判規定の内容について理解し、審判員としての技能を獲得することが出来る。 				
授業の位置づけ	この科目は、コース科目群・競技スポーツコース科目・スポーツコーチング科学コース科目の必修科目である。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学を中心とした幅広い知識と教養、及びそれらの活用能力」を身に付けるための科目の1つとして開講される。また、スポーツ科学科コーチング科学コースにおいては、「スポーツ科学の知識に基づき、現場で指導できる能力ないし研究できる能力」という学位授与方針の達成にも寄与する。				
履修上の注意、履修要件	日本伝講道館柔道初段以上の段位、もしくはそれに相当する技能をもつ者が望ましい。段位を所有しない学生は、授業の安全管理上、担当者との打ち合わせを経てから受講すること。				
成績評価の方法					
評価方法	平常点（20%）、課題レポート（20%）、実技試験（60%）を総合して評価する。				
評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. 柔道技術および形に関する理解力と実技能力を評価する（毎時間の実技試験）。 2. 武道文化としての形の在り方、意義についての内容を課題レポートで評価する（課題レポート）。 3. 授業中の発言や予習・復習の取り組み状況によって受講態度を評価する（平常点）。 				
試験・課題に対するフィードバック方法					
授業などで返却、もしくはグループ別発表時にコメントするなど評価のポイントを提示して解説する。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
	最新 柔道の形	小谷澄之、大滝忠夫	不昧堂		
参考文献					
1. 授業内で指示された授業資料を必ず持参すること。					
その他					
連絡先・オフィスアワー	<p>廣瀬伸良 E-mail: nhirose [at] juntendo. ac. jp [at] を@に変更してください。 随時 場所：1号館5F 1506室</p>				
担当教員の実務経験					
備考	<p>この授業は、演習の授業形態による4単位の科目であり、授業時間60時間と準備学習120時間の計180時間の学修を必要とする内容をもって構成する。</p> <p>【その他】 本授業の内容を合格した受講生においては以下の資格試験を受験することが出来る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本伝講道館柔道初段～参段 ・全日本柔道連盟審判員Cライセンス ・全日本柔道連盟公認指導者Cライセンス 				
授業計画					
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間	
1	廣瀬伸良 竹澤稔裕	「講道館柔道の歴史」について理解を深める。 「競技柔道の発展と展開」について演習を行う。	演習形式	<p>【予習：2時間】 「柔道の歴史と発展」について技術書やインターネットおよび映像を活用して学習する。</p> <p>【復習：2時間】 本授業の学習内容についての個人テキスト（レポート）を作成する。</p>	

2	廣瀬伸良 竹澤稔裕	「講道館柔道の目的と運動特性」について理解を深める。「競技柔道における目的と運動特性」について演習を行う。	演習形式	【予習：2時間】 「講道館柔道の目的と運動特性」について技術書やインターネットおよび映像を活用して学習する。 【復習：2時間】 本授業の学習内容についての個人テキスト（レポート）を作成する。
3	廣瀬伸良 竹澤稔裕	講道館柔道の「技術構造」について理解を深める。講道館柔道の「技の分類」について演習を行う。	演習形式	【予習：2時間】 「柔道の技術構造」について技術書やインターネットおよび映像を活用して学習する。 【復習：2時間】 本授業の学習内容についての個人テキスト（レポート）を作成する。
4	廣瀬伸良 竹澤稔裕	講道館柔道の「技能構造①」について理解を深める。講道館柔道の「五教の技・第一教」8本について実技を含めた演習を行う。	演習形式	【予習：2時間】 「五教の技・第一教」について技術書やインターネットおよび映像を活用して学習する。 【復習：2時間】 本授業の学習内容についての個人テキスト（レポート）を作成する。
5	廣瀬伸良 竹澤稔裕	講道館柔道の「技能構造②」について理解を深める。講道館柔道の「五教の技・第二教」8本について実技を含めた演習を行う。	演習形式	【予習：2時間】 「五教の技・第二教」について技術書やインターネットおよび映像を活用して学習する。 【復習：2時間】 本授業の学習内容についての個人テキスト（レポート）を作成する。
6	廣瀬伸良 竹澤稔裕	講道館柔道の「技能構造③」について理解を深める。講道館柔道の「五教の技・第三教」8本について実技を含めた演習を行う。	演習形式	【予習：2時間】 「五教の技・第三教」について技術書やインターネットおよび映像を活用して学習する。 【復習：2時間】 本授業の学習内容についての個人テキスト（レポート）を作成する。
7	廣瀬伸良 竹澤稔裕	講道館柔道の「技能構造④」について理解を深める。講道館柔道の「五教の技・第四教」8本について実技を含めた演習を行う。	演習形式	【予習：2時間】 「五教の技・第四教」について技術書やインターネットおよび映像を活用して学習する。 【復習：2時間】 本授業の学習内容についての個人テキスト（レポート）を作成する。
8	廣瀬伸良 竹澤稔裕	講道館柔道の「技能構造⑤」について理解を深める。講道館柔道の「五教の技・第五教」8本について実技を含めた演習を行う。	演習形式	【予習：2時間】 「五教の技・第五教」について技術書やインターネットおよび映像を活用して学習する。 【復習：2時間】 本授業の学習内容についての個人テキスト（レポート）を作成する。
9	廣瀬伸良 竹澤稔裕	講道館柔道の「系統的指導方法①」について理解を深める。講道館柔道における「技術指導方法」について演習を行う。	演習形式	【予習：2時間】 「技術の指導方法」について技術書やインターネットおよび映像を活用して学習する。 【復習：2時間】 本授業の学習内容についての個人テキスト（レポート）を作成する。
10	廣瀬伸良 竹澤稔裕	講道館柔道の「系統的指導方法②」について理解を深める。講道館柔道における「実技指導上の留意点」について演習を行う。	演習形式	【予習：2時間】 「実技指導上の留意点」について技術書やインターネットおよび映像を活用して学習する。 【復習：2時間】 本授業の学習内容についての個人テキスト（レポート）を作成する。
11	廣瀬伸良 竹澤稔裕	講道館柔道の制定する「投の形・手技」について理解を深める。「浮落・背負投・肩車」について実技を含めた演習を行う。	演習形式	【予習：2時間】 「投の形・手技」について技術書やインターネットおよび映像を活用して学習する。 【復習：2時間】 本授業の学習内容についての個人テキスト（レポート）を作成する。
12	廣瀬伸良 竹澤稔裕	講道館柔道の制定する「投の形・腰技」について理解を深める。「浮腰・払い腰・釣り込み腰」について実技を含めた演習を行う。	演習形式	【予習：2時間】 「投の形・腰技」について技術書やインターネットおよび映像を活用して学習する。 【復習：2時間】 本授業の学習内容についての個人テキスト（レポート）を作成する。

13	廣瀬伸良 竹澤稔裕	講道館柔道の制定する「投げの形・足技」について理解を深める。 「送り足払い、支え釣り込み足、内股」について実技を含めた演習を行う。	演習形式	【予習：2時間】 「投の形・足技」について技術書やインターネットおよび映像を活用して学習する。 【復習：2時間】 本授業の学習内容についての個人テキスト（レポート）を作成する。
14	廣瀬伸良 竹澤稔裕	講道館柔道の制定する「投げの形・真捨て身技」について理解を深める。 「巴投・裏投・隅返」について実技を含めた演習を行う。	演習形式	【予習：2時間】 「投の形・真捨て身技」について技術書やインターネットおよび映像を活用して学習する。 【復習：2時間】 本授業の学習内容についての個人テキスト（レポート）を作成する
15	廣瀬伸良 竹澤稔裕	講道館柔道の制定する「投げの形・横捨て身技」について理解を深める。 横掛・横車・浮技」について実技を含めた演習を行う。	演習形式	【予習：2時間】 「投の形・横捨て身技」について技術書やインターネットおよび映像を活用して学習する。 【復習：2時間】 本授業の学習内容についての個人テキスト（レポート）を作成する。
16	廣瀬伸良 竹澤稔裕	講道館柔道の制定する「固の形①」について理解を深める。 「固の形・抑え技」5本について実技を含めた演習を行う。	演習形式	【予習：2時間】 「固の形・抑え技」について技術書やインターネットおよび映像を活用して学習する。 【復習：2時間】 本授業の学習内容についての個人テキスト（レポート）を作成する。
17	廣瀬伸良 竹澤稔裕	講道館柔道の制定する「固の形②」について理解を深める。 「固の形・絞め技」5本について実技を含めた演習を行う。	演習形式	【予習：2時間】 「固の形・絞め技」について技術書やインターネットおよび映像を活用して学習する。 【復習：2時間】 本授業の学習内容についての個人テキスト（レポート）を作成する。
18	廣瀬伸良 竹澤稔裕	講道館柔道の制定する「固の形③」について理解を深める。 「固の形・関節技」5本について実技を含めた演習を行う。	演習形式	【予習：2時間】 「固の形・関節技」について技術書やインターネットおよび映像を活用して学習する。 【復習：2時間】 本授業の学習内容についての個人テキスト（レポート）を作成する。
19	廣瀬伸良 竹澤稔裕	講道館柔道の制定する「柔の形①」について理解を深める。 「柔の形・第一教」5本について実技を含めた演習を行う。	演習形式	【予習：2時間】 「柔の形・第一教」について技術書やインターネットおよび映像を活用して学習する。 【復習：2時間】 本授業の学習内容についての個人テキスト（レポート）を作成する。
20	廣瀬伸良 竹澤稔裕	講道館柔道の制定する「柔の形②」について理解を深める。 「柔の形・第二教」5本について実技を含めた演習を行う。	演習形式	【予習：2時間】 「柔の形・第二教」について技術書やインターネットおよび映像を活用して学習する。 【復習：2時間】 本授業の学習内容についての個人テキスト（レポート）を作成する。
21	廣瀬伸良 竹澤稔裕	講道館柔道の制定する「柔の形③」について理解を深める。 「柔の形・第三教」5本について実技を含めた演習を行う。	演習形式	【予習：2時間】 「柔の形・第三教」について技術書やインターネットおよび映像を活用して学習する。 【復習：2時間】 本授業の学習内容についての個人テキスト（レポート）を作成する。
22	廣瀬伸良 竹澤稔裕	「講道館柔道審判規定」について理解を深める。 「講道館柔道審判規定」についての技の判定や審判法について実技を含めた演習を行う。	演習形式	【予習：2時間】 「講道館柔道審判規定」について技術書やインターネットおよび映像を活用して学習する。 【復習：2時間】 本授業の学習内容についての個人テキスト（レポート）を作成する。
23	廣瀬伸良 竹澤稔裕	「JF国際柔道審判規定」について理解を深める。 「JF国際柔道審判規定」についての技の判定や審判法について実技を含めた演習を行う。	演習形式	【予習：2時間】 「JF国際柔道審判規定」について技術書やインターネットおよび映像を活用して学習する。 【復習：2時間】 本授業の学習内容についての個人テキスト（レポート）を作成する。

科目名	【新カリ】スポーツコーチング演習（剣道）			授業形態	演習
英語科目名	【新カリ】スポーツコーチング演習（剣道）			対象学年	3年
開講学期	2022年度前期、2022年度後期			単位数	4単位
代表教員	中村 充			ナンバリング	COA3306
担当教員	中村 充、佐藤 皓也、スポーツ健康科学部教員共通				
授業概要					
全体内容	<p>本科目は、演習の授業形態で行われる。「陸上競技のコーチング演習」、「体操競技のコーチング演習」、「水泳のコーチング演習」、「サッカーのコーチング演習」、「バレーボールのコーチング演習」、「バスケットボールのコーチング演習」、「卓球のコーチング演習」、「柔道のコーチング演習」、「剣道のコーチング演習」、「ダンスのコーチング演習」の中から1つを選択し、その種目のコーチングの理論を学習し、実践を通して指導方法を身につける。</p> <p>「剣道のコーチング演習」においては、日本剣道形および木刀による基本技稽古法について、解説書を用いて、その理合いを学び、演武できるようにする。試合審判法については、試合規則・細則ならびに運営要領を理解し、所作を身につけるとともに実際の試合場面に対応できる素養を身につけることを目指す。打突動作について客観的に分析する視点を学ぶなどし、多様な対象者へ指導できる力を身につける。</p>				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 剣道打突動作について客観的視点で分析ができる。 2. 日本剣道形10本および木刀による基本技稽古法が理合いに則って演武できる。 3. 試合・審判規則細則を理解し、的確に審判ができる。 4. 剣道の授業展開ができる。 				
授業の位置づけ	この科目は、コース科目群・競技スポーツコース科目・スポーツコーチング科学コース科目の必修科目である。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目はスポーツ種目の理論と実践の演習を通して、「スポーツ健康科学を中心とした幅広い知識と教養、及びそれらの活用能力」、「コミュニケーション力」および「倫理観」を身に付けるための科目の1つとして開講される。また、スポーツコーチングコースおよびスポーツ競技コースの必修授科目として、「スポーツ科学の知識に基づき、現場で指導できる能力ないしは研究できる能力」という学位授与方針の達成にも寄与する。				
履修上の注意、履修要件	<p>【履修要件】</p> <p>剣道初段程度を持っていることが望ましい。それに該当しない場合は担当者に相談すること。</p>				
成績評価の方法					
評価方法	課題達成度（50%）、知識の獲得度（20%）、授業態度・取り組む姿勢（30%）を総合的に評価する。				
評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. 打突動作の客観的分析ができる。（口頭試問） 2. 日本剣道形10本および木刀による基本技稽古法が理合いに則って演武できる。（実技試験） 3. 試合・審判規則細則を理解し、的確に審判ができる。（口頭試問、実技試験） 4. 剣道の授業展開ができる。（平常点） 				
試験・課題に対するフィードバック方法					
課題ごとに、口頭試問や実技試験を実施し、フィードバックしながら進めていく。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考文献					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本剣道形解説書（全日本剣道連盟） 2. 剣道基本技稽古法（全日本剣道連盟） 3. 剣道試合・審判規則、細則（全日本剣道連盟） 4. 剣道指導要領（全日本剣道連盟） 					
その他					
連絡先・オフィスアワー	<p>中村 充（1号館5階 1505号室）：水曜日14:30～16:00、木曜日10:00～12:00、 E-mail : mtnakamu[at]juntendo.ac.jp（[at]を@に変更してください）</p> <p>佐藤 皓也（1号館5階 1505号室）：水曜日12:30～16:00 E-mail : k.sato.it[at]juntendo.ac.jp（[at]を@に変更してください）</p>				
担当教員の実務経験					
備考	<p>【学修時間】</p> <p>この授業は演習形式による4単位の科目であり、授業60時間と準備学習120時間の計180時間の学修を必要とする内容をもって構成する。</p> <p>【その他】</p> <p>この授業科目は、資格との関連はない。 新型コロナウイルス感染症の発生状況に応じて、成績評価の基準、方法及び授業計画を変更する場合があります。</p>				
授業計画					
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間	

1	中村充 佐藤皓也	現代社会における武道の位置づけについて理解を深める。	スポーツと武道の成り立ちの違いについて解説する。オリンピックを中心とするスポーツと剣道の社会的位置づけを討議し、今後のあり方について検討する。	(予習：2時間) 武道憲章を一読し、武道種目について調べる。 (復習：3時間) 社会における武道の意義、スポーツにおける位置づけについてまとめる。
2	中村充 佐藤皓也	剣道が持つ武道的側面と競技的側面について理解を深めるとともに、競技力向上のために必要な要因を検討する。	剣道の特性を、武道的側面と競技的側面から解説する。一般的に必要とされるスポーツ競技力の向上に必要な原理原則に基づき、剣道の競技力向上に必要と考えられる要素を討議する。	(予習：2時間) スポーツ種目の特性を分類する方法を調べ、剣道特有の特性を考える。 (復習：3時間) 様々なスポーツ種目の特性を「心技体」の観点から整理する。
3	中村充 佐藤皓也	受講生が任意に選んだ打突動作を、ビデオカメラにて撮影する。トップ選手等の打突動作を用いて、動作基点の設定の仕方や視点を解説し、簡略な動作分析の要点を理解する。	受講生が任意に選んだ2種類の打突動作を、側面からビデオ撮影する。トップ選手等の打突動作を用いて、スローあるいはコマ送り再生させながら打突動作の局面分けと動作分析のポイントの視点を学び、その特徴を検証する。	(予習：2時間) 自己の得意技を整理する。打撃動作の局面分けについて調べ、各局面の位置づけを整理する。 (復習：2時間) 剣道の打突動作について、動作局面を整理し、競技力向上につながる動作を考える。
4	中村充 佐藤皓也	自己の打突動作を客観的な視点から分析し、受講生相互の特徴を討議する。また、主観と客観の相違についても検討する。	自己の打突動作を、客観的に分析を試みるとともに、打突時の主観的な感覚との統合を図る。また、他者の打突動作についても分析しながら、競技力向上につながる指導法を討議する。	(予習：2時間) ビデオ撮影した自己の打突動作について、主観的な感覚からその特徴を整理する。また、自分がイメージする理想の打撃動作を明確化し、説明できるようにする。 (復習：2時間) 自己の打突動作について、主観と客観のギャップおよびその原因について整理する。自己の理想とする打突動作を模索する。
5	中村充 佐藤皓也	日本における「かたの文化」について学習し、その特性について理解を深める。剣道における日本剣道形および基本技稽古法の意義を理解する。	稽古や守破離をキーワードとした「かたの文化」について解説し、メリットとデメリットを討議する。剣道における日本剣道形および基本技稽古法の意義を理解し、効果的な取り入れ方を検討する。	(予習：2時間) スポーツ指導のあり方を整理するとともに、スポーツ技術における「基本動作」の意義について考える。 (復習：2時間) 「かたの文化」のメリット、デメリットを整理し、日本剣道形や基本技稽古法の効果的な活用方法を検討する。
6	中村充 佐藤皓也	日本剣道形の成り立ちを理解し、礼法をはじめとした所作法ならびに木刀の扱い方を学習し、実践により身につける。	日本剣道形の成り立ち、ならびに所作法や木刀の扱い方についても解説する。2人組にて立ち合い、所作を行う。	(予習：2時間) 日本剣道形の成立過程について調べる。また、元太刀と仕太刀の意義および呼吸の合わせ方を調べておく。 (復習：2時間) 竹刀と木刀の特性の違いが、動作に与える影響について整理する。

7	中村充 佐藤皓也	解説書に基づき、日本剣道形1～3本目の理合いを理解し、木刀にて演武できるようにする。	日本剣道形1～3本目を解説書にしたがって読み合わせるとともに、その解釈について説明する。 2人組にて木刀で、日本剣道形1～3本目を行う。	(予習：2時間) 日本剣道形解説書の、1～3本目について熟読する。 (復習：2時間) 日本剣道形1～3本目における自己の課題を整理し、滑らかな動きにつなげるための検討を行う。
8	中村充 佐藤皓也	日本剣道形4～7本目の理合いを理解し、木刀にて演武できるようにする。	日本剣道形4～7本目を解説書にしたがって読み合わせるとともに、その解釈について説明する。2人組にて木刀で、日本剣道形1～3本目を復習し、4～7本目を行う。	(予習：2時間) 日本剣道形解説書の、4～7本目について熟読する。 (復習：3時間) 日本剣道形1～7本目における自己の課題を整理し、滑らかな動きにつなげるための検討を行う。
9	中村充 佐藤皓也	小太刀の特性と扱い方について理解する。解説書に基づき、日本剣道形8～10本目の理合いを理解し、木刀にて演武できるようにする。	小太刀の特性と扱い方を解説する。日本剣道形8～10本目を解説書にしたがって読み合わせるとともに、その解釈について説明する。 2人組にて小太刀の扱い方と構え方を身につける。日本剣道形1～7本目を復習し、8～10本目を行う。	(予習：2時間) 日本剣道形解説書の、8～10本目について熟読する。 (復習：3時間) 日本剣道形1～10本目における自己の課題を整理し、滑らかな動きにつなげるための検討を行う。
10	中村充 佐藤皓也	刀の扱い方を理解する。模擬刀で日本剣道形10本を行ってみる	刀の扱い方について解説する。昇段審査規則の日本剣道形審査基準について解説する。木刀にて日本剣道形10本を演武し、受講生相互に評価する。模擬刀にて日本剣道形10本を行ってみる。	(予習：2時間) 刀の各部の名称および扱い方を調べる。昇段審査規則の日本剣道形に関わる審査基準を調べる。 (復習：2時間) 日本剣道形10本の自己の課題を整理し、滑らかな動きにつなげるための検討を行う。
11	中村充 佐藤皓也	模擬刀を用いて日本剣道形10本を演武できるようにする。	解説書に基づいて木刀にて確認し、模擬刀にて日本剣道形10本の演武を行う。	(予習：2時間) 解説書にて、日本剣道形10本の理合いを再確認する。 (復習：2時間) 自己の日本剣道形10本の課題を整理し、竹刀剣道に活用する要点を整理する。
12	中村充 佐藤皓也	日本剣道形の指導上の留意点を理解し、指導を実践してみる。	解説書に基づいて日本剣道形の指導上の留意点を解説する。指導の実践を行う。	(予習：2時間) 解説書にて、日本剣道形指導上の留意点を読んでおく。 (復習：3時間) クラブ等にて指導の実践を行う。
13	中村充 佐藤皓也	木刀による剣道基本技稽古法の意義を理解する。木刀による剣道基本技稽古法について、自己動作の確認を行う。	木刀による剣道基本技稽古法の教本に基づいて、その意義を解説する。2人組で木刀による剣道基本技稽古法を実施し、基本9本を確認する。	(予習：2時間) 木刀による剣道基本技稽古法の教本に基づき、成立過程を確認する。 (復習：2時間) 木刀による剣道基本技稽古法を実施する際の要点を整理する。

14	中村充 佐藤皓也	木刀による剣道基本技稽古法について、初心者への指導法を検討する。木刀による剣道基本技稽古法について、指導内容の確認を行う。	木刀による剣道基本技稽古法の教本に基づいて、指導への活用意義を解説する。2人組で木刀による剣道基本技稽古法を実施し、示範すべき動作確認および初心者指導への具体的な活用内容を確認する。	(予習: 2時間) 木刀による剣道基本技稽古法の教本に基づき、初心者指導の留意点を確認する。 (復習: 2時間) 木刀による剣道基本技稽古法を指導する際の要点を整理する。
15	中村充 佐藤皓也	剣道試合・審判規則細則および審判の手引きに基づき、審判員の任務ならびに心構えを理解する。	規則細則第1条ならびに手引きに記載されている、審判員の任務および心構えについて解説する。受講生の過去の試合経験から、審判に関する経験や疑問について意見交換する。	(予習: 3時間) 試合・審判規則細則を準備し、一読する。 (復習: 2時間) 試合が剣道の発展や試合者に与える影響力を整理したうえで、審判員の任務・心構えについて再検討する。
16	中村充 佐藤皓也	審判員の所作を学習し、正しい姿勢での所作を身につける。	試合規則に則った審判員の所作を解説する。審判旗を持ち、鏡あるいは受講者相互で立位姿勢や審判旗表示姿勢を確認し、様々な場面の所作法を身につける。	(予習: 2時間) 試合・審判規則細則にて、審判員の所作および旗の表示方法を確認する。 (復習: 2時間) 規則に示された審判員の所作および旗の表示法を整理し、鏡などを利用して自分の姿を確認する。
17	中村充 佐藤皓也	運営要領に基づく審判員の入退場の所作、試合時の責任範囲や審判員三者による連携原則を理解する。審判員の試合場への入退場所作、移動時の所作を身につけ、原則に基づく移動や連携ができることを目指す。	審判員の移動範囲、責任範囲、および連携の原則について解説する。受講生が相互に審判員と試合者となり、審判員の入退場や移動、原則に基づく移動や連携を実践する。	(予習: 2時間) 試合運営要領を準備し、審判員の責任範囲および連携方法について調べる。 (復習: 2時間) 審判員の責任範囲および連携方法について整理し、自己の課題を抽出する。
18	中村充 佐藤皓也	有効打突の条件に関する理解を深め、有効打突を見極める要件・要素を理解する。	試合規則および運営要領に記述してある有効打突の条件とそれを見極める要件・要素を解説する。受講生同士で審判員と試合者に分かれ、様々な打突を実演しながら有効打突の判定について研究する。	(予習: 2時間) 試合規則の有効打突の条件を暗記する。試合運営要領に記載されている有効打突を見極める要件・要素について読んでおく。 (復習: 2時間) ビデオ等で、様々な年代やレベルの試合で判定されている有効打突の判定を確認し、自己の判定基準を整理する。
19	中村充 佐藤皓也	禁止事項・反則事項に関する理解を深め、適切な判断力を身につける。	試合規則および運営要領に記述してある禁止事項・反則事項とその見極めや対応法を解説する。受講生同士で審判員と試合者に分かれ、様々な禁止事項・反則事項を実演しながら対応法について研究する。	(予習: 2時間) 試合規則に記載されている禁止事項・反則事項を確認する。試合運営要領に記載されている禁止事項・反則事項の解釈や対応法について読んでおく。 (復習: 2時間) 様々な事例あるいは試合者の年代によって変わる禁止事項・反則事項への対処法について、整理する。

20	中村充 佐藤皓也	審判員として、試合全般を運営する総合的能力を養う。	受講者が相互に審判員と試合者になり、模擬試合を審判員として運営する。その中で生じた様々な事象に対し、試合規則および運営要領を参照しながら疑問点の解決を図り、適切な対応方法を検討する。	(予習：2時間) 試合規則ならびに運営要領にて、審判員の所作、有効打突の条件、禁止事項。反則事項についてあらかじめ確認する。 (復習：2時間) 模擬試合で発生した課題について、その対応法を整理する。
21	中村充 佐藤皓也	審判員として、試合全般を運営する総合的能力を養う。	受講者が相互に審判員と試合者になり、模擬試合を審判員として運営する。その中で生じた様々な事象に対し、試合規則および運営要領を参照しながら疑問点の解決を図り、適切な対応方法を検討する。	(予習：2時間) 試合規則ならびに運営要領にて、審判員の所作、有効打突の条件、禁止事項。反則事項についてあらかじめ確認する。 (復習：2時間) 模擬試合で発生した課題について、その対応法を整理する。
22	中村充 佐藤皓也	段位制度について理解し、審査内容について学習するとともにその要点に沿った立合いを行う。	剣道段位審査規則に基づいて、段位制度およびその審査項目を解説する。2人組となり、審査内容に沿った立合いを実施する。	(予習：2時間) 剣道段位審査規則を読んでおく。 (復習：2時間) 審査項目について理解を深め、事故の立合いの課題について整理する。
23	中村充 佐藤皓也	初心者指導する際の留意点を理解する。そして年代別の初心者指導法について学習する。	スポーツコーチングにおける初心者指導の基本概念を解説し、剣道が有する伝統的な文化や考え方を初心者指導する際の留意点を解説する。特に礼法や基本動作について、各年代に応じた指導方法について意見交換しながら効果的な方法を検討する。	(予習：2時間) 剣道指導要領にある初心者指導内容を活用して、主な留意点をまとめておく。 (復習：3時間) 初心者指導や幼少年指導で陥りやすい問題点について、課題を整理し発展的な展望を検討する。
24	中村充 佐藤皓也	学校現場の授業展開において、親しみやすい剣道授業の教材・手法について学習し、指導できる力を身につける。	剣道の導入に使用できるゲームについて、受講者同士で体験し、指導する際の手順について検討する。(道具の不使用あるいは新聞紙やボールなどの一般的道具を使用したゲーム)	(予習：2時間) 剣道具を使用しないで剣道の特性に近づけるゲームについて調べる、あるいは考案する。 (復習：2時間) 様々な剣道ゲームをアレンジし、新たなゲームを考案する。
25	中村充 佐藤皓也	学校現場の授業展開において、親しみやすい剣道授業の教材・手法について学習し、指導できる力を身につける。	剣道の導入に使用できるゲームについて、受講者同士で体験し、指導する際の手順について検討する。(剣道具とその他の道具を使用しながら行えるゲーム)	(予習：2時間) 剣道具を使用して行えるゲームについて調べる、あるいは考案する。 (復習：2時間) 様々な剣道ゲームをアレンジし、伝統的な道具の扱いや考え方を損なわないような新たなゲームを考案する。

科目名	【新カリ】スポーツコーチング演習（サッカー）			授業形態	
英語科目名	【新カリ】スポーツコーチング演習（サッカー）			対象学年	3年
開講学期	2022年度前期、2022年度後期			単位数	4単位
代表教員	吉村 雅文			ナンバリング	COA3306
担当教員	吉村 雅文、島崎 佑、スポーツ健康科学部教員共通				
授業概要					
全体内容	<p>本科目は、演習の授業形態で行われる。「陸上競技のコーチング演習」、「体操競技のコーチング演習」、「水泳のコーチング演習」、「サッカーのコーチング演習」、「バレーボールのコーチング演習」、「バスケットボールのコーチング演習」、「卓球のコーチング演習」、「柔道のコーチング演習」、「剣道のコーチング演習」、「ダンスのコーチング演習」の中から1つを選択し、その種目のコーチングの理論を学習し、実践を通して指導方法を身につける。サッカーのコーチング演習では、JFA（日本サッカー協会）公認C級コーチライセンスカリキュラムを参考に、講義と講義内容を踏まえた演習という展開で行う。サッカーを指導するための基礎知識の他、サッカーに限らず指導者としての思考やコーチングの基本的な考え方を学ぶ。また、指導の実戦を通して、選手の変化、コーチングをする際のポイント等を学び、現場の指導者として必要な力の向上を目指す。</p>				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. サッカー指導現場において、フリーズコーチング、シンクロコーチング等を有効に使い、的確な指導ができる。 2. サッカー指導者として、的確なゲーム分析およびプレー分析をもとに、改善のためのプランニングおよびトレーニングオーガナイズが作成できる。 3. サッカー指導者の役割、指導者に必要な様々な知識（発育発達、メディカル、審判、女子指導等々）について理解を深め説明することができる。 4. 指導現場で必要となる技術戦術に関する知識やコーチング方法等々について理解し説明することができる。 				
授業の位置づけ	この科目は、コース科目群・競技スポーツコース科目・スポーツコーチング科学コース科目の必修科目である。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目はスポーツ種目の理論と実践の演習を通して、「スポーツ健康科学を中心とした幅広い知識と教養、及びそれらの活用能力」、「コミュニケーション力」および「倫理観」を身に付けるための科目の1つとして開講される。また、スポーツコーチングコースおよびスポーツ競技コースの必修授科目として、「スポーツ科学の知識に基づき、現場で指導できる能力ないしは研究できる能力」という学位授与方針の達成にも寄与する。				
履修上の注意、履修要件	<p>【履修要件】 1年次にサッカーを受講していることが望ましい。</p> <p>【履修上の注意（科目独自のルール）】 サッカー指導者養成の内容が大半を占めることを理解して履修を決定してください。</p>				
成績評価の方法					
評価方法	指導の実践(60%)、授業内課題(30%)、実技レベル(10%)を総合して評価する。				
評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. サッカー指導現場において、フリーズコーチング、シンクロコーチング等を有効に使い、的確な指導ができる。(指導の実践・実技レベル) 2. サッカー指導者として、的確なゲーム分析およびプレー分析をもとに、改善のためのプランニングおよびトレーニングオーガナイズが作成できる。(指導の実践) 3. サッカー指導者の役割、指導者に必要な様々な知識（発育発達、メディカル、審判、女子指導等々）について理解を深め説明することができる。(授業内課題) 4. 指導現場で必要となる技術戦術に関する知識やコーチング方法等々について理解し説明することができる。(授業内課題) 				
試験・課題に対するフィードバック方法					
授業内課題に関しては、授業にて返却し、模範解答の提示するとともに評価ポイントについて解説する。指導案に関しては、指導実践後チェックし、その場で返却する。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考文献					
JFAサッカー指導教本2020 C級コーチ.公益財団法人日本サッカー協会					
その他					
連絡先・オフィスアワー	<p>担当：島崎 佑 E-mail：yshimasa@juntendo.ac.jp</p> <p>【オフィスアワー】 日時：水曜日 12:00～12:50 場所：1号館5F 1528号 球技コーチング学研究室</p>				
担当教員の実務経験	JFA公認指導者資格であるC級ライセンスを付与する指導者講習会において、インストラクターとして活動した経験や、プロサッカーチームにおいて競技者として活動した経験を活かして、サッカー及びチームスポーツの理解が深まるよう指導する。				
備考	<p>この授業は、演習形態による4単位の科目であり、授業時間60時間と準備学習120時間の計180時間の学修を必要とする内容をもって構成する。</p> <p>この授業は、サッカーのコーチング論と合わせて履修することにより、JFA公認C級ライセンスが取得できます。（費用必要） 取り扱うテーマは、JFAによるC級ライセンス講習の改訂を踏まえ変更される。 また、新型コロナウイルス感染症の発生状況に応じて、成績評価の基準、方法及び授業計画を変更する場合があります。</p>				
授業計画					
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間	

1	吉村雅文 島崎 佑 堀池 巧	授業概要および日本サッカー協会公認C級コーチのカリキュラム概要について解説する。	プリントとスライドを用いて講義を進める。	【予習：1時間】 シラバスを確認し、理解する。 【復習：1時間】 JFAの指導者養成カリキュラムについて調べてくる。
2	吉村雅文 島崎 佑 堀池 巧	講義テーマ「ゲームとコーディネーション」ゲームを支える基礎的運動能力であるコーディネーションについて理解を深める。後半、ゲームとコーディネーショントレーニングの実際を経験する。	講義および、指導デモンストレーションのもとゲームとコーディネーショントレーニングについて解説し実践する。	【予習：1時間】 コーディネーショントレーニングとはどのようなものか調べてくる。 【復習：1時間】 ゲームとは、なぜ楽しいかについて考える。また安全性を確保したスライディングのポイントについて復習する。
3	吉村雅文 島崎 佑 堀池 巧	講義テーマ「ゴールキーパーの基礎的な技術・戦術」について理解を深める。後半、ゴールキーパーの両手、両足、左右でボールを扱う経験する。	講義および、指導デモンストレーションのもとゴールキーパーの両手、両足、左右でボールを扱うプレーについて解説し実践する。	【予習：1時間】 ボールファミリアとは何か調べてくる。 【復習：1時間】 ローリングダウンを安全に行うためのポイントについて復習する。
4	吉村雅文 島崎 佑 堀池 巧	講義テーマ「観る」について理解を深める。後半、診て、判断してプレーすることの重要性について、いつ、何を、どの様に観れば良いのかを経験する。	講義および、指導デモンストレーションのもと「観る」について解説し実践する。	【予習：1時間】 サッカーにおいて観るべきものについて学習してくる。 【復習：1時間】 いつ、何を、どのように観るかについて整理する。
5	吉村雅文 島崎 佑 堀池 巧	講義テーマ「ボールフィーリング&ドリブル」状況に応じて、意のままにボールを扱えるようになり、仕掛けていける選手を自然と育てられるようなオーガナイズと働きかけについて理解を深める。後半、様々な「ボールフィーリング&ドリブル」に関するトレーニングを経験する。	講義および、指導デモンストレーションのもと「ボールフィーリング&ドリブル」について解説し実践する。	【予習：1時間】 サッカーの映像から様々なフェイントを観察してくる。 【復習：1時間】 ドリブル（フェイント）の構成要素について復習する。
6	吉村雅文 島崎 佑 堀池 巧	講義テーマ「パス&コントロール」ゴールを目指すためのパスとコントロールについて理解を深める。後半、「パス&コントロール」について反復と漸進性のあるトレーニングを経験する。	講義および、指導デモンストレーションのもと「パス&コントロール」について解説し実践する。	【予習：1時間】 ボールコントロールの構成要素について調べてくる。 【復習：1時間】 インサイドキック、クッションコントロール、ウェッジコントロールの構成要素を整理する。
7	吉村雅文 島崎 佑 堀池 巧	講義テーマ「シュート【多彩なキック・ボレー・ヘディング】」について理解を深める。後半、四隅に強くボールを蹴るためにうまくインパクトする技術につながるボール操作を経験する。	講義および、指導デモンストレーションのもと「シュート」について解説し実践する。	【予習：1時間】 キックの構成要素について調べてくる。 【復習：1時間】 インステップキック、ボレーキック、ヘディングの構成要素について整理する。
8	吉村雅文 島崎 佑 堀池 巧	講義テーマ「守備のテクニック（ON・OFFでの対応）」1対1の場面にフォーカスし、ボールを持っている人への対応とボールを持っていない人への対応について理解を深める。後半、「守備のテクニック」についてのトレーニングを経験する。	講義および、指導デモンストレーションのもと「守備テクニック」について解説し実践する。	【予習：1時間】 ドジングの構成要素について調べてくる。 【復習：1時間】 マークの原則・チャレンジの優先順位について復習する。
9	吉村雅文 島崎 佑 堀池 巧	講義テーマ「守備 ボールを奪う」オンザボールとオフザボールでのポジションについて理解を深める。後半、「守備 ボールを奪う」についてのトレーニングを経験する。	講義および、指導デモンストレーションのもと「守備 ボールを奪う」について解説し実践する。	【予習：1時間】 身体を入れてボールを奪う構成要素について調べてくる。 【復習：1時間】 第1DFの役割と第2DFの役割について整理する。
10	吉村雅文 島崎 佑 堀池 巧	講義テーマ「ポゼッション（サポート）」ボールを失わないためのサポートの角度、距離、タイミングについて理解を深める。後半、「ポゼッション（サポート）」についてのトレーニングを経験する。	講義および、指導デモンストレーションのもと「ポゼッション（サポート）」について解説し実践する。	【予習：1時間】 サポートに重要なキーファクターを調べてくる。 【復習：1時間】 攻撃の優先順位について整理する。

11	吉村雅文 島崎 佑 堀池 巧	講義テーマ「ゴールを目指す（マークを外す動き）」マークを外すためにパスと動きの優先順位、出し手と受け手のタイミングの取り方について理解を深める。後半、「ゴールを目指す（マークを外す動き）」についてのトレーニングを経験する。	講義および、指導 デモンストレー ションのもと 「ゴールを目指す （マークを外す動 き）」について解 説し実践する。	【予習：1時間】 タイミングを合わせるためのキーファクターを調べてくる。 【復習：1時間】 パスの質、コントロールの質、サポートの質について整理する。
12	吉村雅文 島崎 佑 堀池 巧	「コーチング」「ティーチング」について理解を深める。後半、デモンストレーションを通して、実際の効果的な「コーチング」「ティーチング」について経験する。	講義および、指導 デモンストレー ションのもと 「コーチング」と 「ティーチング」 について解説し実 践する。その後、 グループで「コー チング」と 「ティーチング」 の違いについて議 論し、育成現場に 於ける「コーチン グ」の重要性につ いて考える。	【予習：1時間】 「コーチング」について調べてくる。 【復習：1時間】 「コーチング」と「ティーチング」の違いについて理解を深め、「コーチング論」を学習する必要性について各自レポートにまとめる。
13	吉村雅文 島崎 佑 堀池 巧	サッカーってどんなスポーツ？サッカーの特性について、サッカーの目的、サッカーの仕組み、プレーの原則について理解を深める。後半、デモンストレーションを通して、上記について経験する。	講義および、指導 デモンストレー ションのもと上記 について解説し実 践する。その後、 サッカーの特性に ついて議論する。	【予習：1時間】 サッカーの競技特性について調べてくる。 【復習：1時間】 サッカーのしくみ、およびプレーの原則は指導において非常に重要な部分ですので十分に復習するとともに、「技術・戦術論」のレポート提出の準備を行う。
14	吉村雅文 島崎 佑 堀池 巧	攻撃の目的、手段、方法について、また、プレーの原則、個人戦術について理解を深める。後半、デモンストレーションを通して、上記について経験する。	講義および、指導 デモンストレー ションのもと上記 について解説し実 践する。	【予習：1時間】 サッカーにおける個人攻撃および守備戦術について調べてくる。 【復習：1時間】 パスの優先順位、チャレンジの優先順位、マークの原則について復習するとともに、「技術・戦術論」のレポート提出の準備を行う。
15	吉村雅文 島崎 佑 堀池 巧	テクニックの重要性、テクニックの内容、テクニック指導の考え方、サッカー選手に必要な基本について理解を深める。後半、デモンストレーションを通して、上記について経験する。	講義および、指導 デモンストレー ションのもと上記 について解説し実 践する。	【予習：1時間】 サッカーにおけるテクニックとは何か調べてくる。 【復習：1時間】 テクニックの指導ポイント、指導の考え方について復習を行うとともに、この3回行った「技術・戦術Ⅰ～Ⅲ」をまとめたレポートを作成する。
16	吉村雅文 島崎 佑 堀池 巧	一貫指導の考え方、成長のプロセスと各年代の特徴、U-12年代にすべきことおよび伸びやすい要素等々について理解を深める。	プレゴールデンエイ ジ、ゴールデン エイジ、ポスト ゴールデンエイジ についての小テスト を行う。	【予習：1時間】 スキヤモンの発育発達曲線について調べてくる。 【復習：1時間】 プレゴールデンエイジ、ゴールデンエイジ、ポストゴールデンエイジの成長のプロセスと各年代の特徴について指定の用紙に整理しまとめる。
17	吉村雅文 島崎 佑 堀池 巧	プレーの分析、プランニングについて理解を深める。後半、デモンストレーションを通して、上記について経験する。	講義および、指導 デモンストレー ションのもと上記 について解説し実 践する。また、実 際の指導実践の映 像を見ながら、3 つの観点でプレー 分析を行い、ワー クシートにまとめ る。	【予習：1時間】 コーチの役割について調べてくる。 【復習：1時間】 授業で行ったプレーの分析から、実際の指導案を作成する。

18	吉村雅文 島崎 佑 堀池 巧	コーチの役割である、働きかけの考え方、コーチングの方法、トレーニングの留意点について理解を深める。後半、デモンストレーションを通して、上記について経験する。	講義および、指導デモンストレーションのもと上記について解説し実践する。また、実際のモデルコーチングを映像で見ながら、実際に具体的にほめること、問いかけることを体験する。	【予習：1時間】 「Guided Discovery、発見を導く、引き出す」ために必要な事とは何でしょうか？コーチの役割を理解しながら調べてくる。 【復習：1時間】 本日の授業で経験した「誉めること」「問いかけること」から、コーチングの方法について整理する。
19	吉村雅文 島崎 佑 堀池 巧	クリエイティブな選手の育成、直接指導と間接指導、コーチングのバランス、コーチングの種類、トレーニングの留意点について理解を深める。	講義および、指導デモンストレーションのもと上記について解説し実践する。また、コーチングマインドについて、グループディスカッションを行う。	【予習：1時間】 クリエイティブな選手の育成、直接指導と間接指導とは何か調べてくる。 【復習：1時間】 コーチングの留意点について、決して忘れてはいけないこと、積極的に取り組まなければならないことを整理してまとめる。
20	吉村雅文 島崎 佑 堀池 巧	女子選手の指導について、女子サッカーの普及について、女子サッカーの現状・環境について、女子サッカーの強化・育成について理解を深める。	女子サッカー現状を理解した上で、普及のために必要なことは何か、強化のために重要な事は何か、日本で女子のメジャースポーツにするためには何が必要か、個人ワークとグループワークを行う。	【予習：1時間】 なでしこビジョンについて調べてくる。 【復習：1時間】 女子サッカー現状を理解した上で、普及のために必要なことは何か、強化のために重要な事は何か、日本で女子のメジャースポーツにするためには何が必要か、レポートにまとめる。
21	吉村雅文 島崎 佑 堀池 巧	審判・ルール：競技規則および審判法について理解を深める。後半、実際のゲームの中で、主審、副審を経験する。	講義および、審判デモについて解説し実践する。また、審判の役割について、また、競技規則の精神について議論する。	【予習：1時間】 育成期の1人審判とはどういうことか調べてくる。 【復習：1時間】 競技規則の精神、および審判法についての課題問題集を実施する。
22	吉村雅文 島崎 佑 堀池 巧	大人としての役割、大人の関わり、育成の積み上げ、指導者のあり方、子供たちに伝えること、サッカー・スポーツを文化にしようについて理解を深める。	「サッカーの指導現場に於ける暴力根絶」について個人ワークとグループワークを行う。	【予習：1時間】 Players Firstとはどういうことか調べてくる。 【復習：1時間】 ヨーロッパが100年をかけて築き上げてきたサッカー、スポーツ文化を日本ではその半分で成し遂げるためにはどうすれば良いか提案してください。（レポート課題）
23	吉村雅文 島崎 佑 堀池 巧	指導の実践のテーマに対して、オーガナイズをはじめ、目的、方法が適切かディスカッションを行い、その後、定められた時間で指導実践を行う。	学生がコーチ役となり、選手役の学生に対して指導実践を行い、担当教員からのアドバイスおよび評価を行う。	【予習：2時間】 自身の指導実践テーマについて、指導案を作成するとともにシュミレーションを行う。 【復習：2時間】 担当教員からのアドバイスを再確認して、まとめる。
24	吉村雅文 島崎 佑 堀池 巧	指導の実践のテーマに対して、オーガナイズをはじめ、目的、方法が適切かディスカッションを行い、その後、定められた時間で指導実践を行う。	学生がコーチ役となり、選手役の学生に対して指導実践を行い、担当教員からのアドバイスおよび評価を行う。	【予習：1時間】 自身の指導実践テーマについて、指導案を作成するとともにシュミレーションを行う。 【復習：1時間】 担当教員からのアドバイスを再確認して、まとめる。
25	吉村雅文 島崎 佑 堀池 巧	指導の実践のテーマに対して、オーガナイズをはじめ、目的、方法が適切かディスカッションを行い、その後、定められた時間で指導実践を行う。	学生がコーチ役となり、選手役の学生に対して指導実践を行い、担当教員からのアドバイスおよび評価を行う。	【予習：1時間】 自身の指導実践テーマについて、指導案を作成するとともにシュミレーションを行う。 【復習：1時間】 担当教員からのアドバイスを再確認して、まとめる。

科目名	【新カリ】スポーツコーチング演習（バレーボール）	授業形態	実技	
英語科目名	【新カリ】スポーツコーチング演習（バレーボール）	対象学年	3年	
開講学期	2022年度前期、2022年度後期	単位数	4単位	
代表教員	中田 学	ナンバリング	COA3306	
担当教員	中田 学、スポーツ健康科学部教員共通			
授業概要				
全体内容	<p>【授業全体の内容】 本科目は、演習の授業形態で行われる。「陸上競技のコーチング演習」、「体操競技のコーチング演習」、「水泳のコーチング演習」、「サッカーのコーチング演習」、「バレーボールのコーチング演習」、「バスケットボールのコーチング演習」、「卓球のコーチング演習」、「柔道のコーチング演習」、「剣道のコーチング演習」、「ダンスのコーチング演習」の中から1つを選択し、その種目のコーチングの理論を学習し、実践を通して指導方法を身につける。「バレーボールのコーチング演習」においては、座学ではバレーボールの基礎知識から、バレーボールの技術戦術の変遷を学び、現場でのコーチング力を養う。実技では基礎技術をベースに、より高度な技術、また戦術を学ぶことができる。教員になった際、自分の専門種目が見れるとも限らない。そこで、授業での指導はもちろん、審判法の完全な理解、部活動レベルでの指導方法も学ぶことができる。内容としては、実際に部活動で行われている練習や、チーム練習も取り入れ、6人制、9人制をメインに行っていく。 よりレベルの高いゲームができるようになる。ゲームの中での問題点や課題などを自分たちで話し合い、解決することができるようになる。</p>			
到達目標	<p>【授業の到達目標】 1. 将来、体育の指導者になったときに必要な専門的なバレーボールの指導法に重点をおいた授業展開を行い、指導を行うことができる 2. バレーボールの専門的な技術（サーブ・レシーブ・トス・スパイク・ブロックなど）を習得させるための高度な指導法を学習し、指導することができる 3. いろいろなバレーボール競技（6人制バレー・9人制バレー）を理解し、適性にあつた指導法・戦術・フォーメーションなどについて理解することができる</p>			
授業の位置づけ	この科目は、コース科目群・競技スポーツコース科目・スポーツコーチング科学コース科目の必修科目である。			
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	<p>【授業の位置づけ（学位授与方針に定められている知識・能力等との関連）】 技術的な向上はもちろん、バレーボールを通じて、コミュニケーションスキル、対人能力を身につける。 この科目は、スポーツ科学科において、「スポーツ科学分野の専門的な実践力」を身につけるという目的、および学位授与方針の達成に寄与する</p>			
履修上の注意、履修要件	<p>【履修要件】 特にありません</p> <p>【履修上の注意】科目独自のルール 実技科目のため、長期間プレーできない場合は相談してください 1回の授業について、3分の2以上の出席時間がない場合は、その授業を欠席扱いとする。 遅刻に関しても減点とする。</p>			
成績評価の方法				
評価方法	<p>【成績評価の方法】 授業態度・取り組み50%、実技レベル50%の割合で評価します。</p>			
評価基準	<p>【成績評価の基準】 1 前後期ともに授業実施回数の2/3以上の出席をもって受験資格とする。 2 前期終了時と後期終了時に実技試験を行い評価する</p>			
試験・課題に対するフィードバック方法				
<p>【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】 実技試験に関しては2時限分とし、行う前に、評価基準の説明、模範を見せ、実施後に口頭にて点数を伝える。</p>				
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
みるみる上達！バレーボール基礎からマスター	篤宗浩二	学研		授業中に指示します
参考文献				
その他				

連絡先・オフィスアワー	<p>【連絡先】 担当：中田 学 E-mail：m-nakata*juntendo.ac.jp (*は@マークです※セキュリティ上の理由)</p> <p>【オフィスアワー】 日時：火曜～金曜 昼休み 放課後 場所：1号館5階1530室(中田)</p> <p>上記の時間帯には、予約なしに質問や相談に応じますが、できるだけ2日前までにE-mailで予約してください。質問や相談は予約のあった学生を優先します。</p>			
担当教員の実務経験	<p>2013年～ 順天堂大学 「バレーボール」授業担当 小学校からバレーボールを継続しており、2013年からは指導者としてバレーボールに携わっている。また小学生、中学生高校生を対象としたバレーボール教室なども実施しており、学校教育現場に求められる知識、技術、指導法を分かり易く解説する。</p>			
備考	<p>【学修時間】 この授業は、実技の授業形態による2単位の科目であり、授業時間90時間と準備学習30時間の計120時間の学修を必要とする内容をもって構成する。</p> <p>【実務経験のある教員による授業】 高等学校における保健体育教員及びバレーボール部顧問としての経験を生かし、バレーボールに関する実践的な知識・技術を解説する。</p> <p>【その他】 この授業科目は、中・高保健体育1種免許の取得に必要な科目のうち、「教科に関する科目」における選択必修科目として位置づけられています。</p> <p>【実務経験のある教員による授業】 高等学校における保健体育教員及びバレーボール部顧問としての経験を生かし、バレーボールに関する実践的な知識・技術を解説します。</p>			
授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	中田 学	授業内容 オリエンテーション・ガイダンス	授業方法 1年間の授業方針の説明	(予習0.5h) シラバスの内容を事前によく読んでおく。 (復習0.5h) 一年間の授業方針について理解する。
2	中田 学	(授業内容) 基礎の復習 パス スパイク ゲーム	(授業方法) ゲーム方式を行う。 基礎を復習する	(予習0.5h) シラバスの内容を事前によく読んでおく。 (復習0.5h) 授業で学習した内容について、理解を深める。
3	中田 学	(授業内容) バレーボールの基礎知識① マンツーマン サーブ ゲーム	(授業方法) ・コート の規格 ・ルールの理解 様々なパス練習の種類やサーブ、マンツーマンパスを学ぶ	(予習0.5h) シラバスの内容を事前によく読んでおく。 (復習0.5h) 授業で学習した内容について、理解を深める。
4	中田 学	(授業内容) サーブレシーブ 3段攻撃・時間差攻撃 ゲーム	(授業方法) サーブレシーブの基本を学ぶ 3段攻撃・時間差攻撃を学ぶ	(予習0.5h) シラバスの内容を事前によく読んでおく。 (復習0.5h) 授業で学習した内容について、理解を深める。
5	中田 学	(授業内容) バレーボールの基礎知識② スパイク クイック 時間差攻撃 ゲーム	(授業方法) ・審判法の理解 ・ゲームの進め方 ・ゲーム視聴 クイックと時間差攻撃の打ち方、練習方法を学ぶ	(予習0.5h) シラバスの内容を事前によく読んでおく。 (復習0.5h) 授業で学習した内容について、理解を深める。
6	中田 学	(授業内容) ブロック ゲーム	(授業方法) 組織的なブロック、また練習方法を学ぶ	(予習0.5h) シラバスの内容を事前によく読んでおく。 (復習0.5h) 授業で学習した内容について、理解を深める。

7	中田 学	(授業内容) バレーボールの基礎知識③ スパイクの種類 平行トス クイックのパターン 様々なエリアでの時間差攻撃 ゲーム	(授業方法) ポジショナル フォールト・ フォーメーション の理解 ・レセプション フォーメーション ・ディグフォー メーション ・ポジショナル フォールト サイドプレーヤー の平行トス、4種 類のクイック、 様々なエリアでの 時間差攻撃を学ぶ ことができる。	(予習0.5h) シラバスの内容を事前によく読んでおく。 (復習0.5h) 授業で学習した内容について、理解を深める。
8	中田 学	(授業内容) 台を使った練習方法 ブロック レシーブ	(授業方法) 台上ブロック 台上レシーブの指 導方法を学ぶ	(予習0.5h) シラバスの内容を事前によく読んでおく。 (復習0.5h) 授業で学習した内容について、理解を深める。
9	中田 学	(授業内容) コーチングについて① ICT (ipad) を用いた動画撮影 スリーメンレシーブ サーブカット② ゲーム	(授業方法) 様々なコーチング 手法についての理 解 ipadを用いて自分 のプレーを動画で 撮影し、フィード バックしながらス キル練習 スリーメンレシー ブの方法を学ぶ 様々なサーブカッ トの指導方法を学 ぶ	(予習0.5h) シラバスの内容を事前によく読んでおく。 (復習0.5h) 授業で学習した内容について、理解を深める。
10	中田 学	(授業内容) 9人制バレー フォーメーション・戦術の説明 ゲーム形式での乱打練習	(授業方法) 9人制バレーの説 明・戦術を学ぶこ とができる 乱打練習の方法を 学ぶことができる	(予習0.5h) シラバスの内容を事前によく読んでおく。 (復習0.5h) 授業で学習した内容について、理解を深める。
11	中田 学	(授業内容) コーチング② 9人制バレー 台を使ったチーム練習 ゲーム	(授業方法) スポーツ界、バ レーボール界にお けるコーチングの 現状、および問題 点についてグルー プディスカッショ ンを行う。 台を使ったチーム 練習の指導方法を 学ぶことができる	(予習0.5h) シラバスの内容を事前によく読んでおく。 (復習0.5h) 授業で学習した内容について、理解を深める。
12	中田 学	(授業内容) 9人制バレー 練習試合	(授業方法) 9人制のゲームの 仕方を学ぶ	(予習0.5h) シラバスの内容を事前によく読んでおく。 (復習0.5h) 授業で学習した内容について、理解を深める。
13	中田 学	(授業内容) オリンピックから見る技術戦術の変遷について① 9人制バレー 公式戦	(授業方法) 1960年代~1970年 代のオリンピック から見る技術戦術 の変遷について理 解する 9人制バレー 公式戦を行う	(予習0.5h) シラバスの内容を事前によく読んでおく。 (復習0.5h) 授業で学習した内容について、理解を深める。
14	中田 学	(授業内容) パラリンピックについて シットイングバレーボール	(授業方法) パラリンピック種 目であるシットイ ングバレーについ て学ぶ	(予習0.5h) シラバスの内容を事前によく読んでおく。 (復習0.5h) 授業で学習した内容について、理解を深める。

15	中田 学	(授業内容) オリンピックから見る技術戦術の変遷について② ゲーム	(授業方法) 1970年代～1980年のオリンピックから見る技術戦術の変遷について学ぶ 前期中で学んだ技術の復習を行う	(予習0.5h) シラバスの内容を事前によく読んでおく。 (復習0.5h) 授業で学習した内容について、理解を深める。
16	中田 学	(授業内容) 9人制バレー試合 進め方の復習	(授業方法) 9人制のゲームの仕方の復習	(予習0.5h) シラバスの内容を事前によく読んでおく。 (復習0.5h) 授業で学習した内容について、理解を深める。
17	中田 学	(授業内容) オリンピックから見る技術戦術の変遷について③ 強化練習 (スパイク) ゲーム	(授業方法) 1980年～1990年代のオリンピックから見る技術戦術の変遷について学ぶ クイック 時間差攻撃 2段トスのスパイク スパイクの指導方法を学ぶ	(予習0.5h) シラバスの内容を事前によく読んでおく。 (復習0.5h) 授業で学習した内容について、理解を深める。
18	中田 学	(授業内容) 強化練習 (レシーブ) ゲーム	(授業方法) 台上レシーブ スリーメン サブカット レシーブの指導方法を学ぶ	(予習0.5h) シラバスの内容を事前によく読んでおく。 (復習0.5h) 授業で学習した内容について、理解を深める。
19	中田 学	(授業内容) オリンピックから見る技術戦術の変遷について④ 強化練習 (ブロック)	(授業方法) 1990～2000年代のオリンピックから見る技術戦術の変遷について学ぶ ブロックのステップ・面づくり・手の出し方・ブロックの種類・実践的なブロックを学ぶ	(予習0.5h) シラバスの内容を事前によく読んでおく。 (復習0.5h) 授業で学習した内容について、理解を深める。
20	中田 学	(授業内容) 強化練習 (フォーメーションの応用)	(授業方法) フォーメーションの種類・サインプレーを学ぶ	(予習0.5h) シラバスの内容を事前によく読んでおく。 (復習0.5h) 授業で学習した内容について、理解を深める。
21	中田 学	(授業内容) オリンピックから見る技術戦術の変遷について⑤ 6人制バレー ゲーム	(授業方法) 2000年～2010年代のオリンピックから見る技術戦術の変遷について学ぶ W型・三角形型 フォーメーションの確認	(予習0.5h) シラバスの内容を事前によく読んでおく。 (復習0.5h) 授業で学習した内容について、理解を深める。
22	中田 学	(授業内容) 6人制バレー フォーメーション・戦術の説明 ゲーム形式での乱打練習	(授業方法) 6人制バレーの説明・戦術を学ぶことができる 乱打練習の方法を学ぶことができる	(予習0.5h) シラバスの内容を事前によく読んでおく。 (復習0.5h) 授業で学習した内容について、理解を深める。
23	中田 学	(授業内容) オリンピックから見る技術戦術の変遷について⑥ 6人制バレー 台を使ったチーム練習 ゲーム	(授業方法) 2010年～2020年代のオリンピックから見る技術戦術の変遷について学ぶ 台を使ったチーム練習の指導方法を学ぶことができる	(予習0.5h) シラバスの内容を事前によく読んでおく。 (復習0.5h) 授業で学習した内容について、理解を深める。
24	中田 学	(授業内容) 6人制バレー 練習試合	(授業方法) 6人制のゲームの仕方を学ぶ	(予習0.5h) シラバスの内容を事前によく読んでおく。 (復習0.5h) 授業で学習した内容について、理解を深める。

科目名	【新カリ】スポーツコーチング演習（バスケットボール）			授業形態	演習
英語科目名	【新カリ】スポーツコーチング演習（バスケットボール）			対象学年	3年
開講学期	2022年度前期、2022年度後期			単位数	4単位
代表教員	中嶽 誠			ナンバリング	COA3306
担当教員	中嶽 誠、スポーツ健康科学部教員共通				
授業概要					
全体内容	<p>【授業全体の内容】</p> <p>本科目は、演習の授業形態で行われる。「陸上競技のコーチング演習」、「体操競技のコーチング演習」、「水泳のコーチング演習」、「サッカーのコーチング演習」、「バレーボールのコーチング演習」、「バスケットボールのコーチング演習」、「卓球のコーチング演習」、「柔道のコーチング演習」、「剣道のコーチング演習」、「ダンスのコーチング演習」の中から1つを選択し、その種目のコーチングの理論を学習し、実践を通して指導方法を身につける。</p> <p>「バスケットボールのコーチング演習」においては、日本のバスケットボール競技者数は現在約60万人、また国内ではBリーグというプロリーグが開幕し、世界に向けて着実に進歩している中、バスケットボールの特性を理解して競技の楽しさに触れるとともに、バスケットボールのコーチングを学び、練習方法や審判法などの実践的な能力を身につける。また、公式戦に近いゲームを数多く実践し、ゲームの中でシュートを決めることやチーム戦術を発揮することを目指す。</p>				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. バスケットボールのコーチングに必要な知識を理解できる。 2. バスケットボールの競技力向上や練習方法について指導実践ができる。 3. ゲームの中で工夫した戦術を活用することができる。 				
授業の位置づけ	この科目は、コース科目群・競技スポーツコース科目・スポーツコーチング科学コース科目の必修科目である。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目はスポーツ種目の理論と実践の演習を通して、「スポーツ健康科学を中心とした幅広い知識と教養、及びそれらの活用能力」、「コミュニケーション力」および「倫理観」を身に付けるための科目の1つとして開講される。また、スポーツコーチングコースおよびスポーツ競技コースの必修科目として、「スポーツ科学の知識に基づき、現場で指導できる能力ないしは研究できる能力」という学位授与方針の達成にも寄与する。				
履修上の注意、履修要件	<p>【履修要件】</p> <p>多数受講希望者がいる場合には抽選を行い、当選者だけが履修することができます。</p> <p>【履修上の注意（科目独自のルール）】</p> <p>バスケットボールに適した服装・シューズを必ず着用し、腕時計・指輪・ピアス等の装飾品は身に着けないで下さい。また、時間厳守で行います。</p>				
成績評価の方法					
評価方法	課題レポート（30%）、筆記ミニテスト（10%）、指導実践評価（30%）、平常点（30%）を総合して評価する。				
評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. バスケットボール競技の自分自身の指導理念を具体的に述べる事ができる（課題レポート）。 2. バスケットボール競技の競技規則を理解できる（筆記ミニテスト）。 3. バスケットボールの練習方法や戦術について指導実践ができる（指導実践評価）。 4. 取組状況によって受講態度を評価する（平常点）。 				
試験・課題に対するフィードバック方法					
授業中にポイントを解説します。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考文献					
授業中に指示します。					
その他					
連絡先・オフィスアワー	<p>【連絡先】</p> <p>担当：中嶽誠</p> <p>E-mail：mknakada[at]juntendo.ac.jp</p> <p>※[at]を@に変更してください。</p> <p>【オフィスアワー】</p> <p>日時：水曜日12時00分～12時40分</p> <p>場所：1号館5階1520室 バスケットボール研究室</p>				
担当教員の実務経験	高校現場において保健体育科教諭の業務にあっていた経験を生かし、バスケットボールのコーチング論の授業に求められる知識や技術をわかりやすく解説します。				
備考	<p>【学修時間】</p> <p>この授業は、演習の授業形態による4単位の科目であり、授業時間60時間と準備学習120時間の計180時間の学修を必要とする内容をもって構成する。</p> <p>【その他】</p> <p>新型コロナウイルス感染症の発生状況に応じて、成績評価の基準、方法及び授業計画を変更する場合があります。</p>				
授業計画					
授業回	担当者	授業内容	授業方法*	予習・復習・レポート課題等と学習時間	
1	中嶽	ガイダンス	授業目的及び概要、シラバス、評価方法の内容等について説明する。	【予習：2時間】 コーチングとは何かについて調べる。 【復習：2時間】 日本バスケットボール協会のホームページを閲覧する。	

2	中嶽	試しのゲーム・課題発見	自分たちで効果的なグルーピングを行う。 ゲームの中から必要な課題を発見する。	【予習：2時間】 試合の進行について調べる。 【復習：2時間】 ゲームの中で発見された課題を整理する。
3	中嶽	バスケットボールの競技規則。	競技規則について解説する。 競技規則を確認しながらゲームを実践する。	【予習：2時間】 バスケットボールの競技規則について調べる。 【復習：2時間】 競技規則について整理する。
4	中嶽	バスケットボールの審判法①ツーパーソン	審判法について解説する。 審判法をゲームの中で実践する。	【予習：2時間】 バスケットボールの審判法（ツーパーソン）について調べる。 【復習：2時間】 審判法（ツーパーソン）について整理する。
5	中嶽	バスケットボールの審判法②スリーパーソン	審判法について解説する。 審判法をゲームの中で実践する。	【予習：2時間】 バスケットボールの審判法（スリーパーソン）について調べる。 【復習：2時間】 審判法（スリーパーソン）について整理する。
6	中嶽	バスケットボールのルール変遷・歴史	ルール変遷・歴史について解説する。 過去のルールでゲームを実践し、ルール変遷の理由を検討する。	【予習：2時間】 バスケットボールのルール変遷・歴史について調べる。 【復習：2時間】 ルール変遷・歴史について整理する。
7	中嶽	バスケットボールの特性・競技性	バスケットボールの特性・競技性について解説する。 特性・競技性を確認しながらゲームを実践する。	【予習：2時間】 バスケットボールの特性・競技性について調べる。 【復習：2時間】 特性・競技性について整理する。
8	中嶽	コーディネーショントレーニング	コーディネーショントレーニングについて解説し、 代表的なトレーニングを実践する。	【予習：2時間】 コーディネーショントレーニングについて調べる。 【復習：2時間】 コーディネーショントレーニングについて整理する。
9	中嶽	コーディネーショントレーニングの指導実践①	メニュー作成を行う。 グループ内で指導実践演習を行う。	【予習：2時間】 コーディネーショントレーニングについて調べる。 【復習：2時間】 指導実践について整理する。
10	中嶽	コーディネーショントレーニングの指導実践②	メニュー作成を行う。 グループ内で指導実践演習を行う。	【予習：2時間】 コーディネーショントレーニングについて調べる。 【復習：2時間】 指導実践について整理する。
11	中嶽	ファンダメンタルの指導実践①「パス」	ファンダメンタルについて解説する。 メニュー作成を行う。 グループ内で指導実践演習を行う。	【予習：2時間】 パスの練習方法について調べる。 【復習：2時間】 指導実践について整理する。
12	中嶽	ファンダメンタルの指導実践②「ドリブル」	メニュー作成を行う。 グループ内で指導実践演習を行う。	【予習：2時間】 ドリブルの練習方法について調べる。 【復習：2時間】 指導実践について整理する。
13	中嶽	ファンダメンタルの指導実践③「シュート」	メニュー作成を行う。 グループ内で指導実践演習を行う。	【予習：2時間】 シュートの練習方法について調べる。 【復習：2時間】 指導実践について整理する。
14	中嶽	競技規則の筆記ミニテスト 前期のまとめ	筆記ミニテストを実施する。 前期の演習成果が発揮できるようにゲームを実践する。	【予習：3時間】 筆記ミニテストに解答できるよう、今までの内容を学習する。 【復習：2時間】 筆記テストの内容を整理する。

		定期試験は実施しない		
15	中嶽	日本バスケットボール界の現状	日本バスケットボール界の現状を解説する。 グループごとにディスカッションし、発表する。	【予習：2時間】 日本バスケットボール協会について調べる。 【復習：2時間】 日本の現状を整理する。
16	中嶽	高校現場の指導例	高校現場の指導例を解説する。 グループごとにディスカッションし、指導理念を構築する。	【予習：3時間】 代表的な高校現場の指導者について調べる。 【復習：2時間】 高校現場の考え方や練習の工夫などを整理する。
17	中嶽	大学現場の指導例	大学現場の指導例を解説する。 グループごとにディスカッションし、指導理念を構築する。	【予習：3時間】 代表的な大学現場の指導者について調べる。 【復習：2時間】 大学現場の考え方や練習の工夫などを整理する。
18	中嶽	ゲーム戦術①「オフェンス」	オフェンスのゲーム戦術について解説する。 ゲームの中で戦術を考えて実践する。	【予習：2時間】 オフェンスのゲーム戦術について調べる。 【復習：2時間】 ゲーム戦術について整理する。
19	中嶽	ゲーム戦術②「ディフェンス」	ディフェンスのゲーム戦術について解説する。 ゲームの中で戦術を考えて実践する。	【予習：2時間】 ディフェンスのゲーム戦術について調べる。 【復習：2時間】 ゲーム戦術について整理する。
20	中嶽	ゲーム分析①	ゲーム分析について解説する。 ゲームを行い、簡易分析を実践する。	【予習：2時間】 ゲーム分析について調べる。 【復習：2時間】 ゲーム分析について整理する。
21	中嶽	ゲーム分析②	ゲームを行い、簡易分析を実践する。	【予習：2時間】 ゲーム分析について調べる。 【復習：2時間】 ゲーム分析について整理する。
22	中嶽	指導実践①（小学生対象）	指導実習計画書を作成する。 指導実践演習を行う。	【予習：3時間】 小学生を対象にした指導実習計画書作成の準備する。 【復習：2時間】 指導実践について整理する。
23	中嶽	指導実践②（中学生対象）	指導実習計画書を作成する。 指導実践演習を行う。	【予習：3時間】 中学生を対象にした指導実習計画書作成の準備する。 【復習：2時間】 指導実践について整理する。
24	中嶽	指導実践③（高校生対象）	指導実習計画書を作成する。 指導実践演習を行う。	【予習：3時間】 高校生を対象にした指導実習計画書作成の準備する。 【復習：2時間】 指導実践について整理する。
25	中嶽	指導実践④（大学生対象）	指導実習計画書を作成する。 指導実践演習を行う。	【予習：3時間】 大学生を対象にした指導実習計画書作成の準備する。 【復習：2時間】 指導実践について整理する。
26	中嶽	ゲーム運営①	ゲームの運営や大会方法について解説する。 自分たちで運営方法や大会方法を考え、実践する。	【予習：2時間】 運営方法について調べる。 【復習：2時間】 運営方法について整理する。
27	中嶽	ゲーム運営②	自分たちで運営方法や大会方法を考え、実践する。	【予習：2時間】 大会方法について調べる。 【復習：2時間】 大会方法について整理する。
28	中嶽	課題レポート作成・提出	課題レポートを作成する。	【予習：3時間】 課題レポート作成ができるように準備する。 【復習：2時間】 作成したレポートを整理する。
		定期試験は実施しない		

科目名	【新カリ】スポーツコーチング演習（卓球）			授業形態	演習
英語科目名	【新カリ】スポーツコーチング演習（卓球）			対象学年	3年
開講学期	2022年度前期、2022年度後期			単位数	4単位
代表教員	吉田 和人			ナンバリング	COA3306
担当教員	吉田 和人、スポーツ健康科学部教員共通				
授業概要					
全体内容	<p>【授業全体の内容】</p> <p>本科目は、演習の授業形態で行われる。「陸上競技のコーチング演習」、「体操競技のコーチング演習」、「水泳のコーチング演習」、「サッカーのコーチング演習」、「バレーボールのコーチング演習」、「バスケットボールのコーチング演習」、「卓球のコーチング演習」、「柔道のコーチング演習」、「剣道のコーチング演習」、「ダンスのコーチング演習」の中から1つを選択し、その種目のコーチングの理論を学習し、実践を通して指導方法を身につける。</p> <p>「卓球のコーチング演習」においては、卓球の競技特性を理解した上で、様々な競技レベルのプレイヤーを対象にしたコーチングの実践能力の向上を目指す。</p>				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 卓球の技術および戦術を理解して、競技レベルに応じた指導ができる。 2. 学習者自身が、ゲームから技術および戦術に関する課題を発見し、解決する能力を高めるための指導ができる。 3. 卓球の技術や戦術の課題を解決するために適切な練習の立案・指導ができる。 4. 科学的知見を援用した卓球の指導ができる。 				
授業の位置づけ	この科目は、コース科目群・競技スポーツコース科目・スポーツコーチング科学コース科目の必修科目である。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	スポーツコーチングコースおよびスポーツ競技コースの必修科目として、「課題解決能力」、「倫理観」という学位授与方針の達成に寄与する。				
履修上の注意、履修要件	<p>【履修要件】</p> <p>希望者が多い場合には、抽選により受講者を決定します。</p> <p>【履修上の注意（科目独自のルール）】</p> <p>時間厳守で行います。 30分以上の遅刻は欠席となります。 スポーツに適した服装・体育館シューズ（屋内シューズ）を必ず準備してください。 遅刻および忘れ物は減点となります。 ゲームにおいて、他者との協力が必要な場面がたくさんあります。そうした場面などでのマナー違反には厳しく対処しますので、各自で十分に注意するようにしてください。</p>				
成績評価の方法					
評価方法	授業への取り組み（30%）、実技レベル（20%）、課題レポート（50%）を総合して評価する。				
評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. 前期、後期それぞれに、2/3以上の出席をもって受験資格とする。 2. 授業における練習や試合の記録、態度などから、授業への取り組みを評価する。 3. 授業期間中に複数回の実技試験を実施し実技レベルを評価する。 4. 前期と後期の終わりに課題レポートを提出する。 				
試験・課題に対するフィードバック方法					
授業中にポイントを解説します。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考文献					
授業中に指示します。					
その他					
連絡先・オフィスアワー	<p>【連絡先】</p> <p>担当：吉田和人 E-mail：k.yoshida [at] juntendo.ac.jp ※ [at] を@に変更してください。</p> <p>【オフィスアワー】</p> <p>日時：水曜日12時00分～12時40分 場所：1号館5階1502室 ラケットスポーツ（卓球）研究室</p>				
担当教員の実務経歴					
備考	<p>【学修時間】</p> <p>この授業は、演習の授業形態による4単位の科目であり、授業時間60時間と準備学習120時間の計180時間の学修を必要とする内容をもって構成する。</p> <p>【その他】</p> <p>新型コロナウイルス感染症の発生状況に応じて、成績評価の基準、方法及び授業計画を変更する場合があります。</p>				
授業計画					
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間	

1	吉田	ガイダンス	1年間の授業内容や注意事項、評価方法などについて説明する。 「卓球とはどのようなスポーツか」について考察する。	【予習：1時間】 「卓球とはどのようなスポーツか」について調べ、授業で発表できる準備をする。 【復習：1時間】 日本卓球協会、国際卓球連盟のホームページを閲覧する。
2	吉田	テーマ「ラケットによるボール操作」	講義、指導デモンストレーションの後、さまざまな課題に取り組む。 卓球における制御について考察する。	【予習：1時間】 卓球のラケットとボールを使った遊びについて調べる。 【復習：1時間】 練習の中で発見された課題を整理する。
3	吉田	テーマ「色々なゲームを楽しもう」	講義、指導デモンストレーションの後、さまざまな課題に取り組む。 ルールを工夫しながら、楽しいゲームを考察する。	【予習：1時間】 初心者が楽しむためのゲームを考える。 【復習：1時間】 初心者が楽しむためのゲームについて整理する。
4	吉田	テーマ「いろいろなゲームを楽しみながら課題を見つけよう」	講義、指導デモンストレーションの後、さまざまな課題に取り組む。 自身のプレイからの課題抽出に関して考察する。	【予習：1時間】 卓球の技術や戦術について調べる。 【復習：1時間】 自分で発見した自身の技術や戦術の課題を整理する。
5	吉田	テーマ「ラリーを続けよう：フォアハンドドライブ」	講義、指導デモンストレーションの後、さまざまな課題に取り組む。 習得した技術を使ったゲームを楽しむ。	【予習：1時間】 「フォアハンドドライブ」について調べる。 【復習：1時間】 自身の技術課題を整理する。
6	卓球	テーマ「ラリーを続けよう：バックハンドドライブ」	講義、指導デモンストレーションの後、さまざまな課題に取り組む。 習得した技術を使ったゲームを楽しむ。	【予習：1時間】 「バックハンドドライブ」について調べる。 【復習：1時間】 自身の技術課題を整理する。
7	吉田	テーマ「コースを狙おう：ブロック」	講義、指導デモンストレーションの後、さまざまな課題に取り組む。 習得した技術を使ったゲームを楽しむ。	【予習：1時間】 「ブロック」について調べる。 【復習：1時間】 自身の技術課題を整理する。
8	吉田	テーマ「コースを狙おう：スピードサービス」	講義、指導デモンストレーションの後、さまざまな課題に取り組む。 習得した技術を使ったゲームを楽しむ。	【予習：1時間】 「スピードサービス」について調べる。 【復習：1時間】 自身の技術課題を整理する。
9	吉田	テーマ「強打で決めよう：スマッシュ」	講義、指導デモンストレーションの後、さまざまな課題に取り組む。 習得した技術を使ったゲームを楽しむ。	【予習：1時間】 「スマッシュ」について調べる。 【復習：1時間】 自身の技術課題を整理する。
10	吉田	テーマ「試合を楽しもう：シングルス」	シングルスゲームのルール、リーグ戦の試合運営を理解した上で、グループごとにリーグ戦を行う。	【予習：1時間】 卓球のシングルスルールについて調べる。 【復習：1時間】 試合から抽出した自身の課題について整理する。

11	吉田	テーマ「試合を楽しもう：シングルス」	技術や戦術について解説する。 グループごとにリーグ戦を行う。 試合から抽出した課題を解決するための練習を行う。	【予習：1時間】 試合から抽出した課題を解決するための練習を考える。 【復習：1時間】 試合から抽出した自身の課題について整理する。
12	吉田	テーマ「試合を楽しもう：シングルス」	グループごとにリーグ戦を行う。 試合から抽出した課題を解決するための練習を行う。	【予習：1時間】 試合から抽出した課題を解決するための練習を考える。 【復習：1時間】 試合から抽出した自身の課題について整理する。
13	吉田	テーマ「回転を操作しよう：サービス」	講義、指導デモンストレーションの後、さまざまな課題に取り組む。 習得した技術を使ったゲームを楽しむ。	【予習：1時間】 「さまざまな回転のサービス」について調べる。 【復習：1時間】 自身の技術課題を整理する。
14	吉田	テーマ「回転を操作しよう：レシーブ」 前期のまとめ	講義、指導デモンストレーションの後、さまざまな課題に取り組む。 習得した技術を使ったゲームを楽しむ。 前期に習得した技術について試験を行う。 前期のレポート課題を説明する。	【予習：1時間】 技術試験に向けて準備する。 【復習：1時間】 前期の学習内容を整理する。
15	吉田	テーマ「卓球トッププレイヤーのパフォーマンス、卓球の歴史」	卓球トッププレイヤーのパフォーマンス、卓球の歴史に関して説明する。	【予習：1時間】 卓球トッププレイヤーの試合動画を視聴する。 卓球の歴史について調べる。 【復習：1時間】 卓球の歴史について整理する。
16	吉田	テーマ「ダブルスゲーム」	グループごとにリーグ戦を行う。 試合から抽出した課題を解決するための練習を行う。	【予習：1時間】 卓球のダブルスルールについて調べる。 【復習：1時間】 試合から抽出した自分たちのペアの課題について整理する。
17	吉田	テーマ「ダブルスゲーム」	グループごとにリーグ戦を行う。 試合から抽出した課題を解決するための練習を行う。	【予習：1時間】 試合から抽出した課題を解決するための練習を考える。 【復習：1時間】 試合から抽出した自分たちのペアの課題について整理する。
18	吉田	テーマ「試合分析」	卓球における試合分析について解説する。 ダブルスのペアのシングルの試合について分析を行い、アドバイスを 自身のシングルの試合について試合撮影する。	【予習：1時間】 卓球の試合分析について調べる。 【復習：1時間】 撮影映像から自身の試合を分析して、課題を明らかにする。
19	吉田	テーマ「団体戦」	グループごとにリーグ戦を行う。 試合分析により明らかにされたデータに基づいて、同じチームの選手にアドバイスを 行う。	【予習：1時間】 試合分析により明らかになった自身の課題を解決するための練習法を考える。 【復習：1時間】 チームメイトの試合分析の結果とアドバイスについて考察する。

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	【新カリ】スポーツコーチング演習（水泳競技）			授業形態	
英語科目名	【新カリ】スポーツコーチング演習（水泳競技）			対象学年	3年
開講学期	2022年度前期、2022年度後期			単位数	4単位
代表教員	武田 剛			ナンバリング	
担当教員	武田 剛、スポーツ健康科学部教員共通				
授業概要					
全体内容	<p>本科目は、演習の授業形態で行われる。「陸上競技のコーチング演習」、「体操競技のコーチング演習」、「水泳のコーチング演習」、「サッカーのコーチング演習」、「バレーボールのコーチング演習」、「バスケットボールのコーチング演習」、「卓球のコーチング演習」、「柔道のコーチング演習」、「剣道のコーチング演習」、「ダンスのコーチング演習」の中から1つを選択し、その種目のコーチングの理論を学習し、実践を通して指導方法を身につける。</p> <p>水泳のコーチング演習では、水泳指導者に必要な水泳競技の医科学、指導法を講義と実技を組み合わせた演習形式で実施する。本授業は日本スポーツ協会の水泳競技の公認スポーツ指導者コーチ1とコーチ3の対応科目となっているため、この資格対応のための授業内容が中心となる。</p>				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 水泳の特性などの解説を加えた理論的な水泳の授業（指導）が実施できる。 2. 競泳の個人メドレーと横泳ぎを模範的な技術で泳ぐことができる。 3. 水泳における正しい安全管理の知識をもち、適切な一次救命を実施できる。 4. 科学的な知見に基づいたトレーニングメニューの作成ができる。 				
授業の位置づけ	この科目は、コース科目群・競技スポーツコース科目・スポーツコーチング科学コース科目の必修科目である。また、JSP0/JASF（日本水泳連盟）公認水泳コーチ1養成講習会免除適応コース、JSP0/JASF（日本水泳連盟）公認水泳コーチ3養成講習会免除適応コースの必修科目である。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目はスポーツ種目の理論と実践の演習を通して、「スポーツ健康科学を中心とした幅広い知識と教養、及びそれらの活用能力」、「コミュニケーション力」および「倫理観」を身に付けるための科目の1つとして開講される。また、スポーツコーチングコースおよびスポーツ競技コースの必修授科目として、「スポーツ科学の知識に基づき、現場で指導できる能力ないしは研究できる能力」という学位授与方針の達成にも寄与する。				
履修上の注意、履修要件	<p>【履修要件】 水泳実技の単位を取得した上（あるいは履修）で、受講することが望ましい。 過去や履修時に水泳競技（特に競泳）における競技経験があることが望ましい。</p> <p>【実技実施上の注意】 プールでの実技を実施することがあるため、水泳競技に適したレジャー用でない水着と水泳帽、ゴーグルを各自で準備すること</p>				
成績評価の方法					
評価方法	口頭試験（模擬授業）25%、 実技試験1（個人メドレーと横泳ぎ）が25%、 実技試験2（水辺一次救命処置）が25%、 レポート（トレーニングメニュー作成）が25%、 の割合で評価する。				
評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. 正しい理論に基づいた水泳の模擬授業（指導）ができる。（口頭試験） 2. 個人メドレーと横泳ぎを正しい泳法で泳ぐことができる。（実技試験1） 3. プールや水辺を想定した適切な一次救命処置が実施できる。（実技試験2） 4. 作成したトレーニングメニューに科学的な根拠が示されている。（レポート） 				
試験・課題に対するフィードバック方法					
口頭試験は、個別に良かった点と悪かった点をフィードバックする。実技試験については事前に採点方法と項目を公開し、実施直後に受講生に通知する。レポートは採点後に返却をすることで点数とアドバイスを通知する。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考文献					
水泳指導教本（公営財団法人日本水泳連盟・大修館書店）*最新版（三訂版）が望ましい 水泳コーチ教本（公営財団法人日本水泳連盟・大修館書店）*最新版（第3版）が望ましい					
その他					
連絡先・オフィスアワー	<p>【連絡先：オフィスアワー】 武田 剛（1号館5階1507号室）：木曜日 12:10～12:50 *事前にメールで予約を取ることが望ましい。 E-mail：tutakeda[at]juntendo.ac.jp （[at]を@に変更してください）</p>				
担当教員の実務経験					
備考	<p>【学修時間】 この授業は演習形式による4単位の科目であり、授業60時間と準備学習120時間の計180時間の学修を必要とする内容をもって構成する。</p> <p>【その他】 日本スポーツ協会・日本水泳連盟公認の水泳コーチ1と水泳コーチ3の専門科目の学習内容を含む科目である。</p>				
授業計画					
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間	

1	武田	授業ガイダンスを実施し、計画、概要、評価方法について解説する。水泳の特性、歴史、安全管理について学習する。	教室あるいはプールサイドにて、講義形式で実施する。講義の概要をまとめた短時間講義を学生自身がグループ内で3分で実施する。	(予習：1時間) 該当部分のテキストを事前に読んでくる。 (復習：1時間) 3分の短時間講義を動画で撮影し、受講生同士で相互に評価した上で、修正版を提出する。
2	武田	生涯スポーツとしての水泳の魅力や継続方法、対象に応じた水泳指導法の原則を学習する。	教室あるいはプールサイドにて、講義形式で実施する。講義の概要をまとめた短時間講義を学生自身がグループ内で3分で実施する。	(予習：2時間) 該当部分のテキストを事前に読んでくる。 (復習：2時間) 3分の短時間講義を動画で撮影し、受講生同士で相互に評価した上で、修正版を提出する。
3	武田	プールの規格や、審判法、泳法規則について学習する。	教室にて実施する。教員からの講義の後に、泳法規則について、泳法違反となる具体的な事例を持ちより、小グループでディスカッションし、詳細な解説や規則修正を提案する。	(予習：2時間) 競技規則について事前にテキストを読み、グループディスカッションに必要な事例の情報を準備する(動画や静止画、イラスト等)。 (復習：2時間) 他グループの議論の記録を読み、他の事例の理解を深める。
4	武田	水の物理的特性と力学について学習する。	教室あるいはプールサイドにて、講義形式で実施する。講義の概要をまとめた短時間講義を学生自身がグループ内で3分で実施する。	(予習：2時間) 該当部分のテキストを事前に読んでくる。 (復習：2時間) 3分の短時間講義を動画で撮影し、受講生同士で相互に評価した上で、修正版を提出する。
5	武田	近代4泳法の推進メカニズムを力学(流体力学を含む)の観点から学習する。	教室あるいはプールサイドにて、講義形式で実施する。講義の概要をまとめた短時間講義を学生自身がグループ内で3分で実施する。	(予習：2時間) 該当部分のテキストを事前に読んでくる。 (復習：2時間) 3分の解説を動画で撮影し、受講生同士で相互に評価した上で、修正版を提出する。
6	武田	水の特性に応じた生理応答と水泳の生理学を学習する。	教室あるいはプールサイドにて、講義形式で実施する。講義の概要をまとめた短時間講義を学生自身がグループ内で3分で実施する。	(予習：2時間) 該当部分のテキストを事前に読んでくる。 (復習：2時間) 3分の短時間講義を動画で撮影し、受講生同士で相互に評価した上で、修正版を提出する。
7	武田	水泳の心理学とメンタルトレーニングを学習する。	教室あるいはプールサイドにて、講義形式で実施する。講義の概要をまとめた短時間講義を学生自身がグループ内で3分で実施する。	(予習：2時間) 該当部分のテキストを事前に読んでくる。 (復習：3時間) 3分の短時間講義を動画で撮影し、受講生同士で相互に評価した上で、修正版を提出する。
8	武田	水泳選手育成や生活習慣病予防のための栄養学を学習する。	教室あるいはプールサイドにて、講義形式で実施する。講義の概要をまとめた短時間講義を学生自身がグループ内で3分で実施する。	(予習：2時間) 該当部分のテキストを事前に読んでくる。 (復習：3時間) 3分の短時間講義を動画で撮影し、受講生同士で相互に評価した上で、修正版を提出する。

9	武田	水泳の医学について学習する。水泳によって引き起こされる障害や水泳実施にあたり注意が必要な疾病について理解する。	教室あるいはプールサイドにて、講義形式で実施する。講義の概要をまとめた短時間講義を学生自身がグループ内で3分で実施する。	(予習：2時間) 該当部分のテキストを事前に読んでくる。 (復習：3時間) 授業の内容を踏まえ、水泳レッスン開始前の既往歴の調査用紙を作成してみる。
10	武田	水泳実施によって頻発する障害予防の応急処置や予防法を学習する。	教室にて講義形式で実施する。その後プールサイドにて障害予防のためのエクササイズの実技(理論と実施方法)を実施する。	(予習：2時間) 該当部分のテキストを事前に読んでくる。 (復習：3時間) 3分のエクササイズ解説を動画で撮影し、受講生同士で相互に評価した上で、修正版を提出する。
11	武田	水泳技術の運動原理やストロークメカニクス、泳法特有の泳技術を学習をする。(クロールと背泳ぎ)	教室あるいはプールサイドにて、講義形式で実施する。講義の概要をまとめた短時間講義を学生自身がグループ内で3分で実施する。	(予習：2時間) 該当部分のテキストを事前に読んでくる。 (復習：3時間) 3分の短時間講義を動画で撮影し、受講生同士で相互に評価した上で、修正版を提出する。
12	武田	水泳技術の運動原理やストロークメカニクス、泳法特有の泳技術を学習をする。(平泳ぎとバタフライ)	教室あるいはプールサイドにて、講義形式で実施する。講義の概要をまとめた短時間講義を学生自身がグループ内で3分で実施する。	(予習：2時間) 該当部分のテキストを事前に読んでくる。 (復習：3時間) 3分の短時間講義を動画で撮影し、受講生同士で相互に評価した上で、修正版を提出する。
13	武田	水難救助法と水辺の一次救命措置について学習する。	教室あるいはプールサイドにて、講義形式で実施する。講義後にプールサイドにて救助法や一次救命処置の手順の練習を学生同士のグループで行う。	(予習：2時間) 該当部分のテキストを事前に読んでくる。 (復習：3時間) 心肺蘇生法を正しい手順で実施できるように実技試験に向けて練習を行う。
14	武田	口頭試問と実技試験を実施する。	教室とプールサイドで実施する。これまで実施した内容の中から1つのテーマを取り上げ、プールにおける水泳指導内で行う解説を想定した小講義を5分程度で実施し、評価する(口頭試験)。またトレーニング用人形を用いた心肺蘇生法の実技試験実施する。	(予習：1時間) 試験に向けたリハーサルを実施してくる。 (復習：1時間) テストのフィードバックを踏まえて、解説と心肺蘇生法について練習を実施する。
15	武田	選手育成を目的とした水泳のトレーニング計画の立案に必要な理論を学習する。	教室あるいはプールサイドにて、講義形式で実施する。講義の概要をまとめた短時間講義を学生自身がグループ内で3分で実施する。	(予習：2時間) 該当部分のテキストを事前に読んでくる。 (復習：3時間) 授業内容を踏まえた上で、1年間の選手育成トレーニング計画を立案してみる。

16	武田	選手育成を目的とした水泳のトレーニングメニューの立案に必要な理論を学習する。	教室あるいはプールサイドにて、講義形式で実施する。講義で学習した内容を踏まえた上で標準的な水中トレーニングメニューを考案し、これに関して修正案等を議論する。	(予習: 2時間) 該当部分のテキストを事前に読んでくる。 (復習: 3時間) 授業内容を踏まえた上で、1回の水中トレーニングメニューを立案してみる。
17	武田	水泳の個人指導法(少人数指導法)を学習する。補助方法やその理論背景を理解する。	プールで実施する。指導者役と学習者役に別れて、模擬指導形式で実技を実施する。	(予習: 2時間) 該当部分のテキストを事前に読んでくる。 (復習: 3時間) 個人指導法のマニュアルを作成することで授業内容を復習する。
18	武田	水泳の集団指導法(学校水泳指導法)を学習する。指導形態や安全管理法の理解を深める。	プールで実施する。指導者役と学習者役に別れて、模擬指導形式で実技を実施する。	(予習: 2時間) 該当部分のテキストを事前に読んでくる。 (復習: 3時間) 集団指導法の指導案を作成することで授業内容を復習する。
19	武田	各種泳法技術取得のためのドリルワークの理論と実施法①(クロール・背泳ぎ)について学習する。	プールで実施し、解説と実演、実技を組み合わせて実施する。	(予習: 2時間) 該当部分のテキストを事前に読んでくる。 (復習: 3時間) 紹介されたドリルワークのマニュアル(実施解説)を作成することで授業内容を復習する。
20	武田	各種泳法技術取得のためのドリルワークの理論と実施法②(バタフライ・平泳ぎ)について学習する。	プールで実施し、解説と実演、実技を組み合わせて実施する。	(予習: 2時間) 該当部分のテキストを事前に読んでくる。 (復習: 3時間) 紹介されたドリルワークのマニュアル(実施解説)を作成することで授業内容を復習する。
21	武田	個人メドレー・スタート・ターンの技術理論と練習方法を学習する。	プールで実施し、解説と実演、実技を組み合わせて実施する。	(予習: 2時間) 該当部分のテキストを事前に読んでくる。 (復習: 3時間) 水泳スタートの安全実施マニュアルを学生独自で作成し、理解を深める。
22	武田	水泳コーチングにおける実施手順と注意点を学習する。	教室にて講義形式で実施する。講義の概要をまとめたコーチング実施手順マニュアルを作成する。	(予習: 2時間) 該当部分のテキストを事前に読んでくる。 (復習: 2時間) 過去にコーチングを受けた経験を振り返り、評価と改善点の書き出すことで理解を深める。
23	武田	水泳コーチング実習①(模擬コーチングセッション)を行う。	プールにて実技形式で実施する。学生同士でペアを作り、互いの泳法動作の改善をコーチングによって実施する。	(予習: 2時間) 該当部分のテキストを事前に読んでくる。 (復習: 2時間) ペアによるコーチ行動の自己評価と相手からの評価を受けて、コーチング行動の修正点を整理する。
24	武田	水泳コーチング実習②(模擬コーチングセッション)を行う。	プールにて実技形式で実施する。学生同士でペアを作り、互いの泳法動作の改善をコーチングによって実施する。	(予習: 2時間) 該当部分のテキストを事前に読んでくる。 (復習: 2時間) ペアによるコーチ行動の自己評価と相手からの評価を受けて、コーチング行動の修正点を整理する。
25	武田	水球競技の基礎技術(パス、シュート、巻き足)を学習する。	プールにて実技形式で実施する。	(予習: 2時間) 該当部分のテキストを事前に読んでくる。 (復習: 2時間) アクアゲームについて調べ、普及のための改善策を検討する。
26	武田	水泳トレーニングとコーチング実習①	プールにて実施する。受講生でトレーニンググループを作成し、コーチ役と選手役を交互に分担することで個人メドレーの泳力向上とトレーニング処方やコーチング練習を行う。	(予習: 2時間) これまでに学習したトレーニング計画立案、メニュー処方、水泳コーチング法の振り返る。 (復習: 2時間) 授業内で実施したトレーニングに関する評価をグループ内で共有し、次回への反省事項をまとめる。

科目名	【新カリ】スポーツコーチング演習（ダンス）	授業形態	演習	
英語科目名	【新カリ】スポーツコーチング演習（ダンス）	対象学年	3年	
開講学期	2022年度前期、2022年度後期	単位数	4単位	
代表教員	中村 恭子	ナンバリング		
担当教員	中村 恭子、スポーツ健康科学部教員共通			
授業概要				
全体内容	<p>【授業全体の内容】 本科目は、演習の授業形態で行われる。「陸上競技のコーチング演習」、「体操競技のコーチング演習」、「水泳のコーチング演習」、「サッカーのコーチング演習」、「バレーボールのコーチング演習」、「バスケットボールのコーチング演習」、「卓球のコーチング演習」、「柔道のコーチング演習」、「剣道のコーチング演習」、「ダンスのコーチング演習」の中から1つを選択し、その種目のコーチングの理論を学習し、実践を通して指導方法を身につける。 「ダンスのコーチング演習」においては、ダンスの発生・発展の歴史、種類と特性、構成要素、美的表現原理について講義や映像資料を通して理解する。中学・高校のダンス領域各種目の学習内容と目標、指導の要点について学習指導要領解説やテキストの講読、授業映像鑑賞、グループ討議や演習等により理解を深め、教材研究および指導法研究をもとに指導案を作成し、模擬授業を通じて実践的な指導力を身に付ける。また、エアロビクスの理論と運動処方基礎、エアロビクダンスの特性、用語、指導技法について理解し、対象者に応じた運動プログラムの作成、模擬指導を通じて指導力を身に付ける。</p>			
到達目標	<p>【授業の到達目標】 ※上記「授業の位置づけ」に対応した到達目標を設定してください。 1. ダンスの発生・発展の歴史、種類と特性、構成要素、美的表現原理を理解できる。 2. 中学・高校のダンス領域各種目の学習内容と目標について理解し、活用できる。 3. 中学・高校のダンス領域各種目の教材研究や指導法研究を深め、指導案を作成し、模擬授業の指導ができる。 4. エアロビクスの理論とエアロビクダンスの特性、用語、運動処方、指導技法について理解できる。 5. エアロビクダンスの基本動作を習得し、対面指導の示範および言葉かけができる。 6. 対象者に応じた運動プログラムを作成し、段階的に展開する模擬指導ができる。</p>			
授業の位置づけ	この科目は、コース科目群・競技スポーツコース科目・スポーツコーチング科学コース科目の必修科目である。また、JSP/JAF（日本エアロビク連盟）公認エアロビクコーチ1養成講習会免除適応コースの必修科目である。			
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	<p>【授業の位置づけ（学位授与方針に定められている知識・能力等との関連）】 この科目はスポーツ種目の理論と実践の演習を通して、「スポーツ健康科学を中心とした幅広い知識と教養、及びそれらの活用能力」、「コミュニケーション力」および「倫理観」を身に付けるための科目の1つとして開講される。また、スポーツコーチングコースおよびスポーツ競技コースの必修授科目として、「スポーツ科学の知識に基づき、現場で指導できる能力ないしは研究できる能力」という学位授与方針の達成にも寄与する。</p>			
履修上の注意、履修要件	<p>【履修要件】 中高のダンス学習指導およびエアロビクダンス実技指導についての演習科目であるので、各資格取得と実践的な指導力を身に付けたい者の履修を薦める。ダンス経験は問わないが、1年次配当科目のダンスを履修していることが望ましい。毎時、講義内容について実技実習や討議を通して理解を深める演習形式の授業であるので、その心構えで参加すること。 【履修上の注意（科目独自のルール）】 実技に適した服装・体育館履きで受講すること。汗ふきタオルと水分補給用のペットボトルを持参すること。遅刻・早退は30分以内とし、3回で1回分の欠席としてカウントする。なお、怪我等で十分に実技ができない場合も指導実習は可能なので、できるだけ見学せずに参加すること。</p>			
成績評価の方法				
評価方法	<p>【成績評価の方法】 ダンスの基礎知識および中学・高校のダンス学習指導案レポート20%、ダンス模擬授業の実技指導力20%、エアロビクダンスの運動プログラム立案および振り返りレポート20%、エアロビクダンスの実技指導力20%、取り組む姿勢20%を総合して評価する。</p>			
評価基準	<p>【成績評価の基準】 1. ダンスの発生・発展の歴史、種類と特性、構成要素、美的表現原理について理解し、説明できる。 2. 中学・高校のダンス領域各種目の学習内容と目標について理解し、指導案に活用して記述できる。 3. 中学・高校のダンス領域各種目の教材研究や指導法研究を深め、指導案を作成、模擬授業の指導ができる。 4. エアロビクダンスの特性に応じた運動処方、用語、指導技法について理解し、記述できる。 5. エアロビクダンスの基本動作を習得し、対面指導の示範および言葉かけができる。 6. 対象者に応じた運動プログラムを作成し、段階的な模擬指導ができる。</p>			
試験・課題に対するフィードバック方法				
<p>【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】 指導案や運動プログラムのレポートについては、作成過程で問題点を指摘し、改善を求める。 模擬指導実技の評価については、その場でフィードバックし、改善を求める。</p>				
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
改訂版 明日からトライ！ダンスの授業	全国ダンス・表現運動授業研究会編	大修館書店	9784469269185	
参考文献				
<p>『中学校学習指導要領解説 保健体育編』文部科学省、東山書房、2018 『みんなでトライ！表現運動の授業』全国ダンス・表現運動授業研究会編、大修館書店、2015 『健康運動指導士養成講習会用テキスト（上・下）』財団法人健康・体力づくり事業財団。 『公認スポーツプログラマー専門科目テキスト』財団法人日本体育施設協会。 『エアロビク指導教本』日本エアロビク連盟。 その他、必要に応じて資料を配布するので、テキストと合わせて予習復習に役立ててほしい。</p>				
その他				

<p>【連絡先】 担当：中村 恭子 E-mail：k-nakamu [at] juntendo.ac.jp ※ [at] を@に変更してください。</p> <p>【オフィスアワー】 日時：前期：火曜日10:30-14:00、木曜日10:30-14:00、後期：月曜日10:30-15:00、金曜日15:00-17:00 場所：1号館5階 1501号室 ただし、上記の時間帯においても会議等で不在の場合もあるので、前日までにE-mail等で確認・予約すること。</p>				
<p>【学修時間】 この授業は、演習の授業形態による通年4単位の科目であり、授業時間60時間と準備学習120時間の計180時間の学修を必要とする内容をもって構成する。</p> <p>【その他】 日本スポーツ協会「公認エアロビックコーチ1」の専門科目講習免除のための必須科目である。また、(公財)健康・体力づくり事業財団「健康運動指導士」のエアロビックダンス講習免除科目として、1年次のダンスまたは本科目のいずれかの履修が必要である。</p>				
<p>授業計画</p>				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	中村 恭子	<p>【授業内容】 ダンスの発展の歴史、種類と特性 ダンスとは何か</p>	<p>【授業方法】 ダンスの発展の歴史、ダンスの種類と特性について調べたことを発表しあい意見交換する。講義および映像資料をもとに理解を深める。「ダンスとは何か(スポーツとの相違点)」についてグループ討議を行い、理解を深める。</p>	<p>(予習：2時間) 世界のダンスの発展の歴史、ダンスの種類と特性について調べる。</p> <p>(復習：2時間) 「ダンスの発展の歴史」「ダンスの種類と特性」「ダンスとは何か(スポーツとの相違点)」について講義および仲間の発表内容、討議の結果から自分の考えをまとめる。</p>
2	中村 恭子	<p>【授業内容】 ダンスの構成要素と美的表現原理</p>	<p>【授業方法】 表現系スポーツや他の芸術領域の表現技法について調べてきたことを発表しあい意見交換する。ダンスの構成要素と美的表現原理について講義および映像資料から学習する。題材例を用いて「ひと流れの動き」の長さや表現性の具体について実技を交えながらグループ討議を行い、理解を深める。</p>	<p>(予習：2時間) 表現系スポーツや他の芸術領域から1種目を選び、その特徴的な表現技法と表現効果について調べる。</p> <p>(復習：2時間) ダンスの構成要素と美的表現原理について、講義および仲間の発表内容、討議の結果から自分の考えをまとめる。</p>
3	中村 恭子	<p>【授業内容】 学校体育におけるダンスの歴史 中学高校のダンス学習内容</p>	<p>【授業方法】 講義および映像資料から学校体育におけるダンスの取り扱いの歴史を理解する。ダンスが男女必修となった経緯についてグループ討議を行い、理解を深める。中学校学習指導要領解説に示されているダンス各種目の学習内容と目標について確認し、各種目の特性と指導の要点について討議する。</p>	<p>(予習：2時間) 明治以降の学校体育におけるダンス領域の取扱の歴史を調べる。中学校の学習指導要領解説ダンスを熟読する。</p> <p>(復習：2時間) 戦後の学校体育におけるダンス領域の取り扱いについて、学習指導要領上の記述を整理する。中学校学習指導要領解説に示されているダンス各種目の学習内容について整理する。</p>

4	中村 恭子	<p>〔授業内容〕 ダンスの学習指導、評価の観点</p>	<p>〔授業方法〕 ダンス各種目の学習内容・指導と評価の関係について講義内容から理解する。技能の評価の観点と評価基準、生徒の主体的な学習を支援する指導の問いかげやフィードバックの種類と声かけについて実技を交えながらグループ討議し、理解を深める。</p>	<p>(予習：2時間) ダンスの学習評価の観点についてテキストを読み理解する。</p> <p>(復習：2時間) ダンスの学習評価と評価基準、問いかげやフィードバックの種類と声かけについて整理する。</p>
5	中村 恭子	<p>〔授業内容〕 体育授業の導入に有効なスリーアップ（準備運動・技能向上・仲間との交流と意欲向上）の理論 ダンス・ウォームアップの特徴と意義 ダンス・ウォームアップの指導実習①</p>	<p>〔授業方法〕 ダンス・ウォームアップについて指導例を分析し、その目的や構成要素、指導の要点について討議する。各自が作成したダンス・ウォームアップの指導実習（模擬授業）を実施し、内容や指導方法について討議する。</p>	<p>(予習：3時間) 体育・スポーツにおける準備運動の目的と意義について調べる。ダンス・ウォームアップ指導実習の使用曲を選び、指導案を作成して指導実習の準備をする。</p> <p>(復習：1時間) 体育授業の導入に有効なスリーアップ（準備運動・技能向上・仲間との交流と意欲向上）の理論について整理する。ダンス・ウォームアップの目的と意義、効果について整理する。ダンス・ウォームアップ指導実習について指摘された改善点等をまとめ、修正案を作成する。</p>
6	中村 恭子	<p>〔授業内容〕 ダンス・ウォームアップの指導実習②</p>	<p>〔授業方法〕 ダンス・ウォームアップの指導実習（模擬授業）を実施し、内容や指導方法について討議する。</p>	<p>(予習：3時間) ダンス・ウォームアップ指導実習の使用曲を選び、指導案を作成して指導実習の準備をする。</p> <p>(復習：1時間) ダンス・ウォームアップの指導実習について、指摘された改善点等をまとめ、修正案を作成する。</p>
7	中村 恭子	<p>〔授業内容〕 創作ダンスの学習内容と学習指導 動きの変化の軸 創作ダンスの指導実習①「対極の動きの連続」</p>	<p>〔授業方法〕 講義および映像資料から創作ダンスの学習内容と指導方法について理解する。太鼓を用いた指導方法について実技を交えながらグループ討議を行い、理解を深める。創作ダンスの学習テーマ「対極の動きの連続」の題材について指導実習を実施し、内容や指導方法について討議する。</p>	<p>(予習：3時間) 創作ダンスの学習内容について、学習指導要領解説を精読し理解する。創作ダンスの学習指導についてテキストを読み理解する。創作ダンスの学習テーマ「対極の動きの連続」から各自で題材を選び、指導案を作成して指導実習の準備をする。</p> <p>(復習：1時間) 創作ダンスの特性と学習内容についてまとめる。テキストを参照して、「対極の動きの連続」の題材例と学習のねらい、具体的なイメージや動きの例を整理して理解を深める。</p>
8	中村 恭子	<p>〔授業内容〕 イメージを動きに変換する方法 創作ダンスの指導実習②「身近な生活と日常動作」</p>	<p>〔授業方法〕 講義および資料映像から創作ダンスの学習内容と指導方法について理解する。イメージを引き出し広げる言葉かけや示範について実技を交えながらグループ討議を行い、理解を深める。創作ダンスの学習テーマ「身近な生活と日常動作」の題材について指導実習を実施し、内容や指導方法について討議する。</p>	<p>(予習：3時間) 創作ダンスの学習テーマ「身近な生活と日常動作」から各自で題材を選び、指導案を作成して指導実習の準備をする。</p> <p>(復習：1時間) 創作ダンスの指導の要点についてまとめる。テキストを参照して、「身近な生活と日常動作」の題材例と学習のねらい、具体的なイメージや動きの例を整理して理解を深める。</p>

9	中村 恭子	<p>[授業内容] 動きの質と感情価の関係 創作ダンスの指導実習③「多様な感じ」</p>	<p>[授業方法] 講義および資料映像からダンスの動きの質と感情価の関係について理解する。動きの質と感情価の関係について実技を交えながらグループ討議を行い、理解を深める。創作ダンスの学習テーマ「多様な感じ」の題材について指導実習を実施し、内容や指導方法について討議する。</p>	<p>(予習:3時間) 創作ダンスの学習テーマ「多様な感じ」から各自で題材を選び、指導案を作成して指導実習の準備をする。</p> <p>(復習:1時間) 感情表現や多様な感じを表す動きの要素についてまとめる。テキストを参照して、「多様な感じ」の題材例と学習のねらい、具体的なイメージや動きの例を整理して理解を深める。</p>
10	中村 恭子	<p>[授業内容] 現代的なリズムのダンスの学習内容と指導方法 音楽のリズムの特徴と捉え方、動きの多様化 現代的なリズムのダンスの指導実習①</p>	<p>[授業方法] 講義および映像資料から現代的なリズムのダンスの学習内容について理解する。学習課題となる各種音楽リズムの特徴と運動学習への活用、リズムや動きの変化のさせ方について、実技を交えながらグループ討議を行い、理解を深める。</p>	<p>(予習:3時間) 現代的なリズムのダンスの学習内容について学習指導要領解説を精読し、理解する。</p> <p>(復習:1時間) 現代的なリズムのダンスの特性と学習内容についてまとめる。テキストを参照して、題材例と学習のねらい、具体的な動きの例を整理して理解を深める。</p>
11	中村 恭子	<p>[授業内容] リズムの変化、動き・群の構成 現代的なリズムのダンスの指導実習②</p>	<p>[授業方法] 講義と資料映像から現代的なリズムのダンスの学習の進め方について理解する。教育現場の指導映像を観察分析し、指導の要点についてグループ討議を行い、理解を深める。</p>	<p>(予習:3時間) 現代的なリズムのダンスの学習指導法についてテキストを読み、指導のイメージをもつ。</p> <p>(復習:1時間) 現代的なリズムのダンスの学習内容と指導の進め方を整理する。学習に適する音楽を探し、その教材を用いて何を学習させるか、どのように指導を展開するのが効果的か検討し、指導案を作成する。</p>
12	中村 恭子	<p>[授業内容] フォークダンスの基礎知識 フォークダンスの指導実習①外国の踊り</p>	<p>[授業方法] 外国のフォークダンスの歴史や特徴について講義や映像資料から基礎知識を得る。基本的なフォーメーションや組み方、ステップについて実技を交えながらグループ討議を行い、理解を深める。外国の踊りの曲目例から指導実習を実施し、内容や指導方法について討議する。</p>	<p>(予習:3時間) フォークダンスの学習内容について学習指導要領解説を精読し、理解する。外国のフォークダンスの曲目例の動画を調べ、知識を得る。</p> <p>(復習:1時間) 外国のフォークダンスの特性、基礎用語を整理してまとめる。曲目例のフォーメーション、組み方、主なステップ、指導のポイントを整理する。テキストを参照して曲目例と指導の進め方について理解を深める。外国の踊りの指導実習について、指摘された改善点等をまとめ、修正案を作成する。</p>

13	中村恭子	<p>〔授業内容〕 フォークダンスの指導実習②日本の民謡</p>	<p>〔授業方法〕 日本の民謡の曲目例の由来と特徴について講義と映像資料から基礎知識を得る。日本の民謡の特徴的な踊り方について実技を交えながらグループ討議を行い、理解を深める。日本の民謡の曲目例から指導実習を実施し、内容や指導方法について討議する。</p>	<p>(予習: 3時間) 日本の民謡・民俗芸能の歴史と種類を整理する。地元民謡もしくは日本の代表的な民謡の曲目例について調べ、指導案を作成して指導実習の準備をする。</p> <p>(復習: 1時間) 日本各地の民謡について由来と特徴を整理する。テキストを参照して、曲目例と学習の進め方について理解を深める。日本の民謡の指導実習について、指摘された改善点等をまとめ、修正案を作成する。</p>
14	中村恭子	<p>〔授業内容〕 学習指導計画および指導時案の立案</p>	<p>〔授業方法〕 中学校3年間の学習指導計画について発表しあい、それぞれの利点について討議する。各種目の学習指導単元計画および指導時案の作成方法について解説する。 中学1年生8時間の単元計画の概要を立案し、教員の助言を受けて修正する。指導時案の該当時を選び、教員の助言を受けて修正する。</p>	<p>(予習: 3時間) 創作ダンス、フォークダンス、現代的なリズムのダンスの学習内容と目標、学習指導法について復習し、中学校3年間の学習指導計画を立てる。</p> <p>(復習: 5時間) 中学1年生の単元計画を立て、各種目の指導時案を作成する。</p>
		定期試験は実施しない。		
15	中村恭子	<p>〔授業内容〕 エアロビクスの理論、エアロビックダンスの特性、運動処方、安全管理</p>	<p>〔授業方法〕 講義と資料映像からエアロビクスの理論とエアロビックダンスの特性について理解する。安静時心拍数の測り方と目標心拍数の算出方法の演習を行う。運動強度設定などの運動処方と安全管理についてグループ討議し、理解を深める。</p>	<p>(予習: 1時間) エアロビックダンスについてテキストを読む。</p> <p>(復習: 3時間) エアロビックダンスの特性と運動処方の基本理論、安全管理についてまとめる。正しい安静状態を保つうえで安静時心拍数測定し、50%、60%、70%、80%運動強度時の予測心拍数を算出する。運動強度設定と目標心拍数の算出方法についてまとめる。</p>
16	中村恭子	<p>〔授業内容〕 ウォーキングレベルの基本プログラムの理解 ウォーキングレベルのステップの理解と動きの習得 実技実習①ウォーキングレベルのエクササイズ</p>	<p>〔授業方法〕 指導者の動きを模倣して基本プログラムの動きを理解する。数名のグループで教えあい、基本プログラムの動きを習得する。</p>	<p>(予習: 1時間) エアロビックダンスの基本ステップについてテキストを読み理解する。</p> <p>(復習: 3時間) ウォーキングレベルの基本プログラムを練習してスムーズに実演できるようにする。ステップ名称を覚える。</p>
17	中村恭子	<p>〔授業内容〕 ジョギングレベルの基本プログラムの理解 ジョギングレベルのステップの理解と動きの習得 実技実習②ジョギングレベルのエクササイズ</p>	<p>〔授業方法〕 指導者の動きを模倣して、ウォーキングレベルからジョギングレベルに動きを発展させる経緯を理解し、曲のテンポと動き方、運動強度の変化の関係について理解する。数名のグループで教えあい、ジョギングレベルのプログラムを習得する。</p>	<p>(予習: 1時間) 曲速度に適合するステップ動作について、テキストを読み理解する。</p> <p>(復習: 3時間) ジョギングレベルのプログラムを練習してスムーズに実演できるようにする。ステップ名称を覚える。</p>

18	中村 恭子	<p>〔授業内容〕 基本プログラムの実技指導技術① 正確で明確な動作の習得、対面指導の理解と練習、 簡潔な指導言語と発声練習</p>	<p>〔授業方法〕 対面指導と背面指導の適合場面について討議し、指導技法について理解を深める。2人組で対面し、1人が指導者役、1人が参加者役で対面指導の練習をして指導技術を高め、評価しあう。</p>	<p>(予習：1時間) 指導者の役割についてテキストを読み理解する。ウォーキングレベルの基本プログラムの内容を思い出し、練習する。</p> <p>(復習：3時間) 基本プログラムの実技指導技術（正確で明確な動作・対面指導）がスムーズに実演できるように練習する。動きながら大きな声で発声する練習をする。</p>
19	中村 恭子	<p>〔授業内容〕 基本プログラムの実技指導技術② 適切な指示のタイミング（キューイング）、指示動作の工夫</p>	<p>〔授業方法〕 指導言語と指示動作の適切なタイミングについて討議し、効果的な指導技法について理解を深める。 2人組で対面し、1人が指導者役、1人が参加者役で対面指導およびキューイングの練習をして指導技術を高め、評価しあう。</p>	<p>(予習：1時間) 指導者の役割についてテキストを読み理解する。キューイングのタイミングについて資料映像を見て予習する。</p> <p>(復習：3時間) 基本プログラムの実技指導技術（キューイング・指示動作）がスムーズに実演できるように練習する。基本プログラムの内容を覚え、スムーズに指導を展開できるように練習する。</p>
20	中村 恭子	<p>〔授業内容〕 基本プログラムの実技指導技術③ 実技指導テスト①</p>	<p>〔授業方法〕 5人組で1人が指導者、4人が参加者となり、基本プログラムのルーティンによる実技指導を行い、教員が可否を判定、評価する。</p>	<p>(予習：3時間) 基本プログラムの内容と実技指導技術について確認し、練習して実技指導テストに備える。</p> <p>(復習：1時間) 実技指導技法、技術について要点をまとめる。</p>
21	中村 恭子	<p>〔授業内容〕 応用プログラムの実技実習① ステップ台を用いたエクササイズ</p>	<p>〔授業方法〕 教師の動きを模倣して基本的な動きを習得する。2人組でステップ台を用いた動きを工夫して短いフレーズを作り、他チームと教えあう。</p>	<p>(予習：1時間) エアロビックダンスの応用プログラムについて調べる。</p> <p>(復習：3時間) ステップ台を用いたエクササイズにおけるステップ名称と踏みかえ動作の要点をまとめる。ステップ台や椅子などの器具を用いたエクササイズを考案する。</p>
22	中村 恭子	<p>〔授業内容〕 応用プログラムの実技実習② ボールや縄跳び等の手具を用いたエクササイズ</p>	<p>〔授業方法〕 教師の動きを模倣して基本的な手具の使い方やエクササイズへの応用の仕方を理解する。2人組でその他の手具を用いた動きを考案し、他チームと教えあう。</p>	<p>(予習：1時間) 手具を用いた体操や中高年層向けの健康体操について調べる。</p> <p>(復習：3時間) ボールや縄跳びを用いたエクササイズの動作の要点をまとめる。その他の手具を用いたエクササイズを考案する。</p>
23	中村 恭子	<p>〔授業内容〕 応用プログラムの実技実習③ キック・ボクシングの動作を用いたエクササイズ</p>	<p>〔授業方法〕 教師の動きを模倣して、スポーツの動きをリズムに乗せてエクササイズに活用する方法を理解する。2人組でその他のスポーツを応用した動きを考案し、他のチームと教えあう。</p>	<p>(予習：1時間) スポーツジム等のスタジオレッスンにおける運動プログラムの多様性について調べる。</p> <p>(復習：3時間) キック・ボクシングの動きを用いたエクササイズの要点をまとめる。その他のスポーツ動作を用いたエクササイズを考案する。</p>

--	--	--	--	--

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	【新カリ】スポーツリーダーシップ論	授業形態	講義	
英語科目名	【新カリ】スポーツリーダーシップ論	対象学年	3年	
開講学期	2022年度前期	単位数	2単位	
代表教員	山崎 一彦	ナンバリング	COA2307	
担当教員	山崎 一彦、吉村 雅文、水野 基樹、武田 剛、スポーツ健康科学部教員共通			
授業概要				
全体内容	<p>【授業全体の内容】 本科目は、講義の授業形態で行われる。トップアスリートが成功するためには、競技力及び成績向上を求められるのと同時に、そのスポーツ競技における発信力やリーダーシップ能力が強く求められる。近年は、よりよいスポーツ競技の発展のために、その期待や役割について社会的な影響があるほど大きくなっている。スポーツにおけるリーダーシップについてトップアスリートとしての人間形成に必要な知識と方法について理解を深める。また、競技者・チーム組織に関する理念・戦略・方針などの競技者、コーチ、組織間におけるリーダーには何が必要なのか、真のリーダーに求められるものは何かを学ぶ。同時に、組織におけるリーダーシップとフォロワーシップの関係性を理解し、最新のリーダーシップ理論の基本的な考え方を学ぶ。 (オムニバス方式/全14回)</p> <p>(15 山崎一彦/6回) なぜアスリートがリーダーシップを取っていく必要があるのか理解するとともに、リーダーとしての発信力、発信方法、表現方法及び危機管理について理解を深める。また、スポーツ活動を通じたリーダーシップをとることによって得られるデュアルキャリアを考える。自らがスポーツリーダーとして活躍するために、望まれるリーダーシップと自身が実施できる事項について考える。</p> <p>(1 吉村雅文/3回) リーダーの本質を深く理解するとともに、競争を勝ち抜くために必要なリーダーシップとはどのようなものかを理解する。球技系コーチング学の観点からみたリーダーシップを理解し、理想のキャプテン像について理解を深める。リーダーに求められる改革とイノベーションについて理解を深める。</p> <p>(20 水野基樹/3回) リーダーシップとフォロワーシップの関係性についての考え方を概観した上で、最新のリーダーシップ理論（サーバント・リーダーシップ理論、シェアド・リーダーシップ理論、LMX理論など）を理解する。コッターの組織変革プロセスモデルを用いて組織変革を進めるステップを理解する。組織変革に成功したスポーツチームの事例について議論する。</p> <p>(42 武田剛/2回) リーダーとしての倫理観及び規範意識について理解を深める。リーダーとしてのインテリジェンスの必要性を理解し、その活用方法について考える。</p>			
到達目標	1. スポーツリーダーの育成、リーダーシップ発揮について理解を深め説明することができる。 2. スポーツリーダーとして求められる改革とイノベーション等々について理解し説明することができる。			
授業の位置づけ	この科目は、コース科目群・競技スポーツコース科目の必修科目である。			
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「コミュニケーション力」、「倫理観」及び「スポーツ科学分野の専門的な知識と技能」という学位授与方針の達成に寄与する。			
履修上の注意、履修要件	スポーツコーチング論Ⅰ、体カトレーニング論を受講していることが好ましい。授業内はグループディスカッションが頻繁に実施するため、授業前の予習でその材料となる情報収集や資料作成を十分に行うこと。			
成績評価の方法				
評価方法	【成績評価の方法】 平常点（20%）課題レポート（40%）ならびにプレゼンテーション試験（40%）を総合して評価する。			
評価基準	【成績評価の基準】 1. スポーツリーダーシップの社会的役割と重要性を具体的に述べるができる（レポート） 2. トップアスリートに求められるリーダーシップ発揮能力をイノベーションすることができる（プレゼンテーション） 3. 授業中の発言やグループワークの取り組み状況によって受講態度を評価する（平常点）			
試験・課題に対するフィードバック方法				
【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】 課題レポートは翌週の授業で返却し、解説を行う。課題プレゼンテーションは、授業内で講評をする。				
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考文献				
【テキスト・参考書等】 授業前までに、各担当教員が連絡します。				
その他				
連絡先・オフィスアワー	<p>【連絡先】 担当：山崎一彦 E-mail：kayamaza@juntendo.ac.jp 陸上競技研究室：1号館1522号室</p> <p>【オフィスアワー】 火曜日 13時～15時 上記時間帯は予約がなくても対応しますが、予約のあった学生を優先します。できる限り、前日までにE-mailで予約するように心がけてください。</p>			

担当教員の実務経験	陸上競技においてオリンピック出場経験、実業団活動経験のある教員、日本スポーツ協会公認コーチ資格、JOCナショナルコーチアカデミー修了を持つ教員、日本代表監督、ユニバーシアード日本代表監督および日本代表コーチ経験のある教員が、現場において求められる知識や実践的なリーダーシップ論をわかりやすく解説します。			
備考	【学修時間】 この授業は、講義の授業形態による2単位の科目であり、授業30時間と準備学習60時間の計90時間の学修を必要とする内容をもって構成する。 【その他】 特になし			
授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	山崎	よりよいスポーツ競技の発展のために、なぜアスリートがリーダーシップを取っていく必要があるのか理解し、興味を深める。	グループディスカッションでリーダーシップの必要性を自ら考え、新しい時代にマッチしたリーダーについて解説する。	(予習: 2.5時間) 円滑なディスカッションを可能にするため、スポーツにおける現在のリーダーを数名調べ、現時点における自身の理想とするリーダー像を明確にしておく。 (復習: 1.5時間) ディスカッションで挙げた新しい時代にマッチしたリーダーについて整理する。
2	吉村雅文	【授業内容】 リーダーの本質を深く理解するとともに、競争を勝ち抜くために必要なリーダーシップとはどのようなものかを理解する。	【授業方法】 座学とワークを組み合わせながら授業を展開しリーダーシップとはどのようなものかを体感しながら理解を深める。	(予習: 2.5時間) リーダーとは?リーダーシップとは?文献等を利用して事前に調べるとともに、自分なりに整理をする。 (復習: 1.5時間) 座学とワークから得ることのできたことを含めて、リーダーとは何か、リーダーシップとは何かを整理する。
3	吉村雅文	【授業内容】 球技系コーチング学の観点からみたリーダーシップを理解し、理想のキャプテン像について理解を深める。	【授業方法】 サム・ウォーカーの「キャプテンたちの7つのスキル」についてディスカッションを含めて検討する。	(予習: 2.5時間) 理想のキャプテンとはどんな人材か、文献等を利用して事前に調べるとともに、自分なりに整理をする。 (復習: 1.5時間) 「キャプテンたちの7つのスキル」についてのディスカッションを整理する。
4	吉村雅文	【授業内容】 リーダーに求められる改革とイノベーションについて理解を深める。	【授業方法】 優れたリーダーの改革に対する行動やマネジメントの実例から、自分自身のリーダーシップの未来について議論する。	(予習: 2.5時間) スポーツ強化のために必要なリーダーと企業に必要なリーダーとの違いについて、文献等を利用して事前に調べるとともに、自分なりに整理をする。 (復習: 1.5時間) 自分自身のリーダーシップの未来について整理する。
5	水野	リーダーシップについての神話と真実について、カリスマ論やリーダーシップ開発論などの理論的視座に立脚して解説する。	座学による講義を主体としながらも、組織開発のツールを用いてのワークも実施することにより、リーダーシップという影響力を理解する。	(予習: 2.5時間) リーダーシップとマネジメントの概念的相違点に関して文献等で事前に調べる。 (復習: 1.5時間) リーダーシップという影響力は、いつ誰が発揮すべきかについて講義内容を踏まえて整理する。
6	水野	リーダーシップとフォロワーシップの関係性についての考え方を概観したうえで、最新のリーダーシップ理論(サーバント・リーダーシップ理論、シェアード・リーダーシップ理論、LMX理論など)を理解する。	座学による知識の習得のみならず、VTR視聴によってリーダーシップを発揮する現場(スポーツ、ビジネス、政治など)の臨場感を創出する。	(予習: 2.5時間) リーダーシップ論におけるフォロワーシップ概念とは何かについて事前に調べる。また、唯一最善のリーダーシップ・スタイルが存在するか検討する。 (復習: 1.5時間) 組織における影響力発揮の方向性の種類について整理する。そして、どのようにしてリーダーシップ理論が現場で実践に活かされているのか検討する。
7	水野	組織変革を進めるステップをコッターの組織変革プロセスモデルを用いて解説する。そして、組織変革に成功したスポーツチームの事例について議論する。	基本的な理論的フレームワークを説明した後、ケーススタディ教材を用いてグループディスカッションを実施する。そして、TKJ法によるアイデアの収集および体系化を試みる。	(予習: 2.5時間) 基本的なTKJ法の手続きやプロセスについて調べることで、グループワークが円滑に展開できるように準備する。 (復習: 1.5時間) TKJ法によって収斂されたケーススタディ教材の内容を振り返り(内省して)、ほかの組織やチームへの援用可能性やフィージビリティを検討する。

科目名	【新カリ】セルフコーチング演習			授業形態	演習
英語科目名	【新カリ】セルフコーチング演習			対象学年	3年
開講学期	2022年度前期			単位数	2単位
代表教員	中嶽 誠			ナンバリング	COA2308
担当教員	中嶽 誠、堀池 巧、スポーツ健康科学部教員共通				
授業概要					
全体内容	<p>本科目は、演習の授業形態で行われる。競技実践活動を通じて、自身の能力を向上させるためには、コーチや指導者の指示のみではなく「セルフコーチング」が必要である。自分自身でコーチングを行い、主に自問自答形式で行われる。そして、何げなく取り組んでいる行動に質問を繰り返し、深掘りしていくことで自分の思考パターンを理解する。また、小さな成功体験を意識することで、成功の原因と自分の強みを確認することができる。具体的には、特別講義聴講や競技別担当教員とのテーマ別実践演習・ディスカッションを実際に自分自身が行っている競技活動の中で「セルフコーチング」を実践する。成果を客観的な競技結果や科学的根拠から評価指標を求めることは重要であるが、競技者自身が行動や思考の履歴を蓄積し、その成果や新しい知見を認識できるようになることを目標とする。</p>				
到達目標	<p>①実際に自分自身が行っている競技活動を利用して、「セルフコーチング」を実践できる。 ②競技者自身が行動や思考の履歴を蓄積しその成果や新しい知見を認識できる。</p>				
授業の位置づけ	この科目は、コース科目群・競技スポーツコース科目の選択必修科目である。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学を中心とした幅広い知識と教養、およびそれらの活用能力」という学位授与方針の達成に寄与する。				
履修上の注意、履修要件	<p>【履修要件】 演習をサポートする担当教員と面談をして、履修の確認が事前に取れていること。 競技スポーツを現在も実践していることが望ましい。</p>				
成績評価の方法					
評価方法	演習記録（50%）とレポート（50%）を総合して評価する。				
評価基準	<p>①自問自答形式で行っている行動に質問を繰り返し思考パターンが理解できる（演習記録）。 ②特別講義や担当教員とのディスカッションを通して、セルフコーチングの成果を認識できる（レポート）。</p>				
試験・課題に対するフィードバック方法					
授業中にポイントを解説します。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考文献					
授業中に演習ノートや資料を配布します。					
その他					
連絡先・オフィスアワー	<p>担当：堀池巧 E-mail：t-horiike [at] juntendo.ac.jp ※ [at] を@に変更してください。 【オフィスアワー】 日時：水曜日12時00分～12時40分 場所：1号館5階1529室 サッカー研究室</p>				
担当教員の実務経験	サッカー日本代表及びJリーグでの競技経験があり、S級コーチライセンスの指導資格を保有する教員を中心に指導する。				
備考	<p>【学修時間】 この授業は、演習の授業形態による2単位の科目であり、90時間（授業時間30時間以上を含む）の学修を必要とする内容を持って構成する。 【その他】 新型コロナウイルス感染症の発生状況により、授業計画等の変更をお願いする可能性があります。</p>				
授業計画					
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間	
1	堀池 中嶽	ガイダンス	授業目的及び概要、シラバス、評価方法等について説明する。	（予習：2時間） セルフコーチングについて調べる。 （復習：2時間） 授業の概要等を確認する。	
2	個別担当教員	自分自身の競技への取り組み	自分自身が行っている競技について、体調・身体組成・運動量・パフォーマンスなどの記録のために独自の記録ノートを作成する。	（予習：2時間） 自分自身の競技スポーツの計画や実践内容を確認する。 （復習：2時間） 記録ノートを各自で作成し、項目内容の履歴を蓄積できるようにする。	

3	堀池 中嶽	元アスリートの特別講義 I	特別講義を聴講し、レポートを作成する。	(予習: 2時間) 指定されたテーマについて調べておく。 (復習: 3時間) 講演内容と自分の考えをレポートにまとめる。
4	個別担当教員	横断的な競技への取り組み①	自分自身の競技パフォーマンスを高めるために、他競技の取り組み方をメールや研究室訪問にて事前学習してから実践する。 例: 体操競技→水泳飛び込みでの空中感覚などを学習する。	(予習: 2時間) 横断的な競技について事前に調べておく。 (復習: 2時間) 他競技の取り組みを実践し、振り返る。
5	個別担当教員	横断的な競技への取り組み②	自分自身の競技パフォーマンスを高めるために、他競技の取り組み方をメールや研究室訪問にて事前学習してから実践する。 例: サッカーでのスプリント能力向上→陸上競技の練習方法を学習する。	(予習: 2時間) 横断的な競技について事前に調べておく。 (復習: 2時間) 他競技の取り組みを実践し、振り返る。
6	堀池 中嶽	元アスリートの特別講義 II	特別講義を聴講し、レポートを作成する。	(予習: 2時間) 指定されたテーマについて調べておく。 (復習: 3時間) 講演内容と自分の考えをレポートにまとめる。
7	個別担当教員	テーマ別による演習の実践①	下記のテーマから1つ選んで、実践する。 <個人競技> 競技力向上に関する技術・技の習熟度と他者観察・運動強度のモニタリング方法 <集団競技> 基礎的応用的スキル・切り替えスピード・オープンスキルとクローズドスキル <武道> 技の習得度と競技力向上・基本動作と自己評価観点の構築	(予習: 2時間) テーマについて調べておく。 (復習: 2時間) テーマについて実践したことを振り返る。
8	個別担当教員	テーマ別による演習の実践②	下記のテーマから1つ選んで、実践する。 <個人競技> コンディショニング・主観的疲労度と練習内容・個人特性を利用した練習と競技会の評価 <集団競技> トレーニング・ピリオダイゼーション・フィジカルフィットネス <武道> 身体組成の変容と競技力向上・応用動作の効果的な練習内容	(予習: 2時間) テーマについて調べておく。 (復習: 2時間) テーマについて実践したことを振り返る。

科目名	【新カリ】スポーツコーチング論Ⅱ	授業形態	講義	
英語科目名	【新カリ】スポーツコーチング論Ⅱ	対象学年	3年	
開講学期	2022年度前期	単位数	2単位	
代表教員	吉村 雅文	ナンバリング	COA3309	
担当教員	吉村 雅文、中村 充、島崎 佑、川田 裕次郎、武田 剛、スポーツ健康科学部教員共通			
授業概要				
全体内容	<p>本科目は、講義の授業形態で行われる。医・科学的（自然科学的）コーチング・トレーニング理論を学修し、コーチング実践に必要な応用的な知識の理解を深める。コミュニケーションスキルや、個人特性に関する知識（発育発達、老化、性別や心理的特徴）を学修し、多様な対象に対して適切なコーチングを実践でできるようになることを目指す。</p> <p>（オムニバス方式／全14回） （1 吉村雅文／2回） グットコーチに求められる人間像、プレイヤーセンタードなコーチングの目的について理解する。日本スポーツ協会の指導者制度を初めてとして社会からコーチが求められる役割や、これを果たすために必要とするスキルの知識やスキルの全体像を概論として学修する。</p> <p>（8 中村充／3回） 様々なスポーツ種目を分類した上でのスポーツ トレーニングサイクルの構造（パフォーマンス構造論、トレーニングアセスメント論、トレーニング目標論、トレーニング手段・方法論、トレーニング計画論、試合行動論）についての理解を深める。</p> <p>（42 武田剛／3回） 対他者の知識（コミュニケーション、リーダーシップ、プレゼンテーション、ファシリテーション等のスキル）、対自己力の知識（コーチの学びやコーチのセルフマネジメント）について学修する。</p> <p>（58 島崎佑／3回） スキルの獲得とその過程について理解を深める。スポーツパフォーマンスに関わるスキルを、技術及び体力の要素から捉え、スキルのトレーニングについて理解を深める。また、スキルを向上させる効果的なトレーニング方法について学修する。</p> <p>（57 川田裕次郎／3回） 心のトレーニングに必要となるスポーツにおける動機づけ、メンタルマネジメント、イメージトレーニング、心理的コンディショニングについて理解を深める。さらにコーチが持つべき指導スキル（他者観察、心理的サポート、カウセリング、フィードバック）について理解を深め、スポーツ心理学を応用したコーチング 実践に必要な知識を学修する。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会から求められるコーチの人間像と、対象となるスポーツのパフォーマンスとそのトレーニング構造を理解できる。 2. 選手とのコミュニケーション方法（対他者）やコーチとしての自己研鑽方法（対自己）を含む、コーチングを行う上で必要となる知識やスキルの全体像を理解できる。 3. スキルや心のトレーニングの一般論を理解し、多様な指導現場や研究での実践理論を理解できる。 			
授業の位置づけ	この科目は、コース科目群・スポーツコーチング科学コース科目の必修科目である。また、JSP0公認スポーツ指導者養成講習会免除適応コース（ジュニアスポーツ指導員）の必修科目である。			
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は「社会や環境の変化に対応し、自ら課題を見つけ、スポーツ健康科学分野における専門的な知識又は技能をもとに課題を解決できる能力」を身に付けるための科目の1つとして開講される。			
履修上の注意、履修要件	【履修要件】 とくになし。			
成績評価の方法				
評価方法	平常点（30%）、定期試験（70%）を総合的に評価する。			
評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会から求められるコーチの人間像と、パフォーマンスやトレーニングの構造について説明できる。（定期試験）。 2. 対他者・対自己に関する知識を含む、コーチングの知識やスキルの全体像を説明できる（定期試験）。 3. スキルや心のトレーニングについての理論や基本的な方法論について理解できる（定期試験）。 4. 授業中の発言や予習・復習の取り組み状況によって受講態度を評価する（平常点）。 			
試験・課題に対するフィードバック方法				
作成した個人テキストなどの評価やポイントは各授業担当者への質問に回答する形でフィードバックする。				
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
スポーツ・コーチング学 指導理念から フィジカルトレーニングまで	レイナー・マートン 著 大森 俊夫／山田 茂 監訳	西村書店	978-4-89013-432-8	2013年発行
コーチング学への招待	日本コーチング学会 編集	大修館書店	978-4-46926-819-5	2017年発行
参考文献				
日本スポーツ協会公認スポーツ指導者リファレンスブック（公益財団法人 日本スポーツ協会）				
その他				

連絡先・オフィスアワー				
吉村雅文 (1号館5階1528号室) : 月曜日 12:00~12:50 E-mail : msyoshi[at]juntendo.ac.jp ([at]を@に変更してください) 中村 充 (1号館5階1505号室) : 木曜日 10:00~12:00 E-mail : mtnakamu[at]juntendo.ac.jp ([at]を@に変更してください) 武田 剛 (1号館5階1507号室) : 木曜日14:30~15:30 E-mail : tutakeda[at]juntendo.ac.jp ([at]を@に変更してください) 川田裕次郎 (1号館2階1215号室) : 月曜日13:00~14:30、木曜日14:30~15:30 E-mail : yuukawa[at]juntendo.ac.jp ([at]を@に変更してください) 島崎 佑 (1号館5階1528号室) : 水曜日14:30~16:30 木曜日10:00~12:00 E-mail : yshimasa[at]juntendo.ac.jp ([at]を@に変更してください)				
担当教員の実務経験				
備考				
【学修時間】 この授業は講義形式による2単位の科目であり、授業30時間と準備学習60時間の計90時間の学修を必要とする内容をもって構成する。 【その他①】 この授業科目は、以下の資格取得の要件となっています。 JSP0 (日本スポーツ協会) 公認スポーツ指導者資格 共通科目Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ JSP0 (日本スポーツ協会) ジュニアスポーツ指導員 【その他②】 新型コロナウイルス感染症の発生状況に応じて、成績評価の基準、方法及び授業計画を変更する場合があります。				
授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	吉村	グッドコーチに求められる人間像、プレイヤーセンタードなコーチングの目的について学習する。	概念に関する講義を行った上で、ケーススタディやグループディスカッションなど多くのアクティブラーニングを行う。	(予習: 2時間) プレイヤーセンタード、アスリートセンタードとは何か、なぜコーチングの分野でそのように表現されるのか調べておく。 (復習: 2時間) プレイヤーセンタード、アスリートセンタードの考え方について、また、実践するための重要な点についてもまとめる。
2	吉村	社会からコーチが求められる役割や、これを果たすために必要とするスキルの知識やスキルの全体像を学習する。	概念に関する講義を行った上で、ケーススタディやグループディスカッションなど多くのアクティブラーニングを行う。	(予習: 2時間) グッドコーチに求められる「人間力」とは何か調べておく。 (復習: 3時間) グッドコーチに求められるコーチングの理念・哲学、対自分力、対他者力、トレーニング科学やスポーツ医・科学についてまとめる。
3	中村	スポーツトレーニングサイクル、パフォーマンス構造論、トレーニング目標論について学習する。	トレーニングサイクルの思考・行動循環モデルについて解説する。各自の種目におけるパフォーマンス構造モデルを作成し、トレーニング目標を設定する。	(予習: 2時間) スポーツトレーニングサイクル、パフォーマンス構造について「リファレンスブック」を読んでおく。 (復習: 2時間) 様々なトレーニング目標を設定し、自己で作成したパフォーマンス構造モデルの適切さを検討する。
4	中村	トレーニング手段・方法論、トレーニング計画、試合行動論について学習する。	体力トレーニングと技術トレーニングの過程の相違を解説し、各自の種目におけるトレーニング計画の企画を作成する。	(予習: 2時間) トレーニング手段・方法論、トレーニング計画について「リファレンスブック」を読んでおく。 (復習: 2時間) 目標設定と各自の種目特性を考慮しながら、作成したトレーニング計画の妥当性を検証する。
5	中村	トレーニングアセスメント(評価)、トレーニングと栄養のバランス、トレーニング環境整備と効果的遂行の条件について学習する。	トレーニングアセスメントの重要性を解説し、自己の種目を中心として効果的なアセスメントを検討する。	(予習: 2時間) トレーニングアセスメントについて「リファレンスブック」を読んでおく。 (復習: 3時間) 目標設定、トレーニング計画、トレーニングアセスメントまでを一貫した企画を考案する。
6	武田	スポーツコーチングにおける対他者の知識の内、コミュニケーションスキルとリーダーシップスキルの概念と実施方法に関する理解を深める。	概念に関する講義を行った上で、ロールプレイによるグループワークを実施する。	(予習: 2時間) コミュニケーションとリーダーシップに関して「リファレンスブック」を読んでおく、ビジネスコーチングとの違いを調べておく。 (復習: 2時間) 授業で実施したロールプレイを通じて感じた対他者知識を活用する際に障壁となる要因を整理し、有効な活用に必要なことをまとめる。

科目名	【新カリ】スポーツコーチング総合実習			授業形態	実験・実習
英語科目名	【新カリ】スポーツコーチング総合実習			対象学年	3年
開講学期	2022年度前期			単位数	2単位
代表教員	青木 和浩			ナンバリング	COA3310
担当教員	青木 和浩、鯉川 なつえ、河村 剛光、仲村 明、富田 洋之、高梨 雄太、中田 学、竹澤 稔裕、スポーツ健康科学部教員共通				
授業概要					
全体内容	<p>【授業全体の内容】</p> <p>本科目は、実習の授業形態で行われる。「体力トレーニング論」で学んだ体力向上の基本的概念や意味、トレーニングの原理・原則・実施法について、実際に自らが実践することにより理解を深める。また、体力やトレーニング効果を評価する際に用いられる計測法について学ぶ。この実習を通して「理論」と「実践」の両観点からスポーツ科学の理解と知識を深め、将来的にスポーツ医学を駆使した指導ができることを目標とする。</p>				
到達目標	<p>【授業の到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 基礎理論または最新の科学的理論に基づくトレーニング指導やフィジカルコンディショニング指導が安全かつ適切に実施できる。 2. 各トレーニングの意味・意義・利点・欠点を理解することで、既存のトレーニング実施法を客観的に評価でき、誤りを修正して新たな実施法を考案できる。 3. 最大筋力・心拍数・クリティカルパワー・血中乳酸濃度・疾走能力・垂直跳び能力を測定し、そのデータを分析して生理学的・自然科学的な知見を得ることが出来る。 4. トレーニング効果や競技力評価を行う際に生じる身体的・精神的負担を理解し、将来の指導現場では対象者に対して十分な配慮が出来る人材になる。 				
授業の位置づけ	この科目は、コース科目群・スポーツコーチング科学コース科目の選択必修科目である。また、JPSUスポーツトレーナー資格取得にあたっての必修科目である。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は「スポーツ科学分野コーチングコースにおける専門的な知識と技術」及び「スポーツ健康科学」という学位授与方針の達成に寄与する。				
履修上の注意、履修要件	<p>【履修要件】</p> <p>体力トレーニング論の授業配布資料、運動生理学・機能解剖学の授業を参考にしながら受講すること。 1. 如何なる理由でも、授業の総出席が2/3を満たさない場合は単位を与えない。 2. 実習では運動ウエア・シューズを必ず着用する。また、器具や計測器の破損、怪我を防ぐ為、利用規約を厳守すること。</p>				
成績評価の方法					
評価方法	<p>【成績評価の方法】</p> <p>実習レポート12回（50%）、筆記試験1回（50%）を総合して評価する。</p>				
評価基準	<p>【成績評価の基準】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 各実習項目の意味・意図を理解し、適切に実施・計測ができる（実習レポート）。 2. 各実習で得られた計測データを正しく分析・解釈でき、課題に対して正確に答えることが出来る（実習レポート） 3. 多様に存在するトレーニング法の特色を理解し、利点・欠点について述べる事が出来る（実習レポート、筆記試験）。 4. トレーニング時の筋の収縮様式や関節のアクションについて医科学的専門用語を用いて述べる事が出来る（実習レポート、筆記試験）。 5. 循環器系や骨格筋の特性や適応について理解を示す事が出来る（筆記試験）。 				
試験・課題に対するフィードバック方法					
<p>【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】</p> <p>筆記試験と実習レポートに対する模範解答を希望する場合、または実習内容に対する理解が不明確な場合は、担当の先生に自ら質問に伺うこと（アクティブラーニング）。また、実習内で適時積極的に質問をし、その場でフィードバックを得る姿勢を取ること。</p>					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考文献					
<p>【テキスト・参考書等】</p> <p>初回のガイダンスで実習ノート配布する。また必要に応じて実習項目ごとに関連資料を当日配布する。 「体力トレーニング論」で配布された授業資料を必ず参考にする。</p>					
その他					
連絡先・オフィスアワー	<p>【連絡先】</p> <p>担当：青木 和浩 E-mail：k-aoki[at]juntendo.ac.jp</p> <p>【オフィスアワー】</p> <p>日時：水曜日12:20から13:10 場所：1号館5階1509室</p> <p>上記の時間帯には、予約なしに質問や相談に応じますが、他の学生からの訪問に対応している可能性がある為、出来るだけ事前にE-mailで予約をしてください。</p>				
担当教員の実務経験					

備考				
<p>【学修時間】 この授業は、講義の授業形態による2単位の科目であり、授業時間30時間と準備学習60時間の計90時間の学修を必要とする内容をもって構成する。1回の授業時間は100分とする。</p> <p>【その他】 中・高教諭1種免許（保健体育）取得するための選択科目 科目：教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目（中学校及び高等学校 保健体育） 施行規則に定める科目区分又は事項等：体育 この授業科目は、以下の資格取得の要件となっています。 JSPQ（日本スポーツ協会）AT（アスレチックトレーナー） JPSU（全国体育スポーツ系大学協議会）スポーツトレーナー</p> <p>※新型コロナウイルス感染症の発生状況に応じて、授業計画等の変更を要する場合があります。</p>				
授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	青木 坂本 仲村 鯉川 富田 河村 高梨 中田 竹澤 杉林	【授業内容】 テーマ： ガイダンス 当該科目における授業の進め方や成績評価方法について学ぶ。	【授業方法】 実習ノートを配布し、授業の概要とレポート作成の注意点を口頭説明する。	(予習：2時間) 授業形態・内容・成績評価法についてシラバスを熟読する。 (復習：2時間) 授業形態・成績評価法・注意事項について理解を深める。自身が属するグループを確認し、次回からの実習場所や内容を理解する。
2	坂本 竹澤	【授業内容】 テーマ： マシンウェイト・フリーウェイト 関節アクション、骨格筋の特性、マシンウェイトの特性（定滑車・動滑車）、フリーウェイトの特性（トルクの変化）を学び、器具を正しく扱う知識を得る。	【授業方法】 トレーニング場にてマシンウェイトとフリーウェイトの扱い方と特性を学び実習レポートを作成する。	(予習：2時間) 基礎的な筋肉・関節の名前が理解できるようにしておく。体カトレーニング論の「レジスタンストレーニング」を熟読しておく。 (復習：2時間) マシンウェイトとフリーウェイトの利点・欠点、器具の正しい扱い方、筋の収縮様式と関節アクションを覚える。
3	坂本 竹澤	【授業内容】 テーマ： 負荷-最大挙上回数 ベンチプレスをを用いた1RM測定の実施法を学び、最大下負荷で達する最大挙上回数の測定を行う。Failureまで運動を継続する際の留意点を学ぶ。	【授業方法】 トレーニング場にてベンチプレスを行って、実習レポートを作成する。	(予習：2時間) 体カトレーニング論の「骨格筋の構造と収縮メカニズム」、「筋肉痛の発生メカニズムと対処」を熟読しておく。 (復習：2時間) 負荷-最大挙上回数の関係がどのように応用できるかについて理解を深める。実習後に生じる筋肉痛への対処効果や、その他のダメージ症状を実感する。
4	坂本 竹澤	【授業内容】 テーマ： 関節アクションとSSC効果の実演 運動時の関節アクションを覚える。またstretch-shortening cycle (SSC)によるパフォーマンス向上効果を体験し、その効果を最大に引き出すコツを学ぶ。	【授業方法】 トレーニング場にて、マシンウェイト・フリーウェイトから種目を任意で選択し、その運動時の関節アクションを実習レポートに解答する。	(予習：2時間) 体カトレーニング論の「レジスタンストレーニング」、「プライオメトリクス」を熟読しておく。 (復習：2時間) 全ての関節アクションとSSC効果を最大に引き出す方法を覚える。
5	杉林 青木	【授業内容】 テーマ： プライオメトリクス プライオメトリックトレーニングの意義や正しい実施方法を習得する。	【授業方法】 陸上競技場、またはコスモホールにてプライオメトリックトレーニングを実践し、実習レポートを作成する。	(予習：2時間) パワーの定義とスピード系トレーニングの重要性を調べておく。SSC効果を最大に引き出す方法を復習しておく。 (復習：2時間) SSC効果を上手く引き出した場合と引き出せなかった場合の違いを検討する。
6	青木 高梨	【授業内容】 テーマ： フィールドテスト 様々なフィジカルテスト（コントロールテスト）の方法を理解し、実施方法や評価方法を習得する。	【授業方法】 陸上競技場にてコントロールテストを実施し、実習レポートを作成する。	(予習：2時間) 体力運動能力を測定するテストについて調べておく。 (復習：2時間) 自身のコントロールテスト値を用いて、実施方法と評価を理解する。
7	高梨 竹澤	【授業内容】 テーマ： トレーニング計画の立案と実施 様々なトレーニングの計画方法について理解し、自身の計画に基づいたトレーニング（筋力・パワー・持久力・柔軟性・敏捷性の向上）を実施して、計画から実践までの立案の方法を習得する。	【授業方法】 トレーニング場で計画・実践し、実習レポートを作成する。	(予習：2時間) 各自の目標とするトレーニングを準備しておく。 (復習：2時間) 計画と実践によって生じた様々な問題点を整理する。

8	河村 鯉川	<p>【授業内容】 テーマ： 人体測定・体力測定 人体測定や「新体力テスト」（バッテリーテスト）の方法について学ぶ。</p>	<p>【授業方法】 コスモホールにて人体測定と新体力テストを実施する。表計算ソフトを利用して、得られたデータの基本的な統計値を算出し、実習レポートを作成する。</p>	<p>(予習：2時間) 新体力テストの準備の仕方、測定方法について調べておく。基本的な統計値についてとその関数を調べておく。 (復習：2時間) 表計算ソフトでの関数の使い方、図表の作成方法について復習する。</p>
9	富田 中田	<p>【授業内容】 テーマ： ストレッチング・サーキットトレーニング ストレッチングの効果と実施上の留意点、体力要素の向上を目的としたサーキットトレーニングの実施方法や効果について理解する。</p>	<p>【授業方法】 体操場にてスタティックストレッチング、バスケットボール館にてステーション方式のサーキットを行いレポート作成する。</p>	<p>(予習：2時間) ストレッチングの種類を調べておく。サーキットトレーニングの長所と短所を調べておく。 (復習：2時間) ストレッチングを効果的に使用するための留意点を理解する。実施したサーキットトレーニングの特徴を整理しておく。</p>
10	仲村 鯉川	<p>【授業内容】 テーマ： 心拍数・血中乳酸濃度の測定 ランニング速度の増加に対する心拍数や血中乳酸濃度の変化について学ぶ。また専門種目や競技レベルによってそれらの変化が異なるかについて学習する。</p>	<p>【授業方法】 陸上競技場にて様々な速度でランニングを行い、心拍数や血中乳酸濃度を計測して実習レポートを作成する。</p>	<p>(予習：2時間) 運動時の心拍応答や乳酸生成のメカニズムについて予習しておく。 (復習：2時間) 心拍数や血中乳酸濃度の変化を他の学生と比較し、なぜ個人間で違いがあるのかについて検討する。</p>
11	坂本 高梨	<p>【授業内容】 テーマ： 最大パワー測定・データ分析 自転車エルゴメータを用いて、ペダリング運動時の最大パワー出力と至適負荷を計測する方法について学ぶ。</p>	<p>【授業方法】 トレーニング場にて、自転車エルゴメータを用いた全力ペダリング運動を数セット行い、得られた数値から最大パワーと至適負荷をエクセル上で算出してレポートを作成する(散布図から直線回帰や曲線回帰を経て回帰式を求める)。</p>	<p>(予習：2時間) 「最大パワー」や最大パワーを引き出す「至適負荷」について予習する。 (復習：2時間) 得られた数値から最大パワーを向上させる為のトレーニングについて、過去の授業を参考に検討してみる。</p>
12	坂本 河村	<p>【授業内容】 テーマ： クリティカルパワーと無酸素作業容量 有酸素性エネルギー供給と無酸素性エネルギー供給の上限容量を推測し、数学的観点から解析・解釈する。</p>	<p>【授業方法】 トレーニング場にて様々な負荷のペダリング運動を行い、クリティカルパワーと無酸素作業容量をエクセル上で計算してレポートを作成する。</p>	<p>(予習：2時間) 速度、負荷、パワー、時間、仕事量がそれぞれどのように算出されるか予習しておく。 (復習：2時間) クリティカルパワーと無酸素作業容量の算出法と意味を理解する。</p>
13	青木 高梨	<p>【授業内容】 テーマ： スプリント・ジャンプ レーザー装置を用いての疾走能力や、ジャンプマットを用いての垂直跳び能力を計測する。</p>	<p>【授業方法】 コスモホールにてスプリント走を行い、走タイムから速度を局所的に算出する。またジャンプマット上で垂直跳びを行い、ソフトウェアの数値からジャンプ高を算出する。得られた数値を用いてレポートを作成する。</p>	<p>(予習：2時間) スプリントとジャンプを測定する方法を調べておく。 (復習：2時間) 測定結果から得られた数値をもとに自身のパフォーマンスについて検討してみる。</p>
14	坂本	<p>【授業内容】 テーマ： 最新のトレーニング科学 これまでのトレーニング法の改善点や、最新のトレーニング理論・実践法について科学的研究成果を踏まえて学ぶ。</p>	<p>【授業方法】 トレーニング場にて、最大速度や放物動作を用いるパワートレーニングの実施法を体験する。</p>	<p>(予習：2時間) トレーニングによる筋の適応と、特異性の原則を理解しておく。 (復習：6時間) なぜ「放物動作」が重要であるか、力学的観点から理解を深める。 実習ノートや配布資料を再度熟読し、理解する。</p>

科目名	【新カリ】スポーツ外傷・障害の評価と救急処置実習	授業形態	実験・実習	
英語科目名	【新カリ】スポーツ外傷・障害の評価と救急処置実習	対象学年	3年	
開講学期	2022年度前期	単位数	2単位	
代表教員	高澤 祐治	ナンバリング	SPM3311	
担当教員	高澤 祐治、門屋 悠香、窪田 敦之、竹内 保男、スポーツ健康科学部教員共通			
授業概要				
全体内容	<p>本科目は、実習の授業形態で行われる。実習を通して身体の構造、機能の面から理解を深め、スポーツ外傷・障害を評価することを目的とする。また、スポーツ現場での救急処置に必要な医学的知識及び迅速な対応方法に関して学ぶ。スポーツ外傷・障害に対する的確な情報収集と評価法、スポーツ現場における救急処置の重要性、基礎知識、評価手順、対処法について学び、救急蘇生法、AEDの使用法を含む実際の救急処置ができるようになることを目標とする。</p> <p>(オムニバス方式/全28回)</p> <p>(7 高澤祐治, 38 窪田敦之/2回) (共同) スポーツ外傷・障害発生時の評価及び応急処置からその後に行われるアスレティックリハビリテーションの一連の流れと意義について理解する。救急処置の重要性、救急処置実施者の心得、救急処置の基本的留意点を学び、スポーツ現場における救急処置を学ぶ意義を考えるとともに、事故時の緊急対応計画と評価手順(フローチャート)やスポーツ現場での外傷、障害の評価とその手順を実践する。</p> <p>(7 高澤祐治, 56 門屋悠香/4回) (共同) 暑熱による傷害(熱中症)、寒冷による傷害、過換気状態、ショック状態やその他スポーツでよくみられる内科的疾患について、その特徴と救急処置の意義・目的を理解し、適切な救急処置の具体的な方法を理解した上で、正しく実践できるようにする。</p> <p>(7 高澤祐治, 38 窪田敦之/8回) (共同) 救急体制の重要性と計画、事故発生時のフローチャート作成、各種救急処置用器材及び用品に関する知識とその利用法、現場における救急体制の実際について理解する。また、頭頸部・脊椎外傷時の救急処置について、頭部外傷の特徴と現場における処置の留意点について理解し、正しく対応できるようにする。</p> <p>(56 門屋悠香, 93 竹内保男/14回) (共同) スポーツ現場で起こる皮膚に傷のないケガ(挫傷)と、皮膚に傷のあるケガ(創傷)、患部の安静及び保護を目的とした各種固定法や、患者の安全で効果的な運搬法、救急蘇生法、AEDの使用法の具体的な方法を理解し、正しく実践できるようにする。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 緊急事態の有無を判断する状況が理解できる。 2. 緊急事態に対する救急処置が実施できる。 3. スポーツ傷害の情報収集に必要な検査・測定・評価項目を説明できる。 4. スポーツ傷害について、RICE処置が実施できる。 5. 熱中症のメカニズム、対処法、予防法が理解できる。 			
授業の位置づけ	この科目は、コース科目群・スポーツコーチング科学コース科目の選択必修科目である。また、健康運動指導士認定試験受験資格取得にあたっての必修科目である。			
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ科学分野の専門的な知識と技能」を身に付けるための科目として開講される。			
履修上の注意、履修要件	<p>【履修要件】 以下の科目を受講していることが望ましい</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 機能解剖学 (2) スポーツ医学概論 (3) スポーツの測定評価学 (4) スポーツ外傷・障害学 <p>【履修上の注意(科目独自のルール)】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 1回の授業について、出席時間が3分の2に満たない場合は、欠席扱いとする 2. 遅刻及び早退については、出席と異なる扱いとする 3. 受講までにJUNTENDO PASSPORT (JPASS) での課題提出・授業資料のダウンロードができること 4. 受講までに大学アカウント (ドメイン@stud.juntendo.ac.jp) を用いて以下のアプリが使用できること <ol style="list-style-type: none"> (1) 会議アプリ「zoom」を利用したオンライン受講 (2) Google Classroomを利用した資料・課題管理 5. 受講までに以下の準備ができること <ol style="list-style-type: none"> (1) カメラ付きPCまたはタブレット (2) 文書作成ソフト(Word)、表計算ソフト(Excel)、プレゼンテーションソフト(PowerPoint) 			
成績評価の方法				
評価方法	課題レポート2回(20%)、実技試験(30%)、定期試験(30%)、平常点(20%)を総合して評価する。			
評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. 緊急事態の有無を判断する状況を説明できる(定期試験) 2. 心肺蘇生、AEDを用いた除細動が適切な手順で実施できる(実技試験) 3. スポーツ傷害の情報収集に必要な検査・測定・評価項目について説明できる(定期試験) 4. スポーツ傷害について、適切なRICE処置が実施できるか(実技試験) 5. 熱中症のメカニズム、対処法、予防法を説明できる(定期試験) 6. 授業中や予習・復習の取組状況によって授業態度を評価する(平常点) 			
試験・課題に対するフィードバック方法				
授業中に課す小テストや課題については、授業内で解説をおこなう。 定期試験については、JUNTENDO PASSPORT (JPASS) を使って解説する。				
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献				
<p>【テキスト・参考書等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト <ul style="list-style-type: none"> (5) 検査・測定と評価 (8) 救急処置 <p>上記テキストは参考書であり、必ず用意する必要はない。 その他、授業中に適宜、資料を配布する。</p>				
その他				
連絡先・オフィスアワー	<p>【連絡先】 担当：門屋 悠香 全てJUNTENDO PASSPORT (JPASS) のクラスプロフィール>「Q&A」にて対応します。 その他の連絡先は授業内でお知らせします。</p> <p>【オフィスアワー】 日時：金曜日10:20~12:50 場所：1号館5階1503号室（アスレティックトレーニング学研究室）</p> <p>質問や相談は予約のあった学生を優先します。他の学生との重複を避けるためできるだけ事前にJUNTENDO PASSPORT (JPASS) のクラスプロフィール>「Q&A」で予約してください。 その他の連絡先は授業内でお知らせします。</p>			
担当教員の実務経験				
備考	<p>【学修時間】 この授業は、実習の授業形態による2単位の科目であり、90時間（授業時間60時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。 なお、授業計画の1回の授業は2コマ（100分×2時限）分として示している。</p> <p>【実務経験のある教員による授業】 スポーツドクター、JSP0-ATとしてしてスポーツ現場等で救急処置を経験を有する教員が実践的な知識・技術を解説する。救急救命士として実務経験を有する者が、心肺蘇生法を担当する。</p> <p>【その他】 受講人数が60人を超える場合には、抽選の実施または授業方法の変更をおこなうことがあります。 抽選の場合、JSP0-AT資格取得者を優先します。</p> <p>この授業科目は、以下の資格取得の要件となっています。 ・JSP0（日本スポーツ協会）AT（アスレティックトレーナー）：6. 検査・測定と評価、9. 救急処置 ・JPSU（全国体育スポーツ系大学協議会）スポーツトレーナー</p> <p>また、新型コロナウイルス感染症の発生状況に応じて、成績評価の基準、方法及び授業計画を変更する場合があります。</p>			
授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1・2	高澤祐治 窪田敦之	<p>【授業内容】 本授業のながれと注意事項を確認する。</p> <p>【授業方法】 オリエンテーションをおこない、授業の目的、意義、授業の進め方などについて解説する。 グループ分けを実施する。</p>	実習	<p>(予習：2h) シラバスを確認する</p> <p>(復習：1h) アスレティックリハビリテーションの意義について確認する</p>
3・4	高澤祐治 窪田敦之	<p>【授業内容】 救急体制の重要性と計画について理解する。</p> <p>【授業方法】 救急体制の重要性と、計画立案、事故対応フローチャートについて解説する。 競技種目を考慮した、競技会の救急体制について、事故発生時のフローチャートを作成する。</p>	実習	<p>(予習：2h) 救急体制について予習</p> <p>(復習：2h) 事故発生時のフローチャートを見直す</p>
5・6	門屋悠香 竹内保男	<p>【授業内容】 スポーツ外傷・障害に対するRICE処置を体験・学習する。</p> <p>【授業方法】 RICE処置の重要性、意義、方法などについて解説し、実習をおこなう。 RICE処置のリーフレットを作成する。</p>	実習	<p>(予習：2h) 炎症の徴候を調べる RICE処置について確認する</p> <p>(復習：3h) アイシングの効果と注意点について整理する</p>
7・8	門屋悠香 竹内保男	<p>【授業内容】 心肺蘇生法を体験・学習する</p> <p>【授業方法】 心肺蘇生法の重要性、意義、方法、AEDを組み合わせた手順、注意点などについて解説し、実習をおこなう。 ミニテスト：チェックシートを用い、グループで心肺蘇生法からAED使用までの評価をおこなう。</p>	実習	<p>(予習：1h) AEDを組み合わせたCPRについて、最新のガイドラインを調べる</p> <p>(復習：3h) 以下の用語を説明できるようにする ・死戦期呼吸 ・ショック ・生命の徴候</p>

9・10	門屋悠香 竹内保男	<p>【授業内容】 ①止血法を体験・学習する。 ②スポーツ外傷・障害における傷病者の運搬方法を体験・学習する。</p> <p>【授業方法】 ①創傷の種類と止血法の手順や注意点について解説するとともに、三角巾を用いた止血および固定法について解説し、実習をおこなう。 ②スポーツ現場での患部の固定方法と運搬について解説するとともに、実習を行う。</p> <p>2クラスに分けて、特定のスポーツ現場に対する止血および運搬手順を作成し、発表する。</p>	実習	<p>(予習: 1h) ①「止血点」を確認する ②固定を必要とする外傷について調べる</p> <p>(復習: 3h) ①三角巾を用いた止血および固定法を整理する ②患部の固定と運搬の際の注意点について整理する</p>
11・12	高澤祐治 門屋悠香	<p>【授業内容】 熱中症の対応について体験・学習する。</p> <p>【授業方法】 暑熱障害、寒冷障害など内科的疾患に対する救急処置について解説する。 熱中症予防のリーフレットを作成する。</p>	実習	<p>(予習: 2h) 以下の用語について調べる ・熱中症 ・過換気症候群</p> <p>(復習: 3h) 熱中症の予防と対処法を整理する</p>
13・14	高澤祐治 窪田敦之	<p>【授業内容】 脳振盪の対応について体験・学習する。</p> <p>【授業方法】 頭頸部の外傷の概要と救急処置実施時の留意点について解説する。 スポーツによる脳振盪評価ツールを用い、実習をおこなう。</p>	実習	<p>(予習: 2h) 以下の用語について調べる ・脳振盪後症候群 ・セカンドインパクト症候群</p> <p>(復習: 3h) 携帯型脳振盪認識ツールを整理する</p>
15・16	門屋悠香 竹内保男	<p>【授業内容】 スポーツ外傷・障害の実際を体験・学習する。 (1) 上肢(肩関節、肘関節、手関節)</p> <p>【授業方法】 肩関節・肘関節・手関節の外傷・障害について解説する。 ペアになり、肩関節・肘関節・手関節機能を評価しあう。</p>	実習	<p>(予習: 2h) 肩関節・肘関節・手関節の解剖、筋肉について調べる。肩関節・肘関節・手関節の外傷、外傷・障害について調べる。</p> <p>(復習: 3h) 肩関節・肘関節・手関節の外傷、障害について復習する</p>
17・18	門屋悠香 竹内保男	<p>【授業内容】 スポーツ外傷・障害の実際を体験・学習する。 (2) 下肢(股関節、大腿)</p> <p>【授業方法】 股関節・大腿の外傷・障害について解説する。 ペアになり、股関節・大腿の機能を評価しあう。</p>	実習	<p>(予習: 2h) 大腿部の筋の名称および起始、停止、機能について調べる 肉離れの病態について調べる</p> <p>(復習: 3h) 股関節・大腿の外傷、障害について復習する</p>
19・20	門屋悠香 竹内保男	<p>【授業内容】 スポーツ外傷・障害の実際を体験・学習する。 (3) 下肢(膝関節、足関節、足)</p> <p>【授業方法】 膝関節・足関節・足の外傷・障害について解説する。ペアになり、膝関節・足関節・足の機能を評価しあう。</p>	実習	<p>(予習: 2h) 膝関節・足関節・足の解剖、筋肉について調べる 膝関節・足関節・足の外傷、外傷・障害について調べる</p> <p>(復習: 3h) 膝関節・足関節・足の外傷、障害について復習する</p>
21・22	門屋悠香 竹内保男	<p>【授業内容】 スポーツ外傷・障害の実際を体験・学習する。 (4) 体幹</p> <p>【授業方法】 体幹、特に腰部の外傷、障害について解説する。 ペアになり、腰部外傷・障害のアスレティックリハビリテーションを実施し評価しあう。</p>	実習	<p>(予習: 2h) 体幹筋群の名称およびその機能について調べる 外傷・障害予防のための代表的なエクササイズについて調べる</p> <p>(復習: 3h) 体幹を中心とした外傷・障害予防のためのエクササイズのプログラミング、実施上の注意点などについて復習する</p>
23・24	高澤祐治 門屋悠香	<p>【授業内容】 特殊な外傷の救急処置について理解する。</p> <p>【授業方法】 筋けいれん、目のトラブルなどの救急処置について解説する。 授業内容に関する小テストを作成し、ペアで回答・採点する。</p>	実習	<p>(予習: 2h) 以下の用語について調べる ・エピペン(アドレナリン自己注射薬) ・こむらがえり</p> <p>(復習: 2h) 特殊な外傷の救急処置について整理する</p>
25・26	高澤祐治 窪田敦之	<p>【授業内容】 メディカルチェックを体験・学習する(1)</p> <p>【授業方法】 整形外科的メディカルチェックの意義、目的、方法について解説する。 グループワーク②: 外傷・障害調査、携帯計測を実施し、グループ内でまとめる。</p>	実習	<p>(予習: 2h) 整形外科的メディカルチェックの意義と方法について調べる</p> <p>(復習: 2h) 整形外科的メディカルチェックの具体的な方法について復習する</p>
27・28	高澤祐治 窪田敦之	<p>【授業内容】 メディカルチェックを体験・学習する(2)</p> <p>【授業方法】 関節可動域の測定、タイトネステスト、ルーズネステスト、スペシャルテストについて解説する。 自身のメディカルチェックシートを作成する。</p>	実習	<p>(予習: 2h) 自分の関節の動きについて医学用語を用いて学習する</p> <p>(復習: 2h) 各種テストの意義、目的について確認するとともに、実施上の注意点について復習する</p>

科目名	【新カリ】アスレティックトレーニング実習	授業形態	実験・実習		
英語科目名	【新カリ】アスレティックトレーニング実習	対象学年	4年		
開講学期	2022年度前期	単位数	2単位		
代表教員	門屋 悠香	ナンバリング	TRM4314		
担当教員	門屋 悠香、鹿倉 二郎、高澤 祐治、中新井田 敦子、スポーツ健康科学部教員共通				
授業概要					
全体内容	<p>本科目は、実習の授業形態で行われる。スポーツコンディショニング実習での学修内容を発展させて、各種スポーツ競技の特性を理解し、傷害予防を目的としたトレーニングプログラムの立案、並びに競技力向上を目指したアスレティックトレーニングの実践を行う。また、主に傷害予防を目的としたテーピングの実践を足関節以外の部位で学ぶ。 (オムニバス方式/全28回)</p> <p>(56 門屋悠香/16回) Functional movement testなど身体動作のスクリーニング評価を行い、動作時の問題点を抽出し、目的とした動作パターン獲得のためのトレーニングプログラムの立案と実践を行う。また、筋力増強トレーニングのみならず、機能的動作時の筋収縮のタイミングや筋の動員様式を意識したトレーニング方法を学修し、実践する。さらに、疲労からの回復や競技力維持を目的とした全身リカバリーの方法論を学修し、適切なトレーニング指導が実施できるようにする。</p> <p>(7 高澤祐治, 56 門屋悠香/4回) (共同) リハビリテーションについての理解をより深めるために、アスレティックトレーナー活動に関係する医療行為や医療行為とアスレティックトレーナー活動の境界、注意事項について学ぶ。また、アスレティックリハビリテーションで用いる機能評価や基本的手法(運動療法、物理療法、補装具)の概要について学び、患部のリスク管理について学修する。</p> <p>(54 門屋悠香, 95 中新井田敦子, 105 鹿倉二郎/8回) (共同) テーピングについてのより高度な能力を身に付けるため、スポーツコンディショニング実習で学修した基礎的な内容をもとに肩鎖関節・肩関節、肘関節、手関節・指関節、足部、足関節、下腿部、膝関節、大腿部・股関節、体幹(腰部、胸部)などのテーピングについて学び、目的に応じたテーピングができるようになることを目標とする。</p>				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. テーピングの目的、効果などについて説明できる。 2. 目的に合わせたコンディショニングプログラムが作成・実施できる。 3. アスレティックリハビリテーションで用いる方法の禁忌、適応などについて説明できる。 4. 適切なテーピング、エクササイズが実施できる。 				
授業の位置づけ	この科目は、コース科目群・スポーツコーチング科学コース科目の選択科目である。また、JSP0公認スポーツ指導者養成講習会免除適応コース(AT)、JPSUスポーツトレーナー資格取得にあたっての必修科目である。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ科学分野の専門的な知識と技能」を身に付けるための科目として開講される。				
履修上の注意、履修要件	<p>【履修要件】 「スポーツコンディショニング実習」を受講していることが望ましい。</p> <p>【履修上の注意(科目独自のルール)】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 1回の授業について、出席時間が3分の2に満たない場合は、欠席扱いとする 2. 遅刻及び早退については、出席と異なる扱いとする 3. 受講までにJUNTENDO PASSPORT (JPASS)での課題提出・授業資料のダウンロードができること 4. 受講までに大学アカウント(ドメイン@stud.juntendo.ac.jp)を用いて以下のアプリが使用できること <ol style="list-style-type: none"> (1) 会議アプリ「zoom」を利用したオンライン受講 (2) Google Classroomを利用した資料・課題管理 5. 受講までに以下の準備ができること <ol style="list-style-type: none"> (1) カメラ付きPCまたはタブレット (2) 文書作成ソフト(Word)、表計算ソフト(Excel)、プレゼンテーションソフト(PowerPoint) 				
成績評価の方法					
評価方法	実技試験(30%)、定期試験(40%)、レポート課題(10%)、平常点(20%)を総合して評価する。				
評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. テーピングについて、効果、目的、適応と禁忌などが説明できる(定期試験) 2. 指定した目的に合わせたコンディショニングプログラムが作成・実施できる。(実技試験) 3. アスレティックリハビリテーションで用いる方法の禁忌、適応などについて説明できる。(定期試験) 4. 指定したテーピング、エクササイズが適切に実施できる(実技試験) 5. 授業中や予習・復習の取組状況によって授業態度を評価する(平常点) 				
試験・課題に対するフィードバック方法					
授業中に課す小テストや課題については、授業内で解説をおこなう。 定期試験については、JUNTENDO PASSPORT (JPASS)を使って解説する。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考文献					
<p>【テキスト・参考書等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト <ol style="list-style-type: none"> (6) 予防とコンディショニング (7) アスレティックリハビリテーション <p>上記テキストは参考書であり、必ず用意する必要はありません。 その他、授業中に適宜、資料を配布します。</p>					
その他					

連絡先・オフィスアワー	<p>【連絡先】 担当：門屋 悠香 全てJUNTENDO PASSPORT (JPASS) のクラスプロフィール>「Q&A」にて対応します。 その他の連絡先は授業内でお知らせします。</p> <p>【オフィスアワー】 日時：金曜日10：20～12：50 場所：1号館5階1503号室（アスレティックトレーニング学研究室）</p> <p>質問や相談は予約のあった学生を優先します。他の学生との重複を避けるためできるだけ事前に JUNTENDO PASSPORT (JPASS) のクラスプロフィール>「Q&A」で予約してください。 その他の連絡先は授業内でお知らせします。</p>			
担当教員の実務経験				
備考	<p>【学修時間】 この授業は、実習の授業形態による2単位の科目であり、90時間（授業時間60時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。 なお、授業計画の1回の授業は2コマ（100分×2時限）分として示している。</p> <p>【その他】 受講人数が60人を超える場合には、抽選の実施または授業方法の変更をおこなうことがあります。 抽選の場合、JSP0-AT取得者および「スポーツコンディショニング実習」履修者を優先します。</p> <p>この授業科目は、以下の資格取得の要件となっています。 ・JSP0（日本スポーツ協会）AT（アスレティックトレーナー）：7. 予防とコンディショニング ・JSP0（日本スポーツ協会）AT（アスレティックトレーナー）：8. アスレティックリハビリテーション ・JPSU（全国体育スポーツ系大学協議会）スポーツトレーナー</p> <p>また、新型コロナウイルス感染症の発生状況に応じて、成績評価の基準、方法及び授業計画を変更する場合があります。</p>			
授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1・2	門屋悠香 中新井田敦子 鹿倉二郎	<p>【授業内容】 (1) コンディショニングの要素 (2) テーピング① 足部、下腿部のテーピングを体験・学習する。</p> <p>【授業方法】 足底腱膜炎、アキレス腱炎について解説するとともに、これらの障害に対するテーピングについて解説・実演する。 ペアになり、テーピングを実施し、互いに評価する。</p>	実習 反転授業	<p>(予習：1h) ①コンディショニングの3つの構成因子について調べる ②足部、下腿部の外傷・障害について調べる</p> <p>(復習：1h) 足底腱膜炎、アキレス腱炎に対するテーピングを行なう際の注意点およびその方法について確認する</p>
3・4	門屋悠香 中新井田敦子 鹿倉二郎	<p>【授業内容】 テーピング② 膝関節、大腿部・股関節のテーピングを体験・学習する。</p> <p>【授業方法】 膝関節の靭帯損傷、大腿部肉離れについて解説するとともに、これらの外傷に対するテーピングについて解説・実演する。 ペアになりテーピングを実施し、互いに評価する。</p>	実習 反転授業	<p>(予習：1h) 膝関節および大腿部の外傷・障害について調べる</p> <p>(復習：1h) 膝関節内側副靭帯損傷および大腿部肉離れに対するテーピングを行なう際の注意点およびその方法について確認する</p>
5・6	門屋悠香 中新井田敦子 鹿倉二郎	<p>【授業内容】 テーピング③ 体幹（腰部、胸部）、肩部（肩鎖関節、肩関節）のテーピングを体験・学習する。</p> <p>【授業方法】 腰部、胸部、上肢のスポーツ外傷・障害についての外傷、障害について解説するとともに、そのテーピング方法について解説・実演する。 ペアになり、足部・下腿のテーピングを実施し、互いに評価する。</p>	実習 反転授業	<p>(予習：1h) 上肢、特に肩関節、肩鎖関節、肘関節の外傷・障害について調べる</p> <p>(復習：1h) 肩鎖関節捻挫、肩関節反復性脱臼、対するテーピングの行なう際の注意点とその方法について確認する</p>
7・8	門屋悠香 中新井田敦子 鹿倉二郎	<p>【授業内容】 テーピング④ 肘関節、手関節、指関節のテーピングを体験・学習する。</p> <p>【授業方法】 上肢のスポーツ外傷・障害について解説するとともに、そのテーピング方法について解説・実演する。 ペアになり、足部・下腿のテーピングを実施し、互いに評価する。</p>	実習 反転授業	<p>(予習：1h) 上肢、特に肘関節の外傷・障害について調べる</p> <p>(復習：1h) 肘関節内側副靭帯損傷に対するテーピングの行なう際の注意点とその方法について確認する</p>
9・10	門屋悠香	<p>【授業内容】 競技種目特性に対するコンディショニング評価の実際とプログラムの立案</p> <p>【授業方法】 グループワーク：競技種目特性を考慮したコンディショニング計画を作成・実施し、振り返りシートを作成する。</p>	実習・演習	<p>(予習：2時間) 指定された競技種目の競技力向上を目的としたコンディショニング評価項目一覧と年間プログラムを作成する</p> <p>(復習：1時間) 振り返りシートをもとに、プログラムを修正する</p>

11・12	門屋悠香	<p>【授業内容】 傷害予防に対するコンディショニング評価の実際とプログラムの立案</p> <p>【授業方法】 グループワーク：傷害予防を目的としたコンディショニング計画を作成・実施し、振り返りシートを作成する。</p>	実習・演習	<p>(予習：2時間) 指定された傷害の予防を目的としたコンディショニング評価項目一覧と年間プログラムを作成する</p> <p>(復習：1時間) 振り返りシートをもとに、プログラムを修正する</p>
13・14	高澤祐治 門屋悠香	<p>【授業内容】 (1) アスレティックリハビリテーションの定義 (2) アスレティックリハビリテーションの概要 アスレティックリハビリテーションの考え方について理解を深める。</p> <p>【授業方法】 アスレティックリハビリテーションの意義、目的、概要について解説する。 アスレティックトレーナー活動に関係する注意事項について解説する。 アスリートの傷害を調査し、競技復帰までの過程をまとめ、発表・評価する。</p>	講義・演習 発表	<p>(予習：1h) シラバスにて授業内容を確認する</p> <p>(復習：1h) ①メディカルリハビリテーションとアスレティックリハビリテーションの違いを整理する ②アスレティックトレーナー活動に関係する医療行為や医療行為とアスレティックトレーナー活動の境界、注意事項を整理する</p>
15・16	高澤祐治 門屋悠香	<p>【授業内容】 (1) 物理療法の基礎知識と実践について理解を深め、物理療法を体験・学習する。 (2) 医療用器具について理解を深める。</p> <p>【授業方法】 物理療法全般について概説するとともに、温熱療法と寒冷療法の意義、目的、効果について解説する。 ペアで温熱療法、寒冷療法を体験する。</p>	実習	<p>(予習：1h) 温熱療法、寒冷療法で用いる機器を調べる</p> <p>(復習：1h) 温熱療法、寒冷療法の適応と禁忌について整理する</p>
17・18	門屋悠香	<p>【授業内容】 (1) 機能評価の考え方について理解を深める。 (2) リスク管理の基礎知識と実践について理解を深め、体験・学習する。</p> <p>【授業方法】 プログラムの作成方法、期分け、注意点などについて解説する。 リスク管理の基礎知識について解説する。 スポーツ復帰にあたり確認を要する事項を考え、グループでまとめて発表する。</p>	講義 グループワーク・ 発表	<p>(予習：1h) アスレティックリハビリテーションに必要な情報とは何かを考える</p> <p>(復習：1h) アスレティックリハビリテーションの流れと留意点について整理する</p>
19・20	門屋悠香	<p>【授業内容】 (1) アスレティックリハビリテーションにおけるエクササイズ目的について理解を深める。 (2) 筋力回復、筋力増強エクササイズの基礎知識と実践について理解を深め、体験・学習する。</p> <p>【授業方法】 筋力回復、向上エクササイズの概略とその方法について解説する。 ペアになり、筋力エクササイズが禁止される場合を相手に説明する。 課題に沿ったエクササイズをペアで実施・評価する。</p>	講義・演習 反転授業	<p>(予習：2h) レポート課題 「MMT(徒手筋力検査)について説明し、長所と短所をまとめる」</p> <p>(復習：1h) open kinetic chain (OKC) とclosed kinetic chain (CKC) の特徴について整理する</p>
21・22	門屋悠香	<p>【授業内容】 関節可動域回復、拡大エクササイズの基礎知識と実践について理解を深め、体験・学習する。</p> <p>【授業方法】 関節可動域回復、向上エクササイズの概略とその方法について解説する。 課題に沿ったエクササイズをペアで実施・評価する。</p>	講義・演習 反転授業	<p>(予習：1h) 柔軟性と関節弛緩性の違いを調べる</p> <p>(復習：1h) 関節可動域制限の原因について整理する</p>
23・24	門屋悠香	<p>【授業内容】 (2) 神経筋協調性回復、向上エクササイズの実践について理解を深め、体験・学習する。 (1) 全身持久力回復、向上エクササイズの実践について理解を深め、体験・学習する。</p> <p>【授業方法】 神経筋協調性および全身持久力の回復、向上エクササイズの概略とその方法について解説する。 運動時間とエネルギー供給、カルボーネン法に関する小テストを実施する。 課題に沿ったエクササイズをペアで実施・評価する。</p>	講義・小テスト 反転授業	<p>(予習：1h) 運動時間とエネルギー供給、カルボーネン法について調べる</p> <p>(復習：1h) 神経筋協調性エクササイズのプログラミングについて、基本的な考え方を整理する</p>
25・26	門屋悠香	<p>【授業内容】 身体組成の管理に用いるエクササイズの実践について理解を深め、体験・学習する。</p> <p>【授業方法】 身体組成管理とスポーツ動作に関わるエクササイズについて解説する。 正しい身体組成の管理について、相手に説明する。 課題に沿ったエクササイズをペアで実施・評価する。</p>	講義・演習 反転授業	<p>(予習：1時間) 立位時の水深と荷重率について調べる</p> <p>(復習：1時間) 身体組成の管理を目的としたエクササイズの特徴と留意点を整理する</p>

科目名	【新カリ】アスレティックトレーナー総論	授業形態	講義		
英語科目名	【新カリ】アスレティックトレーナー総論	対象学年	4年		
開講学期	2022年度前期	単位数	2単位		
代表教員	門屋 悠香	ナンバリング	TRM4315		
担当教員	門屋 悠香、スポーツ健康科学部教員共通				
授業概要					
全体内容	本科目は、講義の授業形態で行われる。アスレティックトレーナーの役割とその業務内容、アスレティックトレーナー養成の歴史的背景や趣旨、設立に至った背景及び諸外国の状況を理解する。アスレティックトレーナーの組織的な活動とその位置づけや運営管理についても学び、コーチ、スポーツドクターなど様々な分野の専門家とikaに連携を取って選手をサポートしていくかなどアスレティックトレーナーが現場で活動する上で必要な知識を理解する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本スポーツ協会の定義するアスレティックトレーナーの役割が理解できる。 2. アスレティックトレーナー養成の歴史的背景や世界の状況を理解できるようになる。 3. アスレティックトレーナーの具体的な業務について説明ができる。 4. アスリートをサポートするスタッフの構成と役割が理解できる。 5. 組織の運営及び管理能力を養うことを理解できるようになる。 6. 社会的な秩序や倫理規定を理解できるようになる。 				
授業の位置づけ	この科目は、コース科目群・スポーツコーチング科学コース科目の選択科目である。また、JSP0公認スポーツ指導者養成講習会免除適応コース（AT）の必修科目である。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ科学分野の専門的な知識と技能」を身に付けるための科目として開講される。				
履修上の注意、履修要件	<p>【履修要件】 「スポーツコンディショニング実習」を受講していることが望ましい。</p> <p>【履修上の注意（科目独自のルール）】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 1回の授業について、出席時間が3分の2に満たない場合は、欠席扱いとする 2. 遅刻及び早退については、出席と異なる扱いとする 3. 受講までにJUNTENDO PASSPORT（JPASS）での課題提出・授業資料のダウンロードができること 4. 受講までに大学アカウント（ドメイン@stud.juntendo.ac.jp）を用いて以下のアプリが使用できること <ol style="list-style-type: none"> (1) 会議アプリ「zoom」を利用したオンライン受講 (2) Google Classroomを利用した資料・課題管理 5. 受講までに以下の準備ができること <ol style="list-style-type: none"> (1) カメラ付きPCまたはタブレット (2) 文書作成ソフト（Word）、表計算ソフト（Excel）、プレゼンテーションソフト（PowerPoint） 				
成績評価の方法					
評価方法	課題レポート4回（40%）、定期試験（40%）、平常点（20%）を総合して評価する。				
評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本スポーツ協会の定めるアスレティックトレーナーの役割・歴史的背景・世界の状況を説明できる（レポート） 2. アスレティックトレーナーの業務について、日本スポーツ協会の定める7項目に従い詳細を説明できる（定期試験） 3. アスリートをサポートするスタッフの構成と役割について具体的に述べるができる（レポート） 4. アスレティックトレーナーの活動について具体的に述べることができる（レポート） 5. 授業中や予習・復習の取組状況によって授業態度を評価する（平常点） 				
試験・課題に対するフィードバック方法					
授業中に課す小テストや課題については、授業内で解説をおこなう。 定期試験については、JUNTENDO PASSPORT（JPASS）を使って解説する。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考文献					
<p>【テキスト・参考書等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト (1) アスレティックトレーナーの役割 <p>上記テキストは参考書であり、必ず用意する必要はありません。 その他、授業中に適宜、資料を配布します。</p>					
その他					
連絡先・オフィスアワー	<p>【連絡先】 担当：門屋 悠香 全てJUNTENDO PASSPORT（JPASS）のクラスプロフィール>「Q&A」にて対応します。 その他の連絡先は授業内でお知らせします。</p> <p>【オフィスアワー】 日時：金曜日10：20～12：50 場所：1号館5階1503号室（アスレティックトレーニング学研究室）</p> <p>質問や相談は予約のあった学生を優先します。他の学生との重複を避けるためできるだけ事前にJUNTENDO PASSPORT（JPASS）のクラスプロフィール>「Q&A」で予約してください。 その他の連絡先は授業内でお知らせします。</p>				
担当教員の実務経験					

備考	<p>【学修時間】 この授業は、講義の授業形態による2単位の科目であり、90時間（授業時間30時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。</p> <p>【その他】 受講人数が60人を超える場合には、抽選の実施または授業方法の変更をおこなうことがあります。 抽選の場合、JSP0-AT取得者および「スポーツコンディショニング実習」履修者を優先します。</p> <p>この授業科目は、以下の資格取得の要件となっています。 JSP0（日本スポーツ協会）AT（アスレティックトレーナー）：1. アスレティックトレーナーの役割</p> <p>また、新型コロナウイルス感染症の発生状況に応じて、成績評価の基準、方法及び授業計画を変更する場合があります。</p>
----	---

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1		<p>【授業内容】 アスレティックトレーナー（AT）とは (1) AT制度の歴史について理解を深める。</p> <p>【授業方法】 日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー制度の設立に至る経緯を解説する。 グループワーク①：アスレティックトレーナーに望む資質について、グループ間で意見を出し合う。</p>	講義 グループワーク	<p>(予習：2h) シラバスにて授業内容を確認する</p> <p>(復習：2h) グループワークで挙げた「アスレティックトレーナーに望む資質」についてまとめ、系統化する</p>
2		<p>【授業内容】 アスレティックトレーナー（AT）とは (2) わが国におけるATの歴史について理解を深める。</p> <p>【授業方法】 日本におけるアスレティックトレーナーの歴史および日本スポーツ協会のAT制度について解説する。 グループワーク②：アスレティックトレーナーに望む資質について、系統化したものをグループ間でまとめ、発表の準備をする。</p>	講義 グループワーク	<p>(予習：2h) 日本スポーツ協会のHPを閲覧し、アスレティックトレーナーについて確認する</p> <p>(復習：2h) 日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー養成カリキュラムの内容について整理する</p>
3		<p>【授業内容】 アスレティックトレーナー（AT）とは (3) 諸外国のATに相当する制度について理解を深める。</p> <p>【授業方法】 アメリカのNATA、カナダのCATAなど諸外国のトレーナー制度について解説する。 グループワーク③：アスレティックトレーナーに望む資質について、グループごとに発表し、振り返りシートを作成する。</p>	講義 発表	<p>(予習：2h) NATA (National Athletic Trainers' Association) CATA (Canadian Athletic Therapists Association) のHPを閲覧し、その概要を確認する</p> <p>(復習：3h) レポート課題 「日本と海外のアスレティックトレーナー制度の違いをまとめる」</p>
4		<p>【授業内容】 アスレティックトレーナーの任務と役割について理解を深める。</p> <p>【授業方法】 日本スポーツ協会の定めるアスレティックトレーナーの7つの役割について解説する。 アスレティックトレーナーの7つの役割について、選手・指導者ほか異なる立場を想定した場合の期待度を考え、まとめる。</p>	講義 演習	<p>(予習：3h) NATAのHPを閲覧し、Athletic Training Education Competenciesについて確認する</p> <p>(復習：2h) アスレティックトレーナーの役割について整理し、確認する</p>
5		<p>【授業内容】 アスレティックトレーナーの業務① アスレティックトレーナーが行うべき業務の全体像を理解する。</p> <p>【授業方法】 アスレティックトレーナーが行うべき業務の総論を解説する。 復習レポート課題作成の説明をおこなう。</p>	講義 演習	<p>(予習：2h) レポート課題 「通常の練習におけるアスレティックトレーナーのタイムスケジュールを作成する」</p> <p>(復習：2h) レポート課題 「JSP0-AT過去試験問題の模範解答を作成する」</p>
6		<p>【授業内容】 アスレティックトレーナーの業務② アスレティックトレーナーが行うべき業務について、理解を深める。</p> <p>【授業方法】 アスレティックトレーナーが行うべき様々な業務について個別に解説する。 前回作成した模範解答をペアで確認し、評価する。</p>	講義 反転授業	<p>(予習：2h) JSP0-AT過去試験問題をホームページで確認する</p> <p>(復習：2h) アスレティックトレーナーが行うべき業務について整理し、確認する</p>
7		<p>【授業内容】 アスレティックトレーナーの活動① 遠征時のアスレティックトレーナーの活動について理解を深める。</p> <p>【授業方法】 国内および海外における遠征時のアスレティックトレーナーの活動について、概要と注意点を解説する。 グループワーク④：アスレティックトレーナー活動を通常練習時と遠征時で比較し、違いをグループでまとめる。</p>	講義 グループワーク	<p>(予習：3h) レポート課題 「遠征時に必要なトレーナーバックの中身のリストを作成する」</p> <p>(復習：2h) 遠征時におけるアスレティックトレーナー活動の注意点を整理する</p>

8	<p>【授業内容】 アスレティックトレーナーの活動② 競技別アスレティックトレーナーの活動について理解を深める。</p> <p>【授業方法】 陸上競技、硬式テニス競技におけるアスレティックトレーナーの活動について解説する。 講義内容を「まとめシート」に整理する。</p>	講義 演習	<p>(予習: 2h) ①陸上競技独特のシステムであるスリーステーション制について調査する ②テニス競技における、ドクターまたはアスレティックトレーナーの活動に関わるルールについて調査する</p> <p>(復習: 2h) 外部講師の場合、講義内容についてのレポートを作成する (外部講師ではない場合、講義内容について整理する)</p>
9	<p>【授業内容】 医科学スタッフとの連携・協力 (1) 医科学スタッフの構成と役割 (2) スポーツドクターとの連携・協力 (3) コーチとの連携・協力 チームスタッフの役割と連携について理解を深める。</p> <p>【授業方法】 スポーツドクター、コーチ、チーム関係者などの連携について解説する。 グループワーク⑤: チームスタッフとの間に起こるトラブルを考え、グループで対応策を考える。</p>	講義 グループワーク・ PBL	<p>(予習: 2h) 以下の資格制度について調査し、まとめる 理学療法士、柔道整復師、はり師、きゆう師、あん摩マッサージ師</p> <p>(復習: 2h) アスレティックトレーナーに関わる職種について整理する</p>
10	<p>【授業内容】 組織の運営と管理 (1) アスレティックトレーナーの組織と運営について理解を深める。</p> <p>【授業方法】 アスレティックトレーナー活動の運営計画と安全管理について解説する。 グループワーク⑥: 安全管理において起こるトラブルを考え、グループで対応策を考える。</p>	講義 グループワーク・ PBL	<p>(予習: 3h) レポート課題 「アスレティックトレーナー活動に必要な用具・用品リストを作成する」</p> <p>(復習: 2h) アスレティックトレーナー活動に必要な予算計画と管理について整理する</p>
11	<p>【授業内容】 組織の運営と管理 (2) 競技者のコンディショニングに関するデータの管理について理解を深める。</p> <p>【授業方法】 アスレティックトレーナー活動におけるデータの管理について解説する。 グループワーク⑦: データ管理において起こるトラブルを考え、グループで対応策を考える。</p>	講義 グループワーク・ PBL	<p>(予習: 2h) スポーツ選手に必要なデータの種類を調べる</p> <p>(復習: 2h) データの回収方法、フィードバック方法について整理する</p>
12	<p>【授業内容】 アスレティックトレーナー(AT)と倫理 (1) ATの目的と社会的立場・社会と秩序について理解を深める。</p> <p>【授業方法】 アスレティックトレーナーの社会的立場について解説する。 グループワーク⑧: 提示する事例をもとに、競技者が理解できる説明方法を考え、発表する。</p>	講義 グループワーク・ 発表	<p>(予習: 2h) インフォームドコンセントについて調べる</p> <p>(復習: 2h) アスレティックトレーナーの社会的立場の特徴について整理する</p>
13	<p>【授業内容】 アスレティックトレーナー(AT)と倫理 (2) ATの倫理について理解を深める。</p> <p>【授業方法】 アスレティックトレーナー活動を行う上での倫理について解説する。 グループワーク⑨: 現場実習でのアスレティックトレーナー実習生の注意事項をペアで確認する。</p>	講義 演習	<p>(予習: 2h) スポーツ界でのハラスメントについて調べる</p> <p>(復習: 2h) 現場実習でのアスレティックトレーナー実習生の注意事項について整理する</p>
14	<p>【授業内容】 アスレティックトレーナー(AT)と倫理 (3) 医療関係法規・ATと法的諸問題 について理解を深める。</p> <p>【授業方法】 スポーツ事故における法的問題について、過去の判例とともに解説する。 グループワーク⑩: 過去の判例をもとに、スポーツ事故における対応策をグループごとに発表し、振り返りシートを作成する。</p>	講義 グループワーク・ 発表	<p>(予習: 2h) 医師、看護師など医療関係者の倫理規定について調べる</p> <p>(復習: 2h) 医療関係者の倫理規定について整理するとともに、ATの倫理についても確認する</p>
	定期試験の実施		

科目名	【新カリ】スポーツ栄養学演習			授業形態	演習
英語科目名	【新カリ】スポーツ栄養学演習			対象学年	3年
開講学期	2022年度後期			単位数	2単位
代表教員	鈴木 良雄			ナンバリング	BCM3312
担当教員	鈴木 良雄、スポーツ健康科学部教員共通				
授業概要					
全体内容	本科目は、演習の授業形態で行われる。基礎的な栄養学の知識を確認しながら、スポーツにおける食事・栄養について演習を通じて深く学んでいく。具体的には、栄養・食事の視点から、アスリートの体組成、からだ作りとウエイトコントロール、トレーニングスケジュール、競技特性、栄養欠陥に基づく疾病と対策、特殊環境下における栄養ケア、サプリメントの利用時の留意点、栄養教育について学修し、アスリート、教員やスポーツ指導者としての基礎的な知識と実践力を身に付けることを目標とする。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 食事アセスメントの方法を理解し実践することができる。 2. アスリートの身体組成やウエイトコントロールを理解し説明することができる。 3. トレーニングスケジュールや様々な状況下での食事を理解し説明することができる。 4. 栄養欠陥に起因する疾患とその対策を理解し説明することができる。 5. サプリメントの使用法や栄養教育について理解し説明することができる。 				
授業の位置づけ	この科目は、コース科目群・スポーツコーチング科学コース科目の選択科目である。また、JSPQ公認スポーツ指導者養成講習会免除適応コース（AT）の必修科目である。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学を中心とした幅広い知識と教養、及びそれらの活用能力」、「協働で課題を解決するために必要なコミュニケーション能力」、「スポーツ医科学とコーチング科学を中心としたスポーツ科学についての知識と技能」、及び「スポーツ科学の知識に基づき、現場で指導できる能力ないしは研究できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。				
履修上の注意、履修要件	【履修要件】 特になし				
成績評価の方法					
評価方法	課題14回(60%)・平常点(30%)・筆記試験(10%)によって総合的に評価する。 なお、演習の進行上、ふさわしくないと判断される行為は、減点の対象とします。				
評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. 食事アセスメントの方法を理解し実践することができる（課題、筆記試験）。 2. アスリートの身体組成やウエイトコントロールを理解し説明することができる（課題、筆記試験）。 3. トレーニングスケジュールや様々な状況下での食事を理解し説明することができる（課題、筆記試験）。 4. 栄養欠陥に起因する疾患とその対策を理解し説明することができる（課題、筆記試験）。 5. サプリメントの使用法や栄養教育について理解し説明することができる（課題、筆記試験）。 				
試験・課題に対するフィードバック方法					
課題の解答・解説、質問等へのフィードバックは次回の授業で行う。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考文献					
日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト(9) スポーツと栄養 その他、授業中に適宜、資料を配布します。					
その他					
連絡先・オフィスアワー	【連絡先】 担当：鈴木良雄 E-mail：yssuzuki[at]juntendo.ac.jp ※[at]を@に変更してください。 【オフィスアワー】 日時：前期期間中の月曜日9:00から11:00 場所：1号館2階1223室 上記の時間帯には、予約なしに質問や相談に応じますが、他の学生の相談時間とかち合わないようするため、できるだけ前日までにE-mailで予約してください。質問や相談は予約のあった学生を優先します。				
担当教員の実務経験					
備考	【学修時間】 この授業は、演習の授業形態による2単位の科目であり、授業30時間と準備学習60時間の計90時間の学修を必要とする内容をもって構成する。 【その他】 本科目は「AT」の必修科目である。 この授業科目は、以下の資格取得の要件となっています。 JSPQ（日本スポーツ協会）AT（アスレティックトレーナー） 【その他】 新型コロナウイルス感染症の発生状況により、授業計画等の変更をお願いする可能性がある。				
授業計画					
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間	

1	鈴木良雄	<p>【授業内容】 テーマ： ガイダンス、食事調査 スポーツにおける栄養や食事調査の意義を理解する。</p>	<p>【授業方法】 スポーツにおける栄養や食事調査の意義について解説する。5人程度のグループになり、課題の回答を中心に議論する。疑問点や意見・感想を課題の回答と共に入力フォームに記入して提出する。</p>	<p>(予習：2時間) 事前配布資料をよく読み、空欄に当てはまる語を考えるとともに、テーマについて理解し説明できるようにしておく。 (復習：2時間) 演習の内容を配布資料と照らし合わせてノートに纏め理解を深める。また、BDHQに回答する。</p>
2	鈴木良雄	<p>【授業内容】 テーマ： 食事バランスガイド 食事バランスガイドの目的や活用方法を理解する。</p>	<p>【授業方法】 食事バランスガイドの目的や活用方法を解説する。5人程度のグループになり、課題の回答を中心に議論する。疑問点や意見・感想を課題の回答と共に入力フォームに記入して提出する。</p>	<p>(予習：2時間) 事前配布資料をよく読み、空欄に当てはまる語を考えるとともに、テーマについて理解し説明できるようにしておく。 (復習：2時間) 演習で出された課題に取り組む。</p>
3	鈴木良雄	<p>【授業内容】 テーマ： 食品摂取頻度調査法 (BDHQ) (1) BDHQの結果から自分の栄養素摂取状態を理解する。</p>	<p>【授業方法】 第1回で回答したBDHQの結果を返却し、その見方を解説する。5人程度のグループになり、課題の回答を中心に議論する。疑問点や意見・感想を課題の回答と共に入力フォームに記入して提出する。</p>	<p>(予習：3時間) 事前配布資料をよく読み、空欄に当てはまる語を考えるとともに、テーマについて理解し説明できるようにしておく。 (復習：2時間) 演習で出された課題に取り組む。</p>
4	鈴木良雄	<p>【授業内容】 テーマ： 食品摂取頻度調査法 (BDHQ) (2) BDHQ結果を元に、平均的な日本人と自分の食生活を比較する方法を理解する。</p>	<p>【授業方法】 BDHQ結果から各栄養素・食品摂取量を密度法に変換しそれぞれを平均的な日本人の摂取量と比較する方法を解説する。5人程度のグループになり、課題の回答を中心に議論する。疑問点や意見・感想を課題の回答と共に入力フォームに記入して提出する。</p>	<p>(予習：3時間) 事前配布資料をよく読み、空欄に当てはまる語を考えるとともに、テーマについて理解し説明できるようにしておく。 (復習：3時間) 演習で出された課題に取り組む。</p>
5	鈴木良雄	<p>【授業内容】 テーマ： 食品摂取頻度調査法 (BDHQ) (3) BDHQで測定された集団の各栄養素の摂取状況 (不足者の割合) を評価する方法を理解する。</p>	<p>【授業方法】 BDHQの結果から受講者の各栄養素の摂取状況 (不足者の割合) の評価方法を解説する。5人程度のグループになり、課題の回答を中心に議論する。疑問点や意見・感想を課題の回答と共に入力フォームに記入して提出する。</p>	<p>(予習：3時間) 事前配布資料をよく読み、空欄に当てはまる語を考えるとともに、テーマについて理解し説明できるようにしておく。 (復習：3時間) 演習で出された課題に取り組む。</p>

6	鈴木良雄	<p>【授業内容】 テーマ： アスリートの身体組成 身体組成とその測定方法を理解する。</p>	<p>【授業方法】 身体組成とその測定方法を解説する。5人程度のグループになり、課題の回答を中心に議論する。疑問点や意見・感想を課題の回答と共に入力フォームに記入して提出する。</p>	<p>(予習：2時間) テキストの該当箇所や事前配布資料をよく読み、空欄に当てはまる語を考えるとともに、テーマについて理解し説明できるようにしておく。 (復習：2時間) 演習で出された課題に取り組む。</p>
7	鈴木良雄	<p>【授業内容】 テーマ： からだ作りとウエイトコントロール アスリートのからだづくり(筋肉、骨)とウエイトコントロールを理解する。</p>	<p>【授業方法】 アスリートのからだづくり(筋肉、骨)とウエイトコントロールを解説する。5人程度のグループになり、課題の回答を中心に議論する。疑問点や意見・感想を課題の回答と共に入力フォームに記入して提出する。</p>	<p>(予習：2時間) テキストの該当箇所や事前配布資料をよく読み、空欄に当てはまる語を考えるとともに、テーマについて理解し説明できるようにしておく。 (復習：1時間) 演習で出された課題に取り組む。 (復習：2時間) 演習で出された課題に取り組む。</p>
8	鈴木良雄	<p>【授業内容】 テーマ： トレーニングスケジュール、競技特性と食事 競技特性、エネルギー消費量、グリコーゲン補給を理解する。</p>	<p>【授業方法】 競技特性、エネルギー消費量、グリコーゲン補給を解説する。5人程度のグループになり、課題の回答を中心に議論する。疑問点や意見・感想を課題の回答と共に入力フォームに記入して提出する。</p>	<p>(予習：2時間) テキストの該当箇所や事前配布資料をよく読み、空欄に当てはまる語を考えるとともに、テーマについて理解し説明できるようにしておく。 (復習：2時間) 演習で出された課題に取り組む。</p>
9	鈴木良雄	<p>【授業内容】 テーマ： コンディショニングと栄養摂取、水分補給 コンディショニングと栄養補給、水分補給、食事計画を理解する。</p>	<p>【授業方法】 コンディショニングと栄養補給、水分補給、食事計画を解説する。5人程度のグループになり、課題の回答を中心に議論する。疑問点や意見・感想を課題の回答と共に入力フォームに記入して提出する。</p>	<p>(予習：2時間) テキストの該当箇所や事前配布資料をよく読み、空欄に当てはまる語を考えるとともに、テーマについて理解し説明できるようにしておく。 (復習：2時間) 演習で出された課題に取り組む。</p>
10	鈴木良雄	<p>【授業内容】 テーマ： 栄養欠陥に基づく疾病と対策 栄養欠陥に基づく疾病と対策を理解する。</p>	<p>【授業方法】 栄養欠陥に基づく疾病と対策を解説する。5人程度のグループになり、課題の回答を中心に議論する。疑問点や意見・感想を課題の回答と共に入力フォームに記入して提出する。</p>	<p>(予習：2時間) テキストの該当箇所や事前配布資料をよく読み、空欄に当てはまる語を考えるとともに、テーマについて理解し説明できるようにしておく。 (復習：2時間) 演習で出された課題に取り組む。</p>
11	鈴木良雄	<p>【授業内容】 テーマ： さまざまな状況下における栄養ケア 試合の前、当日、後や遠征時などさまざまな状況下における食事を理解する。</p>	<p>【授業方法】 さまざまな状況下における食事について解説する。5人程度のグループになり、課題の回答を中心に議論する。疑問点や意見・感想を課題の回答と共に入力フォームに記入して提出する。</p>	<p>(予習：2時間) テキストの該当箇所や事前配布資料をよく読み、空欄に当てはまる語を考えるとともに、テーマについて理解し説明できるようにしておく。 (復習：1時間) 演習で出された課題に取り組む。 (復習：2時間) 演習で出された課題に取り組む。</p>

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	【新カリ】スポーツコンディショニング実習	授業形態	実験・実習	
英語科目名	【新カリ】スポーツコンディショニング実習	対象学年	3年	
開講学期	2022年度後期	単位数	2単位	
代表教員	門屋 悠香	ナンバリング	TRS3313	
担当教員	門屋 悠香、高澤 祐治、中新井田 敦子、スポーツ健康科学部教員共通			
授業概要				
全体内容	<p>本科目は、実習の授業形態で行われる。コンディショニングについての概念から、その構成要素、種々のトレーニングについて理解する。また、競技種目ごとの特性を考慮したトレーニングプログラム作成に必要な評価方法等について学修し、傷害予防や競技力向上に役立てられるようにする。テーピング、スポーツマッサージ、ストレッチングの基礎についても学修する。 (オムニバス方式/全28回)</p> <p>(56 門屋悠香/16回) コンディショニングの評価と計画の方法について理解し、トレーニング計画の立案、設計ができるようにする。競技力向上、傷害予防、疲労回復のそれぞれを目的としたコンディショニングの手法を学び、冬季競技、格技系競技、記録系競技、球技系競技、採点系競技それぞれの競技環境を知り、種目特有のプログラム立案ができるようにする。</p> <p>(7 高澤祐治、95 中新井田敦子/2回) (共同) 疲労回復を目的とした方法であるスポーツマッサージについて、その資格制度と関係する法律、禁忌と適応について学ぶとともに、スポーツマッサージの適切な使用方法及びその実践ができるようになることを目標とする。</p> <p>(56 門屋悠香、95 中新井田敦子/10回) (共同) テーピングの定義・目的、有効性、注意点、基本テープについて理解した上で、足関節を例にテーピングの基本的な技能を修得する。また、基礎体力、競技種目に応じた体力、身体組成、柔軟性などのテスト方法について学び、実践ができるようにし、それらを通じて指導に生かせるようになることを目標とする。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. コンディショニングとコンディションについて説明できる。 2. コンディショニング構成因子が説明できる。 3. コンディショニングの方法について説明できる。 4. 競技特性を考慮したコンディショニング計画が作成・実演できる。 			
授業の位置づけ	この科目は、コース科目群・スポーツコーチング科学コース科目の選択科目である。また、JSP0公認スポーツ指導者養成講習会免除適応コース(AT)、JPSUスポーツトレーナー資格取得にあたっての必修科目である。			
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ科学分野の専門的な知識と技能」を身に付けるための科目として開講される。			
履修上の注意、履修要件	<p>【履修要件】 「スポーツ外傷・障害の評価と救急処置実習」を受講していることが望ましい。</p> <p>【履修上の注意(科目独自のルール)】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 1回の授業について、出席時間が3分の2に満たない場合は、欠席扱いとする 2. 遅刻及び早退については、出席と異なる扱いとする 3. 受講までにJUNTENDO PASSPORT (JPASS) での課題提出・授業資料のダウンロードができること 4. 受講までに大学アカウント (ドメイン@stud.juntendo.ac.jp) を用いて以下のアプリが使用できること <ol style="list-style-type: none"> (1) 会議アプリ「zoom」を利用したオンライン受講 (2) Google Classroomを利用した資料・課題管理 5. 受講までに以下の準備ができること <ol style="list-style-type: none"> (1) カメラ付きPCまたはタブレット (2) 文書作成ソフト(Word)、表計算ソフト(Excel)、プレゼンテーションソフト(PowerPoint) 			
成績評価の方法				
評価方法	課題レポート3回(30%)、定期試験(50%)、平常点(20%)を総合して評価する。			
評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. コンディショニングおよびコンディションの目的を説明できる(定期試験) 2. コンディショニングの3つの構成因子を説明できる(定期試験) 3. コンディショニングの禁忌と適応について説明できる(定期試験) 4. 競技特性を考慮したコンディショニング計画が作成・実演できる(レポート) 5. 授業中や予習・復習の取組状況によって授業態度を評価する(平常点) 			
試験・課題に対するフィードバック方法				
授業中に課す小テストや課題については、授業内で解説をおこなう。 定期試験については、JUNTENDO PASSPORT (JPASS) を使って解説する。				
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考文献				
<p>【テキスト・参考書等】</p> <p>・日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト (6) 予防とコンディショニング 上記テキストは参考書であり、必ず用意する必要はありません。 その他、授業中に適宜、資料を配布します。</p>				
その他				

<p>連絡先・オフィスアワー</p>	<p>【連絡先】 担当：門屋 悠香 全てJUNTENDO PASSPORT (JPASS) のクラスプロフィール>「Q&A」にて対応します。 その他の連絡先は授業内でお知らせします。</p> <p>【オフィスアワー】 日時：金曜日10：20～12：50 場所：1号館5階1503号室（アスレティックトレーニング学研究室）</p> <p>質問や相談は予約のあった学生を優先します。他の学生との重複を避けるためできるだけ事前にJUNTENDO PASSPORT (JPASS) のクラスプロフィール>「Q&A」で予約してください。 その他の連絡先は授業内でお知らせします。</p>			
<p>担当教員の実務経験</p>	<p>JSP0-ATのうち、鍼灸マッサージ師の国家資格を有する者が、マッサージを担当する。</p>			
<p>備考</p>	<p>【学修時間】 この授業は、実習の授業形態による2単位の科目であり、90時間（授業時間60時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。 なお、授業計画の1回の授業は2コマ（100分×2時間）分として示している。</p> <p>【その他】 受講人数が60人を超える場合には、抽選の実施または授業方法の変更をおこなうことがあります。 抽選の場合、JSP0-AT取得者および「スポーツ外傷・障害の評価と救急処置実習」履修者を優先します。</p> <p>この授業科目は、以下の資格取得の要件となっています。 ・JSP0（日本スポーツ協会）AT（アスレティックトレーナー）：7. 予防とコンディショニング ・JPSU（全国体育スポーツ系大学協議会）スポーツトレーナー</p> <p>また、新型コロナウイルス感染症の発生状況に応じて、成績評価の基準、方法及び授業計画を変更する場合があります。</p>			
<p>授業計画</p>				
<p>授業回</p>	<p>担当者</p>	<p>授業内容</p>	<p>授業方法 *</p>	<p>予習・復習・レポート課題等と学習時間</p>
<p>1・2</p>	<p>門屋悠香</p>	<p>【授業内容】 (1) コンディショニングとは (2) コンディショニングの要素（管理と把握） コンディショニングの目的について、理解を深める。 コンディショニングの構成因子について理解を深める。</p> <p>【授業方法】 コンディショニングの目的について解説する。 コンディショニングを構成する要素（身体的因子・環境的因子・心因的因子）について解説する。 グループワーク：アスリートが望むコンディショニングを挙げ、コンディショニングを因子別に分類する。</p>	<p>講義 グループワーク</p>	<p>（予習：1h） コンディショニングを構成する因子について調べる</p> <p>（復習：1h） コンディショニングを構成する3つの因子について整理、復習する</p>
<p>3・4</p>	<p>門屋悠香</p>	<p>【授業内容】 コンディショニングの評価法について理解を深める。</p> <p>【授業方法】 コンディションの評価指標とその評価法について解説する。 ワークシート：設定した競技に必要な評価項目をまとめる。 ペアになり、評価方法の実習をおこなう。</p>	<p>実習</p>	<p>（予習：1h） コンディションの評価指標について調べる</p> <p>（復習：1h） コンディションの評価方法について整理、確認する</p>
<p>5・6</p>	<p>門屋悠香 中新井田敦子</p>	<p>【授業内容】 トレーニング計画とコンディショニングについて理解を深める。</p> <p>【授業方法】 ①トレーニングの基礎や原則について解説する。 ②ピリオダイゼーション、トレーニングカテゴリーについて解説する。 ワークシート：設定した競技のトレーニング計画を作成する。 ペアで実演・評価する。</p>	<p>実習</p>	<p>（予習：1h） レポート課題 「トレーニングの原則について」</p> <p>（復習：1h） ピリオダイゼーションについて整理し、スポーツ競技に当てはめて確認する</p>
<p>7・8</p>	<p>門屋悠香 中新井田敦子</p>	<p>【授業内容】 競技力（パフォーマンス）向上を目的としたコンディショニングの方法と実際について理解を深める。</p> <p>【授業方法】 筋力トレーニング、エアロビクストレーニング、コーディネーショントレーニング、スタビリティトレーニング、アジリティトレーニングについて概説するとともに、実施上の注意点についても解説する ワークシート：設定した競技のトレーニングメニューを作成する ペアで実演・評価する。</p>	<p>実習</p>	<p>（予習：2h） レポート課題 「コーディネーション、スタビリティ、アジリティについて共通点と相違点をまとめる」</p> <p>（復習：1h） それぞれのトレーニングの特徴、実施上の注意などについて確認する</p>
<p>9・10</p>	<p>門屋悠香 中新井田敦子</p>	<p>【授業内容】 傷害予防を目的としたコンディショニングの方法と実際① ストレッチングについて理解を深める。</p> <p>【授業方法】 ストレッチングの概略について解説する。 グループワーク：作成したトレーニングメニューを発表し、振り返りシートを作成する。</p>	<p>実習 グループワーク</p>	<p>（予習：1h） ストレッチングの種類について調べる</p> <p>（復習：1h） ストレッチの原則および実施上の注意点について確認する</p>

11・12	門屋悠香 中新井田敦子	<p>【授業内容】 傷害予防を目的としたコンディショニングの方法と実際②テーピング総論 テーピングについて理解を深める。</p> <p>【授業方法】 テーピングの目的、効果、科学的根拠、注意事項などについて解説する。 ペアになり、テーピングの基本的な方法を体験する。</p>	実習	<p>(予習: 1h) テーピングの目的、効果について調べる</p> <p>(復習: 1h) テーピング全般にわたる注意事項などについて整理する</p>
13・14	門屋悠香 中新井田敦子	<p>【授業内容】 傷害予防を目的としたコンディショニングの方法と実際③テーピング各論 足関節内返し捻挫予防のテーピングを体験・学習する。</p> <p>【授業方法】 足関節内返し捻挫予防のテーピングについて解説・実演する。 評価シートをもとに、ペアで実施・評価する。</p>	実習	<p>(予習: 1h) 足関節捻挫について調べる</p> <p>(復習: 1h) 足関節内返し捻挫に対するテーピングを行なう際の注意点およびその方法について確認する</p>
15・16	門屋悠香 中新井田敦子	<p>【授業内容】 疲労回復を目的としたコンディショニングの方法と実際①スポーツマッサージ スポーツマッサージについて理解を深める。</p> <p>【授業方法】 スポーツマッサージの定義、分類、各種手技、注意点について解説する。 ペアになり、マッサージの基本的な手技を体験する。</p>	実習	<p>(予習: 1h) スポーツマッサージの分類、各種手技などについて調べる</p> <p>(復習: 1h) スポーツマッサージ全般にわたる注意点などについて整理し、確認する</p>
17・18	門屋悠香	<p>【授業内容】 疲労回復を目的としたコンディショニングの方法と実際②アイシング、アクアコンディショニングについて理解を深める。</p> <p>【授業方法】 アクアコンディショニングの概略について解説する。 ワークシート: 提示した情報をもとに、競技別アクアコンディショニングメニューを作成する。 ペアで実演・評価する。</p>	実習	<p>(予習: 1h) 水の物理的特性、水中での運動の利点について調べる</p> <p>(復習: 1h) 水中での運動および実施の際の注意点について整理する</p>
19・20	門屋悠香	<p>【授業内容】 ウォーミングアップとクーリングダウンの方法と実際について理解を深める。</p> <p>【授業方法】 ウォーミングアップとクーリングダウンの意義、効果、その方法について解説する。 グループワーク: 作成したコンディショニングメニューを発表し、振り返りシートを作成する。</p>	実習 グループワーク	<p>(予習: 1h) ウォーミングアップとクーリングダウンの重要性について調べる</p> <p>(復習: 1h) ウォーミングアップ、クーリングダウンの意義、効果、その方法について復習する</p>
21・22	門屋悠香	<p>【授業内容】 フィットネス(基礎体力)チェックの方法と実際について理解を深める。</p> <p>【授業方法】 筋力、筋持久力、筋パワーなどの基礎体力の測定について解説する。 ワークシート: 設定した競技のフィジカルテストリストを作成する。 グループで実演・評価する。</p>	実習	<p>(予習: 1h) 筋力の測定方法について調べる</p> <p>(復習: 2h) 基礎体力全般の測定方法について整理する</p>
23・24	門屋悠香	<p>【授業内容】 (1) フィールド(専門体力)テストの方法と実際について理解を深める。 (2) 身体(組成)測定、柔軟性テストの方法と実際について理解を深める。</p> <p>【授業方法】 フィールド(専門体力)テスト、身体組成の測定、柔軟性テストなどについて解説する。 ワークシート: 設定した競技のフィールドテストを作成する。 グループで実演・評価する。</p>	実習 グループワーク	<p>(予習: 1h) 柔軟性、弛緩性、不安定性の違いを調べる</p> <p>(復習: 1h) 専門体力テストを項目ごとに整理する</p>
25・26	門屋悠香	<p>【授業内容】 競技種目特性とコンディショニング① 競技種目特性を考慮したとコンディショニングについて理解を深める</p> <p>【授業方法】 記録計競技、採点系競技の競技特性と障害要因について解説する。 ワークシート: これまでのワークシートを整理し、大学4年間のコンディショニング計画を作成する。</p>	実習 演習	<p>(予習: 2h) 指定された競技種目からひとつを選択し、レポートを作成するレポート課題 「競技特性と発生するスポーツ外傷・障害」</p> <p>(復習: 1h) 異なる競技の特性の違いを整理し、確認する</p>

科目名	【新カリ】アスレティックリハビリテーション実習	授業形態	実験・実習	
英語科目名	【新カリ】アスレティックリハビリテーション実習	対象学年	4年	
開講学期	2022年度後期	単位数	2単位	
代表教員	門屋 悠香	ナンバリング	TRM4316	
担当教員	門屋 悠香、鹿倉 二郎、高澤 祐治、中新井田 敦子、スポーツ健康科学部教員共通			
授業概要				
全体内容	<p>本科目は、実習の授業形態で行われる。アスリートに対するリハビリテーションでは、競技特性を理解した上で安全かつ早期の競技復帰は重要な課題であるが、そのためには的確な情報収集と評価に基づくリハビリテーションが必要である。運動とスポーツ傷害の関係を身体の構造、機能の面から学修し、具体的なスポーツ外傷・障害を想定した模擬症例を通して、段階的プロトコールに基づくアスレティックリハビリテーションの実施と指導方法を学ぶ。 (オムニバス方式/全28回)</p> <p>(56 門屋悠香/4回) アスレティックリハビリテーションの進行に必要な競技種目特性の捉え方を理解する。各競技種目で要する動作の特性、動作の遂行に要する機能的要素、各競技種目で要する体力的な特性、各競技種目における外傷発生機転、各競技種目に復帰するに当たった機能的、体力的到達目標を対象者に説明できるようにする。</p> <p>(7 高澤祐治, 56 門屋悠香/4回) (共同) アスレティックリハビリテーションの概要及び物理療法・補装具について解説し、実習を行う。物理療法、温熱療法、寒冷療法、各種電気療法、超音波療法、水治療などについて、その使用目的、各種物理療法の名称及び適応と禁忌を理解する。加えて、補装具や足底挿板、松葉杖の使用目的及び使用に関する適応と禁忌を理解する。</p> <p>(54 門屋悠香, 95 中新井田敦子, 105 鹿倉二郎/20回) (共同) 代表的なスポーツ外傷・障害について、アスレティックリハビリテーションの段階的プロトコールを理解し、模擬症例に対して実習を行う。各疾患の病態を理解し、それに対するアスレティックリハビリテーションの過程と内容、医師から得ておくべき医学的情報、情報収集、機能評価、プログラミング、リスク管理を学び、各疾患の段階的プロトコールに沿ったアスレティックリハビリテーションが実践できるようにする。また、スポーツ復帰の目安を明確にして、対象者に説明できるようにする。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 代表的なスポーツ傷害について、受傷機転が理解できる。 2. 代表的なスポーツ動作について、関節の動き（アライメント）が理解できる。 3. アスレティックリハビリテーションの指導に際し、整理しておくべき情報を説明できる。 4. アスレティックリハビリテーションプログラムが作成できる。 			
授業の位置づけ	この科目は、コース科目群・スポーツコーチング科学コース科目の選択科目である。また、JSP0公認スポーツ指導者養成講習会免除適応コース（AT）の必修科目である。			
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ科学分野の専門的な知識と技能」を身に付けるための科目として開講される。			
履修上の注意、履修要件	<p>【履修要件】 以下の科目を受講していることが望ましい (1) スポーツ外傷・障害の評価と救急処置実習 (2) スポーツコンディショニング実習 (3) アスレティックトレーニング実習 (4) アスレティックトレーナー総論</p> <p>【履修上の注意（科目独自のルール）】 1. 1回の授業について、出席時間が3分の2に満たない場合は、欠席扱いとする 2. 遅刻及び早退については、出席と異なる扱いとする 3. 受講までにJUNTENDO PASSPORT（JPASS）での課題提出・授業資料のダウンロードができること 4. 受講までに大学アカウント（ドメイン@stud.juntendo.ac.jp）を用いて以下のアプリが使用できること (1) 会議アプリ「zoom」を利用したオンライン受講 (2) Google Classroomを利用した資料・課題管理 5. 受講までに以下の準備ができること (1) カメラ付きPCまたはタブレット (2) 文書作成ソフト（Word）、表計算ソフト（Excel）、プレゼンテーションソフト（PowerPoint）</p>			
成績評価の方法				
評価方法	課題レポート4回（40%）、定期試験（40%）、平常点（20%）を総合して評価する。			
評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医師から得ておくべき医学的情報を説明できる（定期試験） 2. 医師以外にも可能な情報収集の具体的項目と収集方法について説明できる（定期試験） 3. 特に注意を要する患部のリスク管理について、具体的に述べることができる（レポート） 4. 競技特性を考慮したアスレティックリハビリテーションプログラムが作成できる（レポート） 5. 授業中や予習・復習の取組状況によって授業態度を評価する（平常点） 			
試験・課題に対するフィードバック方法				
授業中に課す小テストや課題については、授業内で解説をおこなう。 定期試験については、JUNTENDO PASSPORT（JPASS）を使って解説する。				
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考文献				

<p>【テキスト・参考書等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト (7) アスレティックリハビリテーション <p>上記テキストは参考書であり、必ず用意する必要はありません。 その他、授業中に適宜、資料を配布します。</p>				
その他				
連絡先・オフィスアワー		<p>【連絡先】 担当：門屋 悠香 全てJUNTENDO PASSPORT (JPASS) のクラスプロファイル>「Q&A」にて対応します。 その他の連絡先は授業内でお知らせします。</p> <p>【オフィスアワー】 日時：金曜日10：20～12：50 場所：1号館5階1503号室（アスレティックトレーニング学研究室）</p> <p>質問や相談は予約のあった学生を優先します。他の学生との重複を避けるためできるだけ事前にJUNTENDO PASSPORT (JPASS) のクラスプロファイル>「Q&A」で予約してください。 その他の連絡先は授業内でお知らせします。</p>		
担当教員の実務経験		JSP0-AT資格を有する者、JSP0-AT資格に加え理学療法士または鍼灸マッサージ師のいずれかの国家資格を有する者が、アスレティックリハビリテーションを担当する。		
備考		<p>【学修時間】 この授業は、実習の授業形態による2単位の科目であり、90時間（授業時間60時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。 なお、授業計画の1回の授業は2コマ（100分×2時限）分として示している。</p> <p>【その他】 受講人数が60人を超える場合には、抽選の実施または授業方法の変更をおこなうことがあります。 抽選の場合、JSP0-AT取得者および「履修要件」科目履修者を優先します。</p> <p>この授業科目は、以下の資格取得の要件となっています。 ・JSP0（日本スポーツ協会）AT（アスレティックトレーナー）：8. アスレティックリハビリテーション ・健康・体力づくり財団 健康運動指導士</p> <p>また、新型コロナウイルス感染症の発生状況に応じて、成績評価の基準、方法及び授業計画を変更する場合があります。</p>		
授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1・2	門屋悠香 高澤祐治	<p>【授業内容】 (1) アスレティックリハビリテーションの概要について理解を深める。 (2) 物理療法について理解を深め、物理療法を体験・学習する。</p> <p>【授業方法】 電気刺激療法、超音波療法について概説するとともに、意義、目的、効果について解説する。 ペアで物理療法を体験する。</p>	実習	<p>(予習：1h) ①シラバスにて授業内容を確認する ②物理療法で用いる機器を調べる</p> <p>(復習：1h) 電気刺激療法、超音波療法の適応と禁忌について整理する</p>
3・4	門屋悠香 高澤祐治	<p>【授業内容】 補装具の使用に関する基礎知識と実践について理解を深め、体験・学習する。 足底挿板について理解を深める。</p> <p>【授業方法】 補装具使用の適応と禁忌、足底挿板について解説する。 固定・免荷を体験する。</p>	実習	<p>(予習：2h) レポート課題 「スポーツ活動中に使用する補装具と仕様ルールについてまとめる」</p> <p>(復習：1h) 医療用装具の適応について整理する</p>
5・6	門屋悠香 中新井田敦子 鹿倉二郎	<p>【授業内容】 アスレティックリハビリテーションの実践 ①頸椎捻挫、腰部疾患のアスレティックリハビリテーションについて体験・学習する。</p> <p>【授業方法】 頸椎捻挫、腰部疾患のアスレティックリハビリテーションについて解説する ペアでアスレティックリハビリテーションメニューを実施・評価する</p>	実習	<p>(予習：2h) レポート課題 「腰椎椎間板ヘルニア、腰椎分離症、筋膜性腰痛の違いをまとめる」</p> <p>(復習：1h) 腰部疾患のリスク管理とスポーツ動作における注意点を整理する</p>
7・8	門屋悠香 中新井田敦子 鹿倉二郎	<p>【授業内容】 アスレティックリハビリテーションの実践 ②肩関節前方脱臼、投球障害肩のアスレティックリハビリテーションについて体験・学習する。</p> <p>【授業方法】 肩関節前方脱臼、投球障害肩のアスレティックリハビリテーションについて解説する ペアでアスレティックリハビリテーションメニューを実施・評価する</p>	実習	<p>(予習：1h) 肩関節の機能解剖を確認する</p> <p>(復習：1h) 肩関節前方脱臼のリスク管理とスポーツ動作における注意点を整理する</p>

9・10	門屋悠香 中新井田敦子 鹿倉二郎	<p>【授業内容】 アスレティックリハビリテーションの実践 ③外傷性肘MCL損傷、その他肘関節傷害のアスレティックリハビリテーションについて体験・学習する。</p> <p>【授業方法】 外傷性肘MCL損傷、その他肘関節傷害のアスレティックリハビリテーションについて解説する ペアでアスレティックリハビリテーションメニューを実施・評価する</p>	実習	<p>(予習: 1h) 驚足を構成する機能解剖について調べる</p> <p>(復習: 1h) 外傷性肘MCL損傷のリスク管理とスポーツ動作における注意点を整理する</p>
11・12	門屋悠香 中新井田敦子 鹿倉二郎	<p>【授業内容】 アスレティックリハビリテーションの実践 ④手関節捻挫 ほかのアスレティックリハビリテーションについて体験・学習する。</p> <p>【授業方法】 手関節捻挫のアスレティックリハビリテーションについて解説する ペアでアスレティックリハビリテーションメニューを実施・評価する</p>	実習	<p>(予習: X時間) 手関 節の圧痛点とランドマークを確認する</p> <p>(復習: 1時間) レポート課題 「3回～6回の復習テストを作成する」</p>
13・14	門屋悠香 中新井田敦子 鹿倉二郎	<p>【授業内容】 アスレティックリハビリテーションの実践 ⑤足関節捻挫ほかのアスレティックリハビリテーションについて体験・学習する。</p> <p>【授業方法】 足関節捻挫のアスレティックリハビリテーションについて解説する ペアでアスレティックリハビリテーションメニューを実施・評価する</p>	実習	<p>(予習: 1h) knee-in & toe-out, knee-out & toe-inにおける下肢の関節の動きを調べる</p> <p>(復習: 1h) 足関節内がえし捻挫のリスク管理とスポーツ動作における注意点を整理する</p>
15・16	門屋悠香 中新井田敦子 鹿倉二郎	<p>【授業内容】 アスレティックリハビリテーションの実践 ⑥膝内側側副靭帯損傷ほかのアスレティックリハビリテーションについて体験・学習する。</p> <p>【授業方法】 膝内側側副靭帯損傷のアスレティックリハビリテーションについて解説する ペアでアスレティックリハビリテーションメニューを実施・評価する</p>	実習	<p>(予習: 1h) 膝関節の圧痛点とランドマークを確認する</p> <p>(復習: 1h) 膝内側側副靭帯損傷のリスク管理とスポーツ動作における注意点を整理する</p>
17・18	門屋悠香 中新井田敦子 鹿倉二郎	<p>【授業内容】 アスレティックリハビリテーションの実践 ⑦膝前十字靭帯損傷 ほか</p> <p>【授業方法】 膝前十字靭帯損傷のアスレティックリハビリテーションについて解説する ペアでアスレティックリハビリテーションメニューを実施・評価する</p>	実習	<p>(予習: 1h) 膝前十字靭帯の機能解剖を確認する</p> <p>(復習: 1h) 膝前十字靭帯損傷のリスク管理とスポーツ動作における注意点を整理する</p>
19・20	門屋悠香 中新井田敦子 鹿倉二郎	<p>【授業内容】 アスレティックリハビリテーションの実践 ⑧大腿屈筋肉ばなれ ほかのアスレティックリハビリテーションについて体験・学習する。</p> <p>【授業方法】 大腿屈筋肉ばなれのアスレティックリハビリテーションについて解説する ペアでアスレティックリハビリテーションメニューを実施・評価する</p>	実習	<p>(予習: 1h) ハムストリングスの機能解剖を確認する</p> <p>(復習: 1h) 大腿屈筋肉ばなれのリスク管理とスポーツ動作における注意点を整理する</p>
21・22	門屋悠香 中新井田敦子 鹿倉二郎	<p>【授業内容】 アスレティックリハビリテーションの実践 ⑨扁平足障害（過回内足傷害）、脛骨過労性骨障害のアスレティックリハビリテーションについて体験・学習する。</p> <p>【授業方法】 扁平足障害（過回内足傷害）、脛骨過労性骨障害のアスレティックリハビリテーションについて解説する ペアでアスレティックリハビリテーションメニューを実施・評価する</p>	実習	<p>(予習: 1h) ウインドラス機構について調べる</p> <p>(復習: 1h) 扁平足障害のリスク管理とスポーツ動作における注意点を整理する</p>
23・24	門屋悠香 中新井田敦子 鹿倉二郎	<p>【授業内容】 アスレティックリハビリテーションの実践 ⑩驚足炎、膝蓋大腿関節障害のアスレティックリハビリテーションについて体験・学習する。</p> <p>【授業方法】 驚足炎、膝蓋大腿関節障害のアスレティックリハビリテーションについて解説する ペアでアスレティックリハビリテーションメニューを実施・評価する</p>	実習	<p>(予習: 1h) 驚足の機能解剖を確認する</p> <p>(復習: 1h) 驚足炎のリスク管理とスポーツ動作における注意点を整理する</p>

科目名	【新カリ】スポーツの生理学・生化学			授業形態	講義
英語科目名	【新カリ】スポーツの生理学・生化学			対象学年	3年
開講学期	2022年度前期			単位数	2単位
代表教員	町田 修一			ナンバリング	PSL3317
担当教員	町田 修一、内藤 久士、鈴木 良雄、スポーツ健康科学部教員共通				
授業概要					
全体内容	本科目は、講義の授業形態で行われる。スポーツの競技や種目の特性について、主に生理・生化学的な観点から理解を深めることを目的に体系的に講義を行う。まず総論として、スポーツ全般に関わる普遍的な運動生理・生化学的事象について、また各論としてそれぞれの競技種目別の生理学的、生化学的特性や選手の身体的体的特徴などについて説明する。スポーツ健康科学の幅広い知識と教養に基づき、各種スポーツの競技力向上に必要とされるトレーニングやその指導に応用できる力を身に付けることを目標とする。				
到達目標	1. スポーツの実践や指導に生理・生化学的知識を応用することの意義を理解し、その能力を涵養する。 2. 科学的トレーニングおよびスポーツ指導のための理論的根拠を確立する。				
授業の位置づけ	この科目は、コース科目群・スポーツ医科学コース科目の必修科目である。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「医学的知識を備えたスポーツ指導者の育成」、「スポーツ指導現場に詳しいスポーツ医科学研究者の育成」という学位授与方針の達成に寄与する。				
履修上の注意、履修要件	【履修要件】 この講義はスポーツ医科学コースの必修科目である。講義の単位取得は、教室内での時間の2倍の時間が予習と復習に当てられ、かつ試験に合格することが前提となっているので、予習復習を欠かさないようにしてもらいたい。なお、履修は運動生理学を履修済みであること。				
成績評価の方法					
評価方法	小テスト(30%)、課題レポート(10%)、定期試験(60%)を総合して評価する。				
評価基準	1. 種々のスポーツを生理学・生化学的側面から正しく理解している(定期試験、課題レポート)。 2. トレーニングや種々のスポーツを生理学・生化学的側面から正しく理解し、知識として身に付けているか(小テスト)				
試験・課題に対するフィードバック方法					
小テストの解答やレポート課題の模範解答については、講義形式で解説を行う。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考文献					
参考図書として、スポーツ指導者に必要な生理学と運動生理学の知識(市村出版)、健康・体力のための運動生理学(杏林書院)、パワーズ運動生理学(メディカル・サイエンス・インターナショナル)ほか、適宜指示する。					
その他					
連絡先・オフィスアワー	【連絡先】 内藤 1号館 1階 運動生理学研究室 (1117号室) 連絡先: hnaitou [at] juntendo.ac.jp 町田 1号館 1階 運動生理学研究室 (1118号室) 連絡先: achidas [at] juntendo.ac.jp 吉原 1号館 1階 運動生理学実験室 連絡先: t-yoshih [at] juntendo.ac.jp ※ [at] を@に変更してください。 【オフィスアワー】 内藤: 月曜日曜日10時30分から12時30分(事前にメールなどで予約することを推奨します) 町田: 月曜日10時から12時(事前にメールなどで予約することを推奨します) 吉原: 月曜日昼休み(事前にメールなどで予約することを推奨します)				
担当教員の実務経験					
備考	【学修時間】 この授業は、講義の授業形態による2単位の科目であり、授業30時間と準備学習60時間の計90時間の学修を必要とする内容をもって構成する。1回の授業時間は100分とする。 【その他】 この授業科目は、以下の資格取得の要件となっています。 健康・体力づくり財団 健康運動指導士				
授業計画					
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間	
1	内藤久士 町田修一 吉原利典	ガイダンス: スポーツ生理学を定義するとともに、講義日程、内容、履修上の注意点に触れ、スムーズな単位取得に向けてのガイダンスを行う。また、ビデオ等を用いて今後の講義に対する動機付けを行う。	ビデオ、スライド、配付資料を用いて講義(ガイダンス)を行う。	(復習: 4時間) 配布資料を熟読しておく。履修登録が確実に終わっているか再確認しておく。	

2	内藤久士 町田修一 吉原利典	トレーニング方法の生理学的根拠：トレーニングの原理・原則を構成する生理学的事実について触れ、トレーニングを科学的立場から理解できるように、代表的なトレーニングの生理学的特徴および根拠を説明する。	スライドと配付資料を用いて講義を行う。	(予習：1時間) 左記の授業内容について、運動生理学で学習したことを復習し、説明できるようにしておく。 (復習：3時間) 配付資料に基づいて、左記の授業内容部分に出てくる専門用語等をテキストや参考書でよく調べ理解し、説明できるようにしておく。小テストのための準備をしておく。
3	内藤久士 町田修一 吉原利典	スポーツと休養・疲労：トレーニングの効果は、「超回復」が時空的に加重された結果である。スポーツやトレーニングにおける休養の意義と疲労回復促進手段としての栄養補給、休養、睡眠、温浴、マッサージなどについて説明する。	スライドと配付資料を用いて講義を行う。	(予習：1時間) 左記の授業内容について、運動生理学で学習したことを復習し、説明できるようにしておく。 (復習：3時間) 配付資料に基づいて、左記の授業内容部分に出てくる専門用語等をテキストや参考書でよく調べ理解し、説明できるようにしておく。小テストのための準備をしておく。
4	内藤久士 町田修一 吉原利典	スポーツと年齢および性：運動に対する生理機能の応答および適応の性・年齢別特徴を明らかにし、発育期および高齢期における正しいトレーニングの方法について説明する。	スライドと配付資料を用いて講義を行う。	(予習：1時間) 左記の授業内容について、運動生理学で学習したことを復習し、説明できるようにしておく。 (復習：3時間) 配付資料に基づいて、左記の授業内容部分に出てくる専門用語等をテキストや参考書でよく調べ理解し、説明できるようにしておく。小テストのための準備をしておく。
5	内藤久士 町田修一 吉原利典	ウォーム・アップの生理学的基礎：ウォーム・アップ（準備運動）の生理学的な意義を理解できるように、ウォーム・アップによって期待されるパフォーマンスの向上、トレーニングの効率化、傷害予防などについて説明する。	スライドと配付資料を用いて講義を行う。	(予習：1時間) 左記の授業内容について、運動生理学で学習したことを復習し、説明できるようにしておく。 (復習：3時間) 配付資料に基づいて、左記の授業内容部分に出てくる専門用語等をテキストや参考書でよく調べ理解し、説明できるようにしておく。小テストのための準備をしておく。
6	内藤久士 町田修一 吉原利典	クール・ダウンの生理学的基礎：クール・ダウン（整理運動）の生理学的な意義を理解できるように、クール・ダウンによって期待される運動やスポーツ後の疲労回復の促進や傷害の危険防止について説明する。	スライドと配付資料を用いて講義を行う。	(予習：1時間) 左記の授業内容について、運動生理学で学習したことを復習し、説明できるようにしておく。 (復習：3時間) 配付資料に基づいて、左記の授業内容部分に出てくる専門用語等をテキストや参考書でよく調べ理解し、説明できるようにしておく。小テストのための準備をしておく。
7	内藤久士 町田修一 吉原利典	競技記録の生理学的基礎：競技記録を規定する生理学的因子としての、エネルギー出力、筋力や筋線維組成、神経筋協調能、形態要素としての体格などの因子について例をあげながら説明する。	スライドと配付資料を用いて講義を行う。	(予習：1時間) 左記の授業内容について、運動生理学で学習したことを復習し、説明できるようにしておく。 (復習：3時間) 配付資料に基づいて、左記の授業内容部分に出てくる専門用語等をテキストや参考書でよく調べ理解し、説明できるようにしておく。小テストのための準備をしておく。
8	内藤久士 町田修一 吉原利典	環境とトレーニング：温度、気圧などの環境条件の変化による生理学的応答・適応について説明する。特に、最近注目されている高所トレーニングを題材にし、その理解を深める	スライドと配付資料を用いて講義を行う。	(予習：1時間) 左記の授業内容について、運動生理学で学習したことを復習し、説明できるようにしておく。 (復習：3時間) 配付資料に基づいて、左記の授業内容部分に出てくる専門用語等をテキストや参考書でよく調べ理解し、説明できるようにしておく。小テストのための準備をしておく。
9	内藤久士 町田修一 吉原利典	陸上競技の生理学1-短距離走：短距離走選手の体格や体力、練習時や試合時の心拍数応答、運動強度およびエネルギー消費量、ランニング時のエネルギー供給系などを通して、これらの種目の持つ生理学・生化学的特性の説明を行う。	スライドと配付資料を用いて講義を行う。	(予習：1時間) 左記の授業内容について、運動生理学で学習したことを復習し、説明できるようにしておく。 (復習：3時間) 配付資料に基づいて、左記の授業内容部分に出てくる専門用語等をテキストや参考書でよく調べ理解し、説明できるようにしておく。小テストのための準備をしておく。
10	内藤久士 町田修一 吉原利典	陸上競技の生理学2-中長距離走：中長距離選手の体格や体力、練習時や試合時の心拍数応答、運動強度およびエネルギー消費量、ランニング時のエネルギー供給系などを通して、これらの種目の持つ生理学・生化学的特性の説明を行う。	スライドと配付資料を用いて講義を行う。	(予習：1時間) 左記の授業内容について、運動生理学で学習したことを復習し、説明できるようにしておく。 (復習：3時間) 配付資料に基づいて、左記の授業内容部分に出てくる専門用語等をテキストや参考書でよく調べ理解し、説明できるようにしておく。小テストのための準備をしておく。

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	【新カリ】スポーツ医科学基礎演習			授業形態	演習
英語科目名	【新カリ】スポーツ医科学基礎演習			対象学年	3年
開講学期	2022年度前期			単位数	2単位
代表教員	鈴木 宏哉			ナンバリング	SPM3319
担当教員	鈴木 宏哉、河村 剛光、川田 裕次郎、スポーツ健康科学部教員共通				
授業概要					
全体内容	本科目は、演習の授業形態で行われる。ヒトを対象としたスポーツ医科学に関する基礎的な実験・調査の実施及び実験・調査によって得られたデータの処理方法と評価に関する演習を行う。具体的には、「ヒトの形態、身体組成、運動機能」の測定と評価、ヒトの運動パフォーマンスに関わる心理的要因の理解であり、これらをレポートにまとめることを通して、スポーツ医科学に関する幅広い基礎知識とスポーツ医科学研究の基本的な考え方を学ぶ。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 形態、身体組成、運動機能の測定方法について説明することができる。 2. スポーツ心理学の基礎的な調査方法について説明することができる。 3. 数量化されたデータの集計方法について説明することができる。 4. 測定や調査で得られた知見をレポートにまとめ報告することができる。 				
授業の位置づけ	この科目は、コース科目群・スポーツ医科学コース科目の必修科目である。また、健康運動指導士認定試験受験資格取得、JPSUスポーツトレーナー資格取得にあたっての必修科目である。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学を中心とした幅広い知識と教養、及びそれらの活用能力」、「協働で課題を解決するために必要なコミュニケーション能力」、「スポーツ医科学とコーチング科学を中心としたスポーツ科学についての知識と技能」、及び「スポーツ科学の知識に基づき、現場で指導できる能力ないしは研究できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。				
履修上の注意、履修要件	この演習はスポーツ医科学コースの必修科目である。				
成績評価の方法					
評価方法	課題レポート4回(80%)・平常点(20%)によって総合的に評価する。 なお、実験実習の進行上、ふさわしくないと判断される行為は、減点の対象とします。				
評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. 形態、身体組成、運動機能の測定方法について説明することができる。(課題レポート) 2. スポーツ心理学の基礎的な調査方法について説明することができる。(課題レポート) 3. 数量化されたデータの集計方法について説明することができる。(課題レポート) 4. 測定や調査で得られた知見をレポートにまとめ報告することができる。(課題レポート) 				
試験・課題に対するフィードバック方法					
レポートのフィードバックは授業中に返却して解説を行う。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考文献					
プリントを授業の時に配布する。					
その他					
連絡先・オフィスアワー	<p>【連絡先】 鈴木宏哉: ko-suzuki[at]juntendo.ac.jp 河村 剛光: ykoumura[at]juntendo.ac.jp 川田裕次郎: yuukawa[at]juntendo.ac.jp</p> <p>【オフィスアワー】 鈴木宏哉: 木曜日 昼休み(12:00~12:50) 研究室 河村 剛光: 木曜日 昼休み(12:00~12:50) 研究室 川田裕次郎: 水曜日 昼休み(12:00~12:50) 研究室</p>				
担当教員の实務経験					
備考	<p>[学修時間] この授業は、演習の授業形態による2単位の科目であり、授業60時間と準備学修30時間の計90時間の学修を必要とする内容をもって構成する。</p> <p>[その他] 新型コロナウイルス感染症の発生状況に応じて、成績評価の基準、方法及び授業計画を変更する場合があります。</p>				
授業計画					
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間	
1	鈴木(宏) 河村 川田	オリエンテーションを行う。	演習の概要、注意点、進め方などについて説明する。	(予習:1時間) J-PASSにアップした資料をあらかじめ熟読しておく。 (復習:1時間) 授業資料にある授業計画を再度読み、実習全体の流れをつかむ。	

2	鈴木 (宏) 河村 川田	データ処理Ⅰ (平均値・標準偏差と棒グラフ) について学ぶ。	表計算ソフトを利用して、平均値・標準偏差を算出する。それらの解釈と作図表現の基本について説明する。	(予習: 1時間) データから集団の特徴を把握する方法にどのようなものがあるか調べておく。 (復習: 1時間) 表計算ソフトで計算を実行する仕組みと作図方法について整理する。
3	鈴木 (宏) 河村 川田	データ処理Ⅱ (相関係数と散布図) について学ぶ。	表計算ソフトを利用して、相関係数を算出する。その解釈と作図表現の基本について説明する。	(予習: 1時間) 量的データから関連を検討する方法にどのようなものがあるか調べておく。 (復習: 1時間) 表計算ソフトで量的データの関連を検討する方法と作図方法について整理する。
4	鈴木 (宏) 河村 川田	データ処理Ⅲ (比率・クロス集計・帯グラフ) について学ぶ。	表計算ソフトを利用して、比率を算出する。その解釈と作表・作図表現の基本について説明する。	(予習: 1時間) 質的データから関連を検討する方法にどのようなものがあるか調べておく。 (復習: 1時間) 表計算ソフトで質的データの関連を検討する方法と作表・作図方法について整理する。
5	河村 鈴木 (宏) 川田	形態計測について学ぶ。	長育、周育を測る方法について、専門的な機器等を用い、検者として実際に測定する。	(予習: 1時間) 形態計測の方法について調べておく。 (復習: 1時間) 実習で行った形態計測を習熟するまで練習する。
6	河村 鈴木 (宏) 川田	身体組成計測について学ぶ。	体脂肪率を測る方法について、複数の機器を用い、検者として実際に測定する。	(予習: 1時間) 体脂肪率の測定方法について調べておく。 (復習: 1時間) 実習で行った計測方法を習熟するまで練習する。
7	河村 鈴木 (宏) 川田	形態計測と体脂肪率のデータを用いて計測部位・計測方法の違いによる計測値の変化について学ぶ。	実習で収集したデータを利用して、集計と評価の仕方について解説する。	(予習: 1時間) 計測部位や計測方法の違いが計測値に及ぼす影響について調べておく。 (復習: 1時間) 計測したデータに基づき、レポートを作成する。
8	川田 鈴木 (宏) 河村	心理テストについて学ぶ。	頻繁に用いられる心理テストとその活用方法について解説する。	(予習: 1時間) 既存の心理テストについて調べておく。 (復習: 1時間) 実習で学習した心理テストを他者に実践する。
9	川田 鈴木 (宏) 河村	心の状態・特性と関連する要因について学ぶ。	心の状態・特性と関連する要因の調査を実施し、基本的な特徴を確認する。	(予習: 1時間) 心理の状態・特性に関連する要因について調べておく。 (復習: 1時間) 実習で調査したデータを集計し基本統計量を算出する。
10	川田 鈴木 (宏) 河村	心の状態・特性と関連する要因を検討する方法について学ぶ。	実習で収集したデータを利用して、集計と評価の仕方について解説する。	(予習: 1時間) 関連する要因の分析方法について調べておく。 (復習: 1時間) 集計したデータに基づき、レポートを作成する。
11	鈴木 (宏) 河村 川田	運動機能としてスポーツ庁新体力テスト (血圧測定を含む) について学ぶ。	スポーツ庁新体力テスト (成人用) を用い、検者として実際に測定する。	(予習: 1時間) スポーツ庁新体力テストマニュアルを事前に読んでおくこと。 (復習: 1時間) 実習で行った計測方法を習熟するまで練習する。
12	鈴木 (宏) 河村 川田	運動機能に関する様々なフィールドテストについて学ぶ。	フィールドで実施可能な運動機能テストについて、専門的な機器等を用い、検者として実際に測定する。	(予習: 1時間) フィールドで実施可能な運動機能テストについて調べておく。 (復習: 1時間) 実習で行った計測方法を習熟するまで練習する。
13	鈴木 (宏) 河村 川田	運動機能に関するテスト項目間の関連性について学ぶ。	実習で収集したデータを利用して、集計と評価の仕方について解説する。	(予習: 1時間) 運動機能を計測するテストの中で類似しているテストを調べておく。 (復習: 1時間) 計測したデータに基づき、レポートを作成する。
14	鈴木 (宏) 河村 川田	アカデミックプレゼンテーションの基礎について学ぶ。	これまでに作成したレポートをもとに、プレゼンテーションを行う。	(予習: 3時間) これまでに作成したレポートを整理し、プレゼンテーション資料の準備を行う。 (復習: 1時間) アドバイスを踏まえてプレゼンテーション資料を修正する。

科目名	【新カリ】身体機能学演習	授業形態	演習		
英語科目名	【新カリ】身体機能学演習	対象学年	4年		
開講学期	2022年度前期	単位数	2単位		
代表教員	宮本 直和	ナンバリング	PSL4321		
担当教員	宮本 直和、窪田 敦之、スポーツ健康科学部教員共通				
授業概要					
全体内容	本科目は、演習の授業形態で行われる。スポーツ科学や健康科学系学問分野の基礎知識となる「機能解剖学」で学んだ内容、特に運動器の構造と機能について、理解を深めることを目的とする。具体的には、解剖学アトラス・DVD・人体模型・MRI等の画像データなどを用いて、体幹・上肢・下肢の関節運動と骨格筋の働きについて学び、上肢では主に肩関節・肘関節・手関節の運動、下肢では股関節・膝関節・足関節を対象に学修する。また、機能解剖学に関する書籍や最新文献の抄読や討議を通して、更に理解を深める。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 運動器の構造や機能について十分に理解し、人体模型や解剖アプリを用いて説明できる。 2. MRIや超音波画像で得られた骨・筋・腱・靭帯の名称を正しく理解し、その部位・関節の構造や機能、形態について説明できる。 3. 多種多様な身体運動について、運動器の構造や機能に基づいて説明することができる。 				
授業の位置づけ	この科目は、コース科目群・スポーツ医科学コース科目の選択必修科目である。また、JSP0公認スポーツ指導者養成講習会免除適応コース(AT)の必修科目である。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学を中心とした幅広い知識と教養、及びそれらの活用能力」、「協働で課題を解決するために必要なコミュニケーション能力」、「スポーツ医科学とコーチング科学を中心としたスポーツ科学についての知識と技能」、及び「スポーツ科学の知識に基づき、現場で指導できる能力ないしは研究できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。				
履修上の注意、履修要件	特になし				
成績評価の方法					
評価方法	課題(40%)、授業内試験(40%)、平常点(20%)を総合して評価する。				
評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. 運動器の構造および機能を正しく理解し、その説明において人体模型や解剖アプリを活用できる(課題・授業内試験)。 2. MRIや超音波画像から、部位・関節の構造および機能、形態を説明できる(課題・授業内試験)。 3. 運動器の構造や機能を基に、多種多様な身体運動の仕組みを理解している(授業内試験)。 4. 授業中の発言、課題の取組状況によって授業態度を評価する(平常点)。 				
試験・課題に対するフィードバック方法					
課題についてはコメントを付けて返却するか、授業内で解説する。 試験については、要望があれば個別に解説等行なう。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考文献					
課題テキストは配布するが、以下の図書についても用意することを強く薦める。 「身体運動の機能解剖、中村千秋ほか、医道の日本社」					
その他					
連絡先・オフィスアワー	<p>宮本 【連絡先】 E-mail: n-miyamoto@juntendo.ac.jp 【オフィスアワー】 日時: 授業直後および月～金曜日の昼休み 場所: 1号館5階1514室 事前連絡・予約がなくても対応するが、他の者との面談等と重複しないようにするため、事前にE-mailで予約を取ることが望ましい。</p> <p>窪田 【連絡先】 E-mail: akubota@juntendo.ac.jp 【オフィスアワー】 日時: 授業直後もしくは木曜日の14時～16時 場所: スポーツ健康医科学研究所4階 スポーツ医学系実験室1-2 なるべく事前にe-mail等で連絡するよう心がけてほしい。</p>				
担当教員の実務経験					
備考	<p>[学修時間] この授業は、演習の授業形態による2単位の科目であり、90時間(授業30時間以上を含む)の学修を必要とする内容をもって構成する。</p> <p>[その他] この授業科目は、以下の資格取得の要件となっています。 JSP0(日本スポーツ協会)AT(アスレティックトレーナー) 新型コロナウイルス感染症の発生状況によっては、授業計画等を変更する可能性がある。</p>				
授業計画					

授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	宮本直 窪田	ガイダンス 受講する際の注意点やスケジュール等を理解する	授業の進め方や注 意点などを説明 し、グループ分け を行なう。また、 機能解剖学につい て復習する。	(予習: 2時間) 機能解剖学で学習した内容を全体的に復習して おく。 (復習: 2時間) 授業で行なった機能解剖学の復習と照らし合わ せ、不明なところはさらに調べて整理してお く。
2	宮本直 窪田	上肢①: 肩甲帯・肩関節について理解を深める	肩甲帯・肩関節の 構造や神経支配、 機能について解剖 書やアプリ、模型 を用いて学修し、 その内容を発表す る。	(予習: 2時間) 機能解剖学の授業で使用した資料やテキスト等 を見直し、肩甲帯・肩関節の構造や機能を復習 しておく。 (復習: 2時間) 授業時間内で自分が調べて発表した内容を振り 返し、不足している点や不明な点について改め て調べて、整理しておく。
3	宮本直 窪田	上肢②: 上腕部・肘関節について理解を深める	上腕部・肘関節の 構造や神経支配、 機能について解剖 書やアプリ、模型 を用いて学修し、 その内容を発表す る。	(予習: 2時間) 機能解剖学の授業で使用した資料やテキスト等 を見直し、上腕部・肘関節の構造や機能を復習 しておく。 (復習: 2時間) 授業時間内で自分が調べて発表した内容を振り 返し、不足している点や不明な点について改め て調べて、整理しておく。
4	宮本直 窪田	上肢③: 前腕部・手関節・手部について理解を深める	前腕部・手関節・ 手部の構造や神経 支配、機能につい て解剖書やアプリ 、模型を用いて 学修し、その内容 を発表する。	(予習: 2時間) 機能解剖学の授業で使用した資料やテキスト等 を見直し、前腕部・手関節・手部の構造や機能 を復習しておく。 (復習: 2時間) 授業時間内で自分が調べて発表した内容を振り 返し、不足している点や不明な点について改め て調べて、整理しておく。
5	宮本直 窪田	体幹①: 頭頸部や胸部、背部について理解を深める	頭頸部や胸部・背 部の構造や神経支 配、機能について 解剖書やアプリ、 模型を用いて学修 し、その内容を発 表する。	(予習: 2時間) 機能解剖学の授業で使用した資料やテキスト等 を見直し、頭頸部や胸部・背部の構造や機能を 復習しておく。 (復習: 2時間) 授業時間内で自分が調べて発表した内容を振り 返し、不足している点や不明な点について改め て調べて、整理しておく。
6	宮本直 窪田	体幹②: 腹部・腰部について理解を深める	腹部・腰部の構造 や神経支配、機能 について解剖書や アプリ、模型を用 いて学修し、その 内容を発表する。	(予習: 2時間) 機能解剖学の授業で使用した資料やテキスト等 を見直し、腹部・腰部の構造や機能を復習して おく。 (復習: 2時間) 授業時間内で自分が調べて発表した内容を振り 返し、不足している点や不明な点について改め て調べて、整理しておく。
7	宮本直 窪田	下肢①: 股関節について理解を深める	股関節の構造や神 経支配、機能につ いて解剖書やアプリ 、模型を用いて 学修し、その内容 を発表する。	(予習: 2時間) 機能解剖学の授業で使用した資料やテキスト等 を見直し、股関節の構造や機能を復習してお く。 (復習: 2時間) 授業時間内で自分が調べて発表した内容を振り 返し、不足している点や不明な点について改め て調べて、整理しておく。
8	宮本直 窪田	下肢②: 大腿部・膝関節について理解を深める	大腿部・膝関節の 構造や神経支配、 機能について解剖 書やアプリ、模型 を用いて学修し、 その内容を発表す る。	(予習: 2時間) 機能解剖学の授業で使用した資料やテキスト等 を見直し、大腿部・膝関節の構造や機能を復習 しておく。 (復習: 2時間) 授業時間内で自分が調べて発表した内容を振り 返し、不足している点や不明な点について改め て調べて、整理しておく。
9	宮本直 窪田	下肢③: 下腿部・足関節・足部について理解を深める	下腿部・足関節・ 足部の構造や神経 、機能について 解剖書やアプリ、 模型を用いて学修 し、その内容を発 表する。	(予習: 2時間) 機能解剖学の授業で使用した資料やテキスト等 を見直し、下腿部・足関節・足部の構造や機能 を復習しておく。 (復習: 2時間) 授業時間内で自分が調べて発表した内容を振り 返し、不足している点や不明な点について改め て調べて、整理しておく。

科目名	【新カリ】スポーツ医科学研究法Ⅱ	授業形態	演習		
英語科目名	【新カリ】スポーツ医科学研究法Ⅱ	対象学年	4年		
開講学期	2022年度前期	単位数	2単位		
代表教員	高澤 祐治	ナンバリング	SPM4322		
担当教員	高澤 祐治、河村 剛光、柳谷 登志雄、西尾 啓史、深尾 宏祐、川田 裕次郎、町田 修一、和氣 秀文、福 典之、鈴木 宏哉、宮本 直和、スポーツ健康科学部教員共通				
授業概要					
全体内容	本科目は、演習の授業形態で行われる。本授業では講義で学修したスポーツ医学系の科目について研究方法を学んでいく。スポーツ医学、生理学、運動生理学、運動生化学、バイオメカニクス、測定評価、発育発達、スポーツ心理学の研究領域から選択し、それらの理論に関する実験データの取得とデータの解釈に関する考察、ディスカッションを通して研究方法を学修する。将来、スポーツ科学研究者やスポーツ科学スタッフのようにスポーツ科学研究の専門家となっていくために必要な基礎知識と高い思考力、考察力を身に付けることを目標とする。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 四ポーツ動作あるいは身体運動に関する変数を、実験データとして正確に取得・記述することができる。 2. 各分野の講義で得た理論について、実験実習を通して、データを取得し、データを読み取ることができるようになる。 3. 測定機器の使用に習熟し、それらを用いて身体諸機能の測定を行うことができる。 4. 取得したデータをもとに、論理的な討論を行うことができる 				
授業の位置づけ	この科目は、コース科目群・スポーツ医科学コース科目の選択科目である。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	【授業の位置づけ（学位授与方針に定められている知識・能力等との関連）】 この科目は、「スポーツ健康科学を中心とした幅広い知識と強要、及びそれらの活用能力」、「協働で課題を解決するために必要なコミュニケーション能力」、「スポーツ医科学とコーチング科学を中心としたスポーツ科学についての知識と技能」、および「スポーツ科学の知識に基づき、現場で指導できる能力ないしは研究できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。				
履修上の注意、履修要件	【履修要件】 この科目はスポーツ医科学コースの選択必修科目である。 スポーツ医科学基礎演習、スポーツ医科学総合実験実習、スポーツ医科学研究法Ⅰを履修すること。 本授業では、複数の分野から2分野を選択するため、受講生は選択する分野の講義を事前に履修して、基礎知識に関しては有してあること。				
成績評価の方法					
評価方法	【成績評価の方法】 課題レポート（60%）、平常点（30%）、筆記試験（10%）によって総合的に評価する。なお、実験実習や演習の進行上、無気力な行為やふざけくさくさしないと判断される行為は減点の対照とします。				
評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. 身体諸機能の運動に関わる特性を正確に記述することができる（レポート）。 2. 実験実習を通じて、講義で得た知識を説明することができる（レポート）。 3. 測定機器の使用に習熟し、身体諸機能の測定を行うことができる（レポート、平常点） 4. 取得したデータを科学的に処理し、それをもとに論理的な討論を行うことができる（レポート） 				
試験・課題に対するフィードバック方法					
課題レポートは授業において返却する。返却されるレポートには個別に修正すべき点を明記するので、その内容に沿ってレポートの修正を求める。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考文献					
【テキスト・参考書等】 各分野を担当する教員により適宜指示する。					
その他					
連絡先・オフィスアワー	<p>【連絡先】 福典之：nfuku[at]juntendo.ac.jp 柳谷登志雄：tyanagi[at]juntendo.ac.jp 高澤祐治：ytakaza[at]juntendo.ac.jp 深尾宏祐：fukao777[at]juntendo.ac.jp 鈴木宏哉：ko-suzuki[at]juntendo.ac.jp 河村剛光：ykoumura[at]juntendo.ac.jp 和氣秀文：hwaki[at]juntendo.ac.jp 川田裕次郎：yuukawa[at]juntendo.ac.jp 町田修一：machidas[at]juntendo.ac.jp 吉原利典：t-yoshih[at]juntendo.ac.jp</p> <p>【オフィスアワー】 福典之：月曜日昼休み・研究室 柳谷登志雄：月曜日昼休み・研究室 高澤祐治：月曜日昼休み・研究室 深尾宏祐：月曜日昼休み・研究室 鈴木宏哉：月曜日昼休み・研究室 河村剛光：月曜日昼休み・研究室 和氣秀文：月曜日昼休み・研究室 川田裕次郎：月曜日昼休み・研究室 町田修一：月曜日昼休み・研究室 福典之：月曜日昼休み・研究室 吉原利典：月曜日昼休み・研究室</p>				

担当教員の実務経験				
備考		<p>【学修時間】 この授業は、演習の授業形態による2単位の科目であり、授業時間30時間と準備学習60時間の系90時間の学修を必要とする内容をもって構成する。</p> <p>【その他】 受講生は受講期間に10名の担当教員が担当する分野（10分野）から任意の2分野を自由選択して、それらを前半（第2回目から第7回目）と後半（第8回目から13回目）で受講する。なお、前半と後半で同じ分野を選択することは出来ないものとする。</p>		
授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	福柳谷 高澤 深尾 鈴木 河村 和気 川田 町田 吉原	ガイダンス：単位取得上の諸注意、授業展開の概要を述べるとともに、スポーツ医学研究法の各分野に関する知識を深めることがスポーツ健康科学の学習と実践においてどのような意義を有しているかを理解させ、今後の分野選択に対する予備知識と動機づけを行う。	スライドと配布資料を用いて講義（ガイダンス）を行う。	（復習：2時間） 配布資料を熟読しておく。 履修登録が確実に実行されているか再確認しておく。
2	福柳谷 高澤 深尾 鈴木 河村 和気 川田 町田 吉原	選択した1つ目の分野に関する実験・演習課題に関する説明を行う。 実験・演習によりデータを取得する。 その内容は選択した分野により異なる。	教員により測定機器やプログラムを用いて実験・演習の説明をしたのち、受講生により実際に受講生同士を被験者としてデータ収集を行う。	（予習：2時間） 前回の授業で配布された資料を熟読し、授業での説明に用いられる専門用語について知る。知らない用語については自ら調べ、説明できるようにしておく。 （復習：2時間） 実験演習により取得したデータを確認・整理する。
3	福柳谷 高澤 深尾 鈴木 河村 和気 川田 町田 吉原	前回行った実験・演習によるデータを取得の続きを行いサンプル数を増やす。	測定機器やプログラムを用いて、実際にデータ収集の続きを行う。	（予習：2時間） 前回取得した実験データの確認をする。 関連した内容を説明した書籍や論文を探して眼を通してくる。 （復習：2時間） 取得したデータの整理と確認を行う。
4	福柳谷 高澤 深尾 鈴木 河村 和気 川田 町田 吉原	前回授業で行った実験・演習のデータを解析するための理論および方法の説明を行う。	スライドと配布資料を用いて説明する。受講生は各自のパソコンを用いて、説明に従いデータ処理の手順を学び、データを処理する。	（予習：2時間） データ解析のために必要なアプリケーションのインストールなど、パソコンの環境整備、基礎的な使用方法の学習をしてくる。 （復習：2時間） 学習したデータ処理方法により、実験データの処理をの続きを行う。
5	福柳谷 高澤 深尾 鈴木 河村 和気 川田 町田 吉原	より高度なデータ処理方法を学ぶ。 処理データを用いて、実験結果をプレゼンテーションする方法を学ぶ。	資料とスライドを用いた講義形式で行う。受講生は自身のパソコンを用いてデータ処理およびパワーポイントによるプレゼンテーション作成を行う。	（予習：2時間） 実験データの確認を行う。 関連した内容についての文献（資料、論文および書籍）に読解してくる。 （復習：2時間） 学習したデータ処理方法により、実験データの処理をの続きを行う。 プレゼンテーション用スライドを作成する
6	福柳谷 高澤 深尾 鈴木 河村 和気 川田 町田 吉原	より高度なデータ処理方法を学ぶ。 処理データを用いて、実験結果をプレゼンテーションする方法を学ぶ。	資料とスライドを用いた講義形式で行う。受講生は自身のパソコンを用いてデータ処理およびパワーポイントによるプレゼンテーション作成を行う。	予習：2時間 実験データの確認を行う。 関連した内容についての文献（資料、論文および書籍）に読解してくる。 （復習：2時間） プレゼンテーション用スライドを作成する

7	福柳谷高澤深尾鈴木河村和氣川田町田吉原	各受講生が、実験データをもとにプレゼンテーションを行い、受講生同士による質疑応答を行う。	演習形式で行う。各プレゼンテーションのあとに、担当教員からコメントやアドバイスなどをする。	(予習：2時間) プレゼンテーション用スライドを作成する (復習：2時間) プレゼンテーションをもとにレポートを作成する。
8	福柳谷高澤深尾鈴木河村和氣川田町田吉原	選択した2つ目の分野に関する実験・演習課題に関する説明を行う。実験・演習によりデータを取得する。その内容は選択した分野により異なる。	教員により測定機器やプログラムを用いて実験・演習の説明をしたのち、受講生により実際に受講生同士を被験者としてデータ収集を行う。	(予習：2時間) 前回の授業で配布された資料を熟読し、授業での説明に用いられる専門用語について知る。知らない用語については自ら調べ、説明できるようにしておく。 (復習：2時間) 実験演習により取得したデータを確認・整理する。
9	福柳谷高澤深尾鈴木河村和氣川田町田吉原	前回行った実験・演習によるデータを取得の続きを行いサンプル数を増やす。	測定機器やプログラムを用いて、実際にデータ収集の続きを行う。	(予習：2時間) 前回取得した実験データの確認をする。関連した内容を説明した書籍や論文を探して眼を通してくる。 (復習：2時間) 取得したデータの整理と確認を行う。
10	福柳谷高澤深尾鈴木河村和氣川田町田吉原	前回授業で行った実験・演習のデータを解析するための理論および方法の説明を行う。	スライドと配布資料を用いて説明する。受講生は各自のパソコンを用いて、説明に従ってデータ処理の手順を学び、データを処理する。	(予習：2時間) データ解析のために必要なアプリケーションのインストールなど、パソコンの環境整備、基本的な使用方法の学習をしてくる。 (復習：2時間) 学習したデータ処理方法により、実験データの処理をの続きを行う。
11	福柳谷高澤深尾鈴木河村和氣川田町田吉原	より高度なデータ処理方法を学ぶ。処理データを用いて、実験結果をプレゼンテーションする方法を学ぶ。	資料とスライドを用いた講義形式で行う。受講生は自身のパソコンを用いてデータ処理およびパワーポイントによるプレゼンテーション作成を行う。	(予習：2時間) 実験データの確認を行う。関連した内容についての文献(資料、論文および書籍)に読解してくる。 (復習：2時間) 学習したデータ処理方法により、実験データの処理をの続きを行う。プレゼンテーション用スライドを作成する
12	福柳谷高澤深尾鈴木河村和氣川田町田吉原	より高度なデータ処理方法を学ぶ。処理データを用いて、実験結果をプレゼンテーションする方法を学ぶ。	資料とスライドを用いた講義形式で行う。受講生は自身のパソコンを用いてデータ処理およびパワーポイントによるプレゼンテーション作成を行う。	(予習：2時間) 実験データの確認を行う。関連した内容についての文献(資料、論文および書籍)に読解してくる。 (復習：2時間) プレゼンテーション用スライドを作成する
13	河村	実習X 測定評価 累加測定、日常的なデータ収集、統計処理	代表的な体力テストバッテリーとして累加測定について学ぶ。特に得られたデータを用いた分析や統計処理を専門的に学び、将来に向けて日常的なデータ収集と活用の実現について議論を行うなど理解を深める。	(予習：2時間) あらかじめ配布される資料の内容やスポーツにおける測定と評価について学んだことを確認し、疑問点を調べておく。 (復習：2時間) 取り組んだ内容について整理し、課題についてレポートにまとめる。

科目名	【新カリ】スポーツ医科学総合実験実習			授業形態	実験・実習
英語科目名	【新カリ】スポーツ医科学総合実験実習			対象学年	3年
開講学期	2022年度後期			単位数	2単位
代表教員	内藤 久士			ナンバリング	SPM3318
担当教員	内藤 久士、山中 航、鈴木 良雄、深尾 宏祐、吉原 利典、鄧 鵬宇、坂本 彰宏、町田 修一、和氣 秀文、宮本 恵里、スポーツ健康科学部教員共通				
授業概要					
全体内容	本科目は、実習の授業形態で行われる。安静時及び運動時の身体諸機能の変化を、生理学、運動生理学、運動生化学、スポーツバイオメカニクスなどで多用される方法を用いて測定・記録し、評価する作業を通じて、スポーツ医科学に関連する講義内容の理解を総合的に深めることを目標とする。そのため、履修者全員が被験者及び検者を経験し、測定機器の基本的な操作方法や測定原理について学ぶとともに、授業内で行うデータ収集・分析をもとにして取得したデータをレポートとしてまとめ提出する。またそのデータやレポートをもとに、グループディスカッションを行い、得られたデータをスポーツ医科学的な観点から解釈できるようになることを目標とする。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 運動と密接な関係を有する生理学的諸機能が、運動によりいかに変化するかを正確に記述することができる。 2. 実験実習を通じて、スポーツ医科学に関連する講義で得た知識を説明することができる。 3. 測定器具の使用に習熟し、身体諸機能の測定を行うことができる。 4. 取得したデータを科学的に処理し、それをもとに論理的な討議を行うことができる。 				
授業の位置づけ	この科目は、コース科目群・スポーツ医科学コース科目の必修科目である。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学を中心とした幅広い知識と教養、及びそれらの活用能力」、「協働で課題を解決するために必要なコミュニケーション能力」、「スポーツ医科学とコーチング科学を中心としたスポーツ科学についての知識と技能」、及び「スポーツ科学の知識に基づき、現場で指導できる能力ないしは研究できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。				
履修上の注意、履修要件	【履修要件】 この実習はスポーツ医科学コースの必修科目である。「スポーツ医科学基礎演習」と「スポーツの生理学・生化学」を履修すること。				
成績評価の方法					
評価方法	課題レポート(60%)・平常点(30%)・筆記試験(10%)によって総合的に評価する。 なお、実験実習の進行上、ふさわしくない判断される行為は、減点の対象とします。				
評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. 運動と密接な関係を有する生理学的諸機能が、運動によりいかに変化するかを正確に記述することができる(レポート・筆記試験)。 2. 実験実習を通じて、スポーツ医科学に関連する講義で得た知識を説明することができる(レポート・筆記試験)。 3. 測定器具の使用に習熟し、身体諸機能の測定を行うことができる(レポート・平常点)。 4. 取得したデータを科学的に処理し、それをもとに論理的な討議を行うことができる(レポート・平常点)。 				
試験・課題に対するフィードバック方法					
【課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法】 課題レポートは翌週の授業で返却する。返却されるレポートには個別に修正すべき点が明記されているので、その内容に沿って、レポートの修正を進める。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考文献					
適宜、紹介する					
その他					
連絡先・オフィスアワー	<p>【連絡先】 町田修一: machidas [at] juntendo.ac.jp 内藤久士: hnaito [at] juntendo.ac.jp 和氣秀文: hwaki [at] juntendo.ac.jp 福典之: nfuku [at] juntendo.ac.jp 深尾宏祐: fukao777 [at] juntendo.ac.jp 坂本彰宏: a-sakamo [at] juntendo.ac.jp 山中 航: k-yamana [at] juntendo.ac.jp 吉原利典: t-yoshih [at] juntendo.ac.jp 鄧 鵬宇: deng [at] juntendo.ac.jp 宮本恵理: eri-miyamoto [at] juntendo.ac.jp 黒坂裕香: y-kurosaka [at] juntendo.ac.jp ※ [at] を@に変更してください。</p> <p>【オフィスアワー】 全教員 月曜日昼休み・研究室 (事前にメールなどで予約をすることを推奨します)</p>				
担当教員の実際経験					

備考	<p>【学修時間】 この授業は、演習の授業形態による2単位の科目であり、授業時間60時間と準備学習30時間の計90時間の学修を必要とする内容をもって構成する。</p> <p>【その他】 実習への参加にあたっては、毎回必ず予定される実習項目の内容を予習しておくこと。実習後には、すみやかにデータ整理を行い、各自オリジナルのレポートを提出すること。本実習では、毎回の学習が積み上げられることで成果が期待できるため、欠席のないようにするとともに、興味を持って積極的に参加することが望まれる。</p> <p>なお、新型コロナウイルス感染症の発生状況に応じて、成績評価の基準、方法及び授業計画を変更する場合がある。</p>			
	授業計画			
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	町田 内藤 和氣 福 深尾 坂本 吉原 鄧 山中 坂本 宮本恵 黒坂	ガイダンス：これから行われる実習日程、実習場所、内容などについての概要を説明する。また実習を安全かつ効率よく進められるように指導する。	スライドと配布資料を用いて講義（ガイダンス）を行う。	(復習：2時間) 配布された実習書の内容すべてに目を通しておく。履修登録が確実にされているか再確認しておく。
2	町田 内藤 和氣 福 深尾 坂本 吉原 鄧 山中 坂本 宮本恵 黒坂	レポートの作成方法について説明・指導を行う。	スライドと配布資料を用いて講義を行うとともに、データ処理の方法について演習を行う。	(予習：2時間) 基本的なレポートの書き方について調べておく。 (復習：2時間) レポート作成方法とデータ処理方法について復習する。
3	町田 内藤 和氣 福 深尾 坂本 吉原 鄧 山中 坂本 宮本恵 黒坂	実習Ⅰ：エネルギー代謝 歩行と走行を例に、運動時のエネルギー代謝の様子を知る上での基本的な手法にふれる。	16-18名程度のグループになり、測定器具を用いて実習を行う。	(予習：1時間) 酸素摂取量の測定方法について確認する。 (復習：1時間) 課された課題についてレポートを作成する。
4	町田 内藤 和氣 福 深尾 坂本 吉原 鄧 山中 坂本 宮本恵 黒坂	実習Ⅰの発展的な課題に取り組み、内容への理解を深める。	16-18名程度のグループになり、応用的な課題についてディスカッションを行う。	(予習：1時間) レポート課題に関連する内容への理解を深めておく。 (復習：1時間) 機器の操作方法等について復習し、まとめておく。
5	町田 内藤 和氣 福 深尾 坂本 吉原 鄧 山中 坂本 宮本恵 黒坂	実習Ⅱ：最大負荷テスト 自転車エルゴメータを用いて最大酸素摂取量の測定と評価を行う。	16-18名程度のグループになり、測定器具を用いて実習を行う。	(予習：1時間) 最大負荷テストの手順について確認する。 (復習：1時間) 課された課題についてレポートを作成する。

6	町田 内藤 和氣 福 深尾 坂本 吉原 鄧 山中 坂本 宮本 恵 黒坂	実習Ⅱの発展的な課題に取り組み、内容への理解を深める。	16-18名程度のグループになり、応用的な課題についてディスカッションを行う。	(予習：1時間) レポート課題に関連する内容への理解を深めておく。 (復習：1時間) 機器の操作方法等について復習し、まとめておく。
7	町田 内藤 和氣 福 深尾 坂本 吉原 鄧 山中 坂本 宮本 恵 黒坂	実習Ⅲ：筋電図 筋電図の記録を行い、筋の活動状態を知るための手続きを学習する。	16-18名程度のグループになり、測定器具を用いて実習を行う。	(予習：1時間) 筋電図の測定方法について確認する。 (復習：1時間) 課された課題についてレポートを作成する。
8	町田 内藤 和氣 福 深尾 坂本 吉原 鄧 山中 坂本 宮本 恵 黒坂	実習Ⅲの発展的な課題に取り組み、内容への理解を深める。	16-18名程度のグループになり、応用的な課題についてディスカッションを行う。	(予習：1時間) レポート課題に関連する内容への理解を深めておく。 (復習：1時間) 機器の操作方法等について復習し、まとめておく。
9	町田 内藤 和氣 福 深尾 坂本 吉原 鄧 山中 坂本 宮本 恵 黒坂	実習Ⅳ：血圧 安静時および運動時の血圧を測定について学習する。	16-18名程度のグループになり、測定器具を用いて実習を行う。	(予習：1時間) 血圧の測定方法について確認する。 (復習：1時間) 課された課題についてレポートを作成する。
10	町田 内藤 和氣 福 深尾 坂本 吉原 鄧 山中 坂本 宮本 恵 黒坂	実習Ⅳの発展的な課題に取り組み、内容への理解を深める。	[授業方法] 16-18名程度のグループになり、応用的な課題についてディスカッションを行う。	(予習：2時間) データ解析のために必要なアプリケーションのインストールなど、パソコンの環境整備、基礎的な使用方法の学習をしてくる。 (復習：2時間) 学習したデータ処理方法により、実験データの処理をの続きを行う。
11	町田 内藤 和氣 福 深尾 坂本 吉原 鄧 山中 坂本 宮本 恵 黒坂	実習Ⅴ：筋力と筋持久力 等速性運動装置を用いた筋力及び筋持久力の測定について学習する。	16-18名程度のグループになり、測定器具を用いて実習を行う。	(予習：1時間) 筋力と筋持久力の測定方法について確認する。 (復習：1時間) 課された課題についてレポートを作成する。

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	【新カリ】スポーツ医科学研究法Ⅰ	授業形態	講義		
英語科目名	【新カリ】スポーツ医科学研究法Ⅰ	対象学年	3年		
開講学期	2022年度後期	単位数	2単位		
代表教員	和氣 秀文	ナンバリング	SPM3320		
担当教員	和氣 秀文、柳谷 登志雄、山中 航、鈴木 良雄、福 典之、室伏 由佳、スポーツ健康科学部教員共通				
授業概要					
全体内容	本科目は、演習の授業形態で行われる。スポーツ医科学系の柱となる専門基礎科目並びに専門展開科目について、より高度な専門書の読解、論文（和文及び英文）の抄読、及びプレゼンテーションやグループディスカッションを通じ、研究方法（研究デザイン、データ解析、結果の表現、考察、および成果の発表方法）と研究倫理に関する知識の涵養を図る。こうした学修を通して、将来、より高度な医科学的知識を有したスポーツ指導者や、大学や研究機関などで働く研究者になるための基礎力と応用力、さらに国際社会で活躍するためのコミュニケーション能力を養うことを目指す。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. スポーツ医科学に関する学術論文（和文および英文）を理解し要点をまとめ、他者に説明することができる。 2. スポーツ医科学に関する研究方法（研究デザイン、データ解析、結果の表現、考察、および成果の発表方法）について説明することができる。 3. スポーツ医科学に関する研究倫理について説明することができる。 4. スポーツ医科学に関する最新の話題について説明することができる。 				
授業の位置づけ	この科目は、コース科目群・スポーツ医科学コース科目の選択必修科目である。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学を中心とした幅広い知識と教養、及びそれらの活用能力」、「協働で課題を解決するために必要なコミュニケーション能力」、「スポーツ医科学を中心としたスポーツ科学についての知識と技能」、および「スポーツ医科学の知識に基づき、現場で指導できる能力ないしは研究できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。				
履修上の注意、履修要件	<p>【履修要件】 この科目はスポーツ医科学コースの選択必修科目である。機能解剖学、生理学、運動生理学、スポーツの生理学・生化学、バイオメカニクス、スポーツ医学総論、スポーツ心理学を受講していることが望ましい。</p> <p>【履修上の注意（科目独自のルール）】 各分野の担当教員の指示に従い予習と復習をするように努めること。単位の取得には、授業回数の3分の2以上出席していること、授業態度が良好であること、かつ試験に合格することが前提である。</p>				
成績評価の方法					
評価方法	課題レポート(80%)・平常点(20%)によって総合的に評価する。				
評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. スポーツ医科学に関する学術論文を理解し要点をまとめることができる（レポート）。 2. スポーツ医科学に関する研究の進め方について説明することができる（レポート）。 3. スポーツ医科学に関する研究倫理について説明することができる（レポート）。 4. スポーツ医科学に関する十分な知識を有している（レポート）。 				
試験・課題に対するフィードバック方法					
レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考文献					
各分野を担当する教員が適宜指示する。					
その他					
連絡先・オフィスアワー	<p>【連絡先】 担当者が大幅に変更になっている可能性あり（要チェック） 和氣秀文：hwaki [at] juntendo. ac. jp 鈴木良雄：yssuzuki [at] juntendo. ac. jp 福 典之：nfuku [at] juntendo. ac. jp 宮本直和：n-miyamoto[at]juntendo. ac. jp 坂本彰宏：a-sakamo [at] juntendo. ac. jp 室伏由佳：y. murofushi. cc [at] juntendo. ac. jp 西尾啓史：h-nishio [at] juntendo. ac. jp</p> <p>【オフィスアワー】 和氣秀文：月曜日昼休み・研究室 鈴木良雄：月曜日昼休み・研究室 福 典之：月曜日昼休み・研究室 宮本直和：月曜日昼休み・研究室 坂本彰宏：月曜日昼休み・研究室 室伏由佳：月曜日昼休み・研究室 西尾啓史：月曜日昼休み・研究室</p>				
担当教員の実務経験					
備考	<p>【学修時間】 この授業は、講義の授業形態による2単位の科目であり、授業時間30時間と準備学習60時間の系90時間の学修を必要とする内容をもって構成する。</p> <p>【その他】 新型コロナウイルス感染症の発生状況により、授業計画等の変更をお願いする可能性がある。</p>				
授業計画					

授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	和気 鈴木 福室 伏山 山中 西尾	ガイダンス スポーツ医科学を学ぶことの意義について理解する。	授業の進め方や注意点を説明する。また、授業中に提示するスライドや配布した資料に沿ってスポーツ医科学を学ぶ意義について講義する。	(予習：1時間) あらかじめ配布される資料の内容を確認し、疑問点について調べる。 (復習：1時間) 講義の内容を踏まえ、スポーツ医科学の学問体系について整理する。
2	和気 鈴木 福室 伏山 山中 西尾	研究とは何かについて、スポーツ医科学分野の事例を中心に解説する。	授業中に提示するスライドや配布した資料に沿って研究とは何かについて講義する。	(予習：2時間) あらかじめ配布される資料の内容を確認し、疑問点について調べる。 (復習：2時間) 講義の内容を踏まえ、研究とは何かについて整理する。
3	和気 鈴木 福室 伏山 山中 西尾	研究に取り組む際に、どのような研究の種類を用いて実施することが望ましいかについて多角的観点から解説する。	授業中に提示するスライドや配布した資料に沿って研究の種類について講義する。	(予習：2時間) あらかじめ配布される資料の内容を確認し、疑問点について調べる。 (復習：2時間) 講義の内容を踏まえ、研究の種類やその長所・短所について整理する。
4	和気 鈴木 福室 伏山 山中 西尾	研究に取り組む際に、その研究の位置づけを知るために重要な文献検索法を解説する。	授業中に提示するスライドや配布した資料に沿って文献検索法について講義する。10人程度のグループに別れ、それぞれのグループで設定した研究テーマに関連が深い文献(英文)を検索する。	(予習：2時間) あらかじめ配布される資料の内容を確認する。自身で研究テーマを設定し、それに関連したキーワードを抽出する。 (復習：2時間) 講義の内容を踏まえ、文献の検索法について整理する。
5	和気 鈴木 福室 伏山 山中 西尾	原著論文や総説といった研究論文の構成や読み方のポイントについて解説する。	授業中に提示するスライドや配布した資料に沿って研究論文の読み方について講義する。また、10人程度のグループに別れ、英文抄録についてポイントをまとめ発表する。	(予習：2時間) あらかじめ配布される資料の内容を確認する。グループで選定した英文抄録を読み概要を理解しておく。 (復習：2時間) 講義の内容を踏まえ、適切な先行研究の選定方法について整理する。
6	和気 鈴木 福室 伏山 山中 西尾	研究論文のシステムティックレビューについて解説し、エビデンスレベルの高い情報収集法について理解を深める。	授業中に提示するスライドや配布した資料に沿ってシステムティックレビューについて講義し、根拠に基づくスポーツ医科学の知見についての情報の収集法を学ぶ。	(予習：2時間) あらかじめ配布される資料の内容を確認し、疑問点について調べる。 (復習：2時間) 講義の内容を踏まえ、エビデンスレベルの高い研究論文の収集法について整理する。
7	和気 鈴木 福室 伏山 山中 西尾	研究の仮説やテーマをどのように立てるかについて解説し、自身に適した研究テーマの設定法について理解を深める。	授業中に提示するスライドや配布した資料に沿って研究の仮説や研究のテーマの設定法について講義する。	(予習：2時間) あらかじめ配布される資料の内容を確認し、疑問点について調べる。 (復習：2時間) 講義の内容を踏まえ、研究の仮説や自身に適した研究テーマの立て方について整理する。
8	和気 鈴木 福室 伏山 山中 西尾	研究計画の立て方について解説し、それぞれの研究課題の解決目標に適した研究デザインについて理解を深める。	授業中に提示するスライドや配布した資料に沿って研究計画の立て方について講義し、適切な研究デザイン等について討議する。	(予習：2時間) あらかじめ配布される資料の内容を確認し、疑問点について調べる。 (復習：2時間) 講義の内容を踏まえ、研究計画の立て方について、長所・短所・研究計画の限界について整理する。

科目名	【新カリ】保健体育科教育法Ⅳ	授業形態	講義		
英語科目名	【新カリ】保健体育科教育法Ⅳ	対象学年	3年		
開講学期	2022年度前期	単位数	2単位		
代表教員	長登 健	ナンバリング	PHE3324		
担当教員	長登 健、荻原 朋子、長岡 知、スポーツ健康科学部教員共通				
授業概要					
全体内容	【授業全体の内容】 この授業では、中学校、高等学校での保健体育の授業を進めるに当たって、保健体育科教員が身に付けていなければならない基本的な指導法の習得を目指す授業である。そのため、本講義では体づくり運動、器械運動、陸上競技、水泳、球技、ダンス、体育理論、保健のすべての領域において、運動が苦手な生徒への指導や、補助の仕方など、効果的な学習指導における授業展開について実践的に学ぶ。				
到達目標	【授業の到達目標】 1. 各領域の学習指導に必要な知識と技能を習得し、指導できるようにする。 2. 保健体育科において取り上げる運動や保健領域について、実際の指導法の授業を通して、教材化することができる。				
授業の位置づけ	この科目は、コース科目群・スポーツ教育コース科目の必修科目である。また、中・高保健体育1種免許取得にあたっての必修科目である。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	保健体育科教育法Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの学修を踏まえ、各運動の指導の在り方について理解を深めるとともに、実践につなげることのできる力を身に付ける。 各運動領域の学習内容と保健の学習内容と関連付けたりするなどして教材化し、学習内容、指導方法、教師行動についての検討する。 この科目は、「課題解決能力」という学位授与方針の達成に寄与する。				
履修上の注意、履修要件	【履修要件】 本授業は、保健体育科教育法Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの授業を履修した学生のみ受講できる。教員を志している学生により多くの模擬授業の機会を与え、実践できる場を提供したい。				
成績評価の方法					
評価方法	【成績評価の方法】 授業に取り組む姿勢等50%、課題レポート50%にて評価する。なお、授業に取り組む姿勢が授業進行上、不適切であると判断した場合には、減点の対象とするので注意すること。				
評価基準	【成績評価の基準】 1. より良い保健体育の授業を実現するための実践的な能力が身に付いているか、毎時の課題提出で評価する。(平常点) 2. 指導法の理解度や教材化の視点ができているか等について、ふり返りシート等の提出物で評価する。(レポート)				
試験・課題に対するフィードバック方法					
【課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法】 保健、体育授業についての情報収集を積極的に行うこと。なお、授業計画は、授業の進行状況により多少前後することがある。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
	中学校学習指導要領解説 保健体育編	文部科学省	東洋館出版社	9784827815603	平成29年7月
	高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編	文部科学省	東洋館出版社	9784827815689	平成30年7月
参考文献					
【テキスト・参考書等】 1. 中学校学習指導要領(平成29年3月告示 文部科学省) 2. 高等学校学習指導要領(平成30年3月告示 文部科学省) 3. 評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料(教育課程研究センター) 4. 保健科教育法入門(日本保健科教育学会編 大修館書店) 5. 中学、高校時代に使用した「保健体育」教科書(各自準備) 6. 体育科教育入門三訂版(岡出美則ほか編著、大修館書店)□ 1~6は参考書であり、指導案の作成等に参考になる。その他、適宜、資料を配布する。					
その他					
連絡先・オフィスアワー	【連絡先】 長登: Email: t nagato@juntendo.ac.jp 長岡: Email: tm-nagaoka@juntendo.ac.jp 荻原: Email: togiwara@juntendo.ac.jp 【オフィスアワー】 長登: 火曜日 12:50~14:30 1号館5階1519号室 長岡: 火曜日 12:50~14:30 1号館4階1416号室 荻原: 木曜日 11:00~13:00 1号館5階1517号室 上記時間帯には予約なしに質問や相談に応じますが、他の学生との重複を避けるため、可能な限り前日までにメールでアポイントを取ってください。質問や相談はアポイントを取っている学生を優先します。				
担当教員の実務経験	【実務経験のある教員による授業】 この科目では、学校現場における教員経験、教育行政機関での勤務経験のある者が、その経験を活かし、実践的教育力を育むための指導を行います。				

備考	<p>【学修時間】 この授業は、講義の授業形態による2単位の科目であり、授業30時間と準備学習60時間の計90時間の学修を必要とする内容をもって構成する。1回の授業時間は100分とする。</p> <p>【その他】 中・高教諭1種免許（保健体育）取得するための必修科目 科目：教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育） 施行規則に定める科目区分又は事項等：各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）</p> <p>新型コロナウイルス感染症の発生状況に応じて、成績評価の基準、方法及び授業計画を変更する場合があります。</p>			
授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	長岡	【授業内容】 テーマ：ガイダンス 授業目的及び概要、シラバス、評価方法等について理解する。	【授業方法】 授業目的及び概要、シラバス、評価方法等について解説する。	（予習：1時間） 保健体育科教育法Ⅰ、Ⅱ、Ⅲでの講義内容を復習しておく。 （復習：3時間） 学習指導要領解説を読み、保健、体育の内容及び内容の取り扱いについて理解を深めておく。
2	長登 荻原	【授業内容】 テーマ：体育の指導法（実技）① 各運動領域の特性や指導方法を理解する。（体づくり運動、水泳、器械運動、バレーボール）	【授業方法】 各運動領域の指導法を提示し、実際に動きながら学習する。	（予習：2時間） 学習指導要領に記載されている各運動領域の内容について調べておく。 （復習：2時間） 各運動領域の特性や指導方法についてまとめる。
3	長登 荻原	【授業内容】 テーマ：体育の教材づくり（実技）① 事前に指定された内容について、グループに分かれて教材を検討し、発表する。（体づくり運動、水泳、器械運動、バレーボール）	【授業方法】 グループで討議し、教材づくりを模造紙にまとめて発表する。	（予習：3時間） 事前に指定された指導内容の教材について調べ、ワークシートを作成する。 （復習：2時間） グループで作成した教材に対して受けた修正点をまとめ、改善しておく。
4	長登 荻原	【授業内容】 テーマ：体育の教材提案（実技）① グループで作成した教材を実践する。（体づくり運動、水泳、器械運動、バレーボール）	【授業方法】 教材提案という形式で各グループが発表者となり、教材を体験する。	（予習：2時間） 実際に教材を行うときの留意点や展開方法などについてリハーサルを行う。 （復習：2時間） 実際に実践して気づいたことや改善点などをふり返しシートにまとめる。
5	長登 荻原	【授業内容】 テーマ：体育の指導法（実技）② 各運動領域の特性や指導方法を理解する。（バスケットボール、柔道、陸上競技、サッカー）	【授業方法】 各運動領域の指導法を提示し、実際に動きながら学習する。	（予習：2時間） 学習指導要領に記載されている各運動領域の内容について調べておく。 （復習：2時間） 各運動領域の特性や指導方法についてまとめる。
6	長登 荻原	【授業内容】 テーマ：体育の教材づくり（実技）② 事前に指定された内容について、グループに分かれて教材を検討し、発表する。（バスケットボール、柔道、陸上競技、サッカー）	【授業方法】 グループで討議し、教材づくりを模造紙にまとめて発表する。	（予習：3時間） 事前に指定された指導内容の教材について調べ、ワークシートを作成する。 （復習：2時間） グループで作成した教材に対して受けた修正点をまとめ、改善しておく。
7	長登 荻原	【授業内容】 テーマ：体育の教材提案（実技）② グループで作成した教材を実践する。（バスケットボール、柔道、陸上競技、サッカー）	【授業方法】 教材提案という形式で各グループが発表者となり、教材を体験する。	（予習：2時間） 実際に教材を行うときの留意点や展開方法などについてリハーサルを行う。 （復習：2時間） 実際に実践して気づいたことや改善点などをふり返しシートにまとめる。
8	長登 荻原	【授業内容】 テーマ：体育の指導法（実技）③ 各運動領域の特性や指導方法を理解する。（剣道、ダンス、体育理論1、体育理論2）	【授業方法】 各運動領域の指導法を提示し、実際に動きながら学習する。	（予習：2時間） 学習指導要領に記載されている各運動領域の内容について調べておく。 （復習：2時間） 各運動領域の特性や指導方法についてまとめる。
9	長登 荻原	【授業内容】 テーマ：体育の教材づくり（実技）③ 事前に指定された内容について、グループに分かれて教材を検討し、発表する。（剣道、ダンス、体育理論1、体育理論2）	【授業方法】 グループで討議し、教材づくりを模造紙にまとめて発表する。	（予習：3時間） 事前に指定された指導内容の教材について調べ、ワークシートを作成する。 （復習：2時間） グループで作成した教材に対して受けた修正点をまとめ、改善しておく。
10	長登 荻原	【授業内容】 テーマ：体育の教材提案（実技）③ グループで作成した教材を実践する。（剣道、ダンス、体育理論1、体育理論2）	【授業方法】 教材提案という形式で各グループが発表者となり、教材を体験する。	（予習：2時間） 実際に教材を行うときの留意点や展開方法などについてリハーサルを行う。 （復習：2時間） 実際に実践して気づいたことや改善点などをふり返しシートにまとめる。
11	長岡	【授業内容】 テーマ：保健の指導法④ 保健領域の特性や指導方法を理解する。（健康な生活と疾病の予防1、2、傷害の防止、健康と環境）	【授業方法】 各領域の指導法を提示し、実際にプリントやスライドで講義を進める。	（予習：2時間） 学習指導要領に記載されている各領域の内容について調べておく。 （復習：2時間） 各領域の特性や指導方法についてまとめる。

科目名	【新カリ】保健体育科教育法Ⅳ			授業形態	講義
英語科目名	【新カリ】保健体育科教育法Ⅳ			対象学年	3年
開講学期	2022年度前期			単位数	2単位
代表教員	長登 健			ナンバリング	PHE3324
担当教員	長登 健、荻原 朋子、長岡 知、スポーツ健康科学部教員共通				
授業概要					
全体内容	【授業全体の内容】 この授業では、中学校、高等学校での保健体育の授業を進めるに当たって、保健体育科教員が身に付けていなければならない基本的な指導法の習得を目指す授業である。そのため、本講義では体づくり運動、器械運動、陸上競技、水泳、球技、ダンス、体育理論、保健のすべての領域において、運動が苦手な生徒への指導や、補助の仕方など、効果的な学習指導における授業展開について実践的に学ぶ。				
到達目標	【授業の到達目標】 1. 各領域の学習指導に必要な知識と技能を習得し、指導できるようにする。 2. 保健体育科において取り上げる運動や保健領域について、実際の指導法の授業を通して、教材化することができる。				
授業の位置づけ	この科目は、コース科目群・スポーツ教育コース科目の必修科目である。また、中・高保健体育1種免許取得にあたっての必修科目である。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	保健体育科教育法Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの学修を踏まえ、各運動の指導の在り方について理解を深めるとともに、実践につなげることのできる力を身に付ける。 各運動領域の学習内容と保健の学習内容と関連付けたりするなどして教材化し、学習内容、指導方法、教師行動についての検討する。 この科目は、「課題解決能力」という学位授与方針の達成に寄与する。				
履修上の注意、履修要件	【履修要件】 本授業は、保健体育科教育法Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの授業を履修した学生のみ受講できる。教員を志している学生により多くの模擬授業の機会を与え、実践できる場を提供したい。				
成績評価の方法					
評価方法	【成績評価の方法】 授業に取り組む姿勢等50%、課題レポート50%にて評価する。なお、授業に取り組む姿勢が授業進行上、不適切であると判断した場合には、減点の対象とするので注意すること。				
評価基準	【成績評価の基準】 1. より良い保健体育の授業を実現するための実践的な能力が身に付いているか、毎時の課題提出で評価する。（平常点） 2. 指導法の理解度や教材化の視点ができているか等について、ふり返りシート等の提出物で評価する。（レポート）				
試験・課題に対するフィードバック方法					
【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】 保健、体育授業についての情報収集を積極的に行うこと。なお、授業計画は、授業の進行状況により多少前後することがある。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
	中学校学習指導要領解説 保健体育編	文部科学省	東山書房	9784827815603	
	高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編	文部科学省	東山書房	9784827815689	
参考文献					
【テキスト・参考書等】 1. 中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省） 2. 高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省） 3. 評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料（教育課程研究センター） 4. 保健科教育法入門（日本保健科教育学会編 大修館書店） 5. 中学、高校時代に使用した「保健体育」教科書（各自準備） 6. 体育科教育入門三訂版（岡出美則ほか編著、大修館書店） 1～6は参考書であり、指導案の作成等に参考になる。その他、適宜、資料を配布する。					
その他					
連絡先・オフィスアワー	【連絡先】 長登：Email: ttagato@juntendo.ac.jp 長岡：Email: tm-nagaoka@juntendo.ac.jp 荻原：Email: togiwara@juntendo.ac.jp 【オフィスアワー】 長登：火曜日 12:50～14:30 1号館5階1519号室 長岡：火曜日 12:50～14:30 1号館4階1416号室 荻原：木曜日 11:00～13:00 1号館5階1517号室 上記時間帯には予約なしに質問や相談に応じますが、他の学生との重複を避けるため、可能な限り前日までにメールでアポイントを取ってください。質問や相談はアポイントを取っている学生を優先します。				
担当教員の実務経験	【実務経験のある教員による授業】 この科目では、学校現場における教員経験、教育行政機関での勤務経験のある者が、その経験を活かし、実践的教育力を育むための指導を行います。				

備考	<p>【学修時間】 この授業は、講義の授業形態による2単位の科目であり、授業30時間と準備学習60時間の計90時間の学修を必要とする内容をもって構成する。1回の授業時間は100分とする。</p> <p>【その他】 中・高教諭1種免許（保健体育）取得するための必修科目 科目：教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育） 施行規則に定める科目区分又は事項等：各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）</p>			
授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	長岡	【授業内容】 テーマ：ガイダンス 授業目的及び概要、シラバス、評価方法等について理解する。	【授業方法】 授業目的及び概要、シラバス、評価方法等について解説する。	（予習：1時間） 保健体育科教育法Ⅰ、Ⅱ、Ⅲでの講義内容を復習しておく。 （復習：3時間） 学習指導要領解説を読み、保健、体育の内容及び内容の取り扱いについて理解を深めておく。
2	長登 荻原	【授業内容】 テーマ：体育の指導法（実技）① 各運動領域の特性や指導方法を理解する。（体づくり運動、水泳、器械運動、バレーボール）	【授業方法】 各運動領域の指導法を提示し、実際に動きながら学習する。	（予習：2時間） 学習指導要領に記載されている各運動領域の内容について調べておく。 （復習：2時間） 各運動領域の特性や指導方法についてまとめる。
3	長登 荻原	【授業内容】 テーマ：体育の教材づくり（実技）① 事前に指定された内容について、グループに分かれて教材を検討し、発表する。（体づくり運動、水泳、器械運動、バレーボール）	【授業方法】 グループで討議し、教材づくりを模造紙にまとめて発表する。	（予習：3時間） 事前に指定された指導内容の教材について調べ、ワークシートを作成する。 （復習：2時間） グループで作成した教材に対して受けた修正点をまとめ、改善しておく。
4	長登 荻原	【授業内容】 テーマ：体育の教材提案（実技）① グループで作成した教材を実践に実践する。（体づくり運動、水泳、器械運動、バレーボール）	【授業方法】 教材提案という形式で各グループが発表者となり、教材を体験する。	（予習：2時間） 実際に教材を行うときの留意点や展開方法などについてリハーサルを行う。 （復習：2時間） 実際に実践して気づいたことや改善点などをふり返りシートにまとめる。
5	長登 荻原	【授業内容】 テーマ：体育の指導法（実技）② 各運動領域の特性や指導方法を理解する。（バスケットボール、柔道、陸上競技、サッカー）	【授業方法】 各運動領域の指導法を提示し、実際に動きながら学習する。	（予習：2時間） 学習指導要領に記載されている各運動領域の内容について調べておく。 （復習：2時間） 各運動領域の特性や指導方法についてまとめる。
6	長登 荻原	【授業内容】 テーマ：体育の教材づくり（実技）② 事前に指定された内容について、グループに分かれて教材を検討し、発表する。（バスケットボール、柔道、陸上競技、サッカー）	【授業方法】 グループで討議し、教材づくりを模造紙にまとめて発表する。	（予習：3時間） 事前に指定された指導内容の教材について調べ、ワークシートを作成する。 （復習：2時間） グループで作成した教材に対して受けた修正点をまとめ、改善しておく。
7	長登 荻原	【授業内容】 テーマ：体育の教材提案（実技）② グループで作成した教材を実践に実践する。（バスケットボール、柔道、陸上競技、サッカー）	【授業方法】 教材提案という形式で各グループが発表者となり、教材を体験する。	（予習：2時間） 実際に教材を行うときの留意点や展開方法などについてリハーサルを行う。 （復習：2時間） 実際に実践して気づいたことや改善点などをふり返りシートにまとめる。
8	長登 荻原	【授業内容】 テーマ：体育の指導法（実技）③ 各運動領域の特性や指導方法を理解する。（剣道、ダンス、体育理論1、体育理論2）	【授業方法】 各運動領域の指導法を提示し、実際に動きながら学習する。	（予習：2時間） 学習指導要領に記載されている各運動領域の内容について調べておく。 （復習：2時間） 各運動領域の特性や指導方法についてまとめる。
9	長登 荻原	【授業内容】 テーマ：体育の教材づくり（実技）③ 事前に指定された内容について、グループに分かれて教材を検討し、発表する。（剣道、ダンス、体育理論1、体育理論2）	【授業方法】 グループで討議し、教材づくりを模造紙にまとめて発表する。	（予習：3時間） 事前に指定された指導内容の教材について調べ、ワークシートを作成する。 （復習：2時間） グループで作成した教材に対して受けた修正点をまとめ、改善しておく。
10	長登 荻原	【授業内容】 テーマ：体育の教材提案（実技）③ グループで作成した教材を実践に実践する。（剣道、ダンス、体育理論1、体育理論2）	【授業方法】 教材提案という形式で各グループが発表者となり、教材を体験する。	（予習：2時間） 実際に教材を行うときの留意点や展開方法などについてリハーサルを行う。 （復習：2時間） 実際に実践して気づいたことや改善点などをふり返りシートにまとめる。
11	長岡	【授業内容】 テーマ：保健の指導法④ 保健領域の特性や指導方法を理解する。（健康な生活と疾病の予防1、2、傷害の防止、健康と環境）	【授業方法】 各領域の指導法を提示し、実際にプリントやスライドで講義を進める。	（予習：2時間） 学習指導要領に記載されている各領域の内容について調べておく。 （復習：2時間） 各領域の特性や指導方法についてまとめる。

科目名	【新カリ】教材開発論演習	授業形態	演習		
英語科目名	【新カリ】教材開発論演習	対象学年	3年		
開講学期	2022年度前期	単位数	2単位		
代表教員	長登 健	ナンバリング	PHE3326		
担当教員	長登 健、荻原 朋子、長岡 知、スポーツ健康科学部教員共通				
授業概要					
全体内容	<p>本科目は、演習の授業形態で行われる。中学校、高等学校での保健体育科の授業における教材研究の意義と方法について学ぶ。教材づくりの基本的視点を理解したのち、学習指導要領に示されている各運動領域や、保健領域の指導内容を確認し、教材への理解を深める。典型教材のメリット・デメリットを踏まえ、グループで協議しながらより良い教材の創出できる力を身に付ける。</p> <p>(オムニバス形式／全14回) (長登 健、荻原朋子／11回) (共同) 保健体育科における教材開発の重要性について理解する。そして、体育の教材に係る先行研究を調査し、各運動領域の教材開発に取り組み、その教材を用いた模擬授業を実施する。 (長岡 知／3回) 保健の教材に係る先行研究を調査し、各運動領域の教材開発に取り組み、その教材を用いた模擬授業を実施する。</p>				
到達目標	<p>[授業の到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保健、体育授業の学習指導方略について理解をより深めることができる。 2. 保健、体育授業の教材づくりの視点を持って学習指導案の作成ができる。 3. これまでの保健、体育の教材について理解し、より良い保健、体育授業の創出のための教材を開発することができる。 				
授業の位置づけ	この科目は、コース科目群・スポーツ教育コース科目の選択必修科目である。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	<p>[授業の位置づけ(学位授与方針に定められた知識・能力等との関連)]</p> <p>保健体育科教育法Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの学修を踏まえ、保健体育科の様々な学習指導方略について理解を深め、実践につなげるのできる力を身に付ける。</p> <p>模擬授業の実践を通して保健体育科教師に必要な専門的知識やより高度な実践的指導力を身につけることが必要である。</p> <p>この科目は、「課題解決能力」という学位授与方針の達成に寄与する。</p>				
履修上の注意、履修要件	<p>【履修要件】</p> <p>教員を志している学生により多くの模擬授業の機会を与え、実践できる場を提供したい。</p>				
成績評価の方法					
評価方法	<p>【成績評価の方法】</p> <p>授業態度や取り組む姿勢等50%、課題提出50%にて評価する。</p> <p>なお、授業態度・取り組む姿勢が授業進行上不適切であると判断した場合に、減点の対象とするので注意すること。</p>				
評価基準	<p>【成績評価の基準】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保健、体育授業の学習指導方略について理解できているか、課題提出で評価する。 2. 模擬授業のための単元計画と指導案作成ができているか、課題提出で評価する。 3. 学習場面における具体的な方法を検討し、実践につなげることができたか、模擬授業後のリフレクションシートの提出で評価する。 				
試験・課題に対するフィードバック方法					
<p>【課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法】</p> <p>授業にて返却し、模範解答や評価のポイントについて解説する。</p>					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考文献					
<p>【テキスト・参考書等】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 中学校学習指導要領、中学校学習指導要領解説(保健体育編)(文部科学省) 2. 高等学校学習指導要領、高等学校学習指導要領解説(保健体育編・体育編)(文部科学省) 3. 評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料(教育課程研究センター) 4. 保健科教育法入門(日本保健科教育学会編 大修館書店) 5. 中学、高校時代に使用した「保健体育」教科書(各自準備) 6. 体育科教育入門三訂版(岡出美則・友添秀則・岩田靖編著、大修館書店) <p>1と2は教科書として使用するので必ず用意すること。</p> <p>3、4、5、6は参考書であり、指導案の作成等に参考になる。</p> <p>その他、適宜、資料を配布する。</p>					
その他					
連絡先・オフィスアワー	<p>[連絡先]</p> <p>長登 Email: tnagato@juntendo.ac.jp 長岡 Email: tm-nagaoka@juntendo.ac.jp 荻原 Email: togiwara@juntendo.ac.jp</p> <p>[オフィスアワー]</p> <p>長登: 火曜日 12:50~14:30 1号館5階1519号室 長岡: 火曜日 12:50~14:30 1号館4階1416号室 荻原: 木曜日 11:00~13:00 1号館5階1517号室</p> <p>上記時間帯には予約なしに質問や相談に応じますが、他の学生との重複を避けるため、可能な限り前日までにメールでアポイントを取ってください。質問や相談はアポイントを取っている学生を優先します。</p>				
担当教員の実務経歴					

備考		<p>【学修時間】 この授業は、講義・演習の授業形態による2単位の科目であり、授業30時間と準備学習60時間の計90時間の学修を必要とする内容をもって構成する。</p> <p>【その他】 また、新型コロナウイルス感染症の発生状況に応じて、成績評価の基準、方法及び授業計画を変更する場合があります。</p>		
授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	荻原長登	【授業内容】 保健体育科における教材開発の重要性について	【授業方法】 本講義の進め方の確認とグループ編成、教材づくりで扱う種目決め	(予習：1時間) 保健体育科教育法Ⅰ、Ⅱでの講義内容を復習しておく。 (復習：3時間) 学習指導要領解説を読み、保健、体育の内容及び内容の取り扱いについて理解を深めておく。
2	荻原長登	【授業内容】 体育の教材・教具の実際（実践例）	【授業方法】 体育館で球技の教材を体験しながら、教材の工夫について解説する。	(予習：2時間) 体育の（球技の）教材について、先行研究を調べる。 (復習：2時間) 体験した球技の教材についてルールや行い方をまとめる。
3	荻原長登	【授業内容】 体育の教材づくりの基本的視点	【授業方法】 体育の教材づくりの内容的視点、方法的視点について学習する。	(予習：2時間) 体育の教材づくりの基本的視点について、保健体育科教育法Ⅱで取り扱った内容を復習しておく。 (復習：2時間) 自身で考えた体育の教材をノートにまとめる。
4	荻原長登	【授業内容】 グループでの教材づくり①	【授業方法】 先行研究を調査し、担当する領域の先行教材を検討し、グループで担当する領域（種目）の教材を開発する。	(予習：3時間) グループで指定された教材に関する先行研究を調査する。 (復習：2時間) グループで考えた教材について理解を深める。
5	荻原長登	【授業内容】 グループでの教材づくり②	【授業方法】 教材の発表に向けて、指導案やシナリオを作成する。	(予習：3時間) グループで指定された教材に関する先行研究を調査する。 (復習：2時間) グループで考えた教材について理解を深める。
6	荻原長登	【授業内容】 教材の発表①（器械運動）	【授業方法】 器械運動（マット運動、跳び箱運動）の教材を発表し、模擬授業を実施するとともに、授業評価と組織的観察法を用いて振り返りを行う。	(予習：2時間) 実施される模擬授業の指導案の内容を確認しておく。 (復習：2時間) 実施された模擬授業の学習内容、指導方法、教師行動についてふかえり、リフレクションシートに記入する。
7	荻原長登	【授業内容】 教材の発表②（陸上競技）	【授業方法】 陸上競技（リレー、ハードル走）の教材を発表し、模擬授業を実施するとともに、授業評価と組織的観察法を用いて振り返りを行う。	(予習：2時間) 実施される模擬授業の指導案の内容を確認しておく。 (復習：2時間) 実施された模擬授業の学習内容、指導方法、教師行動についてふかえり、リフレクションシートに記入する。
8	荻原長登	【授業内容】 教材の発表③（球技・ゴール型）	【授業方法】 球技・ゴール型（バスケ、サッカー、ハンドボール）の教材を発表し、模擬授業を実施するとともに、授業評価と組織的観察法を用いて振り返りを行う。	(予習：2時間) 実施される模擬授業の指導案の内容を確認しておく。 (復習：2時間) 実施された模擬授業の学習内容、指導方法、教師行動についてふかえり、リフレクションシートに記入する。

科目名	【新カリ】教育課程及び教育方法の理論と実践	授業形態	講義		
英語科目名	【新カリ】教育課程及び教育方法の理論と実践	対象学年	3年		
開講学期	2022年度前期	単位数	2単位		
代表教員	長登 健	ナンバリング	PED3328		
担当教員	長登 健、牛尾 直行、スポーツ健康科学部教員共通				
授業概要					
全体内容	<p>[授業全体の内容]</p> <p>この授業では、教育課程とは何か、学習指導要領の歴史的展開、教材づくり、学習指導案の作成などについて扱うことによって、学校教育における教育課程の重要性について理解する。また、これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法、教育の技術、情報通信技術を活用した教育の理論と方法に関する基礎的な知識・技能を身に付けることを目標とする。</p>				
到達目標	<p>[授業の到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育方法の基礎的理論と実践を理解している。 2. これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するための教育方法の在り方（主体的・対話的で深い学びの実現など）を理解している。 3. 学級・生徒・教員・教室・教材など授業を構成する基礎的な要件を理解している。 4. 情報通信技術を活用した教育の理論と方法に関する基礎的な知識と技術を身に付けている。 5. 学習評価の基礎的な考え方を理解している。 				
授業の位置づけ	この科目は、コース科目群・スポーツ教育コース科目の選択必修科目である。また、中・高保健体育1種免許取得にあたっての必修科目である。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	<p>[授業の位置づけ（学位授与方針に定められた知識・能力等との関連）]</p> <p>この科目は、「問題解決能力」という学位授与方針の達成に寄与する。教職課程においては、「教育の基礎的理解に関する科目」、「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」の一つとして位置付けられているものです。</p>				
履修上の注意、履修要件	<p>[履修要件]</p> <p>本科目は、教育実習に行く前に履修することが望ましい。また、教職概論、教育原理、教育心理学、保健体育科教育法Ⅰ、保健体育科教育法Ⅱの5科目の履修が修了していることが望ましい。学科別に指定されたクラスを受講すること。</p> <p>[履修上の注意（科目独自のルール）]</p> <p>特になし</p>				
成績評価の方法					
評価方法	<p>[成績評価の方法]</p> <p>到達目標へ向けての学習状況を確認するための、定期試験（50%）、課題レポート（30%）、授業への積極的な参加態度（20%）をもとに総合的に評価する。</p>				
評価基準	<p>[成績評価の基準]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 到達目標に基づき、様々な教育学的・体育学的な知識・技術を教授能力に変換することができる。（平常点・課題レポート・定期試験） 2. 情報通信技術を活用する意義と理論、情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方や生徒たちの情報活用能力（情報モラルを含む。）を育成するための指導法を理解している。（平常点・課題レポート・定期試験） 3. 学習評価の基礎的な考え方を理解し、学習指導案の作成に活かすことができる。（平常点・課題レポート） 				
試験・課題に対するフィードバック方法					
課題レポートは優秀なレポートを選択して、受講者全員で共有する。定期試験後は要望があれば個別に解説や指導を行う。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
	中学校学習指導要領	文部科学省	東山書房	978-4-8278-1558-0	平成29年3月告示
	中学校学習指導要領解説保健体育編	文部科学省	東山書房	978-4-8278-1560-3	平成29年7月発行
	高等学校学習指導要領	文部科学省	東山書房	978-4-8278-1567-2	平成30年3月告示
	高等学校学習指導要領解説保健体育編	文部科学省	東山書房	978-4-8278-1568-9	平成30年7月発行
参考文献					
<p>[参考書等]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料：保健体育（教育課程研究センター） 2. 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料：中学校保健体育（教育課程研究センター） 3. 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料：高等学校保健体育（教育課程研究センター） 4. 令和2年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査報告書（スポーツ庁） 5. 教育の情報化に関する手引き（追補版）（令和2年6月 文部科学省） <p>1～5は参考資料であり、レポート作成の際に参考となる。</p> <p>その他、授業中に、適宜、資料を配布します。</p>					
その他					
連絡先・オフィスアワー	<p>[連絡先]</p> <p>長登 健 E-mail: tnagato@juntendo.ac.jp</p> <p>[オフィスアワー]</p> <p>日時：前期の月曜日 14:00～16:00 場所：1号館5F、1519号室</p>				

担当教員の実務経験	[実務経験のある教員による授業] この科目では、学校現場における教員経験、教育行政機関での勤務経験のある者が、その経験を活かし、実践的教育力を育むための指導を行います。			
備考	[学修時間] この授業は、講義の授業形態による2単位の科目であり、90時間（授業時間30時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。1回の授業時間は100分とする。 この科目は、中学校及び高等学校教諭1種免許状取得に必要な必修科目として、教育職員免許法施行規則に定められている科目区分または事項等のうち、「教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む）」、「教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む）」に位置付けられています。 新型コロナウイルス感染症の発生状況に応じて、成績評価の基準、方法及び授業計画を変更する場合があります。			
授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	牛尾	(授業内容) テーマ：学習指導の原理と形態 進歩主義の指導原理、本質主義の指導原理について学ぶと共に、一斉授業、個別授業といった学習形態について考察することにより、現代の学校カリキュラム経営で求められているカリキュラム・マネジメントの意義・重要性和その評価についての基礎的な知見を学ぶ。	講義	【予習：2時間】 これまでの教育課程科目の学修内容について振り返る。 【復習：2時間】 次の学習内容に応じた課題を提示する。
2	長登、松田	(授業内容) テーマ：教育哲学と教育方法 教師の仕事は単に教えることではない。大切なことは、子どもたちの学びをサポートすること、子どもたちがより豊かに、より幸せに生きるために彼らの自己受容を助けることである。学びの具体的な支援方法を考えていく。	講義	【予習：2時間】 前時に配布したプリントをよく読んでおくこと。 【復習：3時間】 授業の要約とコメントをレポートとして作成すること。
3	長登、松田	(授業内容) テーマ：教育方法研究の史的展開 近代から現代の公教育学校において、どのような教育方法が研究・実践されてきたのか、世界的な潮流を理解して教授理論やカリキュラム類型を解説する。また、日本においては、どのような教育方法が研究・実践されてきたのか、その理論と実践を広く学び、自らの教育実践に役立てる。	講義	【予習：2時間】 前時に配布したプリントをよく読んでおくこと。 【復習：3時間】 授業の要約とコメントをレポートとして作成すること。
4	長登、松田	(授業内容) テーマ：学習意欲を創る、主体的・対話的で深い学びを実現する授業内発的動機付けを高めることは体育教師にとって重要な課題である。望ましい動機付けの雰囲気をつくる授業の計画と準備について考察する。また、主体的・対話的で深い学びを目指す「アクティブ・ラーニング」について理解し、取り組みを通して、その方法を学ぶ。	講義	【予習：2時間】 前時に配布したプリントをよく読んでおくこと。 【復習：3時間】 授業の要約とコメントをレポートとして作成すること。
5	長登、松田	(授業内容) テーマ：教材と授業の実際、教材研究の方法 体育の授業づくりに向けた教師の中心的な仕事の一つである教材・教具づくりについて解説する。体育授業における教材・教具とは何か、それらの構成・開発の際に求められる基本的な条件や視点について考察する。	講義	【予習：2時間】 前時に配布したプリントをよく読んでおくこと。 【復習：2時間】 授業の要約とコメントをレポートとして作成すること。
6	長登、松田	(授業内容) テーマ：単元計画と指導案の実際 単元計画とは、どのようなものであるかを述べることができ、その計画を作成することができるよう、単元計画に準じて、1単位時間の学習指導案を作成する。	講義	【予習：2時間】 前時に配布したプリントをよく読んでおくこと。 【復習：2時間】 授業の要約とコメントをレポートとして作成すること。
7	松田	(授業内容) テーマ：様々な教育評価、指導案中の評価基準の作成 「評価と評定」、「評価規準と基準」、「絶対評価と相対評価」、「形成的評価」、「自己評価」等、様々な教育評価について理解する。また、体育授業における、目標に準拠した評価と観点別評価について、その意味を理解する。学習指導案中に評価を位置付け、その具体的な評価方法を考える。	講義	【予習：2時間】 前時に配布したプリントをよく読んでおくこと。 【復習：2時間】 授業の要約とコメントをレポートとして作成すること。
8	松田	(授業内容) テーマ：社会的背景の変化と教育の情報化 我が国の初等中等教育における情報化への対応の変遷を関係する審議会等での議論や学習指導要領の改訂などから解説し、教育の情報化の狙いやICT活用の特性や強み、その効果について考える。	講義	【予習：2時間】 前時に配布したプリントをよく読んでおくこと。 【復習：2時間】 ゲストティーチャーより学んだ内容について振り返り、レポートを作成すること。
9	松田	(授業内容) テーマ：学校におけるICT環境の整備、教育の情報化に関する推進体制 主に近年の学校におけるICT環境の整備政策を概観し、教育データを活用した指導や学習評価の在り方、セキュリティの重要性、デジタル教材や遠隔授業システムを導入する意義や方法、課題について理解を深める。また、ICT支援員などの外部人材や外部機関との連携の方法について考察する。	講義	【予習：2時間】 前時に配布したプリントをよく読んでおくこと。 【復習：2時間】 授業の要約とコメントをレポートとして作成すること。

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	【新カリ】教育課程及び教育方法の理論と実践	授業形態	講義	
英語科目名	【新カリ】教育課程及び教育方法の理論と実践	対象学年	3年	
開講学期	2022年度前期	単位数	2単位	
代表教員	長登 健	ナンバリング	PED3328	
担当教員	長登 健、牛尾 直行、スポーツ健康科学部教員共通			
授業概要				
全体内容	<p>[授業全体の内容]</p> <p>この授業では、教育課程とは何か、学習指導要領の歴史的展開、教材づくり、学習指導案の作成などについて扱うことによって、学校教育における教育課程の重要性について理解する。また、これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法、教育の技術、情報通信技術を活用した教育の理論と方法に関する基礎的な知識・技能を身に付けることを目標とする。</p>			
到達目標	<p>[授業の到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育方法の基礎的理論と実践を理解している。 2. これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するための教育方法の在り方（主体的・対話的で深い学びの実現など）を理解している。 3. 学級・生徒・教員・教室・教材など授業を構成する基礎的な要件を理解している。 4. 情報通信技術を活用した教育の理論と方法に関する基礎的な知識と技術を身に付けている。 5. 学習評価の基礎的な考え方を理解している。 			
授業の位置づけ	この科目は、コース科目群・スポーツ教育コース科目の選択必修科目である。また、中・高保健体育1種免許取得にあたっての必修科目である。			
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	<p>[授業の位置づけ（学位授与方針に定められた知識・能力等との関連）]</p> <p>この科目は、「問題解決能力」という学位授与方針の達成に寄与する。教職課程においては、「教育の基礎的理解に関する科目」、「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」の一つとして位置付けられているものです。</p>			
履修上の注意、履修要件	<p>[履修要件]</p> <p>本科目は、教育実習に行く前に履修することが望ましい。また、教職概論、教育原理、教育心理学、保健体育科教育法Ⅰ、保健体育科教育法Ⅱの5科目の履修が修了していることが望ましい。</p> <p>学科別に指定されたクラスを受講すること。</p> <p>[履修上の注意（科目独自のルール）]</p> <p>特になし</p>			
成績評価の方法				
評価方法	<p>[成績評価の方法]</p> <p>到達目標へ向けての学習状況を確認するための、定期試験（50%）、課題レポート（30%）、授業への積極的な参加態度（20%）をもとに総合的に評価する。</p>			
評価基準	<p>[成績評価の基準]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 到達目標に基づき、様々な教育学的・体育学的な知識・技術を教授能力に変換することができる。（平常点・課題レポート・定期試験） 2. 情報通信技術を活用する意義と理論、情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方や生徒たちの情報活用能力（情報モラルを含む。）を育成するための指導法を理解している。（平常点・課題レポート・定期試験） 3. 学習評価の基礎的な考え方を理解し、学習指導案の作成に活かすことができる。（平常点・課題レポート） 			
試験・課題に対するフィードバック方法				
課題レポートは優秀なレポートを選択して、受講者全員で共有する。定期試験後は要望があれば個別に解説や指導を行う。				
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
中学校学習指導要領	文部科学省	東山書房	978-4-8278-1558-0	平成29年3月告示
中学校学習指導要領解説保健体育編	文部科学省	東山書房	978-4-8278-1560-3	平成29年7月発行
高等学校学習指導要領	文部科学省	東山書房	978-4-8278-1567-2	平成30年3月告示
高等学校学習指導要領解説保健体育編	文部科学省	東山書房	978-4-8278-1568-9	平成30年7月発行
参考文献				
<p>[参考書等]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料：保健体育（教育課程研究センター） 2. 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料：中学校保健体育（教育課程研究センター） 3. 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料：高等学校保健体育（教育課程研究センター） 4. 令和2年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査報告書（スポーツ庁） 5. 教育の情報化に関する手引き（追補版）（令和2年6月 文部科学省） <p>1～5は参考資料であり、レポート作成の際に参考となる。</p> <p>その他、授業中に、適宜、資料を配布します。</p>				
その他				
連絡先・オフィスアワー	<p>[連絡先]</p> <p>長登 健 E-mail: tnagato@juntendo.ac.jp</p> <p>[オフィスアワー]</p> <p>日時：前期の月曜日 14:00～16:00 場所：1号館5F、1519号室</p>			

担当教員の実務経験	[実務経験のある教員による授業] この科目では、学校現場における教員経験、教育行政機関での勤務経験のある者が、その経験を活かし、実践的教育力を育むための指導を行います。			
備考	[学修時間] この授業は、講義の授業形態による2単位の科目であり、90時間（授業時間30時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。1回の授業時間は100分とする。 この科目は、中学校及び高等学校教諭1種免許状取得に必要な必修科目として、教育職員免許法施行規則に定められている科目区分または事項等のうち、「教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む）」、「教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む）」に位置付けられています。 新型コロナウイルス感染症の発生状況に応じて、成績評価の基準、方法及び授業計画を変更する場合があります。			
授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	牛尾	(授業内容) テーマ：学習指導の原理と形態 進歩主義の指導原理、本質主義の指導原理について学ぶと共に、一斉授業、個別授業といった学習形態について考察することにより、現代の学校カリキュラム経営で求められているカリキュラム・マネジメントの意義・重要性和その評価についての基礎的な知見を学ぶ。	講義	【予習：2時間】 これまでの教育課程科目の学修内容について振り返る。 【復習：2時間】 次回の学習内容に応じた課題を提示する。
2	長登、松田	(授業内容) テーマ：教育哲学と教育方法 教師の仕事は単に教えることではない。大切なことは、子どもたちの学びをサポートすること、子どもたちがより豊かに、より幸せに生きるために彼らの自己受容を助けることである。学びの具体的な支援方法を考えていく。	講義	【予習：2時間】 前時に配布したプリントをよく読んでおくこと。 【復習：3時間】 授業の要約とコメントをレポートとして作成すること。
3	長登、松田	(授業内容) テーマ：教育方法研究の史的展開 近代から現代の公教育学校において、どのような教育方法が研究・実践されてきたのか、世界的な潮流を理解して教授理論やカリキュラム類型を解説する。また、日本においては、どのような教育方法が研究・実践されてきたのか、その理論と実践を広く学び、自らの教育実践に役立てる。	講義	【予習：2時間】 前時に配布したプリントをよく読んでおくこと。 【復習：3時間】 授業の要約とコメントをレポートとして作成すること。
4	長登、松田	(授業内容) テーマ：学習意欲を創る、主体的・対話的で深い学びを実現する授業内発的動機付けを高めることは体育教師にとって重要な課題である。望ましい動機付けの雰囲気をつくる授業の計画と準備について考察する。また、主体的・対話的で深い学びを目指す「アクティブ・ラーニング」について理解し、取り組みを通して、その方法を学ぶ。	講義	【予習：2時間】 前時に配布したプリントをよく読んでおくこと。 【復習：3時間】 授業の要約とコメントをレポートとして作成すること。
5	長登、松田	(授業内容) テーマ：教材と授業の実際、教材研究の方法 体育の授業づくりに向けた教師の中心的な仕事の一つである教材・教具づくりについて解説する。体育授業における教材・教具とは何か、それらの構成・開発の際に求められる基本的な条件や視点について考察する。	講義	【予習：2時間】 前時に配布したプリントをよく読んでおくこと。 【復習：2時間】 授業の要約とコメントをレポートとして作成すること。
6	長登、松田	(授業内容) テーマ：単元計画と指導案の実際 単元計画とは、どのようなものであるかを述べることができ、その計画を作成することができるよう、単元計画に準じて、1単位時間の学習指導案を作成する。	講義	【予習：2時間】 前時に配布したプリントをよく読んでおくこと。 【復習：2時間】 授業の要約とコメントをレポートとして作成すること。
7	松田	(授業内容) テーマ：様々な教育評価、指導案中の評価基準の作成 「評価と評定」、「評価規準と基準」、「絶対評価と相対評価」、「形成的評価」、「自己評価」等、様々な教育評価について理解する。また、体育授業における、目標に準拠した評価と観点別評価について、その意味を理解する。学習指導案中に評価を位置付け、その具体的な評価方法を考える。	講義	【予習：2時間】 前時に配布したプリントをよく読んでおくこと。 【復習：2時間】 授業の要約とコメントをレポートとして作成すること。
8	松田	(授業内容) テーマ：社会的背景の変化と教育の情報化 我が国の初等中等教育における情報化への対応の変遷を関係する審議会等での議論や学習指導要領の改訂などから解説し、教育の情報化の狙いやICT活用の特性や強み、その効果について考える。	講義	【予習：2時間】 前時に配布したプリントをよく読んでおくこと。 【復習：2時間】 ゲストティーチャーより学んだ内容について振り返り、レポートを作成すること。
9	松田	(授業内容) テーマ：学校におけるICT環境の整備、教育の情報化に関する推進体制 主に近年の学校におけるICT環境の整備政策を概観し、教育データを活用した指導や学習評価の在り方、セキュリティの重要性、デジタル教材や遠隔授業システムを導入する意義や方法、課題について理解を深める。また、ICT支援員などの外部人材や外部機関との連携の方法について考察する。	講義	【予習：2時間】 前時に配布したプリントをよく読んでおくこと。 【復習：2時間】 授業の要約とコメントをレポートとして作成すること。

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	【新カリ】知的障害者指導法	授業形態	講義	
英語科目名	【新カリ】知的障害者指導法	対象学年	3年	
開講学期	2022年度前期	単位数	2単位	
代表教員	尾高 邦生	ナンバリング	SNE3330	
担当教員	尾高 邦生、渡邊 貴裕、スポーツ健康科学部教員共通			
授業概要				
全体内容	【授業全体の内容】 本科目では、知的障害及び自閉症等のある幼児児童生徒の学習上、生活上の課題について学び、教育内容・方法に独自な特徴をもつ知的障害教育の位置づけや実践の在り方について考える。知的障害教育における各教科別の指導、生活単元学習、作業学習、日常生活の指導、遊びの指導等の具体的実践について事例をもとに解説し、理解を深める。			
到達目標	【授業の到達目標】 1. 知的障害及び自閉症等のある幼児児童生徒の学習上、生活上の課題について理解できる。 2. 特別支援学校（知的障害）の教育課程について理解できる。 3. 知的障害のある幼児児童生徒への専門的指導技法について理解できる。 4. 特別支援学校の学習指導案を作成し、模擬授業を実施することができる。			
授業の位置づけ	この科目は、コース科目群・スポーツ教育コース科目の選択科目である。また、特別支援学校1種免許取得にあたっての必修科目である。			
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、スポーツ健康科学部学位授与方針に定める「課題解決力」を養う科目として位置づけられる			
履修上の注意、履修要件	【履修要件】 ・「特別支援教育論」「障害者教育総論」「障害者の進路支援」を受講していることが望ましい。			
成績評価の方法				
評価方法	【成績評価の方法】 ・平常点（グループワーク参加状況を含む）（30%）、レポート（20%）、定期試験（50%）を総合して評価する。			
評価基準	【成績評価の基準】 1. 知的障害及び自閉症等のある幼児児童生徒の学習上、生活上の課題について理解する（定期試験、レポート）。 2. 特別支援学校（知的障害）の教育課程について理解する（定期試験、レポート）。 3. 知的障害のある幼児児童生徒への専門的指導技法について理解する（定期試験、レポート）。 4. 特別支援学校の学習指導案を作成し、模擬授業を実施することができる。（レポート）。			
試験・課題に対するフィードバック方法				
【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】 ・定期試験や課題レポートで成績評価を行うが、講義内容が反映されていない場合には個別に解説や指導を行う				
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考文献				
1. 肥後祥治 他 編：特別支援教育の学習指導案と授業研究 子どもたちが学ぶ楽しさを味わえる授業づくり、ジヤース教育新社2015 2. 名古屋恒彦 他 編：豊かな生活が切り拓く新しい知的障害教育の授業づくり 各教科等を合わせた指導、東洋館出版社、2018 3. 特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領（平成29年4月告示 文部科学省） 4. 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編（平成30年3月 文部科学省） 5. 特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編（小学部・中学部）（平成30年3月 文部科学省） 6. 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）（平成30年3月 文部科学省） 7. 特別支援学校高等部学習指導要領（平成31年2月告示 文部科学省） 参考書であり、授業中は適宜参考資料を配布する。				
その他				
連絡先・オフィスアワー	【連絡先】 担当：尾高 邦生 E-mail:k.odaka.ow(at)juntendo.ac.jp メールの際は、(at)を@に変更して送信してください。 【オフィスアワー】 前期・後期：火曜日13:00～15:00 木曜日10:00～15:00 1号館2F 1217室（心身障害教育学研究室） 出張などで不在にすることもありますので、できれば事前にご連絡をお願いします。			
担当教員の実務経験	特別支援学校教諭としての勤務経験に基づき、障害のある人への指導に関する実践的な知識をわかりやすく解説する。			
備考	【学修時間】 この授業は、講義による2単位の科目であり、授業30時間と準備学習60時間の計90時間の学修を必要とする内容をもって構成する1回の授業時間は100分とする。 【その他】 特別支援学校教諭一種免許状取得のための必修科目 科目：特別支援教育領域に関する科目 施行規則に定める科目区分又は事項等：心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目（中心領域：知、含む領域：肢・病） 新型コロナウイルス感染症の発生状況に応じて、成績評価の基準、方法及び授業計画を変更する場合があります。			
授業計画				

授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	尾高	【授業内容】 テーマ：知的障害の教育課程 特別支援学校の学習指導要領と教育課程の特徴について理解する。	【授業方法】 講義、ディスカッション	(予習：2時間) 学習指導要領の役割について事前に調べる。 (復習：2時間) 特別支援学校の教育課程の特徴について小レポートにまとめる。
2	渡邊	【授業内容】 特別支援学校学習指導要領 特別支援学校の学習指導要領の改訂のポイントについて理解する。	【授業方法】 講義、ディスカッション	(予習：2時間) 特別支援学校学習指導要領の改訂年度について調べておく。 (復習：2時間) 特別支援学校学習指導要領の改訂とそのポイントについて整理し、表にまとめる。
3	尾高	【授業内容】 テーマ：自立活動 特別支援学校の自立活動について学び、指定された事例について指導計画を作成することができる。	【授業方法】 講義、グループワーク	(予習：2時間) 特別支援学校における自立活動の指導内容の項目について調べる。 (復習：2時間) 自立活動「身体の動き」に関する指導の意義について小レポートにまとめる。
4	渡邊	【授業内容】 テーマ：日常生活の指導 特別支援学校の日常生活の指導について学び、指定された事例について指導計画を作成することができる。	【授業方法】 講義、グループワーク	(予習：2時間) 日常生活の指導内容の項目について調べる。 (復習：2時間) 日常生活の指導の意義について小レポートにまとめる。
5	尾高	【授業内容】 テーマ：生活単元学習 特別支援学校の生活単元学習の指導について学び、指定された事例について指導計画を作成することができる。	【授業方法】 講義、グループワーク	(予習：2時間) 生活単元学習を導入した背景について調べる。 (復習：2時間) 生活単元学習の意義について小レポートにまとめる。
6	渡邊	【授業内容】 テーマ：遊びの指導 特別支援学校の遊びの指導について学び、指定された事例について指導計画を作成することができる。	【授業方法】 講義、グループワーク	(予習：2時間) 「幼児期の遊び」に関する資料を読み、その内容について理解しておく。 (復習：2時間) 遊びの指導の意義について小レポートにまとめる。
7	尾高	【授業内容】 テーマ：作業学習 特別支援学校の作業学習について学び、指定された事例について指導計画を作成することができる。	【授業方法】 講義、グループワーク	(予習：2時間) 「作業学習」に関する資料を読み、その内容について理解しておく。 (復習：2時間) 作業学習の意義について小レポートにまとめる。
8	渡邊	【授業内容】 テーマ：チームティーチング 特別支援学校の授業（VTR）を見て、チームティーチングの方法について理解する。	【授業方法】 講義、グループワーク	(予習：2時間) 「チームティーチング」という言葉について調べる。 (復習：2時間) 教員間の連携とその意義について小レポートにまとめる。
9	尾高	【授業内容】 テーマ：授業づくり 特別支援学校の授業（VTR）を見て、効果的な教示について理解する。	【授業方法】 講義、ディスカッション	(予習：2時間) 知的障害児への教示方法を調べる。 (復習：2時間) 絵本の読み聞かせのポイントについて小レポートにまとめる。
10	渡邊	【授業内容】 テーマ：個に応じた教材 特別支援学校の授業（VTR）を見て、効果的な教材・教具について理解する。	【授業方法】 講義、ディスカッション	(予習：2時間) 教材と教具の違いについて調べる。 (復習：2時間) 指定された材料を用いて教材を作成する。
11	尾高	【授業内容】 テーマ：学習指導案 特別支援学校の学習指導案の作成手順について理解する。	【授業方法】 講義、グループワーク	(予習：2時間) 学習指導案を作成する意義について調べる。 (復習：3時間) 指定されたテーマで実際の指導案（略案）を作成する。
12	渡邊	【授業内容】 テーマ：知的障害の教科学習 特別支援学校の教科別、領域別の指導について学び、指定された事例について指導計画を作成することができる。	【授業方法】 講義、グループワーク	(予習：2時間) 教科学習と教科領域を合わせた指導の違いについて調べる。 (復習：3時間) 指定されたテーマで実際の指導案（略案）を作成する。
13	尾高	【授業内容】 テーマ：個別の指導計画 特別支援学校の個別の指導計画の作成手順について理解する。	【授業方法】 講義、グループワーク	(予習：2時間) 「アセスメント」という言葉と発達検査の種類及び内容について調べる。 (復習：3時間) 指定された事例に対して、個別の指導計画を作成する。

科目名	【新カリ】スポーツ教育学演習	授業形態	演習		
英語科目名	【新カリ】スポーツ教育学演習	対象学年	3年		
開講学期	2022年度後期	単位数	2単位		
代表教員	長登 健	ナンバリング	PHE3323		
担当教員	長登 健、荻原 朋子、スポーツ健康科学部教員共通				
授業概要					
全体内容	本科目は、演習の授業形態で行われる。体育とスポーツの違い、体育やスポーツが持つ可能性、スポーツと教育の関係論などの広い視点から考察を深めていく。特に、現代スポーツにおける諸問題（スポーツの持つ教育的可能性、運動部活動の在り方、学校体育の意義、体罰問題等）を題材に考察を行い、それらをグループで討論し、それをまとめて発表することで、スポーツ教育学の理解を深めることを目標とする。				
到達目標	<p>【授業の到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 現代スポーツにおける諸問題について理解をより深めることができる。 2. 現代スポーツにおける諸問題の解決策などを具体的に挙げるができる。 3. 現代スポーツにおける諸問題の解決策について論じることができる。 				
授業の位置づけ	この科目は、コース科目群・スポーツ教育コース科目の必修科目である。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	<p>【授業の位置づけ（学位授与方針に定められた知識・能力等との関連）】</p> <p>この科目は、「スポーツ健康科学分野で指導的な役割を果たすための高い倫理観」及び「社会や環境の変化に対応し、自ら課題を見つけ、スポーツ健康科学分野における専門的な知識又は技能をもとに課題を解決できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。</p>				
履修上の注意、履修要件	<p>【履修要件】</p> <p>特になし</p>				
成績評価の方法					
評価方法	<p>【成績評価の方法】</p> <p>授業態度や取り組む姿勢等50%、課題提出50%にて評価する。 なお、授業態度・取り組む姿勢が授業進行上不適切であると判断した場合には減点の対象とするので注意すること。</p>				
評価基準	<p>【成績評価の基準】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 現代スポーツにおける諸問題について理解できているか、課題提出で評価する。 2. 現代スポーツにおける諸問題の解決策などを具体的に挙げ、グループで討議ができているか、課題提出で評価する。 3. 現代スポーツにおける諸問題の解決策についてグループで考えたことを発表し、理解を深めることができているかレポートの提出で評価する。 				
試験・課題に対するフィードバック方法					
<p>【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】</p> <p>授業にて返却し、模範解答や評価のポイントについて解説する。</p>					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考文献					
<p>【テキスト・参考書等】</p> <p>適宜、配布資料として配布する。</p>					
その他					
連絡先・オフィスアワー	<p>【連絡先】</p> <p>長登 Email: tnatago@juntendo.ac.jp 荻原 Email: togiwara@juntendo.ac.jp</p> <p>【オフィスアワー】</p> <p>長登：火曜日 12：50～14：30 1号館5階1519号室 荻原：木曜日 11：00～13：00 1号館5階1517号室</p> <p>上記時間帯には予約なしに質問や相談に応じますが、他の学生との重複を避けるため、可能な限り前日までにメールでアポイントを取ってください。質問や相談はアポイントを取っている学生を優先します。</p>				
担当教員の実務経験	<p>【実務経験のある教員による授業】</p> <p>この科目では、学校現場における教員経験、教育行政機関での勤務経験のある者が、その経験を活かし、実践的教育力を育むための指導を行います。</p>				
備考	<p>【学修時間】</p> <p>この授業は、講義・演習の授業形態による2単位の科目であり、授業30時間と準備学習60時間の計90時間の学修を必要とする内容をもって構成する。</p> <p>【その他】</p> <p>新型コロナウイルス感染症の発生状況に応じて、成績評価の基準、方法及び授業計画を変更する場合があります。</p>				
授業計画					
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間	

1	長登 荻原	【授業内容】 スポーツ基本法、スポーツ基本計画	【授業方法】 スポーツ基本法、 スポーツ基本計画 を読み解き、その 理解を深めるとと もに、体育・ス ポーツを巡る諸課 題を抽出する。	(予習：1時間) スポーツ基本法について調べておく。 (復習：3時間) 体育・スポーツを巡る課題について、自身の 課題と関連させながらまとめる。
2	長登 荻原	【授業内容】 インクルーシブ体育	【授業方法】 ゲストティー チャー（特別支援 教育）による事例 解説を踏まえ、 「アダプテッドス ポーツ」の意義や 活用方法について 理解を深める。	(予習：2時間) 学校におけるインクルーシブ体育について調べ ておく。 (復習：2時間) 学校におけるインクルーシブ体育について要点 をまとめる。
3	長登 荻原	【授業内容】 子どものスポーツ機会の充実	【授業方法】 子どもの体力の現 状と課題について ゲストティー チャー（運動生理 学）による事例解 説を踏まえ理解を 深めた上で、ゲ ループ討議を行 う。	(予習：2時間) 子どものスポーツ、運動の機会についてどのよ うな事柄があるのか、調べておく。 (復習：2時間) 子どもの体力の現状について、要点をまとめ る。
4	長登 荻原	【授業内容】 子どもの体力向上①	【授業方法】 体力測定の意義と 活用方法について ゲストティー チャー（測定評 価）による事例解 説を踏まえ理解を 深める。	(予習：2時間) 子どもの体力の現状について、全国体力・運動 能力、運動習慣等調査について調べておく。 (復習：2時間) 体力測定の意義と活用方法について、要点を まとめる。
5	長登 荻原	【授業内容】 子どもの体力向上②	【授業方法】 子どもの体力向上 について、学校現 場での実践事例を もとに、学校体育 の充実の観点から 理解を深める。	(予習：2時間) 学校における体力向上の取り組みについて調べ ておく。 (復習：2時間) 学校における体力向上の取り組みかたの工夫 を考えて、要点をまとめる。
6	長登 荻原	【授業内容】 運動部活動①	【授業方法】 運動部活動の現状 と課題について、 データや資料を持 ち寄り、課題に関 する理解を深め る。	(予習：2時間) これまでの運動部活動の歴史と変遷について概 要を調べておく。 (復習：2時間) 運動部活動における諸問題について、自身が 体験した課題と関連させながらまとめる。
7	長登 荻原	【授業内容】 運動部活動②	【授業方法】 運動部活動の指 導について、ゲスト ティーチャー (コーチング)に よるコーチング科 学の観点からの事 例解説を踏まえ理 解を深める。	(予習：2時間) 運動部活動における指導者のあり方について、 先行研究を調べておく。 (復習：2時間) 運動部活動における指導者について、コーチ ングの観点から要点をまとめる。
8	長登 荻原	【授業内容】 運動部活動③	【授業方法】 運動部活動の運営 について、ゲスト ティーチャー(ス ポーツマネジメント) による経営学 の観点からの事例 解説を踏まえ理解 を深める。	(予習：2時間) 運動部活動の生徒と指導者の運営方法につい て、調べておく。 (復習：2時間) 運動部活動の運営について、要点をまとめる。

科目名	【新カリ】教職実践演習(中・高)			授業形態	演習
英語科目名	【新カリ】教職実践演習(中・高)			対象学年	4年
開講学期	2022年度後期			単位数	2単位
代表教員	長登 健			ナンバリング	PED4325
担当教員	長登 健、牛尾 直行、荻原 朋子、中嶽 誠、尾高 邦生、スポーツ健康科学部教員共通				
授業概要					
全体内容	<p>【授業全体の内容】</p> <p>この授業では、教育実習のふり返り等のグループ討議を中心として、教職課程の他の授業科目の履修や教職課程外での様々な活動を通じて身に付けた資質、入学の段階からそれぞれの学生の学習内容、理解度等を把握能力が、教員として最低限必要な資質能力として有機的に統合され、形成されたかについて最終的に確認する。「履修カルテ」をもとに、入学の段階からそれぞれの学生の学習内容、理解度等を把握した上で、教職の意義や教員の役割、職務内容、子どもに対する責任等や教科の指導力について確認する。</p>				
到達目標	<p>【授業の到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教員としての使命感や責任感、教育的愛情等を再確認し、教員としての義務や責任を自覚できる。 2. 教員としての職責や義務等の自覚に基づき、目的や状況等に応じた適切な行動をとることができる。 3. これまで教育課程個々の科目の履修により習得した専門的な知識・技能が確実なものとなり、それが教員として実践できる力となる。 				
授業の位置づけ	この科目は、コース科目群・スポーツ教育コース科目の必修科目である。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	<p>【授業の位置づけ(学位授与方針に定められた知識・技能等との関連)】</p> <p>教職課程(中高体育)において、全学年を通じた「学びの軌跡の集大成」として位置付けられるものです。</p>				
履修上の注意、履修要件	<p>【履修要件】</p> <p>保健体育科教諭免許取得に係るすべての科目を履修した後で受講すること。</p>				
成績評価の方法					
評価方法	<p>【成績評価の方法】</p> <p>授業態度や取り組み姿勢等(40%)、課題レポート(60%)を総合的に評価する。</p>				
評価基準	<p>【成績評価の基準】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教員としての使命感や職務についての基本的な理解に基づき、自発的・積極的に自己の職責を果たそうとする姿勢を持っているか。(レポート、平常点) 2. 教員としての義務や責任を自覚し、4年間の履修により習得した専門的な知識・技能をもとに教員として実践することができるようになったか。(レポート、平常点) 3. これまで教育課程個々の科目の履修により習得した専門的な知識・技能が確実なものとなり、それが教員として実践できる力となっているか。(レポート、平常点) 				
試験・課題に対するフィードバック方法					
<p>【課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法】</p> <p>授業にて返却し、模範解答や評価のポイントを提示しながら解説する。</p>					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考文献					
<p>【テキスト・参考書等】</p> <p>授業中に、適宜、資料を配布する。</p> <p>中学校学習指導要領(平成29年3月告示 文部科学省)</p> <p>中学校学習指導要領解説 総則編(平成29年7月 文部科学省)</p> <p>中学校学習指導要領解説 保健体育編(平成29年7月 文部科学省)</p> <p>高等学校学習指導要領(平成30年3月告示 文部科学省)</p> <p>高等学校学習指導要領解説 総則編(平成30年7月 文部科学省)</p> <p>高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編(平成30年7月 文部科学省)</p>					
その他					
連絡先・オフィスアワー	<p>【連絡先】</p> <p>長登: Email: tngato@juntendo.ac.jp</p> <p>荻原: Email: togiwara@juntendo.ac.jp</p> <p>【オフィスアワー】</p> <p>長登: 月曜日 11:00~13:00 1号館5階1519号室</p> <p>荻原: 月曜日 11:00~13:00 1号館5階1517号室</p> <p>上記時間帯には予約なしに質問や相談に応じますが、他の学生との重複を避けるため、可能な限り前日までにメール等でアポイントを取ってください。質問や相談はアポイントを取っている学生を優先します。</p>				
担当教員の実務経験	<p>【実務経験のある教員による授業】</p> <p>この科目は、学校現場における教員経験、教育行政機関での勤務経験のある者が、その経験を活かして、科目責任者を担当し、教員として最低限必要な資質能力を確認するための指導を行います。</p>				

備考	<p>【学修時間】 この授業は、講義・演習の授業形態による2単位の科目であり、授業60時間と準備学習30時間の計90時間の学修を必要とする内容をもって構成する。1回の授業時間は100分とする。</p> <p>【その他】 履修履歴の把握：○ 学校現場の意見聴取：○ 受講者数：15～20人（10クラスで実施）</p> <p>中・高教諭1種免許（保健体育）取得するための必修科目 科目：教育実践に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育） 施行規則に定める科目区分又は事項等：教職実践演習</p>			
	授業計画			
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	長登 牛尾 中嶽 荻原 尾高	【授業内容】 ガイダンスとこれまでの学習のふり返り	【授業方法】 履修カルテをもとに各自で確認、整理するとともに、教育実習における各自の課題についてグループ討議を行う。	（復習：3時間） 各自で作成した履修カルテを確認し、不足している点についてまとめる。
2	長登 牛尾 中嶽 荻原 尾高	【授業内容】 保健体育科教員の使命と責任（講話）	【授業方法】 プリントとスライドを用いて講義を進める。今日の学校教育における保健体育の重要性、及びそれを担う教員の意義や役割について、再確認する。	（予習：3時間） 保健体育科教員の役割と使命について、情報収集してまとめる。 （復習：2時間） 今日の学校教育における 体育の重要性、及びそれを担う教員の意義や責任について理解を深める。
3	長登 牛尾 中嶽 荻原 尾高	【授業内容】 授業指導力の向上（教育実習を踏まえて）①	【授業方法】 中学校保健体育科（体育分野）の授業研究（授業VTRの視聴とディスカッション）@グループワーク	（予習：2時間） 教育実習の授業研究で指摘された事柄を整理する。 （復習：2時間） 中学体育（体育分野）の授業研究から得られたことを整理する。
4	長登 牛尾 中嶽 荻原 尾高	【授業内容】 授業指導力の向上（教育実習を踏まえて）②	【授業方法】 高等学校保健体育科（科目体育）の授業研究（授業VTRの視聴とディスカッション）@グループワーク	（予習：2時間） 教育実習の授業研究で指摘された事柄を整理する。 （復習：2時間） 高等学校体育（科目体育）の授業研究から得られたことを整理する。
5	長登 牛尾 中嶽 荻原 尾高	【授業内容】 授業指導力の向上（教育実習を踏まえて）③	【授業方法】 中学校保健体育科（保健分野）及び高等学校保健体育科（科目保健）の授業研究（授業VTRの視聴とディスカッション）@グループワーク	（予習：2時間） 教育実習の授業研究で指摘された事柄を整理する。 （復習：2時間） 中学保健体育科（保健分野）及び高等学保健体育科（科目保健）の授業研究から得られたことを整理する。
6	長登 牛尾 中嶽 荻原 尾高	【授業内容】 保健体育科教員に求められる教科の指導力①	【授業方法】 第3,4回において指摘された場面の指導方法の代替案シナリオを作成・発表する@グループワーク	（予習：3時間） 指摘された場面の指導方法や代替案シナリオを考える。 （復習：2時間） 指摘された場面の指導方法代替案シナリオ発表から学んだことを整理する。
7	長登 牛尾 中嶽 荻原 尾高	【授業内容】 保健体育科教員に求められる教科の指導力②	【授業方法】 第5回において指摘された場面の指導方法代替案シナリオを作成、発表する。@グループワーク	（予習：3時間） 指摘された場面の指導方法や代替案シナリオを考える。 （復習：2時間） 指摘された場面の指導方法代替案シナリオ発表から学んだことを整理する。

科目名	【新カリ】学校体育経営管理学	授業形態	講義	
英語科目名	【新カリ】学校体育経営管理学	対象学年	3年	
開講学期	2022年度後期	単位数	2単位	
代表教員	長岡 知	ナンバリング	MGT3327	
担当教員	長岡 知、スポーツ健康科学部教員共通			
授業概要				
全体内容	<p>[授業全体の内容]</p> <p>体育・スポーツ振興に関わる体育指導者は児童生徒の豊かなスポーツライフの基礎を培うために、児童生徒の志向や能力に応じた運動・スポーツ指導を行うことが必要である。学校現場における体育・スポーツ指導を効果的に実践するためには経営学的な考え方・進め方の理解は今日いよいよその重要性が求められている。そこで本講義では中学校・高等学校における教科「保健体育」を中核に、学校教育活動全体を通して実施される体育的活動や行事の企画・運営・実践のできる力量の形成を図ることをねらいとする。</p>			
到達目標	<p>[授業の到達目標]</p> <p>1. 学校体育経営についての基礎的な知識、考え方を理解できる。 2. 生徒の実態に即して体育事業をどのように進めたらよいかを学校現場の事例に学び、説明することができる。</p>			
授業の位置づけ	この科目は、コース科目群・スポーツ教育コース科目の選択必修科目である。また、中・高保健体育1種免許取得にあたっての選択必修科目である。			
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	<p>[授業の位置づけ（学位授与方針に定められた知識・能力等との関連）]</p> <p>本講義では、学校体育における経営管理の考え方を理解し、学校全体における体育・スポーツの推進についての理解を深める。講義を通して保健体育科教員に必要な知識や実践的指導力を身につけることができるよう、本授業では学習指導要領をはじめとする体育・スポーツ経営学の基礎的な知識や教養を講義にて学び、得られた知識・技能をもとに、学校体育経営に必要な応用力、表現力を身につけることを目指す。この科目は、「スポーツや健康の分野で、指導的な役割を果たすために必要な高い倫理観」という学位授与方針の達成に寄与する。</p>			
履修上の注意、履修要件	<p>[履修要件]</p> <p>将来、教員になるに相応しい態度、姿勢で積極的に授業、予習・復習に取り組むこと。なお、授業計画は、授業の進行状況により変更することがある。 [履修上の注意（科目独自のルール）]</p> <p>特になし。</p>			
成績評価の方法				
評価方法	<p>[成績評価の方法] 授業態度や取り組む姿勢等（20%）、まとめ課題レポート（10%）、課題提出（10%）定期試験（60%）にて評価する。なお、授業態度・取り組む姿勢が授業進行上、不適切であると判断した場合には、減点の対象とするので注意すること。</p>			
評価基準	<p>[成績評価の基準]</p> <p>1. 学習指導要領総則に示されている目標や内容等を理解し、学校体育経営に関する基本的な考え方と進め方について理解できているか、毎時の課題提出で評価する。（平常点） 2. 学校現場の事例から、実践的な企画・運営・実践について具体的に理解できているか、適宜、課題レポートの提出で評価する。（レポート） 3. ディベート、ディスカッション等のグループワークに主体的・対話的に参加しているか、授業中の発言やワークシート、予習復習の取組状況によって受講態度を評価する。（平常点） 4. 定期試験を実施する。</p>			
試験・課題に対するフィードバック方法				
<p>[試験、レポート等の課題に対するフィードバックの方法]</p> <p>授業にて返却し、評価のポイントを提示しながら解説する。</p>				
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
中学校学習指導要領解説（保健体育編）	文部科学省	東山書房	978-4-8278-1560-3	平成29年7月
高等学校学習指導要領解説（保健体育編・体育編）	文部科学省	東山書房	978-4-8278-1568-9	平成31年2月
参考文献				
<p>[参考書]</p> <p>1 学校体育経営管理学講義 宇土正彦 著 大修館書店 1981年11月1日 2 体育・スポーツ経営学講義 八代勉・中村平 編著 大修館書店 2002年4月1日 3 学校体育経営ハンドブック 宇土正彦 編著 大修館書店 1994年11月1日 ※1.2.3は参考書</p>				
その他				
連絡先・オフィスアワー	<p>[連絡先]</p> <p>長岡: Email: tm-nagaoka@juntendo.ac.jp [オフィスアワー]</p> <p>長岡: 水曜日12:50~14:30 1号館4階1416号室 上記時間帯には予約なしに質問や相談に応じますが、他の学生との重複を避けるため、可能な限り前日までにメールでアポイントを取ってください。質問や相談はアポイントを取っている学生を優先します。</p>			
担当教員の実務経歴	<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>高等学校において保健体育教員として教科体育及び学校全体の体育活動の運営業務にあっていた経験を生かし、学校現場において求められる知識や技術をわかりやすく解説します。</p>			

備考		<p>[学修時間] この授業は、講義の授業形態による2単位の科目であり、授業30時間と準備学習60時間の計90時間の学修を必要とする内容をもって構成する。</p> <p>[その他] この授業科目は、中学校教諭一種免許状（保健体育）並びに高等学校教諭一種免許状（保健体育）の取得に必要な科目のうち、「教科及び教科の指導法に関する科目等」における必修科目として位置づけられている。また、新型コロナウイルス感染症の発生状況に応じて、成績評価の基準、方法及び授業計画を変更する場合があります。</p>		
授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	長岡 知	<p>[授業内容] 【ガイダンス】 ・授業のねらい、到達目標について理解し、見通しを持つ。</p>	<p>[授業方法] ・ペア学習</p>	<p>(予習：2時間) ・学校での体育・スポーツについて自分にとって記憶に残る部活動、行事について振り返り、自分なりの課題を見だし、受講の心構えを確認する。 (復習：3時間) ・学校体育経営の意義を踏まえ、今後の学習の見通しを立て、学習内容について概観し、整理する。</p>
2	長岡 知	<p>[授業内容] テーマ：経営学的視点とその意義 ・学校体育の現状を把握し、経営学的視点の意義について理解を深める。</p>	<p>[授業方法] ・グループ・ディスカッションを通じて、経営学的視点の意義について意見交換し理解を深める。</p>	<p>(予習：3時間) ・学校体育の現状、子供の体力・健康課題について、情報、資料を収集する。 (復習：1時間) ・学校体育における経営学的視点の意義と役割、その重要性についてまとめる。</p>
3	長岡 知	<p>[授業内容] テーマ：体育・スポーツ経営管理の概念とその構造 ・学校体育経営管理の概念と構造について概説し、理解を深める。</p>	<p>[授業方法] ・グループ・ディスカッションを通じて、学校体育の組織や在り方について意見交換し理解を深める。</p>	<p>(予習：3時間) ・学校体育の経営管理について、学校現場の組織構造等について資料、情報を収集し、現状について調べる。 (復習：1時間) ・学校体育の組織や在り方について自分なりの考えを整理する。</p>
4	長岡 知	<p>[授業内容] テーマ：運動・スポーツ実践者の生活・行動 ・運動・スポーツ実践者（児童・生徒）の生活・行動について解説し理解を深める。</p>	<p>[授業方法] ・グループワークを通して各学校種の児童・生徒の体力の現状、運動習慣等について、参考資料を調べ、理解を深める。</p>	<p>(予習：3時間) ・各種類の児童・生徒の体力の現状、運動習慣等の情報を収集し、現状について調べる。 (復習：1時間) ・各種類の児童・生徒の体力の現状、運動習慣等の現状を踏まえ、経営学的視点から改善策を整理する。</p>
5	長岡 知	<p>[授業内容] テーマ：体育・スポーツ業の進め方①（エリア・サービス） ・エリア・サービスの考え方とその実際について解説し理解を深める。</p>	<p>[授業方法] ・グループ・ディスカッションを通じて、学校体育や地域スポーツ振興について、エリア・サービスの視点から現状、課題について意見交換し理解を深める。</p>	<p>(予習：3時間) ・学校体育・地域スポーツ振興について、現場の体育・スポーツ事業の取組みについて調べておく。 (復習：1時間) ・学校体育や地域スポーツ振興について、エリア・サービスの視点から現状、課題を踏まえ、経営学的視点から改善策を整理する。</p>
6	長岡 知	<p>[授業内容] テーマ：体育・スポーツ事業の進め方②（プログラム・サービス） ・プログラム・サービスの考え方とその実際について、体育授業、業間体育等について解説し理解を深める。</p>	<p>[授業方法] ・グループ・ディスカッションを通じて、学校体育（体育授業、業間体育等）についての意義やねらいについて意見交換し理解を深める。</p>	<p>(予習：3時間) ・学校体育・地域スポーツ振興について、現場の体育・スポーツ事業の取組みについて調べておく。 (復習：1時間) ・学校体育をより効果的に実践するために必要なプログラム・サービスの考え方について整理し、具体的な実践例を調べておく。</p>
7	長岡 知	<p>[授業内容] テーマ：体育・スポーツ事業の進め方③（クラブ・サービス） ・クラブ・サービスの考え方とその実際について、民間スポーツクラブ・総合型地域スポーツクラブ、運動部活動等について解説し理解を深める。</p>	<p>[授業方法] ・グループ・ディスカッションを通じて、クラブ・サービス現状や特性を調べ、意義やねらいについて意見交換し理解を深める。</p>	<p>(予習：3時間) ・各種類の学習指導要領解説を読み、部活動の位置づけや意義・ねらいについて確認しておく。 (復習：1時間) ・学校・民間・地域スポーツクラブの効果的・適正なクラブ運営について、どのような配慮・工夫がなされているか、クラブ・サービスの考え方を踏まえ、整理し、理解を深めまとめる。</p>

科目名	【新カリ】生徒・進路指導論	授業形態	講義		
英語科目名	【新カリ】生徒・進路指導論	対象学年	3年		
開講学期	2022年度後期	単位数	2単位		
代表教員	村山 憲男	ナンバリング	PED3329		
担当教員	村山 憲男、スポーツ健康科学部教員共通				
授業概要					
全体内容	<p>【授業全体の内容】 生徒指導とは、学校生活がすべての児童生徒にとって有意義で興味深く、充実したものであるための諸活動であり、学校教育活動全般に通じるものである。進路指導とは、その中でも将来の職業選択に関わる教育活動のことである。現在、学校現場では、生徒指導・進路指導上、いかなる課題が生じていて、いかにその課題に取り組んでいるのか具体的な事例を示しながら生徒指導・進路指導についての理解を深める。</p> <p>【授業の到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生徒指導の意義と原理（位置づけや指導原理など）を理解し説明できる。 2. 児童生徒全体への生徒指導の進め方を理解し説明できる。 3. 個別の課題を抱える個々の児童生徒への具体的な対応や連携を理解し説明できる。 4. 進路指導・キャリア教育の意義や原理について説明できる。 5. 全ての児童及び生徒を対象とした進路指導・キャリア教育の考え方や指導の在り方について説明できる。 6. 児童及び生徒が抱える個別の進路指導・キャリア教育上の課題に向き合う指導の考え方や在り方を説明できる。 				
到達目標					
授業の位置づけ	この科目は、コース科目群・スポーツ教育コース科目の選択科目である。また、中・高保健体育1種免許取得にあたっての必修科目である。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連					
履修上の注意、履修要件	<p>【履修要件】 特になし。</p> <p>【履修上の注意（科目独自のルール）】 ノートを必ず持参すること。</p> <p>【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】 授業で解説する。</p> <p>【テキスト・参考書等】 中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省） 中学校学習指導要領解説 総則編（平成29年7月 文部科学省） 中学校学習指導要領解説 保健体育編（平成29年7月 文部科学省） 高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省） 高等学校学習指導要領解説 総則編（平成30年7月 文部科学省） 高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編（平成30年7月 文部科学省） 中学校キャリア教育の手引き（文部科学省） 高等学校キャリア教育の手引き（文部科学省） 生徒指導提要（平成22年 文部科学省） 上記を参考書として指定する。本科目に関わらず、定期試験やレポート、卒後の活動などで役立つため、可能な限り入手しておくことが望ましい。また、ノートを必ず持参すること。 その他の資料等は必要に応じて適宜配布する。</p>				
成績評価の方法					
評価方法	<p>【成績評価の基準】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生徒指導の意義と原理（位置づけや指導原理など）を理解し説明できる。（定期試験・授業内試験・レポート） 2. 児童生徒全体への生徒指導の進め方を理解し説明できる。（定期試験・授業内試験・レポート） 3. 個別の課題を抱える個々の児童生徒への具体的な対応や連携を理解し説明できる。（定期試験・授業内試験・レポート） 4. 進路指導とキャリア教育について、理論や具体的な指導を理解し説明できる。（定期試験・授業内試験・レポート） 5. 授業中の発言や予習・復習の取組状況によって受講態度を評価する。（平常点） <p>【成績評価の方法】 定期試験（70%）、授業内試験・レポート・平常点（30%）。</p>				
評価基準					
試験・課題に対するフィードバック方法					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考文献					
その他					

連絡先・オフィスアワー		<p>【連絡先】 担当：村山憲男 E-mail：n-murayama@juntendo.ac.jp 【オフィスアワー】 日時：月曜日12:10から12:45 場所：授業内で伝達する。 他の学生の相談時間と重複しないようにするため、できるだけ前週までにE-mailで予約すること。</p>		
担当教員の実務経験				
備考		<p>【学修時間】 この授業は、講義の授業形態による2単位の科目であり、授業30時間と準備学習60時間の計90時間の学修を必要とする内容をもって構成する。1回の授業時間は100分とする。</p> <p>【実務経験のある教員による授業科目】 臨床心理士・公認心理師として、総合病院や精神科クリニックにて、15年程度の実務経験がある。また、現在は学生相談なども担当している。授業では、これらで得られた生きた知見を紹介する。</p> <p>【その他】 中・高教諭1種免許（保健体育）取得するための必修科目 科目：道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育） 施行規則に定める科目区分又は事項等： 生徒指導の理論及び方法、進路指導及びキャリア教育の理論及び方法</p>		
授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	村山	<p>【授業内容】 オリエンテーションとして、授業の目的と概要、成績評価、履修上の注意について説明する。また、生徒指導の全体像について解説する。</p> <p>【授業方法】 授業中に示すスライドに沿って講義を進める。</p>		(復習：2時間) 生徒指導の全体像について、学んだ知識を整理しておく。
2	村山	<p>【授業内容】 生徒指導提要①として、生徒指導・進路指導の意義と原理について解説する。</p> <p>【授業方法】 授業中に示すスライドに沿って講義を進める。</p>		(予習：2時間) 前の授業中に課した予習内容に取り組む。 (復習：2時間) 生徒指導・進路指導の意義と原理について、学んだ知識を整理しておく。
3	村山	<p>【授業内容】 生徒指導提要②として、教職課程における生徒指導について解説する。</p> <p>【授業方法】 授業中に示すスライドに沿って講義を進める。</p>		(予習：2時間) 前の授業中に課した予習内容に取り組む。 (復習：2時間) 教職課程における生徒指導について、学んだ知識を整理しておく。
4	村山	<p>【授業内容】 生徒指導提要③として、問題行動と生徒指導体制（スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーとの連携）</p> <p>【授業方法】 授業中に示すスライドに沿って講義を進める。</p>		(予習：2時間) 前の授業中に課した予習内容に取り組む。 (復習：2時間) 問題行動と生徒指導体制について、学んだ知識を整理しておく。
5	村山	<p>【授業内容】 生徒指導提要④として、生徒指導の具体的な進め方と指導方法について解説する。</p> <p>【授業方法】 授業中に示すスライドに沿って講義を進める。</p>		(予習：2時間) 前の授業中に課した予習内容に取り組む。 (復習：2時間) 教職課程における生徒指導について、学んだ知識を整理しておく。
6	村山	<p>【授業内容】 生徒指導提要⑤として、現在の様々な問題行動の実態およびその指導法について解説する。</p> <p>【授業方法】 授業中に示すスライドに沿って講義を進める。</p>		(予習：2時間) 前の授業中に課した予習内容に取り組む。 (復習：2時間) 問題行動の実態およびその指導法について、学んだ知識を整理しておく。
7	村山	<p>【授業内容】 生徒指導提要⑥として、生徒指導に関する法的制度等について解説する。</p> <p>【授業方法】 授業中に示すスライドに沿って講義を進める。</p>		(予習：2時間) 前の授業中に課した予習内容に取り組む。 (復習：2時間) 教職課程における生徒指導について、学んだ知識を整理しておく。
8	村山	<p>【授業内容】 生徒指導に役立つ心理学①「対人コミュニケーションの特徴」及び小テスト</p> <p>【授業方法】 第1～7回目までの内容に関する授業内試験・レポートを行い、この授業内で解説する。</p>		(予習：4時間) これまでの内容を体系的に整理するとともに、授業内試験・レポートに向けて知識を確実にしておく。 (復習：3時間) 間違えた内容を中心に、理解・記憶を確実にする。
9	村山	<p>【授業内容】 生徒指導に役立つ心理学②「認知的不協和理論や均衡理論、リーダーシップ論」について解説【授業方法】 授業中に示すスライドに沿って講義を進める。</p>		(予習：2時間) 前の授業中に課した予習内容に取り組む。 (復習：2時間) 生徒指導に役立つ心理学について、学んだ知識を整理しておく。
10	村山	<p>【授業内容】 生徒指導に役立つ心理学③「同調行動や偏見、傍観者行動」について解説</p> <p>【授業方法】 授業中に示すスライドに沿って講義を進める。</p>		(予習：2時間) 前の授業中に課した予習内容に取り組む。 (復習：2時間) 生徒指導に役立つ心理学について、学んだ知識を整理しておく。

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	【新カリ】スポーツによる健康サポートの科学			授業形態	
英語科目名	【新カリ】スポーツによる健康サポートの科学			対象学年	3年
開講学期	2022年度前期			単位数	2単位
代表教員	黄田 常嘉			ナンバリング	AHS3331
担当教員	黄田 常嘉、スポーツ健康科学部教員共通				
授業概要					
全体内容	<p>本科目は、講義の授業形態で行われる。子供から高齢者まで、健康者又は疾病を抱えた人々も含めて、「人」の多様性を理解し、これまでの健康サポートのエビデンスを理解する。特に、疫学的視点から運動・スポーツがどのように人に影響を与えるのかについて広く見識を深め、運動・スポーツの有用性を理解し、その背景にある科学的メカニズムを学修する。大規模疫学的研究については、グループ討議を通じて、様々な観点からそのエビデンスを考証する。将来的に健康科学の分野で、医療、介護、福祉の現場で、それぞれの分野の専門職と一緒に社会的活動、研究活動などが行える知識を身に付けることを目標とする。</p>				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子供から超高齢者までの発達段階毎に、運動・スポーツがどのように影響するかについて正しい知識を修得することができる。 2. 運動・スポーツの有用性ならびにリスクについて理解し、その背景にある科学的メカニズムを学修することができる。 				
授業の位置づけ	この科目は、コース科目群・健康科学コース科目の必修科目である。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、スポーツ健康科学部のディプロマポリシーに定める「社会や環境の変化に対応し、自ら課題を見つけ、スポーツ健康科学分野における専門的知識や技能をもとに課題を解決できる能力」を身につけるための科目として位置付けられる。				
履修上の注意、履修要件	<p>【履修要件】 特になし。</p> <p>【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】 遅刻や早退2回を以て欠席1回とカウントされる。教育実習で2/3以上の出席ができない場合は、個別にレポート課題を課する。</p>				
成績評価の方法					
評価方法	授業中の学習状況（30%）や試験の評点（70%）を総合して評価する。				
評価基準	子供から超高齢者まで運動やスポーツの健康に及ぼす影響に関する基礎的教養が修得できている。（単位認定試験） 授業中の学習状況やレポート提出状況。（平常点）				
試験・課題に対するフィードバック方法					
試験のフィードバックはJuntendo Passportで行う。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考文献					
指定教科書はない。講義資料をJuntendo Passportで配信する。					
その他					
連絡先・オフィスアワー	<p>【連絡先】 担当：黄田常嘉 内線 331 E-mail : ota * juntendo. ac. jp （*を@に読み替えて下さい）</p> <p>【オフィスアワー】 木曜日1～2限他、適宜。 場所：1号館2階 1216号室。 健康管理室業務や医学部業務で不在のこともあるため、事前にメールか内線に連絡をすること。</p>				
担当教員の実務経験	科目責任者は、医師、公認心理師、臨床心理士として多彩な業務経験を有している。その経験を活かしながら、健康サポートに関する実践的な講義内容を展開する。				
備考	この授業は、オムニバス形式の講義による半期2単位の科目である。1回の授業時間は100分とする。 COVIDの流行状況によっては授業計画等を変更する可能性があります。				
授業計画					
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間	
1	内藤	疫学研究が示すスポーツとからだ	配布資料、スライド提示による講義	<p>（予習：1時間） 予め指定された資料を読んでおき、出てくる専門用語等を調べ理解し、説明できるようにしておく。</p> <p>（復習：1時間） 授業で扱った内容知識をレポートに纏める。</p>	

2	黄田	疫学研究が示すスポーツとこころ	配布資料、スライド提示による講義	<p>(予習時間：1時間) 心身相関、スポーツと心の相互作用について考えてみる。自律神経、HPA axis、バイオフィードバックについて調べておく。</p> <p>(復習時間：1時間) 講義内容について、講義内で紹介された文献やインターネットを用いて理解を深める。</p>
3	町田	【授業内容】 疫学研究が示す運動と寿命	配布資料、スライド提示による講義、グループ討議	<p>(予習：1時間) 予め指定された資料を読んでおき、出てくる専門用語等を調べ理解し、説明できるようにしておく。</p> <p>(復習：1時間) 授業で扱った内容知識をレポートに纏める。</p>
4	吉原	疫学研究が示す体力と健康	配布資料、スライド提示による講義	<p>(予習：1時間) 予め指定された資料を読んでおき、出てくる専門用語等を調べ理解し、説明できるようにしておく。</p> <p>(復習：1時間) 授業で扱った内容知識をレポートに纏める。</p>
5	町田	疫学研究が示す不活動の弊害	配布資料、スライド提示による講義、グループ討議	<p>(予習：1時間) 予め指定された資料を読んでおき、出てくる専門用語等を調べ理解し、説明できるようにしておく。</p> <p>(復習：1時間) 授業で扱った内容知識をレポートに纏める。</p>
6	鄧	幼児期、学童期の身体活動・運動・遊び	配布資料、スライド提示による講義	<p>(予習：1時間) 予め指定された資料を読んでおき、出てくる専門用語等を調べ理解し、説明できるようにしておく。</p> <p>(復習：1時間) 授業で扱った内容知識をレポートに纏める。</p>
7	鈴木宏哉	成長期のスポーツと体力	配布資料、スライド提示による講義	<p>(予習：1時間) 子どものスポーツと体力・健康の関わりについてインターネット記事をいくつか調べておく。</p> <p>(復習：1時間) 子どもにおけるスポーツと体力・健康の関係について 授業で紹介した文献資料を用いて理解を深める。</p>
8	黄田	成人期の運動不足と生活習慣病 肥満症、高脂血症、糖尿病、インスリン抵抗性などについて学ぶ。	配布資料、スライド提示による講義、	<p>(予習時間：1時間) 自身の取り組む運動の種類と量の観点から、自身の直近の健康診断の検査データを検討してみる。痩身を呈する疾患についても想起しておく。</p> <p>(復習時間：1時間) 講義内容について、講義内で紹介された文献やインターネットを用いて理解を深める。</p>
9	大久保	高齢期のスポーツ（ロコモ）、妊娠・出産・育児期とスポーツ	配布資料、スライド提示による講義、グループ討議	<p>(予習時間：1時間) ロコモティブシンドロームについて文献やインターネット等を用いて調べる。</p> <p>(復習時間：1時間) 高齢期のスポーツについて授業で習得したことをまとめ、理解を深める。</p>
10	柴田	認知症予防のためのスポーツ	配布資料、スライド提示による講義	<p>(予習時間：1時間) アルツハイマー病は、主に薬物治療と非薬物療法が行われている。その治療は限界があるが、運動を中心とした非薬物療法についても多くのエビデンスがある。代表的な非薬物療法について調べてくる。</p> <p>(復習時間：1時間) 講義内容について、講義内で紹介された文献やインターネットを用いて理解を深める。</p>

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	【新カリ】健康運動指導論	授業形態	
英語科目名	【新カリ】健康運動指導論	対象学年	3年
開講学期	2022年度前期	単位数	2単位
代表教員	涌井 佐和子	ナンバリング	AHS3332
担当教員	涌井 佐和子、スポーツ健康科学部教員共通		
授業概要			
全体内容	<p>【授業全体の内容】</p> <p>本科目は、講義の授業形態で行われる。子供から高齢者、男性と女性、健常者から障害者などを対象に、健康づくりのための身体活動支援及び運動指導方法の基礎的な知識を習得する。特に、健康づくり施策、健康づくりのための身体活動基準、健康日本21（第二次）における社会環境の整備、身体活動量の定量法とその実際、運動プログラム作成の基本などについて理解を深めることを目標とする。</p>		
到達目標	<p>【授業の到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 健康づくり施策を理解し、健康づくりにおける健康運動指導士の役割について理解する。 健康づくりのための身体活動基準2013の考え方を理解し、健康づくりのための身体活動指針（アクティブガイド）による運動指導ができる。 健康づくり施策における身体活動・運動推進のための社会環境について説明できる。 エネルギー代謝、エネルギー必要量とその測定方法とそれらの違いについて理解するとともに、身体活動量について説明できる。 運動プログラム作成の基本的な考え方（基本原則、種類、プログラム構成、持久性運動）を理解し、対象特性に合わせた運動プログラムが作成できるようになる。 運動プログラム作成の基本的な考え方（筋抵抗性運動、ストレッチング、ゲーム運動、生活活動、効果判定、継続性）を理解し、対象特性に合わせた運動プログラムが作成できるようになる。 特定健康診査の検査項目の基準値について理解し、保健指導判定値、受診勧奨値を説明できる。 運動のための内科的メディカルチェックの重要性を理解し、メディカルチェックの内容が説明できるようになる。 生活習慣病罹患者が服用する薬が運動プログラム作成に及ぼす影響を理解し、運動プログラム内容を調整できるようになる。 全身持久力を高めるための有酸素性運動の基本的事項、運動の必要性やトレーニング効果について理解する。 青少年期の成長、発育の特徴について理解し、運動の必要性やトレーニング効果について説明できる。 加齢に伴う生理学的変化と運動効果について学習し、運動様式別の運動効果についてライフステージ別に理解する。 成果をもたらすためには行動の継続が重要であることを理解し、行動変容を生じさせることを目的とした行動変容理論・モデルおよび技法についての知識を習得する。 行動変容を意図したプログラム開発及びカウンセリングの基本的事項をまとめることができる。 		
授業の位置づけ	この科目は、コース科目群・健康科学コース科目の必修科目である。また、健康運動指導士認定試験受験資格取得にあたっての必修科目である。		
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	【学位授与方針に定められている知識・能力等との関連】 この科目は、③「スポーツ健康科学を中心とした幅広い知識と教養」、⑨「健康についての専門的知識と実践的技術の取得」、⑩「健康支援についての専門的知識と実践的技術の習得」、の学位授与方針の達成に寄与する。		
履修上の注意、履修要件	<p>【履修要件】</p> <p>なし</p> <p>この授業科目は、健康運動指導士受験資格取得に必要な科目であるため、試験範囲に対応した内容を扱う。扱う範囲が広いので能動的に取り組むこと。</p> <p>30分以上の遅刻・早退は3回で1回の欠席扱いとします。</p> <p>コロナ禍のために授業方法や評価方法が変更になる可能性があります。</p>		
成績評価の方法			
評価方法	【成績評価の方法】 課題レポート（30%）、筆記試験（30%）、平常点（40%）を総合して評価する。		
評価基準	<p>【成績評価の基準】</p> <ol style="list-style-type: none"> 健康づくり施策を理解し、健康づくりにおける健康運動指導士の役割について理解する（試験）。 健康づくりのための身体活動基準2013の考え方を理解し、健康づくりのための身体活動指針（アクティブガイド）による運動指導ができる（試験）。 健康づくり施策における身体活動・運動推進のための社会環境について説明できる（試験）。 エネルギー代謝、エネルギー必要量とその測定方法とそれらの違いについて理解するとともに、身体活動量について説明できる（試験）（レポート）。 運動プログラム作成の基本的な考え方（基本原則、種類、プログラム構成、持久性運動）を理解し、対象特性に合わせた運動プログラムが作成できるようになる（試験）（レポート）。 運動プログラム作成の基本的な考え方（筋抵抗性運動、ストレッチング、ゲーム運動、生活活動、効果判定、継続性）を理解し、対象特性に合わせた運動プログラムが作成できるようになる（試験）（レポート）。 特定健康診査の検査項目の基準値について理解し、保健指導判定値、受診勧奨値を説明できる（試験）。 運動のための内科的メディカルチェックの重要性を理解し、メディカルチェックの内容が説明できるようになる（試験）。 生活習慣病罹患者が服用する薬が運動プログラム作成に及ぼす影響を理解し、運動プログラム内容を調整できるようになる（試験）。 全身持久力を高めるための有酸素性運動の基本的事項、運動の必要性やトレーニング効果について説明できる（試験）。 青少年期の成長、発育の特徴について理解し、運動の必要性やトレーニング効果について説明できる（試験）。 成果をもたらすためには行動の継続が重要であることを理解し、行動変容を生じさせることを目的とした行動変容理論・モデルおよび技法についての知識を習得する（試験）。 対象者の特徴、ニーズおよび文脈（場面、状況など）を探り、それらの情報を反映させて、行動変容理論・モデルおよび技法を適用できる（レポート）。 行動変容を意図したプログラム開発及びカウンセリングの基本的事項について事例をもとにまとめることができる（レポート）。 		
試験・課題に対するフィードバック方法			
【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】 レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。			
テキスト			

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考文献				
【テキスト・参考書等】 財団法人健康運動指導士養成講習テキスト（上・下）。購入方法については教務課へ確認ください。				
その他				
連絡先・オフィスアワー	【連絡先】 担当： 涌井 佐和子 E-mail： swakui[at]juntendo.ac.jp （ [at] を@に変更してください） 【オフィスアワー】 くさくらキャンパス 日時： 前期水曜日 12:00～12:50 場所： 1号館4階1402室 できるだけE-mailで予約をしてください。先約がある場合にはそちらを優先します。			
担当教員の実務経験				
備考	【学修時間】 この授業は、講義の授業形態による2単位の科目であり、授業30時間と準備学習60時間の計90時間の学修を必要とする内容をもって構成する。 【その他】 この授業科目は、以下の資格取得の要件となっています。 健康・体力づくり財団 健康運動指導士 新型コロナウイルス感染症の発生状況に応じて、成績評価の基準、方法及び授業計画を変更する場合があります。			
授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	涌井	【授業内容】 授業のねらいやスケジュールについて理解を深める。健康づくり施策を理解し、健康づくりにおける健康運動指導士の役割について理解する。	【授業方法】 授業のねらいやスケジュールについて解説する。健康づくり施策を理解し、健康づくりにおける健康運動指導士の役割について解説する。	（予習：2時間） シラバスを読み、今後の学習スケジュールの見直しを持つ。 （復習：2時間） シラバスを再度読み返し、今後の学習スケジュールの見直しを再確認する。健康づくり施策を理解し、健康づくりにおける健康運動指導士の役割についての資料を読み返し、整理する。
2	涌井	【授業内容】 健康づくり施策を理解し、健康づくりにおける健康運動指導士の役割についての資料を読み返し、整理する。	【授業方法】 健康づくりのための身体活動基準2013の考え方を理解し、健康づくりのための身体活動指針（アクティブガイド）による運動指導について解説する。	（予習：2時間） 健康づくりのための身体活動基準2013の考え方を理解し、健康づくりのための身体活動指針（アクティブガイド）による運動指導についての資料を読み、概要を把握する。 （復習：2時間） 健康づくりのための身体活動基準2013の考え方を理解し、健康づくりのための身体活動指針（アクティブガイド）による運動指導についての資料を整理する。
3	涌井	【授業内容】 健康づくり施策における身体活動・運動推進のための社会環境について理解する。	【授業方法】 健康づくり施策における身体活動・運動推進のための社会環境について解説する。	（予習：2時間） 健康づくり施策における身体活動・運動推進のための社会環境についての資料を読み、概要を把握する。 （復習：2時間） 健康づくり施策における身体活動・運動推進のための社会環境についての資料を整理する。
4	涌井	【授業内容】 身体活動量の定量法とその実際について理解する。	【授業方法】 身体活動量の定量法とその実際について解説する。身近な事例についてまとめる。	（予習：2時間） エネルギー代謝、エネルギー必要量とその測定方法とそれらの違いについて理解するとともに、身体活動量についての資料の概要を把握する。 （復習：2時間） エネルギー代謝、エネルギー必要量とその測定方法とそれらの違いについて理解するとともに、身体活動量についての資料を整理する。

5	涌井	<p>【授業内容】 運動プログラム作成の基本的な考え方（基本原則、種類、プログラム構成、持久性運動）を理解し、対象特性に合わせた運動プログラムの作成法について学ぶ。</p>	<p>【授業方法】 運動プログラム作成の基本的な考え方（基本原則、種類、プログラム構成、持久性運動）を理解し、対象特性に合わせた運動プログラム作成について解説する。身近な事例について討議する。練習課題に取り組む。</p>	<p>（予習：2時間） 運動プログラム作成の基本的な考え方（基本原則、種類、プログラム構成、持久性運動）の資料の内容を把握する。</p> <p>（復習：2時間） 運動プログラム作成の基本的な考え方（基本原則、種類、プログラム構成、持久性運動）の資料の内容を整理する。</p>
6	涌井	<p>【授業内容】 運動プログラム作成の基本的な考え方（筋抵抗性運動、ストレッチング、ゲーム運動、生活活動、効果判定、継続性）を理解し、対象特性に合わせた運動プログラムについて理解する。</p>	<p>【授業方法】 運動プログラム作成の基本的な考え方（筋抵抗性運動、ストレッチング、ゲーム運動、生活活動、効果判定、継続性）について解説する。身近な事例について調べる。</p>	<p>（予習：2時間） 運動プログラム作成の基本的な考え方（筋抵抗性運動、ストレッチング、ゲーム運動、生活活動、効果判定、継続性）を理解し、対象特性に合わせた運動プログラムについての資料を読んで把握する。</p> <p>（復習：2時間） 運動プログラム作成の基本的な考え方（筋抵抗性運動、ストレッチング、ゲーム運動、生活活動、効果判定、継続性）についての資料を整理する。</p>
7	涌井	<p>【授業内容】 特定健康診査の検査項目の基準値について理解し、保健指導判定値、受診勧奨値について解説する。</p>	<p>【授業方法】 特定健康診査の検査項目の基準値について理解し、保健指導判定値、受診勧奨値について解説する。</p>	<p>（予習：2時間） 特定健康診査の検査項目の基準値について理解し、保健指導判定値、受診勧奨値の資料を読み、内容を把握する。</p> <p>（復習：2時間） 特定健康診査の検査項目の基準値について理解し、保健指導判定値、受診勧奨値の資料を整理する。</p>
8	涌井	<p>【授業内容】 運動のための内科的メディカルチェックの重要性を理解する。</p>	<p>【授業方法】 運動のための内科的メディカルチェックの重要性やメディカルチェックの内容を解説する。身近な事例について調べる。練習問題を行う。</p>	<p>（予習：2時間） 運動のための内科的メディカルチェックの重要性やメディカルチェックの内容に関する資料を読み、把握する。</p> <p>（復習：2時間） 運動のための内科的メディカルチェックの重要性やメディカルチェックの内容についての資料を整理する。</p>
9	涌井	<p>【授業内容】 生活習慣病罹患者が服用する薬が運動プログラム作成に及ぼす影響や運動プログラム内容の調整について理解する。</p>	<p>【授業方法】 生活習慣病罹患者が服用する薬が運動プログラム作成に及ぼす影響や運動プログラム内容の調整法について解説する。身近な事例について調べる。練習問題を行う。</p>	<p>（予習：2時間） 生活習慣病罹患者が服用する薬が運動プログラム作成に及ぼす影響や運動プログラム内容の調整法についての資料を読んで把握する。</p> <p>（復習：2時間） 生活習慣病罹患者が服用する薬が運動プログラム作成に及ぼす影響や、運動プログラム内容の調整法についての資料を整理する。</p>
10	涌井	<p>【授業内容】 全身持久力を高めるための有酸素性運動の基本的事項、運動の必要性やトレーニング効果について理解する。</p>	<p>【授業方法】 全身持久力を高めるための有酸素性運動の基本的事項、運動の必要性やトレーニング効果について解説する。身近な事例について調べる。</p>	<p>（予習：2時間） 全身持久力を高めるための有酸素性運動の基本的事項、運動の必要性やトレーニング効果についての資料を読んで把握する。</p> <p>（復習：2時間） 全身持久力を高めるための有酸素性運動の基本的事項、運動の必要性やトレーニング効果についての資料を整理する。</p>
11	涌井	<p>【授業内容】 青少年期の成長、発育の特徴について理解し、運動の必要性やトレーニング効果について理解する。</p>	<p>【授業方法】 青少年期の成長、発育の特徴について理解し、運動の必要性やトレーニング効果について解説する。身近な事例について調べる。</p>	<p>（予習：2時間） 青少年期の成長、発育の特徴、運動の必要性やトレーニング効果についての資料を読んで把握する。</p> <p>（復習：2時間） 青少年期の成長、発育の特徴、運動の必要性やトレーニング効果についての資料を整理する。</p>

科目名	【新カリ】健康教育学	授業形態	講義
英語科目名	【新カリ】健康教育学	対象学年	3年
開講学期	2022年度前期	単位数	2単位
代表教員	涌井 佐和子	ナンバリング	AHS3334
担当教員	涌井 佐和子、大久保 菜穂子、スポーツ健康科学部教員共通		
授業概要			
全体内容	<p>【授業全体の内容】 本科目は、講義の授業形態で行われる。健康の維持増進、疾病の予防や回復を目的として、個人及び集団に対して生涯を通じて行う健康づくり（教育・管理）の基本事項や各種事例を健康教育及び健康管理の視点から学修し、それらに必要な基礎知識や技術とその計画づくり等についての基本的事項を理解することを目標とする。 （オムニバス方式／全14回）</p> <p>（35 大久保菜穂子／6回） 主として健康教育に関わる以下の内容について学修する。 健康づくり政策の変遷、健康教育学の定義及び歴史や概念、行動変容に向けた健康行動理論・保健行動理論及び健康教育との関連、ライフサイクルにおける健康教育、ヘルスリテラシー、健康な生活習慣と感染症予防、健康増進法における健康教育、職場・地域・学校等における健康教育に必要な基礎知識や技術とその計画づくり。</p> <p>（32 涌井佐和子／9回） 主として健康管理に関わる以下の内容について学修する。 健康づくり政策の変遷、健康づくりの法規、健康日本21（2次）、生活習慣病、その他近年問題となっている疾患の定義、実態と対策、こころの健康増進の現状と課題、食生活等</p>		
到達目標	<p>【授業の到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 健康づくりの概念と制度、健康教育の歴史、健康づくりにかかわる法規に概要について理解できる。 健康日本21（2次）の概要について理解することができる。 特定健診・保健指導制度について理解できる。メタボリックシンドローム、肥満症、高血圧症、脂質異常症の定義・診断基準・リスク・対策等について理解できる。 糖尿病、虚血性心疾患の定義・診断基準・リスク・対策等について理解できる。また、がん（悪性新生物）対策の実態と、一次予防における運動の意義について理解できる。 介護予防制度による介護予防の内容、ロコモティブシンドローム、運動器退行性疾患、呼吸器疾患、軽度認知障害・認知症の定義、実態と対策等について理解できる。 運動とこころの健康増進（ストレスの考え方と評価法、ストレスマネジメントとカウンセリング、心理要因の健康行動への影響）について理解できる。 食生活と健康づくりの関連について理解できる。 ライフサイクルにおける健康教育や、ヘルスリテラシー、健康な生活習慣について説明することができる。 職場・地域・学校等における健康教育に必要な基礎知識や技術について理解し、計画づくりについて説明することができる。 		
授業の位置づけ	この科目は、コース科目群・健康科学コース科目の選択必修科目である。また、第一種衛生管理者資格取得にあたっての必修科目である。		
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	<p>【学位授与方針に定められている知識・能力等との関連】</p> この科目は、③「スポーツ健康科学を中心とした幅広い知識と教養」、⑨「健康についての専門的知識と実践的技術の取得」、⑩「健康支援についての専門的知識と実践的技術の習得」、の学位授与方針の達成に寄与する。さらに、「スポーツ健康科学を中心とした幅広い知識と教養」、「健康についての専門的知識と実践的技術の取得」ならびに「健康支援についての専門的知識と実践的技術の習得」に寄与する。		
履修上の注意、履修要件	<p>【履修要件】</p> 公衆衛生学を履修していると望ましい。 新型コロナウイルス感染症の発生状況に応じて、成績評価の基準、方法及び授業計画を変更する場合があります。		
成績評価の方法			
評価方法	<p>【成績評価の方法】</p> 前半：健康管理分野 小テストと課題レポート（30%）、平常点（20%）を総合し、50点満点で評価する。 後半：健康教育学分野 筆記試験（レポート）1題70%、授業中に課す提出物20%、授業中の態度・行動や質疑応答などの取組む姿勢と いった授業への意欲度（平常点）10%を総合して評価する。 健康管理分野と健康教育学分野の合計得点を総合得点として評価する。		
評価基準	<p>【成績評価の基準】</p> <ol style="list-style-type: none"> 健康づくりの概念と制度、健康教育の歴史の概要について理解できる（小レポート）。 健康日本21（2次）の概要について、自身の生活と関連づけて理解することができる（小テスト）。 生活習慣病（メタボリックシンドローム、肥満症、高血圧症、脂質異常症、糖尿病、虚血性心疾患、がん）の定義・診断基準・リスク・対策等について理解できる（小テスト）。 介護予防制度による介護予防の内容、ロコモティブシンドローム、運動器退行性疾患、呼吸器疾患、軽度認知障害・認知症の定義、実態と対策について理解できる（小テスト）。 こころの健康増進（ストレスの考え方と評価法、ストレスマネジメントとカウンセリング、心理要因の健康行動への影響）の現状と課題、食生活等について理解できる（レポート）。 自身ならびに重要な他者における健康管理の在り方について考究できる（レポート、平常点）。 <p>7. 健康教育学の定義や概念、健康行動理論について自分の言葉で説明できるか、レポートで評価する。 8. 生涯を通じた健康教育の取組と、ヘルスリテラシー、健康な生活習慣について授業中に課す提出物やレポートで評価する。 9. 職場・地域・学校等における健康教育の計画づくりについて理解し、事例をふまえて説明できるかレポートで評価する。 10. 学習意欲や授業態度については、討議や事例検討等から評価する。</p> <p>定期試験は実施しない</p>		
試験・課題に対するフィードバック方法			
<p>【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】</p> レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。授業中に課したレポートや提出物については講義形式で解説を行う。			

テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考文献				
【テキスト・参考書等】 適宜紹介します。				
その他				
連絡先・オフィスアワー	【連絡先】 担当： 健康管理分野担当：涌井 佐和子 E-mail: swakui[at]juntendo.ac.jp 健康教育分野担当：大久保 菜穂子 E-mail: naokoo[at]juntendo.ac.jp 【オフィスアワー】 涌井 日時：水曜日 12:00～12:50 場所：1号館4階1402室 健康管理学研究室 大久保 日時：水曜日12:00～12:50 場所：1号館4階1415室 健康教育学研究室 できるだけE-mailで予約をしてください。先約がある場合にはそちらを優先します。			*[at]を@に変更してください。
担当教員の実務経験				
備考	【学修時間】 この授業は、講義の授業形態による2単位の科目であり、授業30時間と準備学習60時間の計90時間の学修を必要とする内容をもって構成する。 【その他】 この授業科目は、以下の資格取得の要件となっています。 健康・体力づくり事業財団 健康運動指導士 対応領域 1-1. 健康の概念と制度（講義90分・1コマ） 1-2. 生活習慣病（NCD）概論と特定健診・保健指導（講義90分・1コマ） 1-3. 介護予防概論（講義90分・1コマ） 14-1. ストレスの考え方と評価法（講義90分・1コマ） 14-2. ストレスマネジメントとカウンセリング（実習90分・1コマ） 14-3. 運動の健康行動（禁煙など）への影響（講義90分・1コマ） 15-1. 食生活と健康運動（講義90分・1コマ） 第一種衛生管理者 新型コロナウイルス感染症の発生状況に応じて、成績評価の基準、方法及び授業計画を変更する場合があります。			
授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	涌井・大久保	【授業内容】 授業のねらいやスケジュールについて理解を深める。健康の概念と制度、健康教育の定義および歴史的背景や概念について理解を深める。	【授業方法】 国内外の健康教育学の歴史について解説し、日本医師会や日本健康教育学会が定義する健康教育について紹介する。健康教育学の歴史的な背景や定義を相手に説明し、理解度確認を行う。	（予習：2時間） シラバスを読み、今後の学習スケジュールの見直しを持つ。 健康の概念と制度、健康教育学の歴史や定義について書籍、インターネットを利用して調べる。 （復習：2時間） シラバスを再度読み返し、今後の学習スケジュールの見直しを再確認する。 健康の概念と制度健康づくり政策の変遷や健康管理にかかわる法規の資料を読み返し、学んだことを整理する。 国内外の健康教育の歴史や定義について復習し、時系列に流れを整理する。
2	涌井	【授業内容】 健康日本21（2次）の概要について理解する。	【授業方法】 健康日本21（2次）の概要について解説する。自身の状況や重要な他者について評価する。	（予習：2時間） 健康日本21（2次）の概要についての資料を読み、内容を把握する。 （復習：2時間） 健康日本21（2次）の概要についての資料を読み返し、学んだことを整理する。
3	涌井	【授業内容】 生活習慣病（NDC）の内容と特定健診・保健指導制度、および健康運動指導士の役割について理解を深める。生活習慣病（メタボリックシンドローム、肥満症、高血圧症、脂質異常症）の定義・診断基準・リスク・対策等の基本的事項について理解する。	【授業方法】 生活習慣病（NDC）の内容と特定健診・保健指導制度について解説する。 生活習慣病（メタボリックシンドローム、肥満症、高血圧症、脂質異常症）の定義・診断基準・リスク・対策等について解説する。身近な事例について考究しまとめる。基本的事項を整理する。	（予習：2時間） 生活習慣病（NDC）の内容と特定健診・保健指導制度についての資料を読み、概要を把握する。 生活習慣病（メタボリックシンドローム、肥満症、高血圧症、脂質異常症）の定義・診断基準・リスク・対策等の資料を読み内容を把握する。 （復習：2時間） 生活習慣病（NDC）の内容と特定健診・保健指導制度についての資料を整理する。 生活習慣病（メタボリックシンドローム、肥満症、高血圧症、脂質異常症）に関する授業資料を読み返し、学んだことを整理する。

4	涌井	<p>【授業内容】 生活習慣病（糖尿病、虚血性心疾患）の定義・診断基準・リスク・対策等の基本的事項について理解する。また、がん対策の現状について理解する。</p>	<p>【授業方法】 生活習慣病（糖尿病、虚血性心疾患）の定義・診断基準・リスク・対策等について解説する。また、がん対策の現状について解説する。身近な事例について考究しまとめる。基本的事項を整理する。</p>	<p>(予習：2時間) 生活習慣病（糖尿病、虚血性心疾患）の定義・診断基準・リスク・対策、ならびにがん対策についての資料を読み内容を把握する。 (復習：2時間) 生活習慣病（糖尿病、虚血性心疾患）の定義・診断基準・リスク・対策、ならびにがん対策に関する授業資料を読み返し、学んだことを整理する。</p>
5	涌井	<p>【授業内容】 介護予防制度による介護予防の内容と運動の重要性を理解し、介護予防における健康運動指導士の役割を理解する。ロコモティブシンドローム、運動器退行性疾患、呼吸器疾患、軽度認知障害・認知症)の定義、実態と対策の基本的事項について理解する。</p>	<p>【授業方法】 介護予防制度による介護予防の内容と運動の重要性を理解し、介護予防における健康運動指導士の役割を解説する。ロコモティブシンドローム、運動器退行性疾患、呼吸器疾患、軽度認知障害・認知症)の定義、実態と対策について解説する。身近な事例について考究しまとめる。基本的事項を整理する。</p>	<p>(予習：2時間) 介護予防制度および介護予防の資料を読み、概要を把握する。ロコモティブシンドローム、運動器退行性疾患、呼吸器疾患、軽度認知障害・認知症)の定義、実態と対策の資料を読み内容を把握する。 (復習：2時間) 介護予防制度および介護予防の資料を整理する。 ロコモティブシンドローム、運動器退行性疾患、呼吸器疾患、軽度認知障害・認知症)の定義、実態と対策に関する授業資料を読み返し、学んだことを整理する。</p>
6	涌井	<p>【授業内容】 ストレスの考え方と評価法の基本的事項（メンタルヘルスの現状、ストレスとその評価や対策、身体活動・運動の精神・心理に及ぼす効果）について理解する。</p>	<p>【授業方法】 ストレスの考え方と評価法について解説する。身近な事例について考究しまとめる。基本的事項を整理する。</p>	<p>(予習：2時間) ストレスの考え方と評価法の資料を読み内容を把握する。 (復習：2時間) ストレスの考え方と評価法に関する授業資料を読み返し、学んだことを整理する。</p>
7	涌井	<p>【授業内容】 ストレスマネジメントとカウンセリングの基本的事項（ストレスモデルに基づくストレスマネジメントの考え方、ストレス評価尺度、ストレス対処としての一次、二次、三次予防、運動実施の心理的効果と社会的効果、運動指導アプローチ）について理解する。</p>	<p>【授業方法】 ストレスマネジメントとカウンセリングの基本的事項について解説する。身近な事例について考究しまとめる。基本的事項を整理する。</p>	<p>(予習：2時間) ストレスマネジメントとカウンセリングの授業資料を読み返し、学んだことを整理する。 (復習：2時間) ストレスマネジメントとカウンセリングの授業資料を読み返し、学んだことを整理する。</p>
8	涌井	<p>【授業内容】 心理要因の健康行動への影響の基本的事項（心理要因の健康行動への影響モデル、運動行動と他の健康行動との関わり）について理解する。</p>	<p>【授業方法】 心理要因の健康行動への影響について解説する。身近な事例について考究しまとめる。基本的事項を整理する。</p>	<p>(予習：3時間) 心理要因の健康行動への影響の資料を読み内容を把握する。 (復習：3時間) 心理要因の健康行動への影響の基本的事項（心理要因の健康行動への影響モデル、運動行動と他の健康行動との関わり）について理解する。</p>
9	涌井	<p>【授業内容】 食生活と健康運動との関わりに関する基本的事項を理解する。</p>	<p>【授業方法】 食生活と健康運動との関わりに関する基本的事項を解説する。</p>	<p>(予習：2.5時間) 食生活と健康運動との関わりに関する資料を読む。 (復習：3.5時間) 食生活と健康運動との関わりについて学んだことを整理する。</p>
10	大久保	<p>【授業内容】 行動変容に向けた健康行動理論・保健行動理論（KAP model、Health Belief model、行動変容ステージ理論、セルフエフィカシーの向上等）と健康教育の関係について理解する。</p>	<p>【授業方法】 健康行動を形成するモデルを用いた支援方法を紹介し、健診や健康教育に向けて活用できるように解説する。各理論について数名で討議する。</p>	<p>(予習：1.5時間) 行動変容・健康行動理論について文献や書籍を用いて調べる。 (復習：2.5時間) 健康行動理論におけるセルフエフィカシーを高めるポイントについてまとめる。</p>

科目名	【新カリ】環境衛生学	授業形態	講義		
英語科目名	【新カリ】環境衛生学	対象学年	3年		
開講学期	2022年度前期	単位数	2単位		
代表教員	久保原 禪	ナンバリング	HYG3336		
担当教員	久保原 禪、スポーツ健康科学部教員共通				
授業概要					
全体内容	この授業では、私たちの日常生活や健康に影響を及ぼす物理学的、化学的、生物学的要因等について学ぶ。また、私たちの体や体を構成する組織と細胞の機能について学びながら、様々な感染症や生活習慣病などの病気に関する理解を深める。さらに、働く人々の安全と健康を守り、快適職場形成のための仕組みや方法について、労働基準法と労働安全衛生法を参照しながら教科書に沿って学ぶ。衛生管理者の役割についても理解を深め、職業性疾患の成因や対策を知り、予防についても考えるなど、広い視野からこれからの産業保健について考える。 環境衛生学は、第一種衛生管理者資格免許（国家資格）取得のため必須授業である。本授業は、職場における衛生管理の方法や組織、関連する法律・社会制度について理解を深めることを目的としている。				
到達目標	1. 健康を保持/促進するための具体的方法を理解できる。 2. 私たちの体の機能と、感染症や生活習慣病などの疾患の仕組みを説明できる。 3. 職業性疾患（職業病）について理解できる。 4. 健康促進のための社会制度などについて理解できる。 5. 実社会の様々な労働（衛生）環境を理解できる。 6. 労働基準法と労働安全衛生法の重要部分について理解できる。 7. 第一種衛生管理者の活動（主に、作業環境管理、作業管理、健康管理）について理解できる。				
授業の位置づけ	この科目は、コース科目群・健康科学コース科目の選択必修科目である。また、第一種衛生管理者資格取得にあたっての必修科目である。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関連した教養」、「倫理観」、「課題解決能力」という学位授与方針の達成に寄与する。				
履修上の注意、履修要件	【履修要件】 特になし。 【履修上の注意（科目独自のルール）】 特になし。				
成績評価の方法					
評価方法	平常点20%、定期試験80%の結果によって評価する。合計60%（60点）以上が合格。				
評価基準	1. 授業への取り組み姿勢と出席率を査定する（平常点）。 2. 健康を保持/促進するための方法に対する理解度を評価する（定期試験）。 3. 代表的な感染症、生活習慣病、職業病についての理解度を評価する（定期試験）。 4. 健康促進のための各種社会制度、並びに労働基準法と労働安全衛生法に対する理解度を評価する（定期試験）。 5. 第一種衛生管理者の活動・役割に対する理解度を評価する（定期試験）。				
試験・課題に対するフィードバック方法					
定期試験の結果は希望者があれば個別に開示し、解説や指導を行う。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
	衛生管理（上）第一種用	中央労働災害防止協会	中央労働災害防止協会	978-4-8059-1791-6	
参考文献					
1. 「衛生管理（下）第一種用」（中央労働災害防止協会 編）と「21世紀の予防医学・公衆衛生」（杏林書院）を参考書として使用する。 2. その他、授業中に適宜資料を配布する。					
その他					
連絡先・オフィスアワー	【連絡先】 担当：久保原禪 E-mail：ykuboha[at]juntendo.ac.jp *[at]を@に変更してください。 【オフィスアワー】 日時：前期期間中の水曜日12:20から13:10 場所：1号館4階1414号室 *上記の時間帯には、予約なしでも質問・相談に応じるが、バッティングしないようにするため、出来るだけ前日までにe-mailで予約をすること。当日の質問・相談は、予約を優先する。				
担当教員の実務経験					
備考	【学修時間】 この授業は、講義の授業形態による2単位の科目であり、授業30時間と準備学習60時間の計90時間の学修を必要とする内容で構成されている。 【その他】 この授業科目は、第一種衛生管理者免許（国家資格）取得のための必修科目です。 また、新型コロナウイルス感染症の発生状況に応じて、成績評価の基準、方法及び授業計画を変更する場合があります。				
授業計画					

授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	久保原	〔授業内容〕 テーマ：授業のガイダンスと環境衛生学入門。 授業の進め方や成績評価法を理解する。また、「衛生学・公衆衛生学」と「労働衛生管理」について入門的な知識を学ぶ。	〔授業方法〕 授業の進め方、成績評価の方法、教科書の予習・復習のやり方等を解説する。また、プリントとスライドを用いて講義を進める。	【予習：2時間】 衛生・公衆衛生、ならびに労働衛生管理とは何か、教科書を読んで予習しておく。 【復習：2時間】 教科書や配布プリントの内容を復習する。
2	久保原	〔授業内容〕 テーマ：健康科学研究法と人口統計/衛生統計。	〔授業方法〕 プリントとスライドを用いて講義を進める。	【予習：2時間】 人口統計や衛生統計について教科書に載っているデータをチェックしておく。 【復習：2時間】 教科書や配布プリントの内容を復習する。
3	久保原	〔授業内容〕 テーマ：環境と健康1。 各種臓器の特徴と疾病、日常の健康管理について理解を深める。	〔授業方法〕 プリントとスライドを用いて講義を進める。	【予習：2時間】 各種臓器の特徴と臓器別疾病の特徴、さらに健康管理/健康教育の意義などについて、教科書を中心に予習しておく。 【復習：2時間】 教科書や配布プリントの内容を復習する。
4	久保原	〔授業内容〕 テーマ：環境と健康2。 健康への環境の影響と、環境影響の評価法について理解を深める。	〔授業方法〕 プリントとスライドを用いて講義を進める。	【予習：2時間】 有害物質、有害環境の生体への影響と、有害環境の評価法について、教科書を中心に予習しておく。 【復習：2時間】 教科書や配布プリントの内容を復習する。
5	久保原	〔授業内容〕 テーマ：ライフサイクルと健康。 ライフサイクルと年齢層別の健康や健康をサポートする公的制度等について理解を深める。	〔授業方法〕 プリントとスライドを用いて講義を進める。	【予習：2時間】 ライフサイクルと健康について、教科書を中心に予習しておく。 【復習：2時間】 教科書や配布プリントの内容を復習する。
6	久保原	〔授業内容〕 テーマ：衛生管理者の役割。 衛生管理者の役割と我が国の労働衛生環境について学ぶ。	〔授業方法〕 プリントとスライドを用いて講義を進める。	【予習：2時間】 衛生管理者の役割について、教科書を中心に予習しておく。 【復習：2時間】 教科書や配布プリントの内容を復習する。
7	久保原	〔授業内容〕 テーマ：労働衛生管理体制。 労働衛生管理体制（安全衛生管理委員会、リスクアセスメント他）について学ぶ。	〔授業方法〕 プリントとスライドを用いて講義を進める。	【予習：2時間】 労働衛生管理体制について、教科書を中心に予習しておく。 【復習：2時間】 教科書や配布プリントの内容を復習する。
8	久保原	〔授業内容〕 テーマ：作業環境要素と作業環境管理。 一般作業環境と有害作業環境、作業環境管理の意義と目的等について学ぶ。	〔授業方法〕 プリントとスライドを用いて講義を進める。	【予習：2時間】 作業環境要素と作業環境管理について、教科書を中心に予習しておく。 【復習：2時間】 教科書や配布プリントの内容を復習する。
9	久保原	〔授業内容〕 テーマ：職業性疾患1。 職業と健康、物理的要因・化学的要因による健康障害について学ぶ。	〔授業方法〕 プリントとスライドを用いて講義を進める。	【予習：2時間】 職業性疾患（左記の授業内容）について、教科書を中心に予習しておく。 【復習：2時間】 教科書や配布プリントの内容を復習する。
10	久保原	〔授業内容〕 テーマ：職業性疾患2。 生物学的要因による健康障害、作業要因（VDT作業、心理的負荷、夜勤他）による健康障害等について学ぶ。	〔授業方法〕 プリントとスライドを用いて講義を進める。	【予習：2時間】 職業性疾患（左記の授業内容）について、教科書を中心に予習しておく。 【復習：2時間】 教科書や配布プリントの内容を復習する。
11	久保原	〔授業内容〕 テーマ：職業性疾患3。 ストレスと精神衛生、職場におけるメンタルヘルス、心と体の健康づくりの意義等について学ぶ。	〔授業方法〕 プリントとスライドを用いて講義を進める。	【予習：2時間】 職業性疾患（左記の授業内容）について、教科書を中心に予習しておく。 【復習：2時間】 教科書や配布プリントの内容を復習する。
12	久保原	〔授業内容〕 テーマ：作業管理。 作業管理の目的と意義、労働衛生保護具等について学ぶ。	〔授業方法〕 プリントとスライドを用いて講義を進める。	【予習：2時間】 作業管理について、教科書を中心に予習しておく。 【復習：2時間】 教科書や配布プリントの内容を復習する。

科目名	【新カリ】運動処方演習			授業形態	演習
英語科目名	【新カリ】運動処方演習			対象学年	4年
開講学期	2022年度前期			単位数	2単位
代表教員	河村 剛光			ナンバリング	TRM4338
担当教員	河村 剛光、大西 朋、深尾 宏祐、スポーツ健康科学部教員共通				
授業概要					
全体内容	健康・体力の維持増進のための運動療法導入を安全かつ効果的に行うために、運動処方の理論と実際を理解し、体得する。インスタントシニアを用いて高齢者体験を行い、高齢者の運動処方が必要な項目について体験を基に検討する。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・インスタントシニアを用いて、高齢者に対する実際の運動処方について必要な知識を体得する。 ・生活習慣病やロコモティブシンドローム、循環器疾患に関する知識を復習する。 ・生活習慣病やメタボリックシンドローム罹患患者に対しても運動処方を作成できる。 				
授業の位置づけ	この科目は、コース科目群・健康科学コース科目の選択必修科目である。また、健康運動指導士認定試験受験資格取得にあたっての必修科目である。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	「スポーツ健康科学を中心とした幅広い知識と教養」「対人調整力・コミュニケーション力・スポーツ健康科学を中心とした幅広い知識と教養を応用し表現する能力」「医学的知識を備えたスポーツ指導者の育成」という学位授与方針に寄与する。				
履修上の注意、履修要件	<p>【履修要件】 運動処方に携わる仕事を目指している人。健康運動指導士を目指している人。</p> <p>【履修上の注意（科目独自のルール）】 課題症例を提示し、その症例に対する運動処方を個人またはチームで話し合い、まとめたものを最終日に発表する。 発表会は数人の講師が採点し、講評する。</p>				
成績評価の方法					
評価方法	【成績評価の方法】 課題に対するレポートおよびプレゼンテーション（80%）、授業態度（20%）				
評価基準	<p>【成績評価の基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題に対して、適切な運動処方をできているか（課題発表）。 ・わかりやすいプレゼンテーションができているか（課題発表）。 ・現状の問題点について具体的に示すことができ、対応を考察できているか（ディスカッション、課題発表）。 				
試験・課題に対するフィードバック方法					
授業の中で行う。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考文献					
授業の際に指示する。					
その他					
連絡先・オフィスアワー	<p>【連絡先】 担当：深尾 宏祐 E-mail：fukao777[at]juntendo.ac.jp</p> <p>【オフィスアワー】 ※質問や相談はできるだけ、前日までにE-mailで予約すること。 日時：前期期間中の火曜日12:00から17:00、木曜日13:00から17:00 場所：スポーツ健康医科学研究所4階9405号室 * 授業が無い期間はE-mailで予約すること。</p>				
担当教員の実務経験	【実務経験のある教員による授業】 この科目では、循環器内科医、スポーツドクターとして診療活動の経験を有している教員が、その経験を活かしながら、実践的な知識、技術を用いて講義内容を展開する。				
備考	<p>【学修時間】 この授業は、演習の授業形態による2単位の科目であり、授業30時間と準備学習60時間の計90時間の学修を必要とする内容をもって構成する。</p> <p>【その他】 健康運動指導士の資格取得には必修です。</p> <p>* 新型コロナウイルス感染症の発生状況に応じて、成績評価の基準、方法及び授業計画を変更する場合があります。</p>				
授業計画					
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間	
1	深尾、染谷	<p>【授業内容】 オリエンテーション／生活習慣病 1. 運動処方演習の内容とスケジュールの説明 2. 生活習慣病と運動療法</p>	【授業方法】 講義形式	<p>(予習：1時間) 健康運動指導士養成テキストの該当範囲を一読する。生活習慣病についても確認しておく。</p> <p>(復習：1時間) 重要ポイントに関して復習し、理解を深める。</p>	

2	深尾	<p>【授業内容】 健康運動指導士総論 1. 身体活動について 2. 健康運動指導士とは。 3. 運動処方の実際</p>	<p>【授業方法】 講義形式</p>	<p>(予習:1時間) 健康運動指導士について、調査する。</p> <p>(復習:1時間) 重要ポイントに関して復習し、理解を深める。</p>
3	大西	<p>【授業内容】 運動処方概論 1. 予防医学としての運動 2. 年齢、疾患、性別にあった運動処方</p>	<p>【授業方法】 講義形式</p>	<p>(予習:1時間) 健康運動指導士養成テキストの該当範囲を一読する。運動処方の理論を調査する。</p> <p>(復習:1時間) 重要ポイントに関して復習し、理解を深める。</p>
4	深尾	<p>【授業内容】 身体活動・運動について 1. 運動の有益性、効果 2. 地域性、対象者のニーズ</p>	<p>【授業方法】 講義形式</p>	<p>(予習:1時間) 健康運動指導士養成テキストの該当範囲を一読する。</p> <p>(復習:1時間) 重要ポイントに関して復習し、理解を深める。</p>
5	大西	<p>【授業内容】 高齢者・ロコモティブシンドロームと運動処方 1. 高齢者の運動 2. ロコモティブシンドローム</p>	<p>【授業方法】 講義形式</p>	<p>(予習:1時間) 健康運動指導士養成テキストの該当範囲を一読する。高齢者の特徴と運動時の注意点について考える。</p> <p>(復習:1時間) 重要ポイントに関して復習し、理解を深める。</p>
6	深尾	<p>【授業内容】 循環器疾患・心臓リハビリテーション 1. 脳卒中 2. 循環器疾患と運動療法 3. 心臓リハビリテーション</p>	<p>【授業方法】 講義形式</p>	<p>(予習:1時間) 健康運動指導士養成テキストの該当範囲を一読する。循環器疾患および心臓リハビリテーションについて調査する。</p> <p>(復習:1時間) 重要ポイントに関して復習し、理解を深める。</p>
7	河村	<p>【授業内容】 身体組成、肥満と運動プログラム 1. 体脂肪率 2. 医学統計の基礎</p>	<p>【授業方法】 講義</p>	<p>(予習:1時間) 健康運動指導士養成テキストの該当範囲を一読する。</p> <p>(復習:1時間) 重要ポイントに関して復習し、理解を深める。</p>
8	深尾	<p>【授業内容】 バイタルサイン測定および心肺運動負荷試験に関して、説明を行う。</p>	<p>【授業方法】 講義</p>	<p>(予習:0.5時間) 健康運動指導士養成テキストの該当範囲を一読する。バイタルサインの重要性を理解する。</p> <p>(復習:1.5時間) 重要ポイント、特に呼気ガス分析に関して復習し、理解を深める。</p>
9	深尾、青木、大西	<p>【授業内容】 体力測定法、運動負荷試験に関して、概要を説明後、(実習)形式で自ら被検者および検者となり実施する。 1. トレーニング場にて体力測定 2. 全身持久力、筋力、筋持久力 3. エルゴメータ</p>	<p>【授業方法】 講義+実習形式</p>	<p>(予習:0.5時間) 健康運動指導士養成テキストの体力測定法、運動負荷試験の該当範囲を一読する。</p> <p>(復習:1.5時間) 重要ポイントに関して復習し、理解を深める。</p>
10	河村	<p>【授業内容】 体力測定法、高齢者、全身持久力 1. 運動能力と健康に関する体力要素 2. 測定の正確性、客観性、再現</p>	<p>【授業方法】 講義形式</p>	<p>(予習:1時間) 健康運動指導士養成テキストの該当範囲を一読する。測定法の基礎について復習する。</p> <p>(復習:1時間) 重要ポイントに関して復習し、理解を深める。</p>
11	深尾、大西、染谷	<p>【授業内容】 バイタルサイン測定および心肺運動負荷試験に関して、実習を行う。 1. 血圧、脈拍測定 2. 運動によるバイタル変化 3. 心肺運動負荷試験(トレッドミル)</p>	<p>【授業方法】 実習形式</p>	<p>(予習:0.5時間) 健康運動指導士養成テキストの該当範囲を一読する。バイタルサインの重要性を理解する。</p> <p>(復習:1.5時間) 重要ポイント、特に呼気ガス分析に関して復習し、理解を深める。</p>
12	深尾、大西、河村、染谷	<p>【授業内容】 新体力テスト・生活体力テストを(演習)形式で被検者および検者となり体験する。さらに、同テストをインスタントシニアでも行い比較する。第2コスモホールを使用し、ADL、握力、上体起こし、長座体前屈、10m障害物歩行、6分間歩行を実施する。</p>	<p>【授業方法】 実習</p>	<p>(予習:1.5時間) 健康運動指導士養成テキストの該当範囲を一読する。新体力テストについて復習する。</p> <p>(復習:1.5時間) 重要ポイントに関して復習し、理解を深める。</p>

科目名	【新カリ】教育相談	授業形態	講義		
英語科目名	【新カリ】教育相談	対象学年	3年		
開講学期	2022年度前期	単位数	2単位		
代表教員	村山 憲男	ナンバリング	PSY3339		
担当教員	村山 憲男、スポーツ健康科学部教員共通				
授業概要					
全体内容	<p>【授業全体の内容】 教育相談の概論を理解するとともに、児童生徒の本質的理解につながる理論や技法を理解することを目的とする。授業では、教育心理学などの知見に基づき、児童生徒の心身のバランスのとれた成長・発達と適応を促し、学校教育現場において児童生徒に起きるさまざまな心の問題や対応していくための実践的な知識と技法を学ぶ。具体的には、前半は児童生徒の不応や問題行動を、後半は主にカウンセリングの基本的な姿勢や技法を取り上げる。また、生徒指導提要のなかでの教育相談の位置づけや、様々な連携についても取り上げる。</p> <p>【授業の位置づけ（学位授与方針に定められている知識・能力等との関連）】 この科目は「社会や環境の変化に対応し、自ら課題を見つけ、スポーツ健康科学分野における専門的な知識又は技能をもとに課題を解決できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。</p> <p>【授業の到達目標】 1. 教育相談で用いる理論（不応や問題行動を含む）を理解し説明できる。 2. カウンセリングの理論や技法を理解し実践できる。 3. 教育相談の位置づけや様々な連携について理解し説明できる。</p>				
到達目標					
授業の位置づけ	この科目は、コース科目群・健康科学コース科目の選択必修科目である。また、中・高保健体育1種免許取得にあたっての必修科目である。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連					
履修上の注意、履修要件	<p>【履修要件】 特になし。</p> <p>【履修上の注意（科目独自のルール）】 ノートを必ず持参すること。</p> <p>【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】 授業で解説する。</p> <p>【テキスト・参考書等】 中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省） 中学校学習指導要領解説 総則編（平成29年7月 文部科学省） 中学校学習指導要領解説 保健体育編（平成29年7月 文部科学省） 高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省） 高等学校学習指導要領解説 総則編（平成30年7月 文部科学省） 高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編（平成30年7月 文部科学省） 生徒指導提要（平成22年 文部科学省） 特にないが、ノートを必ず持参すること。資料等は必要に応じて適宜配布する。</p>				
成績評価の方法					
評価方法	<p>【成績評価の基準】 1. 教育相談で用いる理論（不応や問題行動を含む）を理解し説明できる。（定期試験・授業内試験・レポート） 2. カウンセリングの理論や技法を理解し実践できる。（定期試験・授業内試験・レポート） 3. 教育相談の位置づけや様々な連携について理解し説明できる。（定期試験・授業内試験・レポート） 4. 授業中の発言や予習・復習の取組状況によって受講態度を評価する。（定期試験・授業内試験・レポート）</p> <p>【成績評価の方法】 定期試験（70%）、授業内試験・レポート・平常点（30%）。</p>				
評価基準					
試験・課題に対するフィードバック方法					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考文献					
その他					
連絡先・オフィスアワー	<p>【連絡先】 担当：村山憲男 E-mail：n-murayama@juntendo.ac.jp</p> <p>【オフィスアワー】 日時：月曜日12:10から12:45 場所：授業内で伝達する。 他の学生の相談時間と重複しないようにするため、できるだけ前週までにE-mailで予約すること。</p>				
担当教員の実務経験					

備考	<p>【学修時間】 この授業は、講義の授業形態による2単位の科目であり、授業30時間と準備学習60時間の計90時間の学修を必要とする内容をもって構成する。1回の授業時間は100分とする。</p> <p>【実務経験のある教員による授業科目】 臨床心理士・公認心理師として、総合病院や精神科クリニックにて、15年程度の実務経験がある。また、現在は学生相談なども担当している。授業では、これらで得られた生きた知見を紹介する。</p> <p>【その他】 中・高教諭1種免許（保健体育）取得するための必修科目 科目：道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 （中学校及び高等学校 保健体育） 施行規則に定める科目区分又は事項等： 教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法</p>			
	授業計画			
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	村山	<p>【授業内容】 オリエンテーションとして、授業の目的と概要、成績評価、履修上の注意について説明する。また、教育相談の全体像について解説する。</p> <p>【授業方法】 授業中に示すスライドに沿って講義を進める。</p>		(復習：2時間) 教育相談の全体像について、学んだ知識を整理しておく。
2	村山	<p>【授業内容】 児童生徒の不適応や問題行動①として、障害全般の基本的知識や問題、および、統合失調症について解説する。</p> <p>【授業方法】 授業中に示すスライドに沿って講義を進める。</p>		(予習：2時間) 前の授業中に課した予習内容に取り組む。 (復習：2時間) 障害全般の基本的知識や問題、統合失調症について、学んだ知識を整理しておく。
3	村山	<p>【授業内容】 児童生徒の不適応や問題行動②として、自閉スペクトラム症や他の発達障害について解説する。</p> <p>【授業方法】 授業中に示すスライドに沿って講義を進める。</p>		(予習：2時間) 前の授業中に課した予習内容に取り組む。 (復習：2時間) 自閉スペクトラム症や他の発達障害について、学んだ知識を整理しておく。
4	村山	<p>【授業内容】 児童生徒の不適応や問題行動③として、感情障害やパーソナリティ障害について解説する。</p> <p>【授業方法】 授業中に示すスライドに沿って講義を進める。</p>		(予習：2時間) 前の授業中に課した予習内容に取り組む。 (復習：2時間) 感情障害やパーソナリティ障害について、学んだ知識を整理しておく。
5	村山	<p>【授業内容】 児童生徒の不適応や問題行動④として、児童生徒、および、ときに保護者にも関係する他の精神障害について解説する。</p> <p>【授業方法】 授業中に示すスライドに沿って講義を進める。</p>		(予習：2時間) 前の授業中に課した予習内容に取り組む。 (復習：2時間) 児童生徒、および、ときに保護者にも関係する他の精神障害について、学んだ知識を整理しておく。
6	村山	<p>【授業内容】 授業内試験・レポートにより到達度を確認するとともに、知識をより定着させたものにする。</p> <p>【授業方法】 第1～5回目までの内容に関する授業内試験・レポートを行い、この授業内で解説する。</p>		(予習：4時間) これまでの内容を体系的に整理するとともに、授業内試験・レポートに向けて知識を確実にしておく。 (復習：3時間) 間違えた内容を中心に、理解・記憶を確実にする。
7	村山	<p>【授業内容】 カウンセリングの基本的姿勢のほか、心理学に關係するこれまでの授業の復習を含めて、必要な理論・概念を整理する。</p> <p>【授業方法】 授業中に示すスライドに沿って講義を進める。</p>		(予習：2時間) 前の授業中に課した予習内容に取り組む。 (復習：2時間) カウンセリングの基本的姿勢などについて、学んだ知識を整理しておく。
8	村山	<p>【授業内容】 カウンセリングの技法①として、来談者中心療法を中心に、実践で役立つ具体的な技法について解説する。</p> <p>【授業方法】 授業中に示すスライドに沿って講義を進める。</p>		(予習：2時間) 前の授業中に課した予習内容に取り組む。 (復習：2時間) 来談者中心療法を中心に、実践で役立つ具体的な技法について、学んだ知識を整理しておく。
9	村山	<p>【授業内容】 カウンセリングの技法②として、来談者中心療法以外（たとえば精神分析など）での具体的な技法について解説する。</p> <p>【授業方法】 授業中に示すスライドに沿って講義を進める。</p>		(予習：2時間) 前の授業中に課した予習内容に取り組む。 (復習：2時間) 来談者中心療法以外（たとえば精神分析など）での具体的な技法について、学んだ知識を整理しておく。
10	村山	<p>【授業内容】 カウンセリングの技法③として、保護者等に対する面談にも役立つ具体的な技法（アサーション）について解説する。</p> <p>【授業方法】 授業中に示すスライドに沿って講義を進める。</p>		(予習：2時間) 前の授業中に課した予習内容に取り組む。 (復習：2時間) 保護者等に対する面談にも役立つ具体的な技法（アサーション）について、学んだ知識を整理しておく。
11	村山	<p>【授業内容】 カウンセリングの技法④として、児童生徒の発達に合せた相談について、具体的な進め方や注意点などを含めて解説する。</p> <p>【授業方法】 授業中に示すスライドに沿って講義を進める。</p>		(予習：2時間) 前の授業中に課した予習内容に取り組む。 (復習：2時間) 児童生徒の発達に合せた相談について、学んだ知識を整理しておく。

科目名	【新カリ】精神保健学	授業形態			
英語科目名	【新カリ】精神保健学	対象学年	3年		
開講学期	2022年度前期	単位数	2単位		
代表教員	黄田 常嘉	ナンバリング	BMS3340		
担当教員	黄田 常嘉、松山 毅、スポーツ健康科学部教員共通				
授業概要					
全体内容	<p>本科目は、講義の授業形態で行われる。保健体育教諭、特別支援学校教諭などを旨とする学生にとって、基本的な精神保健、精神医学の知識を獲得することを目標とする。また学生生活を送るために必要な、精神保健の知識と、精神的な問題への具体的な対応方法を学ぶ。 (オムニバス方式/全14回)</p> <p>(6黄田 常嘉/10回)</p> <p>精神保健、精神医学的な知識(生物-心理-社会的な見方)を理解するとともに、生徒や障害者が悩みを自身の言葉で伝えてくることに対応できるスキル(じっくり聴き、同時に自分自身で整理してまとめ記述する力)の重要性について理解を深める。</p> <p>(30 松山毅/4回)</p> <p>学校教育の課題と精神保健(いじめ、不登校、自殺、暴力問題など教育現場における精神保健の課題、教職員のメンタルヘルス支援やスクールソーシャルワーク)、社会的ひきこもりと精神保健(ひきこもりの現状、原因の理解と、支援の仕組み、及び精神保健福祉の役割)、多様性・共生社会と精神保健(性別違和、更生保護、累犯障害者、ホームレス、外国人など現代社会の問題と精神保健福祉の関係性)、災害とソーシャルワーク(災害時における精神保健的課題と支援の仕組み)について理解を深める。</p> <p>【授業の位置づけ(学位授与方針に定められている知識・能力等との関連)】 健康1 この科目は、スポーツ健康科学部の学位授与方針に定める「健康科学分野の専門的な知識と技能」を身につける。</p>				
到達目標	広く精神保健に関連する知識に興味を持ち、自身のメンタルヘルスについても意識が持てる。社会における精神保健、精神医学の現状、問題点についても関心を持てる資質を身につけることができる。				
授業の位置づけ	この科目は、コース科目群・健康科学コース科目の選択必修科目である。また、第一種衛生管理者資格取得にあたっての必修科目である。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、スポーツ健康科学部のディプロマポリシーに定める「スポーツ健康科学を中心とした幅広い知識と教養、及びそれらの活用能力」、「健康を創造・支援するために必要な身体的・精神的・社会的健康についての知識と技能」「健康に関する専門性を活かし、人づくり、社会づくりに貢献できる能力」を身につけるための科目として位置付けられる。				
履修上の注意、履修要件	<p>【履修要件】 特になし</p> <p>【履修上の注意】 講義にはスマホなど、インターネットが繋がるツールを持参していただきたい。講義の冒頭に示すキーワード、キーセンテンスを自身の手で調べていただき、関心を高める時間を設ける。講義は「精神保健」について最低限の知識を提供するのみである。最も大切なことは、学んだことを自分なりにまとめなおすことである。講義の最後に、自身がさらに興味・関心を持ってまとめる時間を作る。</p> <p>【課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法】 2/3以上の出席ができない場合は、個別にレポート課題を課する</p>				
成績評価の方法					
評価方法	筆記試験においては、講義で学んだ内容をどの程度理解できているか、自身の大学生活、今後の社会生活に応用できる程度の知識を獲得しているかを評価する。社会における精神保健、精神医学の現状、問題点についても関心を持てる資質のための最低限の精神科医療の知識が身につけているかを評価する				
評価基準	【成績評価の方法】 評価は、筆記試験(70%)と授業態度・取り組む姿勢(30%)で行う。				
試験・課題に対するフィードバック方法					
試験・課題等のフィードバックはJuntendo Passportを通して行う。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考文献					
指定教科書はない。参考書については授業内で紹介する。講義資料をJuntendo Passportで配信する。					
その他					
連絡先・オフィスアワー	<p>担当：黄田常嘉 / 山口慎史 内線 331 / 9401 E-mail : ota* juntendo. ac. jp / s. yamaguchi. rt* juntendo. ac. jp (*を@に読み替えて下さい) 木曜日1～2限他、適宜。 場所：1号館2階 1216号室。 健康管理室業務や医学部業務で不在のこともあるため、事前にメールか内線に連絡をすること。</p>				
担当教員の実務経験	科目責任者は、精神科専門医、精神保健指定、公認心理師、臨床心理士として、外来入院の診療活動、精神鑑定、学校や企業の健康管理室、特別支援教育専門家検診など精神医学に関連した多彩な業務経験を有している。その経験を活かしながら、精神科医療、精神保健における実践的な講義内容を展開する。				

備考	<p>この授業は、講義による2単位の科目であり、授業30時間と準備学習60時間の計90時間の学修を必要とする内容を以て構成する。</p> <p>この授業科目は、第一種衛生管理者の資格取得の要件となっている。</p> <p>COVIDの流行状況により授業計画等が変更される可能性があります。</p>			
授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	黄田 常嘉	<p>【授業内容】 オリエンテーション： 精神科医である教員の自己紹介 精神医学の諸問題の紹介</p> <p>【授業方法】 スライド提示</p>		<p>(予習：15時間) 最近の事件などで、精神保健、精神医学的な問題を含むものを調べる</p> <p>(復習：1時間)</p>
2	黄田 常嘉	<p>【授業内容】 自殺について理解する 自殺を巡る精神科医療、社会的問題、法律を理解する</p> <p>【授業方法】 スライド提示</p>		<p>(予習：1時間) キーワードをインターネットなどで興味を持ち、検索する。</p> <p>(復習：1時間) キーワード：厚生労働省自殺統計、自殺対策基本法、いのちの電話 ゲートキーパー</p>
3	黄田 常嘉	<p>【授業内容】 精神科医療と法律について理解する 精神障害者の処遇と倫理について考える</p> <p>【授業方法】 スライド提示</p>		<p>(予習：1時間) キーワードをインターネットなどで興味を持ち、検索する。</p> <p>(復習：1時間) キーワード：精神保健福祉法、医師法、憲法11条</p>
4	黄田 常嘉	<p>【授業内容】 こころとは何か、健康とは何かを考える。</p> <p>【授業方法】 配布資料、スライド提示による講義</p> <p>【授業内容】 精神保健の歴史 西洋の精神保健の歴史を通して、人間がこころをどのように捉えてきたかを理解する。 日本の精神保健の歴史を通して、日本人がこころをどのように捉えてきたかを理解する。</p> <p>【授業方法】 配布資料、スライド提示による講義</p>		<p>(予習：2時間) キーワードを調べておくこと</p> <p>(復習：2時間) キーワード：WHOの健康の定義、精神保健の定義 キーワード：ヒポクラテス、ピネル、クレペリン、フロイト、 精神保健福祉法、障害者自立支援法（障害者総合支援法）</p>
5	黄田 常嘉	<p>【授業内容】 ライフサイクルと発達課題： ライフサイクルと発達課題の意味、内容を理解する。</p> <p>【授業方法】 配布資料、スライド提示による講義</p>		<p>(予習：1時間) キーワードを調べておくこと</p> <p>(復習：1時間) キーワード：乳児期、幼児期、学童期、基本的信頼感、脳の発達、神経系の発達、運動能力の発達、言葉の発達 思春期、青年期、成人期、老年期、性の概念、自己同一性、職業選択、結婚、老化、死の受容</p>
6	黄田 常嘉	<p>【授業内容】 大学生生活と精神保健（1）： 摂食障害についての理解を深める。</p> <p>【授業方法】 配布資料、スライド提示による講義</p>		<p>(予習：1時間) キーワードを調べておくこと</p> <p>(復習：1時間) キーワード：摂食障害、過食症、拒食症</p>
7	黄田 常嘉	<p>【授業内容】 大学生生活と精神保健（2）： アルコールの問題について理解する。</p> <p>【授業方法】 配布資料、スライド提示による講義</p>		<p>(予習：1時間) キーワードを調べておくこと</p> <p>(復習：1時間) 一気飲み、アルハラ、急性アルコール中毒、アルコール関連疾患、アルコール依存、離脱症状</p>
8	黄田 常嘉	<p>【授業内容】 大学生生活と精神保健（3）： 薬物使用と薬物依存の問題を考える。</p> <p>【授業方法】 配布資料、スライド提示による講義</p>		<p>(予習：1時間) キーワードを調べておくこと</p> <p>(復習：1時間) キーワード：依存薬物、依存薬物の種類、依存薬物の作用、大麻、有機溶剤、覚せい剤、麻薬、睡眠薬、危険ドラッグ</p>

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	【新カリ】労働基準法	授業形態			
英語科目名	【新カリ】労働基準法	対象学年	3年		
開講学期	2022年度前期	単位数	2単位		
代表教員	八木 直樹	ナンバリング	LAW3341		
担当教員	八木 直樹、スポーツ健康科学部教員共通				
授業概要					
全体内容	<p>【授業全体の内容】 本科目は、講義の授業形態で行われる。働く人にとって最も大切な労働基準法を中心とした労働関係法令を学び、専門的知識と具体的課題に的確に対応できる実践的思考力の修得を目標とする。また、誰もが健康で無理なく働ける「一億総活躍社会」の形成に向けた取り組みとして施行される「働き方改革法案」についても学修する。</p> <p>【授業の位置づけ（学位授与方針に定められている知識・能力等との関連）】 この科目は、「スポーツ健康科学を中心とした教養」、「健康科学分野の専門的な知識と技能」及び「健康科学分野の専門的な実践力」という学位授与方針の達成に寄与する。</p> <p>【授業の到達目標】 1 労働基準法等の関係法令の目的や基礎的概念及び基本的条文の説明ができる。 2 具体的事案に関し、関係法令に照らした的確な論点整理ができる。 3 労使の立場の相違を理解し、関係法令の基本的な条文等を踏まえた問題解決のため助言ができる。</p>				
到達目標					
授業の位置づけ	この科目は、コース科目群・健康科学コース科目の選択必修科目である。また、第一種衛生管理者資格取得にあたっての必修科目である。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連					
履修上の注意、履修要件	<p>【履修要件】 特になし</p> <p>【履修上の注意（科目独自のルール）】 事前に「欠席届」が提出された場合は、成績評価に際して考慮する。事後の「欠席届」は、原則として無効とする。但し、遅延に相当の理由が認められた場合（必ず「欠席届」に遅延理由を記載すること）は考慮する。</p> <p>【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】 任意に提出を求める授業の「振り返り票」に記載された質問等については、次の授業において、可能な範囲で回答する。「定期試験」については、要望により個別に解説する。</p> <p>【テキスト・参考書等】 「やさしい職場の人事労務と安全衛生の基本」公益社団法人 全国労働基準関係団体連合会 発行 指定テキストは各回の授業の予習に使用すること。また授業においては、適宜参照するので必ず持参すること（平成31年3月10日発行のもの）</p>				
成績評価の方法					
評価方法	<p>【成績評価の基準】 1 労働基準法等の関係法令の目的や基礎的概念及び基本的条文の説明ができる。（定期試験、平常点） 2 具体的事案に関し、関係法令に照らした的確な論点整理ができる。（定期試験、平常点） 3 労使の立場の相違を理解し、関係法令の基本的な条文等を踏まえた問題解決のため助言ができる。（定期試験、平常点）</p> <p>【成績評価の方法】 平常点（授業内での発言回数・内容、「振り返り票」の記載内容）（40%）、定期試験（60%）を総合して評価する。</p>				
評価基準					
試験・課題に対するフィードバック方法					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考文献					
その他					
連絡先・オフィスアワー	<p>【連絡先】 担当：八木 直樹 E-mail：yagin@yagiroumukansa.jp ※ [at] を@に置換してください。 【オフィスアワー】 日時：授業前後の時間 場所：1号館2階 非常勤講師室 （できるだけ事前にメールで予約してください。）</p>				
担当教員の実務経験					

備考	<p>【学修時間】 この授業は、講義の授業形態による2単位の科目であり、90時間（授業30時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。</p> <p>【実務経験のある教員による授業】 労働基準監督官・特定社会保険労務士・労働衛生コンサルタント等の業務経験に基づき、労働基準法を始めとする労働法規の要諦を労働現場の実態に即してわかりやすく解説します。</p> <p>【その他】 この科目は、第1種衛生管理者の資格付与の要件となっています。そのため、衛生管理者の職務遂行に必要な労働安全衛生法等についても体系的に学習します。 この授業科目は、以下の資格取得の要件となっています。 第一種衛生管理者</p>			
	授業計画			
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	八木	<p>【授業内容】 テーマ：労働基準法の歴史 法律の体系、労働関係法令の目的や特徴について説明し、今日的な課題について検討する。</p> <p>【授業方法】 配布するプリントを用いて講義を進める。</p>		<p>（予習：2時間） 昨年成立した「働き方改革法案」の概要について調べておくこと。</p> <p>（復習：3時間） 配布したプリントを読んでおくこと。</p>
2	八木	<p>【授業内容】 テーマ：労働契約の成立 求人・求職活動から労働契約の締結までの法的過程を順を追って説明する。「内定」の法的効果について考えてもらう。</p> <p>【授業方法】 配布するプリントとス指定テキストを用いて講義を進める。</p>		<p>（予習：2時間） 「労働契約」とはどのような契約であるか、どのように成立するのか説明できるよう調べておくこと。</p> <p>（復習：3時間） 配布したプリント及び指定したテキストの該当箇所を読んでおくこと。</p>
3	八木	<p>【授業内容】 テーマ：労働条件の明示 労働契約上重要な「労働条件」は何かを検討し、労基法上の関係規定を説明する。</p> <p>【授業方法】 配布するプリントとス指定テキストを用いて講義を進める。</p>		<p>（予習：2時間） 「労働契約」と「労働条件」の関係について、説明できるよう調べておくこと。</p> <p>（復習：3時間） 配布したプリント及び指定したテキストの該当箇所を読んでおくこと</p>
4	八木	<p>【授業内容】 テーマ：就業規則と労働契約 就業規則の必要性と労働条件の管理について説明する。</p> <p>【授業方法】 配布するプリントとス指定テキストを用いて講義を進める。</p>		<p>（予習：2時間） 「就業規則」に関する法的規制について調べておくこと。</p> <p>（復習：3時間） 配布したプリント及び指定したテキストの該当箇所を読んでおくこと</p>
5	八木	<p>【授業内容】 テーマ：労働時間、休憩、休日 労働時間の基本的な設定方法や労働時間管理の重要性や方法について説明する。</p> <p>【授業方法】 配布するプリントとス指定テキストを用いて講義を進める。</p>		<p>予習：2時間 「労働時間・休憩・休日」の法的な定義について調べておくこと。</p> <p>（復習：2時間） 配布したプリント及び指定したテキストの該当箇所を読んでおくこと</p>
6	八木	<p>【授業内容】 テーマ：変形労働時間制、時間外休日労働 労働時間の具体的な設定方法や時間外手当の計算方法等について説明する。</p> <p>【授業方法】 配布するプリントとス指定テキストを用いて講義を進める。</p>		<p>（予習：2時間） 「時間外労働」と「休日労働」の法的要件について調べておくこと。</p> <p>（復習：2時間） 配布したプリント及び指定したテキストの該当箇所を読んでおくこと</p>
7	八木	<p>【授業内容】 テーマ：休暇・休業 年次有給休暇を中心に、休暇制度や管理の方法について説明する。</p> <p>【授業方法】 配布するプリントとス指定テキストを用いて講義を進める。</p>		<p>（予習：2時間） 「休暇」と「休業」の相違について調べておくこと。</p> <p>（復習：2時間） 配布したプリント及び指定したテキストの該当箇所を読んでおくこと</p>
8	八木	<p>【授業内容】 テーマ：賃金 「賃金」と労働時間の関係や支払い原則、計算方法等について説明する。欠勤控除に係る演習を行う。</p> <p>【授業方法】 配布するプリントとス指定テキストを用いて講義を進める。</p>		<p>（予習：2時間） 「賃金」に係る法規制について調べておくこと。</p> <p>（復習：2時間） 配布したプリント及び指定したテキストの該当箇所を読んでおくこと</p>
9	八木	<p>【授業内容】 テーマ：退職・解雇 「退職・解雇」に係る法規制の目的や内容について説明する。</p> <p>【授業方法】 配布するプリントとス指定テキストを用いて講義を進める。</p>		<p>（予習：2時間） 「退職・解雇」に係る法規制について調べておくこと。</p> <p>（復習：2時間） 配布したプリント及び指定したテキストの該当箇所を読んでおくこと</p>

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	【新カリ】健康運動指導実習	授業形態	実験・実習	
英語科目名	【新カリ】健康運動指導実習	対象学年	3年	
開講学期	2022年度後期	単位数	2単位	
代表教員	涌井 佐和子	ナンバリング	AHS3333	
担当教員	涌井 佐和子、飯嶋 正博、村上 祐介、スポーツ健康科学部教員共通			
授業概要				
全体内容	<p>【授業全体の内容】</p> <p>本科目は、実習の授業形態で行われる。健康運動指導論で学修した基礎知識をもとに、運動強度を考慮したウォーキングの指導法、コンディショニング指導法、用具を使った運動指導法を体験し、実際に指導練習を行う。また、子供から中・高齢者を対象とした各種模擬プログラムを企画・実践を行い、プログラム評価を行う。また、運動習慣づくりのための行動変容に依拠したカウンセリングについても体験する。</p> <p>(オムニバス方式/28回)</p> <p>(32 涌井佐和子・村上祐介/22回)</p> <p>子供から高齢者、男性と女性、健常者から障害者などを対象にした健康レベルを向上させる運動に関する指導方法の基礎を身に付けることを目的とする。運動強度を考慮したウォーキングの指導法、コンディショニング指導法を体験し、実際に指導練習を行う。また、子供から中・高齢者を対象とした各種模擬プログラムを企画・実践を行い、プログラム評価を行う。また、運動習慣づくりのための行動変容に依拠した運動指導計画の立て方について学ぶ。</p> <p>(22 飯嶋正博・村上祐介/6回)</p> <p>身体への動作に働きかけることによって、身体の慢性的な緊張に気づき、無駄な力を抜くための指導技法の理論を学び、実践的な指導の基礎を身に付ける。特に、高齢者、障害者、アスリートへの指導現場で適用されている指導方法についての実習を行う。また、健康づくり運動指導現場で活用されている様々な用具の教材としての活用事例についての知識を高め、その適用方法やプログラムの展開についての実習を通して、個人指導や集団指導の基本を身に付ける。</p>			
到達目標	<p>【授業の到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ウォームアップとクールダウンの生理学的な効果を理解し、主運動に適したそれぞれの運動をプログラミングし、指導原則に従った指導ができる。(涌井) 2. ストレッチングの特性や生理学的な効果、分類などを理論的に理解し、基本的な指導方法を身に付ける。(涌井) 3. 健康動作法ならびに用具を用いた健康づくりのため運動プログラムの考え方を理解し、指導法を身に付ける(飯嶋)。 4. 有酸素運動としてのウォーキングやジョギングの理論と実践方法を理解し、指導ができる。(涌井) 5. 健康づくりのためのリズムウォーキングの指導方法を理解し、運動強度や安全を考慮した指導ができる。(涌井) 6. 体力向上や疾病予防のためのレジスタンス運動について、その分類とそれぞれの特徴について理解し、健康づくりに効果的なプログラムを作成できる。(涌井) 7. 対象者の特徴に応じた健康づくり運動プログラムを立案し、指導ができる(涌井)。 8. 運動習慣づくりのための行動変容に依拠した運動指導計画の立て方について理解できる(涌井)。 <p>[学生に望むこと]</p> <p>健康運動指導は、自身がその方法を「わかる」「できる」だけでなく、「説明できる」「指導できる」ことも必要になります。受講者同志で評価し合い、自身の引出しを増やせるような努力を期待します。</p>			
授業の位置づけ	この科目は、コース科目群・健康科学コース科目の必修科目である。また、健康運動指導士認定試験受験資格取得にあたっての必修科目である。			
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	【学位授与方針に定められている知識・能力等との関連】 この科目は、③「スポーツ健康科学を中心とした幅広い知識と教養」、⑨「健康についての専門的知識と実践的技術の取得」、⑩「健康支援についての専門的知識と実践的技術の習得」、の学位授与方針の達成に寄与する。			
履修上の注意、履修要件	【履修要件】 事前に健康運動指導論を履修していることが望ましい。			
成績評価の方法				
評価方法	<p>[成績評価の方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> ①授業態度・取り組み姿勢：実習内容、出席カードへの授業コメントによりA(20点)、B(15点)、C(10点)、D(5点)判定を行う。 ②小レポート課題：1課題についてA(20点)、B(15点)、C(10点)、D(5点)、未提出(0点)判定を行い、加算する。最終的に合計得点を20点満点に換算する。 ③最終レポート：各実習の評価データから、自身の健康運動指導法に対する客観的な能力評価についてレポートを執筆する。A(20点)、B(15点)、C(10点)、D(5点)、未提出(0点)判定を行い、30点満点に換算する。 <p>最終的に①②③を合計する。</p>			
評価基準	<p>【成績評価の基準】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ウォームアップとクールダウンの生理学的な効果を理解し、主運動に適したそれぞれの運動をプログラミングし、指導原則に従った指導ができる(平常点、レポート)。 2. ストレッチングの特性や生理学的な効果、分類などを理論的に理解し、基本的な指導方法を身に付ける。健康づくり施策を理解し、健康づくりにおける健康運動指導士の役割について理解できる(平常点、レポート)。 3. 用具を用いた健康づくりのため運動プログラムの考え方を理解し、指導法を身に付ける(平常点、レポート)。 4. 有酸素運動としてのウォーキングやジョギングの理論と実践方法を理解し、指導ができる(平常点、レポート)。 5. 健康づくりのためのリズムウォーキングの指導方法を理解し、運動強度や安全を考慮した指導ができる(平常点、レポート)。 6. 体力向上や疾病予防のためのレジスタンス運動について、その分類とそれぞれの特徴について理解し、健康づくりに効果的なプログラムを作成できる(平常点、レポート)。 7. 対象者の特徴に応じた健康づくり運動プログラムを立案し、指導ができる(平常点、レポート)。 8. 運動習慣づくりのための行動変容に依拠した運動指導計画の立て方についてまとめることができる(レポート)。 			
試験・課題に対するフィードバック方法				
【課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法】 レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。				
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献				
【テキスト・参考書等】 財団法人健康運動指導士養成講習テキスト（上・下） 購入方法については教務課へ確認ください。				
その他				
連絡先・オフィスアワー	<p>【連絡先】 担当：涌井 佐和子 E-mail: swakui[at]juntendo.ac.jp （[at]を@に変更してください）</p> <p>【オフィスアワー】 くさくらキャンパス 日時：後期水曜日 12:00～12:40 場所：1号館4階1402室 できるだけE-mailで予約をしてください。先約がある場合にはそちらを優先します。</p>			
担当教員の実務経験				
備考	<p>【学修時間】 この授業は、実習の授業形態による2単位の科目であり、授業60時間と準備学習30時間の計90時間の学修を必要とする内容をもって構成する。</p> <p>【その他】 この授業は健康運動指導士受験資格取得のための必須科目です。 この授業科目は、以下の資格取得の要件となっています。 健康・体力づくり事業財団 健康運動指導士 対応領域 9-2. ストレッチングと柔軟体操の実際（実習 90分・1コマ） 9-6. レジスタンス運動（実習90分・1コマ） 9-7. 介護予防と運動（1）（2）（実習180分・2コマ） 新型コロナウイルス感染症の発生状況に応じて、成績評価の基準、方法及び授業計画を変更する場合があります。</p>			
授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1・2	涌井・村上	<p>【授業内容】 授業のねらいやスケジュールについて理解を深める。ウォームアップとクールダウンの生理学的な効果を理解し、主運動に適したそれぞれの運動をプログラミングし、指導原則に従った指導を行う。ストレッチングの特性や生理学的な効果、分類などを理論的に理解し、基本的な指導方法を身に着ける。</p>	<p>【授業方法】 授業のねらいやスケジュールについて解説する。ウォームアップとクールダウンの生理学的な効果を解説する。主運動に適したそれぞれの運動をプログラミングし、指導原則に従って指導する。ストレッチングの特性や生理学的な効果、分類などを理論的に解説する。健康づくりのために適した方法を対象者の特徴や環境に応じて選択しての指導方法を体験する。</p>	<p>（予習：1時間） シラバスを読み、今後の学習スケジュールの見直しを持つ。 （復習：1時間） シラバスを再度読み返し、今後の学習スケジュールの見直しを再確認する。 ウォームアップとクールダウン、ストレッチングの指導方法に関する資料を読み返し、整理する。</p>
3・4	飯嶋・村上	<p>【授業内容】 動作法の基礎について理解し、指導法を身に着ける。</p>	<p>【授業方法】 動作法の基礎について解説し、身体の使い方に関する指導法の実習を行う。</p>	<p>（予習：1時間） 動作法を取り入れた運動プログラムの考え方や指導法の資料を読み、概要を把握する。 （復習：1時間） 動作法を取り入れた健康づくりのため運動プログラムの考え方や指導法の資料を整理する。</p>
5・6	飯嶋・村上	<p>【授業内容】 用具を用いた健康づくりのため運動プログラムの考え方を理解し、指導法を身に着ける。</p>	<p>【授業方法】 用具を用いた健康づくりのため運動プログラムの考え方や指導法を解説し、実習を行う。</p>	<p>（予習：1時間） 用具を用いた健康づくりのため運動プログラムの考え方や指導法の資料を読み、概要を把握する。 （復習：1時間） 用具を用いた健康づくりのため運動プログラムの考え方や指導法の資料を整理する。</p>
7・8	飯嶋・村上	<p>【授業内容】 用具を用いた健康づくりのため運動プログラムの考え方や指導法を解説し、実習を行う。</p>	<p>【授業方法】 用具を用いた健康づくりのため運動プログラムの考え方や指導法を解説し、実習を行う。</p>	<p>（予習：1時間） 用具を用いた健康づくりのため運動プログラムの考え方や指導法の資料を読み、概要を把握する。 （復習：1時間） 用具を用いた健康づくりのため運動プログラムの考え方や指導法の資料を整理する。</p>

9・10	涌井・村上	<p>【授業内容】 健康の保持と増進のために日常的に多くの人が実践できる有酸素運動としてのウォーキングの理論と実践方法を理解する。</p>	<p>【授業方法】 ウォーキングの理論と実践方法を解説する。異なる歩行速度でウォーキングを行い、運動強度を算出する。</p>	<p>(予習：1時間) 有酸素運動としてのウォーキングの理論と実践方法に高血圧症予防・治療における運動の意義と、高血圧における運動実施上の留意点についての資料を読んで把握する。 (復習：1時間) 有酸素運動としてのウォーキングの理論と実践方法についての資料を整理する。</p>
11・12	涌井・村上	<p>【授業内容】 音源を使用した有酸素運動（リズムウォーキング）の指導法について理解する。</p>	<p>【授業方法】 作成したリズムウォーキングのプログラムの指導を行う。相互評価を行う。</p>	<p>(予習：1時間) 音源を使用した有酸素運動（リズムウォーキング）の指導法についての資料を読んで概要を把握する。 (復習：1時間) 音源を使用した有酸素運動（リズムウォーキング）のプログラムをよりよいものに修正する</p>
13・14	涌井・村上	<p>【授業内容】 音源を使用した有酸素運動（リズムウォーキング）を発表する。</p>	<p>【授業方法】 作成したリズムウォーキングのプログラムの指導を行う。相互評価を行う。</p>	<p>(予習：1時間) プログラムを修正して練習する。 (復習：1時間) 評価ポイントについて整理する。</p>
15・16	涌井・村上	<p>【授業内容】 体力向上や疾病予防のためのレジスタンス運動について、その分類とそれぞれの特徴について理解し、健康づくりに効果的なプログラムを作成できる能力を習得する。</p>	<p>【授業方法】 体力向上や疾病予防のためのレジスタンス運動について整理し、健康づくりに効果的なプログラム案を作成して実践する。</p>	<p>(予習：1時間) 体力向上や疾病予防のためのレジスタンス運動について、その分類とそれぞれの特徴、健康づくりに効果的なプログラムの資料を読み、把握する。 (復習：1時間) 体力向上や疾病予防のためのレジスタンス運動について、その分類とそれぞれの特徴、健康づくりに効果的なプログラムの資料を整理する。</p>
17・18	涌井・村上	<p>【授業内容】 介護予防のための一次予防、二次予防の具体的内容について理解し、必要な知識や技術を身に着ける。</p>	<p>【授業方法】 介護予防のための一次予防、二次予防の具体的内容について解説する。必要な知識や技術を整理し、プログラム試案を作成する。</p>	<p>(予習：1時間) 介護予防のための一次予防、二次予防の具体的内容について理解し、必要な知識や技術についての資料を読んで把握する (復習：1時間) 介護予防のための一次予防、二次予防の具体的内容について理解し、必要な知識や技術についての資料を整理する。</p>
19・20	涌井・村上	<p>【授業内容】 運動指導の実際Ⅰ 模擬プログラムを行い、評価者が実施者のプログラムを評価する。</p>	<p>【授業方法】 模擬プログラムを行う。相互評価（運動強度、内容の適切さ、安全への配慮）を行う</p>	<p>(予習：1時間) 運動指導について、教材、指導計画の見直しや訂正、指導練習を行う。 (復習：1時間) 評価を行いながら、課題を振り返る。</p>
21・22	涌井・村上	<p>【授業内容】 運動指導の実際Ⅱ 模擬プログラムを行い、評価者が実施者のプログラムを評価する。</p>	<p>【授業方法】 模擬プログラムを行う。相互評価（運動強度、内容の適切さ、安全への配慮）を行う</p>	<p>(予習：1時間) 運動指導について、教材、指導計画の見直しや訂正、指導練習を行う。 (復習：1時間) 評価を行いながら、課題を振り返る。</p>
23・24	涌井・村上	<p>【授業内容】 運動指導の実際Ⅲ 模擬プログラムを行い、評価者が実施者のプログラムを評価する。</p>	<p>【授業方法】 模擬プログラムを行う。相互評価（運動強度、内容の適切さ、安全への配慮）を行う</p>	<p>(予習：1時間) 運動指導について、教材、指導計画の見直しや訂正、指導練習を行う。 (復習：1時間) 評価を行いながら、課題を振り返る。</p>
25・26	涌井・村上	<p>【授業内容】 運動指導の実際Ⅳ 模擬プログラムを行い、評価者が実施者のプログラムを評価する。</p>	<p>【授業方法】 模擬プログラムを行う。相互評価（運動強度、内容の適切さ、安全への配慮）を行う</p>	<p>(予習：1時間) 運動指導について、教材、指導計画の見直しや訂正、指導練習を行う。 (復習：1時間) 評価を行いながら、課題を振り返る。</p>

科目名	【新カリ】健康学実習	授業形態	実験・実習		
英語科目名	【新カリ】健康学実習	対象学年	3年		
開講学期	2022年度後期	単位数	2単位		
代表教員	大久保 菜穂子	ナンバリング	AHS3335		
担当教員	大久保 菜穂子、松山 毅、中西 唯公、スポーツ健康科学部教員共通				
授業概要					
全体内容	<p>【授業全体の内容】</p> <p>本科目は、実習の授業形態で行われる。少子高齢化、情報化等を背景とした生活様式や生活環境の著しい変化は人々の健康に大きな影響を与え、国民の健康づくりは、社会の重要な課題となっており、効果的な健康づくりを行うには学校や地域（職場を含む）等の有機的な連携が必要となっている。学校及び地域における保健活動の現状や課題について理解した上で、実際の進め方について実習を通して理解を深めるとともに健康教育や社会福祉、学校保健、保健行政など幅広く健康支援にかかわる諸技術を習得する。</p> <p>各教員の担当箇所の概要及び担当回数 （オムニバス方式／全14回） （35大久保菜穂子／6回）</p> <p>健康教育学的なアプローチの仕方を通して、生涯にわたって健康をつくりあげていくための実践的技術の習得をめざす。まず、ライフステージ別の健康課題に対する効果的な健康教育の計画づくりを解説し、成人期に視点をあて、メンタルヘルスや腰痛予防など職場の健康教育の実践例を学ぶ。また、運動習慣の定着化に向けた健康政策を調べ、現状と課題を分析し発表する。これらを通して望ましい健康教育教材を作成できる技術を習得する。</p> <p>（30松山毅／4回）</p> <p>健康支援の対象者は高齢者や障害者、生活困窮者、子育て世帯なども含まれる。本実習では、対象者理解の方法として視覚、聴覚、肢体不自由などの疑似体験を通して支援される側の立場を追体験し、あわせて相手の立場に立った支援の方法や考え方を学ぶ。その上で高齢者や障害者などに対するレクリエーションプログラムを考案し、実際に施設や学校などでプログラムを実施し、成果・課題・改善点を考えさせることも目的とする。</p> <p>（52中西唯公／4回）</p> <p>生活習慣の基礎づくりの時期である学齢期の子どもを対象に実施する「学校保健」の役割が期待されている。子どもの健康状態を把握する方法としての健康診断の技法を学ぶとともに、本人が健康に興味を持ち、主体的に健康づくりに取り組めるような健診診断への参加の仕方、健康教育のあり方について考察させる。また、応急処置や健康相談の技法を取得し、子どもたちの命を守る力をつけ、健康管理の側面からアプローチできる学生を育成する。</p>				
到達目標	<p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学校及び地域保健（職場を含む）の各領域で取り組まれている保健活動を効果的に実施するには連携・協力体制づくりが必要であることを理解している。 2. 学校及び地域保健における保健活動の現状や課題について理解している。 3. 保健活動を進めるための計画の作成方法や実施方法について理解し、企画立案ができる。 4. 健康教育や社会福祉、学校保健、保健行政など幅広く健康支援にかかわる諸技術を習得し実演できる。 				
授業の位置づけ	この科目は、コース科目群・健康科学コース科目の選択必修科目である。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	<p>【ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連】</p> <p>この科目は、「社会や環境の変化に対応し、自ら課題を見つけ、スポーツ健康科学分野における専門的な知識又は技能をもとに課題を解決できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。</p>				
履修上の注意、履修要件	【履修要件】健康学概論、健康教育学、学校保健学を履修していることが望ましい。				
成績評価の方法					
評価方法	<p>【評価方法】</p> <p>到達目標に準じた評価を各担当者が実施したうえで総合評価を行う。</p>				
評価基準	<p>【評価基準】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学校及び地域保健の各領域で取り組まれている保健活動を効果的に実施するには連携・協力体制づくりが必要であることを理解し説明することができる。 2. 学校及び地域保健における保健活動の現状や課題を理解し説明することができる。 3. 保健活動を進めるための計画の作成方法や実施方法について理解し、企画立案することができる。 4. 健康教育や社会福祉、学校保健、保健行政など幅広く健康支援にかかわる諸技術を習得し実演している。 				
試験・課題に対するフィードバック方法					
<p>【試験・課題等に対するフィードバック方法】</p> <p>レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。授業中に課したレポートや提出物については講義形式で解説を行う。</p>					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考文献					
<p>【テキスト・参考書等】</p> <p>特定のテキストは使用せず、必要に応じて適宜、担当教員が準備し、配布することとする。</p>					
その他					
連絡先・オフィスアワー	<p>【連絡先】</p> <p>担当：大久保菜穂子（代表） E-mail：naokoo[at]juntendo.ac.jp ※左記アドレスの[at]を@に変更してください。</p> <p>【オフィスアワー】 日時：木曜日12:00～12:50 場所：1号館4階1415室 健康教育学研究室 できるだけE-mailで予約をしてください。先約がある場合にはそちらを優先します。</p>				

担当教員の実務経験				
備考		<p>【学修時間】 この授業は、実習の授業形態による2単位の科目であり、90時間(授業時間60時間以上を含む)の学修を必要とする内容をもって構成する。</p> <p>【その他】 授業計画は授業の進行状況により多少前後することがある。 また、新型コロナウイルス感染症の発生状況に応じて、成績評価の基準、方法及び授業計画の変更をお願いする場合がある。</p>		
授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	大久保 (松山 中西)	【授業内容】オリエンテーション これから行われる実習日程、実習場所、内容などについての概要を説明する。また実習を安全かつ効率よく進められるように指導する	【授業方法】スライドと配布資料を用いて講義を行い、本授業全体の内容や評価法等を把握する	(予習：1時間)2年次に履修した「健康学概論」の復習しておく。 (復習：2時間) シラバスおよび配布されたプリントの内容すべてに目を通し、授業形態・成績評価法・注意事項について理解を深める。また、履修登録が確実にされているか再確認しておく。
2	大久保	【授業内容】健康教育の企画解説及び事例検討	【授業方法】健康教育の計画づくりに重要なニーズアセスメント、目的・目標、内容、方法、教育媒体、評価について解説し、健康教育の身近な事例を調べる	(予習：1時間)健康教育の計画づくりにあたっての要件を書籍、インターネットを用いて調べる。 (復習：1時間)ニーズアセスメント、目的・目標、内容、方法、教育媒体、評価について整理する。
3	大久保	【授業内容】健康課題(生活習慣病・ロコモティブシンドローム・メタボリックシンドローム等)の健康教育実践例の分析および企画・実施・評価	【授業方法】健康教育実践例について解説し、ライフステージ別の健康課題に向けた望ましい健康教育の企画・実施・評価に取り組み発表する。	(予習：1時間)生活習慣病・ロコモティブシンドローム・メタボリックシンドローム等の健康教育実践例を分析するための要件を書籍、インターネットを利用して調べる。 (復習：1時間)ライフステージ別の健康課題に向けた望ましい健康教育の企画・実施・評価について整理する。
4	大久保	【授業内容】心の健康、腰痛予防教育等の教材開発	【授業方法】メンタルヘルスや腰痛予防等、職場の健康教育事例について解説し、事例教材の現状と課題を調べ、分析・発表し、望ましい健康教育教材を作成できる技術を習得する。	(予習：1時間)職場の健康教育の事例を分析するための要件を書籍、インターネットを用いて調べる。 (復習：1時間)各々の健康教育の事例教材の現状と課題をまとめ、分析の観点を整理する。
5	大久保	【授業内容】運動習慣の定着化に向けた健康教育を実践する。	【授業方法】スポーツ庁が提唱するスポーツ実施率向上に向けた行動計画に基づき、健康づくりプログラムを企画し学校等で健康教育を展開する。	(予習：1時間)インターネット等で、スポーツ庁が提唱する健康政策について調べておく。 (復習：1時間)効果的な健康教育が展開できたかふりかえり、計画づくりの要件ごとにレポートにまとめる。
6	松山	【授業内容】疑似体験① 視覚障害や聴覚障害の疑似体験を通して不自由さを体験するとともに、バリアフリーや支援の在り方について考える。	【授業方法】アイマスクや白杖、イヤーマフなどを使用して障害疑似体験、支援の方法の練習を行う。	(予習：1時間)視覚障害や聴覚障害の種類や人数、現状、課題について調べておく。 (復習：1時間)授業を通して気が付いた様々なバリアについて整理し、改善方法について考察しレポートにまとめる。
7	松山	【授業内容】疑似体験② 車いす体験を通して日常生活の不自由さやバリアフリーの現状を学ぶ。	【授業方法】車いすでの疑似体験を通して、車いす使用者の立場を考える。支援方法を学ぶ、学校内のバリアフリーの整備状況を調べる。	(予習：1時間)車いすを使用しなければならない人はどのような人か、人数、生活する上での課題は何か、などを調べておく。 (復習：1時間)授業を通して気が付いた様々なバリアについて整理し、改善方法について考察しレポートにまとめる。

科目名	【新カリ】環境衛生学実習			授業形態	
英語科目名	【新カリ】環境衛生学実習			対象学年	3年
開講学期	2022年度後期			単位数	2単位
代表教員	久保原 禪			ナンバリング	HYG3337
担当教員	久保原 禪、大久保 菜穂子、佐々木 啓、スポーツ健康科学部教員共通				
授業概要					
全体内容	<p>本実習は国家資格である「第一種衛生管理者免許」の取得に必須のものである。そのために、生活環境や労働環境における汚染物質の検出や定量、水質検査、騒音の測定等、環境管理に必要な様々な測定/評価法を学ぶ。また、それら測定/評価結果に基づいた環境改善策を考える内容となっている。毎回実施した実習についてまとめたレポートを作成することが重要となる。さらに、学外の3か所程の企業を見学し、現場の専門家による「衛生管理」についての説明を受ける。さくらキャンパスでの演習においては、中央労働災害防止協会の方から現在労働衛生で問題となっている課題などについて講義形式で解説して頂く予定である。</p> <p>なお、下記の実習日程については、諸事情によって順番が変更になることがある。</p>				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 環境中の汚染物質やその代謝産物等を評価（測定/定量）するための理論と方法を理解できる。 2. 生活環境や労働環境の改善の重要性を理解できる。 3. 企業や労働環境における安全管理や衛生管理の実態と問題点/課題について理解できる。 				
授業の位置づけ	この科目は、コース科目群・健康科学コース科目の選択必修科目である。また、第一種衛生管理者資格取得にあたっての必修科目である。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関連した教養」、「課題解決能力」という学位授与方針の達成に寄与する。				
履修上の注意、履修要件	<p>【履修要件】 特になし。</p> <p>【履修上の注意（科目独自のルール）】 施設見学では危険な場所や機材等もあるので、現場の担当者や教員の指示に従うこと。</p>				
成績評価の方法					
評価方法	毎回の授業取組み20%、及びレポート提出とその内容完成度を80%として行う。合計60%（60点）以上が合格。なお、止むおえない理由で見学会を欠席する場合には、追加レポートを提出して補う。レポートの作成期間は原則一週間であり、提出の遅延は減点の対象とする。				
評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. 環境中の汚染物質やその代謝産物等を評価（測定/定量）するための理論と方法を理解している。 2. 生活環境や労働環境の改善の重要性を理解している。 3. 企業や労働環境における安全管理や衛生管理の実態と問題点/課題について理解している。 				
試験・課題に対するフィードバック方法					
毎回実習後（一週間以内）に提出するレポートは、採点后、コメント等を付けて返却する。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考文献					
<p>実習用のオリジナルテキストは実習開始時に配布する。</p> <p>レポート作成のための参考書としては、「新しい環境衛生」（南江堂）（図書館にある）、「衛生管理（上、下）」（中央労働災害防止協会）を用いる。</p>					
その他					
連絡先・オフィスアワー	<p>【連絡先】 担当：久保原禪 E-mail：ykuboha[at]juntendo.ac.jp *[at]を@に変更してください。</p> <p>【オフィスアワー】 月曜日14:00~16:00（1号館4階1414、あるいは1409 健康生命科学）</p>				
担当教員の実務経験					
備考	<p>【学修時間】 この授業は、実習の授業形態による2単位の科目であり、授業60時間と準備学習30時間の計90時間の学修を必要とする内容をもって構成する。</p> <p>【その他】 この授業科目は、第一種衛生管理者の必修科目です。 また、新型コロナウイルス感染症の発生状況に応じて、成績評価の基準、方法及び授業計画を変更する場合があります。</p>				
授業計画					
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間	

1	久保原・大久保・佐々木	【授業内容】 「衛生管理者」の役割や関連法令を解説し、実習全体の流れや注意事項について理解する。	【授業方法】 本実習のテキストを配布し、実習全体の流れ、注意事項、レポートの作成法、評価法等を解説する。	(予習：1時間) 社会を取り巻く様々な環境要因から、主に物理的・化学的要因が及ぼす影響を考慮しておく。 (復習：1時間) 実習では様々な器具や試薬を使うので、その仕組み等について予習する。
2	久保原・大久保・佐々木	【授業内容】 「温熱条件」に関する理解を深め、温熱条件の評価を実施する。	【授業方法】 温熱条件とその評価/測定方法について解説する。実際に温熱条件を測定する。	(予習：1時間) テキストと参考書を用いて温熱条件について予習する。 (復習：1時間) 実習テーマの背景や実施した方法のまとめ、得られたデータの図表化、結果の評価/考察を行い、レポートを作成する。
3	久保原・大久保・佐々木	【授業内容】 「空気の汚染」に関する理解を深め、空気汚染の評価を実施する。	【授業方法】 空気汚染の指標(有毒ガス等)とその評価/測定法について解説する。実際にいくつかの指標に関して評価/測定する。	(予習：1時間) 空気汚染の指標とその測定法についてテキストと参考書を予習する。 (復習：1時間) 実習テーマの背景や実施した方法のまとめ、得られたデータの図表化、結果の評価/考察を行い、レポートを作成する。
4	久保原・大久保・佐々木	【授業内容】 「騒音」に関する理解を深め、騒音の評価を実施する。	【授業方法】 騒音とその評価/測定法について解説する。実際に複数の場所で騒音を評価/測定する。	(予習：1時間) テキストと参考書を用いて騒音について予習する。 (復習：1時間) 実習テーマの背景や実施した方法のまとめ、得られたデータの図表化、結果の評価/考察を行い、レポートを作成する。
5	久保原・大久保・佐々木	【授業内容】 身近な細菌について理解を深め、それらの検出を実施する。	【授業方法】 食品や体表面などに生息する細菌とそれらの検出法について解説する。実際に環境中の細菌を検出する。	(予習：1時間) テキストと参考書を用いて、身近な環境中の細菌について予習する。 (復習：1時間) 実習テーマの背景や実施した方法のまとめ、得られたデータの図表化、結果の評価/考察を行い、レポートを作成する。
6	久保原・大久保・佐々木	【授業内容】 「水質検査」について理解を深める。(水質検査1)	【授業方法】 環境中の水質検査の項目(細菌、残留塩素、窒素化合物等)やそれらの評価/検査方法について解説する。実際に、プール水と水道水を用いて、それらの水質検査を実施する。	(予習：1時間) テキストと参考書を用いて、環境中の水質と健康被害等について予習する。 (復習：1時間) 実習テーマの背景や実施した方法のまとめ、得られたデータの図表化、結果の評価/考察を行い、レポートを作成する。
7	久保原・大久保・佐々木	【授業内容】 前回に続いて、「水質検査」についてさらに理解を深める。(水質検査2)	【授業方法】 環境中の水質検査の項目(塩素イオンや有機物等)やそれらの評価/検査方法について解説する。実際に、プール水と水道水を用いて、それらの水質検査を実施する。	(予習：1時間) テキストと参考書を用いて、環境中の水質と健康被害等について予習する。 (復習：1時間) 実習テーマの背景や実施した方法のまとめ、得られたデータの図表化、結果の評価/考察を行い、レポートを作成する。
8	久保原・大久保・佐々木	【授業内容】 前回に続いて、「水質検査」についてさらに理解を深める。(水質検査3)	【授業方法】 環境中の水質検査の項目(残留塩素濃度の経時変化等)やそれらの評価/検査方法について解説する。実際に、プール水と水道水を用いて、それらの水質検査を実施する。	(予習：1時間) テキストと参考書を用いて、環境中の水質と健康被害等について予習する。 (復習：1時間) 実習テーマの背景や実施した方法のまとめ、得られたデータの図表化、結果の評価/考察を行い、レポートを作成する。

科目名	【新カリ】スポーツマネジメントⅠ	授業形態	講義	
英語科目名	【新カリ】スポーツマネジメントⅠ	対象学年	3年	
開講学期	2022年度前期	単位数	2単位	
代表教員	小笠原 悦子	ナンバリング	MGT3342	
担当教員	小笠原 悦子、木藤 友規、水野 基樹、工藤 康宏、黒須 充、渡 正、スポーツ健康科学部教員共通			
授業概要				
全体内容	<p>【授業全体の内容】</p> <p>本科目は、講義の授業形態で行われる。スポーツを「ヒト・モノ・カネ・情報」といった経営資源の側面からマネジメントできる能力を醸成することを目指す。様々なマネジメントの考え方がスポーツに活用されている中、スポーツ特有のマネジメントを行う必要性とその方法について学ぶ。具体的には、スポーツマネジメントと社会との関係について主要なトピックを取り上げ、多彩な観点から学び、実学としてのスポーツマネジメントを学修する。 (オムニバス方式／全14回)</p> <p>(3 小笠原悦子／1回) 授業の進め方などについてガイダンスを行うとともに、スポーツマネジメントと社会の関係について理解する。</p> <p>(51 渡正／2回) レジャー・レクリエーションがどのように私たちの社会の中で誕生したのかについて検討し、レジャー概念について考える。レジャーを支える消費社会について、「顕示的消費」などの様々な概念を紹介しながら、レジャー・レクリエーションの在り方を考える。</p> <p>(5 黒須充／3回) 生涯スポーツ社会を実現するための重点施策の一つである総合型地域スポーツクラブについて、スポーツマネジメントの視座から分析する。また、ヨーロッパ諸国、北米・南米のスポーツ政策を取り上げ、各国の比較考察を行う。</p> <p>(3 小笠原悦子／2回) 女性スポーツの歴史とその発展の課題について学修する。歴史的背景を踏まえ、女性アスリートを支援するための課題について学修する。さらに、国際スポーツ組織の現状と課題、日本への期待について学修する。</p> <p>(37 木藤友規／4回) 「政策とは何か」という基本的な内容から学修を進め、体育・スポーツ行政を所掌する行政機関及び体育・スポーツ活動に対する行政活動がどのように変化してきたかについて学ぶ。また、「スポーツの価値」や、スポーツに関する現代的課題についても取り上げる。</p> <p>(20 水野基樹／2回) スポーツ組織における体系的なマネジメント活動やガバナンスの重要性及び今後の課題について考える。また、スポーツチームにおけるマネジメント活動とリーダーが発揮するリーダーシップの関係について理解する。チームビルディングについても事例を用いて学修する。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. スポーツマネジメントと社会の関係について理解できる。 2. レジャー・レクリエーションと社会の関係について理解できる。 3. 総合型地域スポーツクラブや欧米のスポーツ政策について考察できる。 4. 女性スポーツの歴史と課題、国際スポーツ組織の現状と課題について把握できる。 5. スポーツ政策についての歴史と現状の課題について把握できる。 6. スポーツ組織におけるマネジメントやガバナンス、リーダーシップとの関係について理解できる。 			
授業の位置づけ	この科目は、コース科目群・スポーツマネジメントコース科目の必修科目である。			
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関連した教養」、「倫理観」及び「コミュニケーション能力とリーダーシップ」という学位授与方針の達成に寄与する。			
履修上の注意、履修要件	<p>【履修要件】 特になし</p> <p>【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】 授業やレポートにおけるコメントを通してフィードバックを行う。</p> <p>【テキスト・参考書等】 この科目では、必ず用意しなければならないテキストはありません。必要な資料は、授業中に、適宜配布します。</p>			
成績評価の方法				
評価方法	平常点（30%）、定期試験（70%）を総合的に評価する。			
評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. スポーツマネジメントと社会の関係について理解している。（定期試験） 2. レジャー・レクリエーションと社会の関係について理解している。（定期試験） 3. 総合型地域スポーツクラブや欧米のスポーツ政策について説明できる。（定期試験） 4. 女性スポーツの歴史と課題、国際スポーツ組織の現状と課題について把握している。（定期試験） 5. スポーツ政策についての歴史と現状の課題について把握している。（定期試験） 6. スポーツ組織におけるマネジメントやガバナンス、リーダーシップとの関係について理解している。（定期試験） <p>7. 授業中の発言、グループワークの取り組みなどによって、受講態度を評価する（平常点）</p>			
試験・課題に対するフィードバック方法				
課題レポートは後日の授業で返却し、評価や助言を各受講者へフィードバックする。 定期試験については、Juntendo Passportを使って解説する。				
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献				
その他				
連絡先・オフィスアワー	<p>【連絡先】 小笠原悦子 E-mail : eogasawa@juntendo.ac.jp 水野基樹 E-mail : mtmizuno@juntendo.ac.jp 木藤 友規 E-mail : t.kito@juntendo.ac.jp</p> <p>渡 正 E-mail : t-watari@juntendo.ac.jp</p> <p>【オフィスアワー】 小笠原悦子 日時：火曜日 2限目 場所：1号館3階1329室 水野基樹 日時：月曜日10:00～12:00、火曜日15:00～16:00 場所：1号館3階1320室 木藤 友規 日時：前明月曜日13:00～13:30、後期金曜日12:30～13:00 場所：1号館 4階 1403室 渡 正 日時：月曜日13:00～14:30 場所：1号館3階1321室</p> <p>上記の時間帯は予約がなくても対応しますが、予約してくれた学生を優先するので、前日までにE-mailやJ-Passから連絡してください。</p>			
担当教員の実務経験				
備考	<p>【学修時間】 この授業は、講義及びグループディスカッション・オムニバスの授業形態による2単位の科目であり、授業時間30時間と準備学習60時間の計90時間の学修を必要とする内容をもって構成する。1回の授業時間は100分とする。</p> <p>【実務経験のある教員による授業】 現役行政書士及びスポーツマネジメント実務者が、スポーツに関する法律や制度、政策、マネジメント分野において実際に担当した事案等を交えて講義する。</p> <p>【その他】 この授業科目は、以下の資格取得の要件となっています。 JSP0（日本スポーツ協会）公認スポーツ指導者資格 共通科目Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ</p> <p>新型コロナウイルス感染症の発生状況に応じて、成績評価の基準、方法及び授業計画を変更する場合があります。</p>			
授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	小笠原	<p>【授業内容】 授業の進め方などについてガイダンスを行うとともに、スポーツマネジメントと社会の関係について概説する。</p> <p>【授業方法】 スライドと配布資料を用いて講義を行う。</p>	講義	<p>（予習：2時間）これまでに履修したスポーツマネジメント関連の授業のテキストや資料に目を通しておく。 （復習：2時間）授業内で取り上げた内容について、参考文献やなどを参照し、事後理解を深める。</p>
2	渡	<p>【授業内容】 レジャーの誕生：レジャー・レクリエーションがどのように私達の社会の中で誕生したのかについて、1) 近代社会の成立、2) 近代社会における生活の変化の視点から検討しレジャー概念について考える。</p> <p>【授業方法】 スライドと配布資料を用いて講義を行う。</p>	講義	<p>（予習：2時間）レジャー・レクリエーションが果たした役割と影響について調べ、理解を深めておく。 （復習：2時間）授業内で取り上げた内容について、参考文献やなどを参照し、事後理解を深める。</p>
3	渡	<p>【授業内容】 レジャーを支える消費社会：S. ヴェブレンの「顕示的消費」やJ. ボードリヤールの「シミュラクル」概念や「消費社会」における「記号消費」など概念を紹介しながら1980年代以降のレジャーの拡大と現代におけるレジャー・レクリエーションのあり方を考える。</p> <p>【授業方法】 スライドと配布資料を用いて講義を行う。</p>	講義	<p>（予習：2時間）現代におけるレジャー・レクリエーションのあり方について考えておく。 （復習：2時間）授業内で取り上げた内容について、参考文献やなどを参照し、事後理解を深める。</p>
4	黒須	<p>【授業内容】 生涯スポーツ社会を実現するための重点施策の一つである総合型地域スポーツクラブについて、1) 財源マネジメント、2) 施設マネジメント、3) 人材マネジメント、4) 事業マネジメント、5) ネットワークマネジメント、6) 組織マネジメント、7) ミッションマネジメントなど、スポーツマネジメントの視座から分析する。</p> <p>【授業方法】 スライドと配布資料を用いて講義を行う。</p>	講義	<p>（予習：2時間）総合型地域スポーツクラブについてについて調べ、理解を深めておく。 （復習：2時間）授業内で取り上げた内容について、参考文献やなどを参照し、事後理解を深める。</p>
5	小笠原	<p>【授業内容】 女性とスポーツ：女性スポーツの歴史とその発展の課題について学修する。女性が初めてオリンピック参加した当時からおよそ120年を経て男女同数の参加率に到達するまでの歴史的背景を学修する。女性アスリートを支援するために身体生理的課題、心理社会的課題、組織環境的課題について学修する。スポーツにおける指導者の立場に立つ女性の増加に必要な要因について学修する。</p> <p>【授業方法】 スライドと配布資料を用いて講義を行う。</p>	講義	<p>（予習：2時間）女性とスポーツの関係について調べ、理解を深めておく。 （復習：2時間）授業内で取り上げた内容について、参考文献やなどを参照し、事後理解を深める。</p>

課題レポートは次回以降の授業で返却して、評価や助言を各受講者

参考文献

その他

連絡先・オフィスアワー

【連絡先】
担当：小笠原悦子
E-mail：eogasawa@juntendo.ac.jp
【オフィスアワー】
日時：後期の火曜日 2限目
場所：1号館3階1329室

事前にemailでアポを取り、訪問することが望ましい。

担当教員の実務経験

備考

【学修時間】
この授業は、講義の授業形態による2単位の科目であり、授業30時間と準備学修時間60時間の計90時間の学修を必要とする内容をもって構成する。
【その他】
コロナウイルス感染症の発生状況に応じて、成績評価の基準、方法及び授業計画を変更する場合があります。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
-----	-----	------	--------	--------------------

1	小笠原悦子	【授業内容】 オリエンテーション、授業の最終目標と方法の説明 【授業方法】 授業の到達目標を含め、授業のやり方、評価方法、学生への期待について説明する	講義	(予習: 3時間) 出題された課題の情報を収集しまとめる (復習: 0時間)
2	小笠原悦子	【授業内容】 ケーススタディ (グループ発表) ① コラムを読み、理解し、まとめて、発表する 【授業方法】 その場で出されるコラムをその時間内で読み、内容をまとめてPPTを作成し、発表する	グループワーク	(予習: 3時間) 課題の情報収集とPP作成 (復習: 2時間) 発表に対する反省と課題の整理
3	小笠原悦子	【授業内容】 ケーススタディ (グループ発表) ②に関する課題に挑戦する 【授業方法】 その場で出されるコラムをその時間内で読み、内容をまとめてPPTを作成し、発表する	グループワーク	(予習: 3時間) ゲストに関する企業研究 (復習: 2時間) 発表の短所と課題の整理
4	小笠原悦子	【授業内容】 MBAとスポーツマネジメントの企業への応用について理解を深める 【授業方法】 ゲストの話や聞き、また、ゲストの出す課題にグループとして取り組み、答えを発表する	講義・グループ ディスカッション	(予習: 3時間) ゲストの企業研究 (復習: 2時間) MBAの目指すものは何なのかをまとめる
5	ゲスト	【授業内容】 広告代理店のスポーツビジネス について理解を深める 【授業方法】 ゲストの話や聞き、概要をまとめる、また、ゲストの出す課題にグループとして取り組み、答えを発表する	講義・グループ ディスカッション	(予習: 3時間) 研究課題の研究とPP作成 (復習: 2時間) 広告代理店のビジネスの目指すものを整理する
6	小笠原悦子	【授業内容】 ケーススタディ (グループ発表) ③ コラムを読み、理解し、まとめて、発表する 【授業方法】 その場で出されるコラムをその時間内で読み、内容をまとめてPPTを作成し、発表する	グループワーク・ グループディス カッション	(予習: 3時間) 課題の研究とPP作成 (復習: 2時間) 発表の反省と課題の整理
7	小笠原悦子	【授業内容】 ケーススタディ (グループ発表) ④ コラムを読み、理解し、まとめて、発表する 【授業方法】 その場で出されるコラムをその時間内で読み、内容をまとめてPPTを作成し、発表する	グループワーク・ グループディス カッション	(予習: 2時間) 課題の研究とPP作成 (復習: 2時間) 発表の反省と課題の整理
8	ゲスト	【授業内容】 ファイナンスと経済について理解を深める 【授業方法】 ゲストの話や聞き、概要をまとめる、また、ゲストの出す課題にグループとして取り組み、答えを発表する	講義・グループ ディスカッション	(予習: 2時間) プロ野球ビジネスの課題研究 (復習: 2時間) スポーツとファイナンスに重要なことのみをまとめる
9	ゲスト	【授業内容】 プロ野球とスポーツビジネスについて理解を深める 【授業方法】 ゲストの話や聞き、概要をまとめる、また、ゲストの出す課題にグループとして取り組み、答えを発表する	講義・グループ ディスカッション	(予習: 2時間) ゲストの企業研究 (復習: 2時間) プロ野球ビジネスの課題の整理
10	ゲスト	【授業内容】 スポーツとデータビジネスについて理解を深める 【授業方法】 ゲストの話や聞き、概要をまとめる、また、ゲストの出す課題にグループとして取り組み、答えを発表する	講義・グループ ディスカッション	(予習: 2時間) ゲストの企業研究 (復習: 2時間) スポーツとデータビジネスに関わると企業のまとめ
11	ゲスト	【授業内容】 スポーツとエージェントビジネスについて理解を深める 【授業方法】 ゲストの話や聞き、概要をまとめる、また、ゲストの出す課題にグループとして取り組み、答えを発表する	講義・グループ ディスカッション	(予習: 2時間) 課題の研究とPP作成 (復習: 2時間) エージェント企業のまとめ
12	小笠原悦子	【授業内容】 ケーススタディ (グループ発表) ⑤に関する課題に挑戦する 【授業方法】 その場で出されるコラムをその時間内で読み、内容をまとめてPPTを作成し、発表する	グループワーク・ ディスカッション	(予習: 2時間) 課題の研究とPP作成 (復習: 2時間) 発表の課題の整理

科目名	【新カリ】スポーツ文化論			授業形態	講義
英語科目名	【新カリ】スポーツ文化論			対象学年	3年
開講学期	2022年度前期			単位数	2単位
代表教員	渡 正			ナンバリング	SOC3345
担当教員	渡 正、スポーツ健康科学部教員共通				
授業概要					
全体内容	<p>【授業全体の内容】</p> <p>本科目は、講義の授業形態で行われる。スポーツは、近代イギリスの産業資本の発展と世界的展開とともに世界中に伝播した。そのため、これは一方では人類共有の資産とも言うべき普遍的文化であり、一方では西洋文化の進展という文化的な帝国主義の進展でもある。つまり、スポーツは私たちにあってグローバルなものでもあり、ローカルなものでもある。近代スポーツにおける文化的成立と伝播、各地での受容と変容を考えながら「スポーツが文化である」ということがいかなることなのかを考察する。社会学や歴史学の視点から、スポーツという文化現象のダイナミズムについて理解し、新たなスポーツ文化を作っていくための基礎的な知識と思考力を身に付けることを目標とする。</p>				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本のスポーツ文化について、その明治期の導入から現代までの流れについて理解することができる。 2. 日本のスポーツ文化について、その具体的なトピックについて説明しその課題を理解することができる。 3. スポーツ文化の現代的特徴について、その概要について具体例をあげて説明することができる。 4. スポーツ文化の現代的特徴について、解決すべき課題について説明し、自分なりの意見を提出することができる。 				
授業の位置づけ	この科目は、コース科目群・スポーツマネジメントコース科目の選択必修科目である。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、スポーツ健康科学部の学位授与方針に定める「社会や環境の変化に対応し、自ら課題を見つけ、スポーツ健康科学分野における専門的な知識又は技能をもとに課題を解決できる能力」を身に付ける。				
履修上の注意、履修要件	<p>【履修要件】 特になし。</p> <p>【履修上の注意】 1回の授業について、3分の2以上の出席時間がない場合は、その回の授業を欠席扱いとする。 本授業では、毎回、ICTを用いてワークの提出などを行う。そのためタブレットPC、ノートPCなどインターネットにアクセスし作業のできる機器を持ち込むことを推奨する。</p>				
成績評価の方法					
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・各授業後に行う小レポートによって授業内容の理解度を評価する。(30%) ・定期試験によって日本のスポーツ文化の流れと、現代的な特徴の概要について理解しているか、現代のスポーツ文化の課題の説明と自分なりの意見について評価する。(60%) ・毎回の授業への取り組みを授業内でのワークの提出状況および内容で評価する。(10%) 				
評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本のスポーツ文化について、その明治期の導入から現代までの流れについて理解している。(小レポート・定期試験) 2. 日本のスポーツ文化について、その具体的なトピックについて説明しその課題を理解することができる。(小レポート) 3. スポーツ文化の現代的特徴について、その概要について具体例をあげて説明することができる。(小レポート・定期試験) 4. スポーツ文化の現代的特徴について、解決すべき課題について説明し、自分なりの意見を提出することができる。(定期試験) 				
試験・課題に対するフィードバック方法					
小レポートは、次の授業内に模範解答やポイントを提示し、解説する。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考文献					
井上俊・菊幸一編著(2020)『新版よくわかるスポーツ文化論』ミネルヴァ書房 日本スポーツ社会学会編集企画委員会 編(2020)『2020 東京オリンピック・パラリンピックを社会学する：日本のスポーツ文化は変わるのか』					
その他					
連絡先・オフィスアワー	<p>【連絡先】 担当：渡 正(1号館3階1321室) E-mail: t-watari@juntendo.ac.jp</p> <p>【オフィスアワー】 日時：月曜日 13:00～14:30 場所：1号館3階1321室(スポーツ社会学研究室) 上記の時間帯は予約がなくても対応しますが、予約してくれた学生を優先するので、前日までにE-mailやJ-Passから連絡してください。</p>				
担当教員の実務経験					
備考	【学修時間】 この授業は、講義の授業形態による2単位の科目であり、授業時間30時間と準備学習60時間の計90時間の学修を必要とする内容をもって構成する。1回の授業時間は100分とする。				
授業計画					
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間	

1	渡	ガイダンス:単位取得上の諸注意、授業展開の概要を述べるとともに、スポーツ文化を考えるうえでの基礎となる「文化」の考え方について説明する。	スライドと配布資料を用いて講義を行う。また提示されたワークを行い、他の受講生とディスカッションし、自らの意見を提出する。	(復習:4時間) 配布資料と講義内容を確認し課題についての小レポートを書く。 履修登録が確実にされているか再確認しておく。 指定した各種WEBサイトの使い方に習熟しておく。
2	渡	日本のスポーツ文化総論1(日本のスポーツ文化の進展2) 明治期にスポーツはどのような形で輸入され、日本文化や社会のなかに位置づいていったのかについて説明する(明治~昭和初期まで)	スライドと配布資料を用いて講義を行う。また提示されたワークを行い、他の受講生とディスカッションし、自らの意見を提出する。	(予習:2時間) J-Passにアクセスし、提示された資料を読み、授業内容への理解を深め、課題に回答しておく。 (復習:2時間) 配布資料と講義内容を確認し課題についての小レポートを書く。
3	渡	日本のスポーツ文化総論2(日本のスポーツ文化の進展2) 昭和初期における日本のスポーツ文化について、特に甲子園野球の成立と産業の関連について説明する。	スライドと配布資料を用いて講義を行う。また提示されたワークを行い、他の受講生とディスカッションし、自らの意見を提出する。	(予習:2時間) J-Passにアクセスし、提示された資料を読み、授業内容への理解を深め、課題に回答しておく。 (復習:2時間) 配布資料と講義内容を確認し課題についての小レポートを書く。
4	渡	日本のスポーツ文化総論3(戦時期におけるスポーツ文化) 戦時期、日本のスポーツ文化はその独自性が揺らいでいた。総力戦体制のなかでのスポーツの利用について説明する。	スライドと配布資料を用いて講義を行う。また提示されたワークを行い、他の受講生とディスカッションし、自らの意見を提出する。	(予習:2時間) J-Passにアクセスし、提示された資料を読み、授業内容への理解を深め、課題に回答しておく。 (復習:2時間) 配布資料と講義内容を確認し課題についての小レポートを書く。
5	渡	日本のスポーツ文化総論4(戦後におけるスポーツ文化) 終戦後の復興期におけるスポーツ文化の復興について、国民体育大会、オリンピック、そして1970年代のみんなのスポーツ・コミュニティスポーツの流れを説明する。	スライドと配布資料を用いて講義を行う。また提示されたワークを行い、他の受講生とディスカッションし、自らの意見を提出する。	(予習:2時間) J-Passにアクセスし、提示された資料を読み、授業内容への理解を深め、課題に回答しておく。 (復習:2時間) 配布資料と講義内容を確認し課題についての小レポートを書く。
6	渡	日本のスポーツ文化各論①(運動部活動の進展と現代的課題) 日本独特のスポーツ文化としても捉えることのできる運動部活動についてその展開と現代における課題について説明する。	スライドと配布資料を用いて講義を行う。また提示されたワークを行い、他の受講生とディスカッションし、自らの意見を提出する。	(予習:2時間) J-Passにアクセスし、提示された資料を読み、授業内容への理解を深め、課題に回答しておく。 (復習:2時間) 配布資料と講義内容を確認し課題についての小レポートを書く。
7	渡	日本のスポーツ文化各論②(学校体育文化) 日本のスポーツ文化の基礎を担う学校体育について、その歴史的変遷と現代的課題について説明する。	スライドと配布資料を用いて講義を行う。また提示されたワークを行い、他の受講生とディスカッションし、自らの意見を提出する。	(予習:2時間) J-Passにアクセスし、提示された資料を読み、授業内容への理解を深め、課題に回答しておく。 (復習:2時間) 配布資料と講義内容を確認し課題についての小レポートを書く。
8	渡	日本のスポーツ文化各論③ 日本のスポーツ組織、行政との関わりとその課題について、主にスポーツ政策の観点から説明する。	スライドと配布資料を用いて講義を行う。また提示されたワークを行い、他の受講生とディスカッションし、自らの意見を提出する。	(予習:2時間) J-Passにアクセスし、提示された資料を読み、授業内容への理解を深め、課題に回答しておく。 (復習:2時間) 配布資料と講義内容を確認し課題についての小レポートを書く。
9	渡	海外のスポーツ文化① スポーツ文化はグローバルなものであると同時にローカルなものでもある。ここでは、アメリカにおけるスポーツ文化を取り上げ、その特徴を説明する。	スライドと配布資料を用いて講義を行う。また提示されたワークを行い、他の受講生とディスカッションし、自らの意見を提出する。	(予習:2時間) J-Passにアクセスし、提示された資料を読み、授業内容への理解を深め、課題に回答しておく。 (復習:2時間) 配布資料と講義内容を確認し課題についての小レポートを書く。

科目名	【新カリ】スポーツメディア論			授業形態	講義
英語科目名	【新カリ】スポーツメディア論			対象学年	3年
開講学期	2022年度前期			単位数	2単位
代表教員	野口 亜弥			ナンバリング	SOC3346
担当教員	野口 亜弥、スポーツ健康科学部教員共通				
授業概要					
全体内容	この授業では、「メディアとは何か」という基本的なところから学び、メディアが個人や社会に及ぼす影響を理解する。現代社会におけるスポーツイベントとメディアとの関係について考える。スポーツメディアが表象する人種、ジェンダー、ナショナリズムなど身体をめぐる文化の状況について考察する。また、メディアリテラシーを高め、メディアの効果的な活用方法を学ぶ。特にスポーツ組織を題材として、スポーツ組織の広報戦略や、ニューメディアの知識を得て、スポーツ現場でメディアがどのように活用できるか、理解する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. メディアとは何かを説明できる。 2. メディアが発信するメッセージが個人や社会に与える影響を説明できる。 3. ニューメディアとグローバル社会の関係づけることができる 4. メディアの特徴やリスクを理解して、スポーツ組織の基本的な広報戦略・PR戦略に応用できる。 				
授業の位置づけ	この科目は、コース科目群・スポーツマネジメントコース科目の選択必修科目である。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツマネジメント学を中心とした幅広い知識と教養、及びそれらの活用能力」を身につけるための科目の1つとして開講される。また、スポーツマネジメント学科において、「国際的視野を持ち、経営学、社会心理学、社会学等を応用したスポーツマネジメントマ学についての知識と技術」という学位授与方針の達成にも寄与する。				
履修上の注意、履修要件	<p>【履修要件】 特にありません。</p> <p>【履修上の注意】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●授業の中でスマートフォンやパソコンを活用して調べ学習をしてもらうことがあります。スマートフォンやパソコンなどでインターネットにアクセスできる環境が必要となります。準備が難しい場合は事前に相談してください。 ●開始20分以降の入室は原則出席扱いとなりません。 				
成績評価の方法					
評価方法	平常点（授業内での出席回数及び内容等）（30%）、中間レポート（30%）、最終レポート（40%）を総合して評価する。尚、出席していても授業態度が授業進行上においてふさわしくないと判断した場合は、減点の対象とし、実習など欠席の理由が明確な場合には欠席届の提出で出席点を考慮する。				
評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. メディアとは何かが説明できる（毎回の授業コメント、グループ発表、個人課題） 2. メディアが発信するメッセージが個人や社会に与える影響を説明できる。（毎回の授業コメント、グループ発表、個人課題） 3. ニューメディアとグローバル社会の関係づけることができる（毎回の授業コメント、グループ発表、個人課題） 4. メディアの特徴やリスクを理解して、スポーツ組織の基本的な広報戦略・PR戦略に応用できる。（毎回の授業コメント、グループ発表、個人課題） 				
試験・課題に対するフィードバック方法					
毎授業のコメントは翌週にフィードバックします。 個人課題、グループ課題はその都度フィードバックを行います。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考文献					
授業中に配布する配布資料を使用して授業を行います。					
その他					
連絡先・オフィスアワー	<p>【連絡先】 担当：野口亜弥 ay-noguchi [at] juntendo.ac.jp ※ [at] を@に変更してください。</p> <p>【オフィスアワー】 日時：金曜日11:00-13:00 場所：1号館3階1319号室 面会を希望する場合は、事前にemailにて予約した学生を優先します。</p>				
担当教員の実務経験					
備考	この授業は、講義の授業形態による2単位の科目であり、90時間（授業時間30時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。				
授業計画					
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間	

1	野口亜弥	ガイダンス【授業の目的・内容オリエンテーション】	授業の進め方、採点方法、グループプレゼンテーション課題の内容確認。グループプレゼンテーションのグループ分けを行う。	(復習：4時間) 授業で配布するスポーツとメディアに関する資料を読み、授業の進め方を理解する。
2	野口亜弥	メディアとは	PPTを用いて解説する。動画なども用いて視覚的に理解できるようにする。また、予習課題を用いて授業中にディスカッションする。	(予習：2時間) 各メディア媒体（テレビ、新聞、インターネット等）におけるスポーツニュースの情報発信方法の違いに注意して視聴する。 (復習：2時間) 授業で配布した資料を再度読み、メディアとは何かを自分なりに考える。普段どんなメディアで何の情報を得ているのか、理解を深める。
3	野口亜弥	インターネットとメディア	PPTを用いて解説する。動画なども用いて視覚的に理解できるようにする。また、予習課題を用いて授業中にディスカッションする。	(予習：2時間) 現在インターネットを中心に広がるニューメディアを調べる。 (復習：2時間) 授業で配布した資料を再度読み、ニューメディアと従来のメディアの特徴の違いを整理する。
4	野口亜弥	メディアが発信するメッセージ	PPTを用いて解説する。動画なども用いて視覚的に理解できるようにする。また、予習課題を用いて授業中にディスカッションする。	(予習：3時間) 甲子園野球大会、箱根駅伝、全国高校女子サッカー選手権など、メディアが主催する大会に含まれるメッセージを考えてくる。 (予習：1時間) 授業で取り上げた事例を用いて、メディアとスポーツ大会の関係性を整理する。
5	野口亜弥	メディアと社会①	PPTを用いて解説する。動画なども用いて視覚的に理解できるようにする。また、予習課題を用いて授業中にディスカッションする。	(予習：4時間) メディアがスポーツを題材として映し出す社会課題について考察する。
6	野口亜弥	メディアと社会②	PPTを用いて解説する。動画なども用いて視覚的に理解できるようにする。また、予習課題を用いて授業中にディスカッションする。	(予習：4時間) メディアがスポーツを題材として映し出す社会課題について考察し、課題を提出する。
7	野口亜弥	アスリートとメディア	PPTを用いて解説する。動画なども用いて視覚的に理解できるようにする。また、予習課題を用いて授業中にディスカッションする。	(予習：3時間) 著名なアスリートを1名選び、メディアがそのアスリートをどのように表象しているのか、また、どのようなCMに起用されているのか、調べてまとめる。 (予習：1時間) 授業で取り上げた事例を自分なりに再び考察する
8	野口亜弥	グローバル社会とメディアスポーツ	PPTを用いて解説する。動画なども用いて視覚的に理解できるようにする。また、予習課題を用いて授業中にディスカッションする。	(予習：2時間) グローバル社会でメディアはどのように活用されているのか調べる (復習：2時間) 授業で配布した資料を再度読み、グローバルメディアのメリットとデメリットをまとめる。

科目名	【新カリ】スポーツボランティア	授業形態	講義
英語科目名	【新カリ】スポーツボランティア	対象学年	3年
開講学期	2022年度前期	単位数	2単位
代表教員	松山 毅	ナンバリング	SOC3349
担当教員	松山 毅、澁谷 茂樹、スポーツ健康科学部教員共通		
授業概要			
全体内容	<p>【授業全体の内容】 本科目は、講義の授業形態で行われる。ボランティア活動の意義や役割、ボランティア活動におけるチームビルディング、ボランティア組織の運営及び安全管理等について学び、スポーツボランティア・リーダーとして活躍できる能力を養成することを目的とする。 (オムニバス方式/全14回)</p> <p>(5 黒須 充, 30 松山先生/7回) (共同) スポーツボランティアの定義と分類、スポーツボランティア活動の具体例(大規模スポーツイベントや障害者スポーツを含む)を、映像やデータに基づいて理解する。また、スポーツボランティア活動に求められるコミュニケーションスキルの基礎について、実践をふまえて理解を深める。さらに、ドイツ、イギリス、オーストラリア、ニュージーランドにおけるスポーツボランティアの取り組みについて、映像やデータに基づいて理解する。</p> <p>(87 澁谷茂樹/7回) スポーツボランティアの意義、スポーツボランティアの現状と課題、スポーツボランティア・リーダーの役割、心得、求められる資質などについて、活動現場の事例もふまえて理解する。また、スポーツボランティアを束ね、ボランティアが安全かつ有意義に活動できる環境をつくる上で、ボランティア・リーダーに求められるコミュニケーションスキルの実践を通じて習得する。さらにスポーツボランティア参加の促進と定着に向けた課題や工夫などのテーマを設定し、グループで意見交換を行う。</p> <p>【授業の位置づけ(学位授与方針に定められている知識・能力等との関連)】 スポーツボランティアの活動がその使命を達成するためには、組織運営マネジメントが欠かせない。この科目は、スポーツ健康科学を中心とした幅広い知識と教養に基づき、経営学や社会学を応用したスポーツマネジメント学についての知識を身につけ、スポーツを「人、物、金、時間、情報」という経営資源の側面からマネジメントできる能力の養成を目指す、という学位授与方針の達成に寄与する。</p> <p>【授業の到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. スポーツボランティアの理念を説明できる。 2. スポーツボランティアのタイプと活動パターンを説明できる。 3. ボランティア活動とNPO(非営利組織)法人の関係を説明できる。 4. スポーツボランティア活動の実践に必要な初級レベルの知識を備えている。 5. 有効なコミュニケーションスキルを備えている。 6. グループの一員として共同作業ができる。 7. 明確かつ聴衆の興味を維持できるプレゼンテーションが行える。 8. ボランティア活動をめぐる論点を説明できる。 		
到達目標			
授業の位置づけ	この科目は、コース科目群・スポーツマネジメントコース科目の選択科目である。		
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連			
履修上の注意、履修要件	<p>【履修要件】 1回の授業について、3分の2以上の出席時間がない場合は、その回の授業を欠席扱いとする。また、遅刻及び早退3回で、1回分の欠席としてカウントする。講義及びスポーツボランティアの実習のセットで単位を認定する。スポーツボランティア実習報告書の未提出者は単位を認めない。</p> <p>【課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法】 授業毎のレポート課題については、翌週の授業の中で評価のポイントを提示し、解説する。最終レポートに関しては、全授業終了後、J-Pass上に模範例を掲示する。</p> <p>【テキスト・参考書等】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. スポーツボランティア・リーダー研修会テキスト(特定非営利活動法人日本スポーツボランティアネットワーク編) 2. 笹川スポーツ財団「スポーツ白書2014～スポーツの使命と可能性」、笹川スポーツ財団、2014。 3. 長沼豊著「人が集まるボランティア組織をどうつくるのか～双方向の学びを活かしたマネジメント～」、ミネルヴァ書房、2014。 <p>1は教科書として使用するので必ず持参すること。2と3は参考書であり、レポート作成の際に参考となる。その他、授業中に、適宜、資料を配付します。</p>		
成績評価の方法			
評価方法	<p>【成績評価の基準】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. スポーツボランティアの理念を説明できる(レポート) 2. スポーツボランティアのタイプと活動パターンを説明できる(レポート) 3. ボランティア活動とNPO(非営利組織)法人の関係を説明できる(レポート) 4. スポーツボランティア活動の実践に必要な初級レベルの知識を備えている(実習) 5. 有効なコミュニケーションスキルを備えている(実習) 6. グループの一員として共同作業ができる(実習) 7. 明確かつ聴衆の興味を維持できるプレゼンテーションが行える(グループワーク) 8. ボランティア活動をめぐる論点を説明できる(レポート) <p>【成績評価の方法】 1から8の能力が身につけているかどうか、授業毎のレポート課題(10%)、スポーツボランティア体験報告書(20%)、学期末の最終レポート(40%)、その他、学習意欲や態度についても、授業内で行うグループワーク(10%)やディスカッション(10%)、授業態度・取り組む姿勢(10%)を通して評価する。</p>		
評価基準			

試験・課題に対するフィードバック方法				
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考文献				
その他				
連絡先・オフィスアワー	<p>【連絡先】 担当：黒須 充 E-mail：mkurosu@juntendo.ac.jp 【オフィスアワー】 日時：前期期間中の火曜日12:10～12:50、水曜日13:00～16:00、木曜日12:10～12:50 場所：1号館3階1323室（生涯スポーツゼミナール） この時間以外の来室は事前にE-mailで予約ください。質問や相談は予約のあった学生を優先します。</p>			
担当教員の実務経験				
備考	<p>【学修時間】 この授業は、講義の授業形態による2単位の科目であり、授業30時間と準備学修60時間の計90時間の学修を必要とする内容をもって構成する。</p> <p>【その他】 特にありません。</p>			
授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	黒須	<p>【授業内容】 1. 授業の進め方、授業計画、成績評価、履修にあたっての留意点など 2. 現代社会におけるボランティアの意義と役割について概説し、課題解決のために自分たちに何ができるかを考えるきっかけとする。</p> <p>【授業方法】 ボランティアの意義や役割をテーマにグループディスカッションを行い、班毎に発表する。</p>		<p>(予習：3時間) ボランティア活動の定義について事前に調べ、理解を深める。 (復習：1時間) 講義で取り上げた箇所についてテキストやノート、参考文献等を読み、ボランティアの意義や役割について復習する。</p>
2	黒須	<p>【授業内容】 スポーツボランティアの定義と分類、スポーツボランティア活動の具体例などを紹介する。障がい者のスポーツにおけるボランティアの現状についても触れる。</p> <p>【授業方法】 1. プレゼン資料を使って講義を進める。 2. スポーツボランティアの現状と課題をテーマにグループディスカッションを行い、班毎に発表する。</p>		<p>(予習：3時間) スポーツボランティアの現状や課題について事前に調べ、理解を深める。 (復習：1時間) 講義で取り上げた箇所についてテキストやノート、参考文献等を読み、スポーツボランティアの現状や課題について復習する。</p>
3	黒須	<p>【授業内容】 スポーツボランティア活動に求められるコミュニケーションスキルの基礎について、実践をふまえて理解を深める。</p> <p>【授業方法】 1. プレゼン資料を使って講義を進める。 2. コミュニケーションスキルをテーマにグループディスカッションを行い、班毎に発表する。</p>		<p>(予習：3時間) スポーツボランティア活動に求められるコミュニケーションスキルについて事前に調べ、理解を深める。 (復習：1時間) 講義で取り上げた箇所についてテキストやノート、参考文献等を読み、スポーツボランティア活動に求められるコミュニケーションスキルについて復習する。</p>
4	黒須	<p>【授業内容】 スポーツイベントの分類、イベントの準備から評価までの流れ、イベントの魅力を引き出す方法、企画書の作成、広報・宣伝媒体の選定、イベントの効果、リスクマネジメントを取り上げ、今後のスポーツイベントのあり方を探る。</p> <p>【授業方法】 1. プレゼン資料を使って講義を進める。 2. スポーツイベントやプログラムをテーマにグループディスカッションを行い、班毎に発表する。</p>		<p>(予習：3時間) 国内外で行われている様々なスポーツイベントについて事前に調べ、理解を深める。 (復習：1時間) 講義で取り上げた箇所についてテキストやノート、参考文献等を読み、国内外で行われている様々なスポーツイベントについて復習する。</p>
5	黒須	<p>【授業内容】 ドイツ、イギリス、オーストラリア、ニュージーランドにおけるスポーツボランティアの取り組みについて、映像やデータに基づいて理解する。</p> <p>【授業方法】 1. プレゼン資料を使って講義を進める。 2. 海外のスポーツボランティアをテーマにグループディスカッションを行い、班毎に発表する。</p>		<p>(予習：4時間) ロンドン五輪の「ゲームズメーカー」について事前に調べ、理解を深める。 (復習：1時間) 講義で取り上げた箇所についてテキストやノート、参考文献等を読み、海外のスポーツボランティアについて復習する。</p>

6	黒須	<p>【授業内容】 大規模スポーツイベント（東京マラソンなど）におけるボランティアの活動事例を、映像やデータに基づいて理解する。</p> <p>【授業方法】 1. プレゼン資料を使って講義を進める。 2. 大規模スポーツイベントをテーマにグループディスカッションを行い、班毎に発表する。</p>	<p>（予習：4時間） 東京マラソンについて事前に調べ、理解を深める。（復習：1時間） 講義で取り上げた箇所についてテキストやノート、参考文献等を読み、スポーツイベントのボランティア～大規模イベントを事例に～について復習する。</p>
7	黒須	<p>【授業内容】 ふり返り（リフレクション）の場として、ボランティア活動を通して学んだことや感じたことをグループで話し合い、今後の活動につなげるためにどうすればいいかについて、個々にレポートを作成する。</p> <p>【授業方法】 1. グループディスカッションを行う。 2. レポートを作成する。</p>	<p>（予習：4時間） スポーツイベントボランティア活動の体験を通じて、感じたことや考えたこと（レポートの草案）をあらかじめまとめておく。 （復習） 特になし</p>
8	黒須	<p>【授業内容】 スポーツボランティアリーダーの役割、心得、やりがい、ボランティア仲間との付き合い方等について理解を深め、ボランティア活動をリーダーとして実践していくために必要と思われる知識・ノウハウを身につける。</p> <p>【授業方法】 1. プレゼン資料を使って講義を進める。 2. スポーツボランティアリーダーの心得をテーマにグループディスカッションを行い、班毎に発表する。</p>	<p>（予習：4時間） ボランティアリーダーに必要な知識・ノウハウについて事前に調べ、理解を深める。 （復習：1時間） 講義で取り上げた箇所についてテキストやノート、参考文献等を読み、ボランティアリーダーに必要な知識・ノウハウについて復習する。</p>
9	黒須	<p>【授業内容】 スポーツボランティア・リーダーの立場で身につけておくべきスポーツ全般やスポーツボランティアに関する幅広い知識を身につける。</p> <p>【授業方法】 1. プレゼン資料を使って講義を進める。 2. スペシャルオリンピックズをテーマにグループディスカッションを行い、班毎に発表する。</p>	<p>（予習：4時間） パラリンピックやスペシャルオリンピックズについて事前に調べ、理解を深める。 （復習：1時間） 講義で取り上げた箇所についてテキストやノート、参考文献等を読み、障がい者スポーツのイベントについて復習する。</p>
10	黒須	<p>【授業内容】 スポーツボランティアを束ね、ボランティアが安全かつ有意義に活動できる環境をつくる上で、ボランティア・リーダーに求められるコミュニケーションスキルを実践を通じて習得する。</p> <p>【授業方法】 1. コミュニケーションスキルの実践を行う。</p>	<p>（予習：4時間） リーダーに求められるコミュニケーションスキルについて事前に調べ、理解を深める。 （復習：1時間） 講義で取り上げた箇所について配付資料やノート、参考文献等を読み、リーダーに求められるコミュニケーションスキルについて復習する。</p>
11	黒須	<p>【授業内容】 人が集まるボランティア組織をどうつくるのか、どうすれば多くの人が参加したくなる魅力ある団体となれるのかについて、「双方向の学び」を活かしたマネジメントを中心に概説する。また、現場では様々な状況が想定され、予期せぬ事態に対応することが要求される。その際にリーダーが冷静かつ適切な対応を行うことができるように、リスクマネジメントや事件と事故の応急対応等についても取り上げる。</p> <p>【授業方法】 1. プレゼン資料を使って講義を進める。 2. スポーツボランティア組織の運営及び安全管理をテーマにグループディスカッションを行い、班毎に発表する。</p>	<p>（予習：4時間） 「双方向の学び」を活かしたマネジメントについて事前に調べ、理解を深める。 （復習：1時間） 講義で取り上げた箇所についてテキストやノート、参考文献等を読み、スポーツボランティア組織の運営及び安全管理について復習する。</p>
12	黒須	<p>【授業内容】 現地の受入先との交渉・折衝、チームビルディングやコミュニケーションスキル（アイスブレイクの理論と実践）、情報発信など幅広いスキルやノウハウについて学ぶ。また、自己理解・他者理解を深め、相手の考えや感性を知るためのグループワーク（チームワークへの第一歩、グループワークトレーニング、協力・協議・共有に向けてのグループ力）を行う。</p> <p>【授業方法】 1. プレゼン資料を使って講義を進める。 2. スポーツボランティア活動におけるチームビルディングをテーマにグループディスカッションを行い、班毎に発表する。</p>	<p>（予習：4時間） HRT（Human Relations Training 自己理解・他者理解・コミュニケーション）について事前に調べ、理解を深める。 （復習：1時間） 講義で取り上げた箇所について配付資料やノート、参考文献等を読み、スポーツボランティア活動におけるチームビルディングについて復習する。</p>
13	黒須	<p>【授業内容】 スポーツボランティアの意義、スポーツボランティアの現状と課題、スポーツボランティアリーダーに求められること、スポーツボランティア参加の促進と定着に向けた課題や工夫などのテーマを設定し、グループで意見交換を行う。</p> <p>【授業方法】 1. グループディスカッションを行い、班毎に発表する。</p>	<p>（予習：4時間） ボランティア参加の促進と定着に向けた課題や工夫について事前に調べ、理解を深める。 （復習：1時間） グループ・ディスカッションを通して学んだことや感じたことを整理し、レポートにまとめる。</p>
14	黒須	<p>【授業内容】 最終レポートの作成</p>	
		定期試験の実施	

科目名	【新カリ】スポーツ施設マネジメント			授業形態	講義
英語科目名	【新カリ】スポーツ施設マネジメント			対象学年	3年
開講学期	2022年度前期			単位数	2単位
代表教員	高橋 季絵			ナンバリング	MGT3350
担当教員	高橋 季絵、スポーツ健康科学部教員共通				
授業概要					
全体内容	本科目は、講義の授業形態で行われる。公共及び民間のスポーツ施設運営にかかわる諸側面、すなわち屋内スポーツ施設、屋外スポーツ施設において行われるイベントや教室、レギュラープログラムの具体的なマネジメントについて理解を深める。また、商業スポーツ施設（民間フィットネスクラブ等）の運営管理、公共スポーツ施設の安全対策、公共スポーツ施設のイベント運営、地域スポーツ施設のマーケティング、学校体育施設の運営等の実践的な事例にふれながらスポーツ施設のマネジメントについて学修する。				
到達目標	スポーツ施設の運営管理について理解を深め、実際のスポーツ施設の利用時や運営に役立つ知識を習得する。 科目終了時、受講生は以下の水準に達しているよう期待される。 ・スポーツ活動中およびスポーツ施設の運営管理における安全管理に関する法律、規則を学び、理解を深め、実際の対応時に自ら実践できるようにする。				
授業の位置づけ	この科目は、コース科目群・スポーツマネジメントコース科目の選択科目である。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	本授業では、社会や環境の変化に対応し、自ら課題を見つけ、スポーツ健康科学分野における専門的な知識または技能をもとに課題を解決できる能力【課題解決能力】の養成を目指す、学位授与方針の達成に寄与する。スポーツ施設を「ヒト・モノ・カネ・情報」という経営資源の側面からマネジメントできる能力の養成を目指す。				
履修上の注意、履修要件	【履修要件】 マネジメント総論、スポーツマーケティング論、生涯スポーツ論を受講していることが望ましい。 【履修上の注意】 授業中の私語厳禁、提出物の期限厳守、テキストの所持、指定された書籍や資料の通読、教育実習や介護実習、試合等で欠席する場合は、事後ではなく、事前に知らせること。				
成績評価の方法					
評価方法	【成績評価の方法】 おさらいテスト（10%）、グループ課題発表（10%）、課題レポート（10%）、中間テスト（20%）、期末テスト（50%）を総合して評価する。				
評価基準	スポーツ活動中およびスポーツ施設の運営管理における安全管理に関する法律、規則に関して、実際のスポーツ施設の利用時や運営の視点から説明することができるかどうか、授業毎のレポート課題や学期末の定期試験で評価する。その他、学習意欲や態度についても、授業内で行うグループワークやディスカッションを通して評価する。				
試験・課題に対するフィードバック方法					
授業毎のレポート課題については、翌週の授業の中で評価のポイントを提示し、解説する。定期試験に関しては、試験終了後、模範解答をJ-Pass上に掲載する。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
	公認スポーツ施設管理士教本	(公財)日本スポーツ施設協会	—	—	(公認スポーツ施設管理士養成講習会テキスト)
参考文献					
【テキスト・参考書等】 「公認スポーツ施設管理士教本（（公財）日本スポーツ施設協会 公認スポーツ施設管理士養成講習会テキスト）」 月刊体育施設（SF） ケーススタディ スポーツアクシデント改訂第4版 改訂生涯スポーツ実践論第4版 日本のサッカースタジアム-今日そして明日- その他、授業中に適宜資料を配布します。					
その他					
連絡先・オフィスアワー	【連絡先】 担当：高橋 季絵 E-mail：kietaka@juntendo.ac.jp *を@に変更してください メールで日程を相談の上、授業時間後に非常勤講師室で対応する				
担当教員の実務経験					
備考	【学修時間】 この授業は、講義の授業形態による2単位の科目であり、授業30時間と準備学習60時間の計90時間の学修を必要とする内容をもって構成する。 【その他】 本授業では、これまでの「場所を貸す」だけの施設運営から、マーケティングやマネジメントの手法を導入した新たな施設経営のあり方について紹介する。こうした実際の現場で活用できる知識やノウハウを身につけたいと考えている意欲的な学生の受講を望む。 新型コロナウイルス感染症の発生状況に応じて、成績評価の基準、方法及び授業計画を変更する場合があります。				
授業計画					
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間	

1	高橋	【授業内容】 オリエンテーション（含：資格の説明） 日本のスポーツ施設の種類、歴史と現状	【授業方法】 資料、スライドを用いて講義を進める。	授業の目的および概要の解説、シラバスの解説、評価方法と授業の進め方について説明する。
2	高橋	【授業内容】 「スポーツ施設のマーケティング・マネジメント」について概説し、その手法を学ぶ。	【授業方法】 資料、スライドを用いて講義を進める。 ・スポーツ施設のマーケティングについて、グループディスカッションし、まとめを行う。	予習（2.5時間）：テキスト・資料を通読し、スポーツ施設のマーケティング・マネジメントについて調べてくること。 復習（1.5時間）：スポーツ施設のマーケティング・マネジメントの内容について復習する。
3	高橋	【授業内容】 「スポーツ施設の安全管理：事故と対策」について考える。	【授業方法】 資料、スライドを用いて講義を進める。 スポーツにおける事故と対策について、グループディスカッションを行い、まとめを行う。	予習（2.5時間）：テキスト・資料を通読し、スポーツ施設の安全管理、特に「事故と対策」について調べてくること。 復習（1.5時間）：スポーツ施設の安全管理（事故と対策）について復習する。
4	高橋	【授業内容】 「屋内スポーツ施設の維持管理と諸規則」について解説する。	【授業方法】 資料、スライドを用いて講義を進める。	予習（2.5時間）：テキスト・資料を通読し、屋内スポーツ施設の維持管理と諸規則について調べてくること。 復習（1.5時間）：屋内スポーツ施設の維持管理と諸規則について復習する。
5	高橋	【授業内容】 「スポーツ施設の音響と照明の維持管理」について解説し、事例を紹介する。	【授業方法】 資料、スライドを用いて講義を進める。	予習（2.5時間）：テキスト・資料を通読し、スポーツ施設の音響と照明の維持管理について調べてくること。 復習（1.5時間）：スポーツ施設の音響と照明の維持管理について復習する。
6	高橋	【授業内容】 「スポーツ施設の用器具の維持管理」について諸規則を解説し、用途・管理方法を学ぶ。	【授業方法】 資料、スライドを用いて講義を進める。 用器具の維持管理方法についてグループディスカッションし、まとめる。	予習（2.5時間）：テキスト・資料を通読し、スポーツ施設の用器具の維持管理について調べてくること。 復習（1.5時間）：スポーツ施設の用器具の維持管理について復習する。
7	高橋	【授業内容】 「水泳プールの維持管理と諸規則」について解説し、安全・安心な維持管理法について考える。	【授業方法】 資料、スライドを用いて講義を進める。 水泳プールの安全・安心な維持管理について、グループディスカッションし、まとめを行う。	予習（2.5時間）：テキスト・資料を通読し、水泳プールの維持管理と諸規則について調べてくること。 復習（1.5時間）：水泳プールの維持管理と諸規則について復習する。
8	高橋	中間テストの実施		予習（2時間）：第1回～7回の授業テキストや資料を通読すること。 復習（2時間）：第1回～7回の授業の中で理解が浅かった部分について復習する。
9	高橋	【授業内容】 課題発表	【授業方法】 第1回～第8回までの授業内容（テーマ）に関して各グループ毎で発表する。	予習（3時間）：事例発表の準備をすること 復習（1時間）：事例発表に対する質疑応答の内容について、整理する。
10	高橋	【授業内容】 「スポーツ施設の診断（保全と劣化）」について概説し、スポーツ施設の維持について考える。	【授業方法】 資料、スライドを用いて講義を進める。 スポーツ施設の維持管理について、グループディスカッションを行い、発表する。	予習（2.5時間）：テキスト・資料を通読し、スポーツ施設の診断（保全と劣化）について調べてくること。 復習（1.5時間）：スポーツ施設の診断（保全と劣化）について復習する。
11	高橋	【授業内容】 「芝生の造成と維持管理（人工芝含む）」について概説し、事例を踏まえて諸規則を学ぶ。	【授業方法】 資料、スライドを用いて講義を進める。	予習（2.5時間）：テキスト・資料を通読し、芝生の造成と維持管理（人工芝含む）について調べてくること。 復習（1.5時間）：芝生の造成と維持管理（人工芝含む）について復習する。

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	【新カリ】スポーツイベントマネジメント			授業形態	講義
英語科目名	【新カリ】スポーツイベントマネジメント			対象学年	3年
開講学期	2022年度前期			単位数	2単位
代表教員	工藤 康宏			ナンバリング	MGT3351
担当教員	工藤 康宏、スポーツ健康科学部教員共通				
授業概要					
全体内容	<p>【授業全体の内容】</p> <p>本科目は、講義の授業形態で行われる。博覧会、展示会、見本市、フェスティバル、会議、文化、スポーツ等のイベント、販売促進イベントなど、地域、企業、団体が催す各種のイベントなど、現代社会において、イベントはコミュニケーションメディアとして重要な役割を担っている。これらのイベント企画運営する場合には、専門的な知識やスキルが必要とされる。イベント産業に従事する人材育成と職務能力の醸成を目指す。</p>				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. スポーツイベント含む、一般的なイベントに共通する基本的な業務知識を理解している。 2. イベントの業務を現代の社会的、経済的動向を結び付けて説明できる。 3. JACE（社団法人日本イベント産業振興協会）の定めるイベントの歴史や基礎知識、実務について理解する。JACEが行う「イベント業務管理士資格2級」に合格するレベルの知識を身につける。（資格試験、または筆記試験にて確認） 				
授業の位置づけ	この科目は、コース科目群・スポーツマネジメントコース科目の選択科目である。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「経営学・社会心理学・社会学を応用したスポーツマネジメントについての知識」「スポーツをヒト・モノ・カネ・情報という経営資源の側面からマネジメントできる」という学位授与方針の達成に寄与する。				
履修上の注意、履修要件	<p>【履修要件】</p> <p>資格試験受験の有無を問わず、テキストの購入が必要である。所属する運動部の試合運営や学内外のイベントの運営経験（資格受験希望者は3年相当程度）を要する（参加は運営に含まない）。講義内容の理解の確認や教員へのフィードバックのために、スマートフォンあるいはタブレット等のQRコードリーダーを使用する場合がある。</p> <p>【テキスト・参考書等】</p> <p>日本イベント産業振興協会（2019）イベント業務管理士公式テキスト1級・2級共通</p>				
成績評価の方法					
評価方法	課題レポート2回程度（20%）、グループワーク（10%）、筆記試験または資格試験（50%）、平常点（20%）を総合して評価する。				
評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. スポーツイベント含む、一般的なイベントに共通する基本的な業務知識を理解している。（レポート・筆記試験） 2. イベントの業務を現代の社会的、経済的動向を結び付けて説明できる。（レポート・筆記試験） 3. 授業中の発言、グループワークの取り組みなどによって、受講態度を評価する（平常点） 4. JACEが行う「イベント業務管理士資格2級」に合格するレベルの知識を身につける。（資格試験、または筆記試験にて確認） 				
試験・課題に対するフィードバック方法					
レポートおよび試験の解説を行います。「履修上の注意1」で示した形でフィードバックを行います。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
	イベント業務管理士公式テキスト1級・2級共通	日本イベント産業振興協会人材育成委員会	日本イベント産業振興協会	4901173367	
参考文献					
授業の中で提示、指示する。					
その他					
連絡先・オフィスアワー	<p>【連絡先】</p> <p>担当：工藤康宏</p> <p>E-mail：ykudou[at]Juntendo.ac.jp ※：[at]を@に変更のこと</p> <p>【オフィスアワー】</p> <p>火曜 16:30-17:30</p> <p>木曜 13:00-14:00（前期）、金曜 13:00-14:00（後期）</p>				
担当教員の実務経験					
備考	<p>【学修時間】</p> <p>本科目は、講義の授業形態による2単位の科目であり、授業30時間と準備学習60時間の計90時間の学修を必要とする内容をもって構成する。</p>				
授業計画					
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間	
1	工藤（以下同様）	<p>【授業内容】</p> <p>オリエンテーション、授業目的及び授業の進め方の解説。シラバスと評価方法の説明。</p> <p>イベントと社会について</p>	講義	<p>（予習：2時間）</p> <p>イベントの起源や歴史についてテキストなどを用いて調べること</p> <p>（復習：2時間）</p> <p>配布資料とテキストを振り返り、読むこと</p>	

2		【授業内容】 イベントの概念・構造・機能、イベントの社会経済的効果	講義	(予習：2時間) イベントの定義、効果についてテキストを用いて調べること (復習：2時間) 配布資料とテキストを振り返り、読むこと
3		【授業内容】 イベントの事業主体や目的等による、様々な分類方法について	講義	(予習：2時間) イベントの様々な分類方法についてテキストを用いて調べること (復習：2時間) 配布資料とテキストを振り返り、読むこと
4		【授業内容】 イベント業務全体の管理運営について	講義	(予習：2時間) イベントの4大管理について、テキストを用いて調べてくること (復習：2時間) 配布資料とテキストを振り返り、読むこと
5		【授業内容】 イベントの企画と計画に基本的な手法、構造について	講義	(予習：2時間) イベントの企画と計画の違い、計画の基本構造についてテキストを用いて調べてくること (復習：2時間) 配布資料とテキストを振り返り、読むこと
6		【授業内容】 イベントの入札、企画書の構成とプレゼンテーション	講義およびグループディスカッション	(予習：2時間) イベントの企画書づくりと効果的なプレゼン方法について、テキストを用いて調べてくること (復習：2時間) 配布資料とテキストを振り返り、読むこと
7		【授業内容】 イベントにおける告知や集客業務とその方法	講義	(予習：2時間) イベントの告知・集客に関する基本的な考え方をテキストを用いて調べてくること (復習：2時間) 配布資料とテキストを振り返り、読むこと
8		【授業内容】 イベントのプログラムの制作と演出について	講義	(予習：2時間) イベントプログラムの制作とそのポイントについてテキストを用いて調べてくること (復習：2時間) 配布資料とテキストを振り返り、読むこと
9		【授業内容】 イベント会場の設営と施工計画、管理について	講義	(予習：2時間) イベント制作から施工までの用語の区別や内容、過程についてテキストを用いて調べてくること (復習：2時間) 配布資料とテキストを振り返り、読むこと
10		【授業内容】 イベントの運営と事務局業務①	講義	(予習：2時間) イベント運営の考え方、事務局業務と当日の会場運営について、テキストを用いて調べてくること (復習：2時間) 配布資料とテキストを振り返り、読むこと
11		【授業内容】 イベントの運営と事務局業務②	講義	(予習：2時間) イベント運営の考え方、事務局業務と当日の会場運営の特に実務について、テキストを用いて調べてくること (復習：2時間) 配布資料とテキストを振り返り、読むこと
12		【授業内容】 イベントマーケティングの基礎と戦略について	講義およびグループディスカッション	(予習：2時間) イベントマーケティングの基礎としての関係性マーケティングについて、テキストを用いて調べてくること (復習：2時間) 配布資料とテキストを振り返り、読むこと
13		【授業内容】 プロジェクトマネジメントとリスクマネジメントについて	講義	(予習：2時間) プロジェクトマネジメントとはどのようなものか、テキストを用いて調べてくること (復習：2時間) 配布資料とテキストを振り返り、読むこと

科目名	【新カリ】スポーツマネジメント演習			授業形態	演習
英語科目名	【新カリ】スポーツマネジメント演習			対象学年	3年
開講学期	2022年度後期			単位数	2単位
代表教員	工藤 康宏			ナンバリング	MGT3343
担当教員	工藤 康宏、水野 基樹、小笠原 悦子、スポーツ健康科学部教員共通				
授業概要					
全体内容	<p>【授業全体の内容】</p> <p>本科目は、演習の授業形態で行われる。スポーツマネジメントにおけるスポーツサービスや経営資源の配分・管理に関わる学習内容やスポーツビジネスの実際について、模擬的・統合的に実践を通して学ぶ。スポーツマーケティングを始めとするスポーツマネジメントに関する主要な分野において、集中講義により基本的スキルを習得し、スポーツイベントの現場でのフィールドワークを行うなど、目的に応じた様々な形式で演習を行い、知識や技能の習得を目指す。</p>				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. マーケティングリサーチ、CS調査の手法の基礎を知っている。 2. スポーツイベント参加者、観戦者などを対象に、質問紙を作成し、調査を実施できる。 3. 得られた調査データから、簡単な報告ができる。 				
授業の位置づけ	この科目は、コース科目群・スポーツマネジメントコース科目の必修科目である。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学を中心とした教養」、「コミュニケーション力」という学位授与方針の達成に寄与する。この科目は、プロスポーツ観戦者調査とホームゲーム運営を通じて、マーケティングリサーチの手法を体験することを目的としている。				
履修上の注意、履修要件	<p>【履修要件】</p> <p>スポーツマーケティング、イベント概論を受講していることが望ましい。フィールドワークを実施してもらうため、5回程度の授業が通常の時間割帯ではなく、プロスポーツリーグの試合が開催される土・日となる。交通費などの費用は、個人負担となる。2日間の実習と1日の調査に参加することが必要となる。一部の授業をコンピュータ実習室で行う。</p> <p>【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学生の講義内容の理解の確認や教員へのフィードバックのために、スマートフォンあるいはタブレット等のQRコードリーダーを使用する場合がありますので、使用できるように準備すること。その回答を参考に、次週、口頭でフィードバックを行います。また、プロスポーツリーム担当者からの実習や報告書に対するフィードバックを行う。 <p>【テキスト・参考書等】</p> <p>随時指示する。</p>				
成績評価の方法					
評価方法	実習への参加（20%）、実習態度（30%）、報告書の作成（50%）を総合して評価する。				
評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. スポーツイベント参加者、観戦者などを対象に、質問紙を作成し、調査を実施することができる。（フィールドワークの実施） 2. 実際のプロスポーツのゲーム運営補助を行い、観戦者の観察を行うことができる。（フィールドワーク・報告書の作成） 3. 得られた調査データを集計し、基礎的な分析を行い、簡単な報告書を作成できる。（報告書の作成） 				
試験・課題に対するフィードバック方法					
課題レポートは後日の授業で返却し、評価や助言を各受講者へフィードバックする。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考文献					
その他					
連絡先・オフィスアワー	<p>【連絡先】</p> <p>担当： 工藤康宏</p> <p>E-mail： ykudou@juntendo.ac.jp</p> <p>【オフィスアワー】</p> <p>火曜 16:30-17:30</p> <p>木曜 13:00-14:00（前期）、金曜 13:00-14:00（後期）</p>				
担当教員の実務経験					
備考	<p>【学修時間】</p> <p>本科目は、講義および演習の授業形態による2単位の科目であり、授業60時間と準備学習30時間の計90時間の学修を必要とする内容をもって構成する。</p> <p>【その他】</p> <p>特になし</p>				
授業計画					
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間	
1	工藤	<p>【授業内容】</p> <p>オリエンテーションと実習の進め方等の説明。実習や観戦者調査日程等の調整。</p> <p>【授業方法】</p> <p>配布資料、スライド、Googleフォームなどを使用。</p>		<p>（予習：1時間）</p> <p>シラバスの内容を予めよく読み、実習の概要や目標、履修要件などを確認する。</p> <p>（復習：1時間）</p> <p>実習、観戦者調査参加スケジュールの調整。他の集中講義日程と後洋服の確認。</p>	

2	<p>【授業内容】 マーケティング・リサーチ、マーケティングの全体像、フレームワークなどを学ぶ。</p> <p>【授業方法】 配布資料、スライド、Googleフォームなどを使用。</p>	<p>(予習：2時間) マーケティングリサーチとCS調査について調べる。</p> <p>(復習：2時間) 配布資料などをよく読み返すこと。</p>
3	<p>【授業内容】 プロスポーツチームの環境分析、PEST、SWOT、3C、STP（セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング）、マーケティングミックス、4Pなどについて学ぶ。また、観戦者調査項目の選定をグループで検討する。</p> <p>【授業方法】 配布資料、スライド、Googleフォームなどを使用。</p>	<p>(予習：2時間) SWOT分析を行ってこること。</p> <p>(復習：3時間) 配布資料をよく読み返す。観戦者調査の質問項目の収集、検討。課題提示。</p>
4	<p>【授業内容】 社会調査について学ぶ。</p> <p>【授業方法】 配布資料、スライド、Googleフォームなどを使用。</p>	<p>(予習：2時間) 社会調査、およびスポーツ観戦者調査について調べてこること。</p> <p>(復習：3時間) 配布資料をよく読み返す。観戦者調査の質問項目の収集、検討。課題提示。</p>
5	<p>【授業内容】 調査テーマ、および質問項目の発表</p> <p>【授業方法】 グループ発表形式</p>	<p>(予習：4時間) 調査テーマの決定、質問項目の検討、先行研究の収集、グループ発表準備</p> <p>(復習：2時間) 配布資料をよく読むこと。質問項目の検討。</p>
6	<p>【授業内容】 質問紙の作成、フィールドワーク準備</p> <p>【授業方法】 配布資料、スライド、Googleフォーム、グループワーク</p>	<p>(予習：4時間)</p> <p>(復習：4時間) 質問紙の作成。課題提示。</p>
7	<p>【授業内容】 フィールドワーク1日目①</p> <p>【授業方法】 ホームゲーム運営</p>	<p>(予習：1時間) 必要な装備の準備と最終確認をする。</p> <p>(復習：1時間) 実習中の活動内容や感じたことなどを記録し振り返る。</p>
8	<p>【授業内容】 フィールドワーク1日目②</p> <p>【授業方法】 ホームゲーム運営</p>	<p>(予習：1時間) 必要な装備の準備と最終確認をする。</p> <p>(復習：1時間) 実習中の活動内容や感じたことなどを記録し振り返る。</p>
9	<p>【授業内容】 フィールドワーク2日目①</p> <p>【授業方法】 ホームゲーム運営</p>	<p>(予習：1時間) 必要な装備の準備と最終確認をする。</p> <p>(復習：1時間) 実習中の活動内容や感じたことなどを記録し振り返る。</p>
10	<p>【授業内容】 フィールドワーク2日目②</p> <p>【授業方法】 ホームゲーム運営</p>	<p>(予習：1時間) 必要な装備の準備と最終確認をする。</p> <p>(復習：1時間) 実習中の活動内容や感じたことなどを記録し振り返る。</p>
11	<p>【授業内容】 フィールドワーク3日目①</p> <p>【授業方法】 観戦者調査</p>	<p>(予習：1時間) 必要な装備の準備と最終確認をする。</p> <p>(復習：1時間) 実習中の活動内容や感じたことなどを記録し振り返る。</p>
12	<p>【授業内容】 データ入力、クリーニング、基礎統計分析</p> <p>【授業方法】 コンピュータ実習室にて、PCへの入力作業を行う。</p>	<p>(予習：3時間) データ入力、クリーニング、基礎統計系について調べること。</p> <p>(復習：2時間) データ入力を行うこと。課題提示。</p>
13	<p>【授業内容】 統計分析と図表作製、図表の読み取り</p> <p>【授業方法】 コンピュータ実習室にて、PCを使用し図表の作成等を行う。</p>	<p>(予習：4時間) データ入力を行うこと。</p> <p>(復習：4時間) 図表の作成、解釈を行い、文章を作成する。課題提示。</p>
14	<p>【授業内容】 報告書の作成</p> <p>【授業方法】 コンピュータ実習室にて、PCを使用し図表の作成等を行う。</p>	<p>(予習：3時間) 図表、文章の作成を行う。</p> <p>(復習：4時間) 課題提示。</p>
	<p>定期試験は実施しない</p>	

科目名	【新カリ】スポーツファイナンス	授業形態	講義		
英語科目名	【新カリ】スポーツファイナンス	対象学年	3年		
開講学期	2022年度後期	単位数	2単位		
代表教員	竹内 由利子	ナンバリング	MGT3347		
担当教員	竹内 由利子、スポーツ健康科学部教員共通				
授業概要					
全体内容	<p>【授業全体の内容】 本科目は、講義および演習の授業形態で行う。経営資源の「ヒト」「モノ」「カネ」「情報」を合理的かつ現実的にマネジメントする能力を身に付けるために、企業経営の源泉と言える「カネ」の意味と役割を理解し、スポーツをビジネスとして遂行するために必要なファイナンスの基本を修得することを目標とする。企業の財務戦略や意思決定を、「カネ」の流れを主軸としたケーススタディをもとに、管理会計・財務会計・連結会計による財務のグローバルスタンダードと監査の視点を持って、経営戦略、経営政策等の実態を把握して分析できる力をつけ、スポーツ組織、スポーツ産業におけるファイナンスの発展的理解と活用技術の獲得を目指す。</p> <p>【授業の位置づけ（学位授与方針に定められている知識・能力等との関連）】 この科目は「国際的視野を持ち、ビジネス対象としてのスポーツを「ヒト・モノ・カネ・情報」という経営資源の側面からマネジメントできる能力」を身にけるとい学位授与方針の達成に寄与する。</p> <p>【授業の到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 講義した内容について、概念、定義ともに論述することができる。 2. 主要な財務諸表を読み、記載内容を理解することができる。 3. 主要な経営指標を用いて、基本的な経営分析ができる。 4. 今日的な資金調達の方法を幅広く理解している。 5. 企業や各種団体のIR情報の活用方法を理解している。 6. 企業や各種団体の財務戦略や意思決定の方法を理解している。 				
到達目標					
授業の位置づけ	この科目は、コース科目群・スポーツマネジメントコース科目の選択必修科目である。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連					
履修上の注意、履修要件	<p>【履修要件】 経営学、経営組織論を受講していること、簿記・会計の知識があればなお良いが、いずれも必須ではない。</p> <p>【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】 課題レポートは、授業中の発表やディスカッションの中で解説する。定期試験後は、要望があれば解説する。</p> <p>【テキスト・参考書等】 テキストは指定しない。毎時間レジュメを配付する。 参考書は必要に応じて授業内で指示する。</p>				
成績評価の方法					
評価方法	<p>【成績評価の基準】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 講義した内容について、概念、定義ともに論述できる(定期試験・レポート)。 2. 主要な財務諸表を読み、記載内容を理解している(定期試験・演習・取り組む姿勢・レポート)。 3. 主要な経営指標を用いて、基本的な経営分析ができる(定期試験・演習・取り組む姿勢・レポート)。 4. 今日的な資金調達の方法を幅広く理解している(定期試験・レポート)。 5. 企業や各種団体のIR情報の活用方法を理解している(授業参加・演習・レポート)。 6. 企業や各種団体の財務戦略や意思決定の方法を理解している(定期試験・演習・レポート)。 <p>【成績評価の方法】 演習：10%、取り組む姿勢：10%、課題レポート：30%、定期試験：50%を総合して評価する。</p>				
評価基準					
試験・課題に対するフィードバック方法					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考文献					
その他					
連絡先・オフィスアワー	<p>【連絡先】 担当：竹内由利子（たけうちゆりこ） E-mail：y-takeuchi@juntendo.ac.jp（[@]を半角に変更してください） 【オフィスアワー】 随時メールで受付。必要に応じて出校日の授業前後の時間で面談もします。</p>				
担当教員の実務経験					

備考		<p>【学修時間】 この授業は、講義の授業形態による2単位の科目であり、授業30時間と準備学習60時間の計90時間の学修を必要とする内容をもって構成する。</p> <p>【その他】 リアルタイムのケーススタディを多用するので、新聞（一般紙で良い）の経済記事に良く目を通し、日常的に企業情報に関心を持つこと。</p>		
授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1		<p>【授業内容】 スポーツファイナンスへの招待</p> <p>【授業方法】 ガイダンス。講義の目的、内容、評価について説明する。</p>		<p>（予習：1時間） シラバスの内容を良く確認し、ガイダンスに臨む。</p> <p>（復習：1時間） 他のマネジメント系科目の履修状況を良く確認して、履修計画を立てる。</p> <p>（課題レポート） 指示に従い作成し、期限までに提出する。</p>
2		<p>【授業内容】 ファイナンスと経営管理との関係</p> <p>【授業方法】 ファイナンスの定義と範囲、経営管理との関連を理解する。</p>		<p>（予習：1時間） 履修済みの経営学関連科目の内容を復習しておく。</p> <p>（復習：1時間） 特に定義を良く復習し、理解しておく。</p>
3		<p>【授業内容】 証券市場と今日的な資金調達方法</p> <p>【授業方法】 企業や団体における資金調達のバリエーションと方法、今日的な課題について理解する。</p>		<p>（予習：2時間） 興味のある企業や団体をリストアップする。なぜ興味があるのか、その理由も整理しておく。</p> <p>（復習：2時間） 株式市場のトピックスで興味のある会社の周辺情報を収集しておくなぜ興味があるのか、その理由も整理しておく。</p>
4		<p>【授業内容】 財務諸表の読み方（1）</p> <p>【授業方法】 企業や団体の財務情報の内容と収集方法を理解する。</p>		<p>（予習：2時間） 興味のある企業や団体をリストアップする。なぜ興味があるのか、その理由も整理しておく。</p> <p>（復習：2時間） 興味のある企業や団体のウェブページから財務情報へアクセスし、情報収集の方法を復習する。なぜ興味があるのか、その理由も整理しておく。</p>
5		<p>【授業内容】 財務諸表の読み方（2）</p> <p>【授業方法】 貸借対照表の基本的な読み方を学ぶ。作成のプロセスと記載内容の意味を解説し、ケーススタディを用いて演習する。</p>		<p>（予習：2時間） 新聞の経済記事より企業の財務情報に関わるニュースをピックアップし論点をまとめておく。なぜその企業を選んだのか、その理由も整理しておく。</p> <p>（復習：2時間） ケーススタディの復習をする。</p>
6		<p>【授業内容】 財務諸表の読み方（3）</p> <p>【授業方法】 損益計算書基本的な読み方を学ぶ。作成のプロセスと記載内容の意味を解説し、ケーススタディを用いて演習する。</p>		<p>（予習：2時間） 出身地の地元企業ナンバーワンと思われる企業の財務情報をピックアップしておく。なぜその企業を選んだのか、その理由も整理しておく。</p> <p>（復習：2時間） ケーススタディの復習をする。</p>
7		<p>【授業内容】 財務諸表の読み方（4）</p> <p>【授業方法】 キャッシュフロー計算書基本的な読み方を学ぶ。作成のプロセスと記載内容の意味を解説し、ケーススタディを用いて演習する。</p>		<p>（予習：2時間） 新聞の経済記事より企業の財務情報に関わるニュースをピックアップし論点をまとめておく。なぜその企業を選んだのか、その理由も整理しておく。</p> <p>（復習：2時間） ケーススタディの復習をする。</p>

科目名	【新カリ】スポーツ組織マネジメント			授業形態	講義
英語科目名	【新カリ】スポーツ組織マネジメント			対象学年	3年
開講学期	2022年度後期			単位数	2単位
代表教員	水野 基樹			ナンバリング	MGT3348
担当教員	水野 基樹、スポーツ健康科学部教員共通				
授業概要					
全体内容	<p>【授業全体の内容】</p> <p>本科目は、講義の授業形態で行われる。多種多様なスポーツ組織を個別に扱うのではなく、あらゆるスポーツ組織に共通する特性を理解する。オーソドックスな組織論の分析レベルであるミクロ組織論とマクロ組織論の分類を理解した上で、その中間に位置するメゾ組織論すなわち、組織内部のコミュニケーションや意思決定のプロセス及び組織変革とリーダーシップの関係性などについても学ぶ。さらに、スポーツ組織の組織構造や戦略などの視点から、プロスポーツチーム（NPB、Jリーグ、Bリーグ）や競技団体などについて理解する。</p>				
到達目標	<p>【授業の到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 基礎的なスポーツ組織に関する理論を論理的に説明できる。 2. 日本経済新聞やビジネス雑誌を読みこなすことができる。 3. スポーツ組織の事例（Case Study）を理論と結び付けて考えることができる。 				
授業の位置づけ	この科目は、コース科目群・スポーツマネジメントコース科目の選択必修科目である。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、スポーツ健康科学部の学位授与方針に定める「協働による課題解決のためのコミュニケーション能力」の習得、スポーツマネジメントコースの学生にとっては、「経営学、社会学、マーケティング等を応用したスポーツマネジメントの知識技能」、「経営資源の側面からマネジメントできる能力」を養う科目として位置づけられる。				
履修上の注意、履修要件	<p>【履修要件】</p> <p>経営組織論やスポーツマーケティングなどを履修していることが望ましいですが、必ずしも必要条件ではありません。（履修上の注意（科目独自のルール）） 高い意欲をもって履修してください。</p>				
成績評価の方法					
評価方法	<p>【評価方法】</p> <p>「スポーツ組織」に関する基本的な知識とノウハウの習得、授業参加、事前・事後学習の態度、レポート、期末試験により総合的に判断します。具体的には、授業態度・取り組む姿勢：10%、事前・事後学習10%、レポート課題：10%、定期試験：70%。</p>				
評価基準	<p>【評価基準】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 基礎的な経営学理論を論理的に説明できるか定期試験で評価します。 2. 日本経済新聞やビジネス雑誌を読みこなすことができるように、授業の事前・事後の学習を評価します。 3. スポーツ組織の事例（Case Study）を理論と結び付けて考える能力が向上したかレポート課題により評価します。 4. その他、学習意欲や参加態度を講義内の小テストや課題などで評価します。 				
試験・課題に対するフィードバック方法					
<p>【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】</p> <p>授業やレポートにおけるコメントを通してフィードバックを行う。</p>					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
					特になし。毎回の授業で参考資料を配布します。
参考文献					
授業の際に提示する。					
その他					
連絡先・オフィスアワー	<p>【連絡先】</p> <p>担当：水野基樹 mtmizuno[at]juntendo.ac.jp（[at]を@に変更してください）</p> <p>【オフィスアワー】</p> <p>日時：月曜日 10時～12時、火曜日 15時～16時 場所：1号館3階1320室 ※上記の時間帯は予約が無くても対応しますが、予約があった学生を優先します。 できる限り、前日までにE-Mailで予約するように心掛けてください。</p>				
担当教員の実務経験					
備考	<p>【学習時間】</p> <p>この授業は、講義の授業形態による2単位の科目であり、授業30時間と準備学習60時間の計90時間の学修を必要とする内容をもって構成する。</p> <p>【その他】</p> <p>新型コロナウイルス感染症の発生状況に応じて、成績評価の基準、方法及び授業計画を変更する場合があります。</p>				
授業計画					
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間	

1	水野	<p>【授業内容】 【組織論の学問的位置づけ】 ミクロ組織論とマクロ組織論の学問領域を概観し、組織論における位置づけを解説する。</p>	<p>【授業方法】講義・グループワーク 基本的には座学を中心とする講義形式ではあるが、適宜グループワークを用いる。また、当該テーマに関する理論の解説と組織の事例（VTR）を紹介する。</p>	<p>（予習：3時間） 授業で扱うテーマ、問題についての資料を配布し、事後理解を深めるとともに、課題レポート等を課し提出させる。講義の開始時に解説する。</p> <p>（復習：1時間） 次回のテーマに関する参考資料を配布し、テキストの該当箇所と合わせてリーディング・アサインメントを課す。</p>
2	水野	<p>【授業内容】 【組織開発および組織行動学の学問的位置づけ②】 個人のパーソナリティと組織における人間行動や対人認知、また、パーソナリティについて解説する。</p>	<p>【授業方法】講義・グループワーク 基本的には座学を中心とする講義形式ではあるが、適宜グループワークを用いる。また、当該テーマに関する理論の解説と組織の事例（VTR）を紹介する。</p>	<p>（予習：3時間） 授業で扱うテーマ、問題についての資料を配布し、事後理解を深めるとともに、課題レポート等を課し提出させる。講義の開始時に解説する。</p> <p>（復習：1時間） 次回のテーマに関する参考資料を配布し、テキストの該当箇所と合わせてリーディング・アサインメントを課す。</p>
3	水野	<p>【授業内容】 【組織成員の動機づけ（3次元モチベーション理論）①】 モチベーション理論における欲求系・認知系・報酬系を包含する三次元理論を解説する。</p>	<p>【授業方法】講義・グループワーク 基本的には座学を中心とする講義形式ではあるが、適宜グループワークを用いる。また、当該テーマに関する理論の解説と組織の事例（VTR）を紹介する。</p>	<p>（予習：3時間） 授業で扱うテーマ、問題についての資料を配布し、事後理解を深めるとともに、課題レポート等を課し提出させる。講義の開始時に解説する。</p> <p>（復習：1時間） 次回のテーマに関する参考資料を配布し、テキストの該当箇所と合わせてリーディング・アサインメントを課す。</p>
4	水野	<p>【授業内容】 【組織成員の動機づけ（3次元モチベーション理論）②】 モチベーション理論における欲求系・認知系・報酬系を包含する三次元理論を解説する。</p>	<p>【授業方法】講義・グループワーク 基本的には座学を中心とする講義形式ではあるが、適宜グループワークを用いる。また、当該テーマに関する理論の解説と組織の事例（VTR）を紹介する。</p>	<p>（予習：3時間） 授業で扱うテーマ、問題についての資料を配布し、事後理解を深めるとともに、課題レポート等を課し提出させる。講義の開始時に解説する。</p> <p>（復習：1時間） 次回のテーマに関する参考資料を配布し、テキストの該当箇所と合わせてリーディング・アサインメントを課す。</p>
5	水野	<p>【授業内容】 【効果的コミュニケーションと情報フィードバック①】 対人的コミュニケーションおよび組織における効果的なコミュニケーション戦略を解説する。</p>	<p>【授業方法】講義・グループワーク 基本的には座学を中心とする講義形式ではあるが、適宜グループワークを用いる。また、当該テーマに関する理論の解説と組織の事例（VTR）を紹介する。</p>	<p>（予習：3時間） 授業で扱うテーマ、問題についての資料を配布し、事後理解を深めるとともに、課題レポート等を課し提出させる。講義の開始時に解説する。</p> <p>（復習：1時間） 次回のテーマに関する参考資料を配布し、テキストの該当箇所と合わせてリーディング・アサインメントを課す。</p>
6	水野	<p>【授業内容】 【効果的コミュニケーションと情報フィードバック②】 対人的コミュニケーションおよび組織における効果的なコミュニケーション戦略を解説する。</p>	<p>【授業方法】講義・グループワーク 基本的には座学を中心とする講義形式ではあるが、適宜グループワークを用いる。また、当該テーマに関する理論の解説と組織の事例（VTR）を紹介する。</p>	<p>（予習：3時間） 授業で扱うテーマ、問題についての資料を配布し、事後理解を深めるとともに、課題レポート等を課し提出させる。講義の開始時に解説する。</p> <p>（復習：1時間） 次回のテーマに関する参考資料を配布し、テキストの該当箇所と合わせてリーディング・アサインメントを課す。</p>

7	水野	<p>【授業内容】 【リーダーシップ理論の俯瞰①】 管理者の役割とリーダーシップ理論を俯瞰し、リーダーシップ戦略の有効性を探る。</p>	<p>【授業方法】講義・グループワーク 基本的には座学を中心とする講義形式ではあるが、適宜グループワークを用いる。また、当該テーマに関する理論の解説と組織の事例（VTR）を紹介する。</p>	<p>（予習：3時間） 授業で扱うテーマ、問題についての資料を配布し、事後理解を深めるとともに、課題レポート等を課し提出させる。講義の開始時に解説する。</p> <p>（復習：1時間） 次回のテーマに関する参考資料を配布し、テキストの該当箇所と合わせてリーディング・アサインメントを課す。</p>
8	水野	<p>【授業内容】 【リーダーシップ理論の俯瞰②】 管理者の役割とリーダーシップ理論を俯瞰し、リーダーシップ戦略の有効性を探る。</p>	<p>【授業方法】講義・グループワーク 基本的には座学を中心とする講義形式ではあるが、適宜グループワークを用いる。また、当該テーマに関する理論の解説と組織の事例（VTR）を紹介する。</p>	<p>（予習：3時間） 授業で扱うテーマ、問題についての資料を配布し、事後理解を深めるとともに、課題レポート等を課し提出させる。講義の開始時に解説する。</p> <p>（復習：1時間） 次回のテーマに関する参考資料を配布し、テキストの該当箇所と合わせてリーディング・アサインメントを課す。</p>
9	水野	<p>【授業内容】 【組織変革と組織開発①】 スポーツ組織の組織変革の実践事例を紹介し、管理者の在り方やチームビルディングの方法を考える。</p>	<p>【授業方法】講義・グループワーク 基本的には座学を中心とする講義形式ではあるが、適宜グループワークを用いる。また、当該テーマに関する理論の解説と組織の事例（VTR）を紹介する。</p>	<p>（予習：3時間） 授業で扱うテーマ、問題についての資料を配布し、事後理解を深めるとともに、課題レポート等を課し提出させる。講義の開始時に解説する。</p> <p>（復習：1時間） 次回のテーマに関する参考資料を配布し、テキストの該当箇所と合わせてリーディング・アサインメントを課す。</p>
10	水野	<p>【授業内容】 【組織変革と組織開発②】 スポーツ組織の組織変革の実践事例を紹介し、管理者の在り方やチームビルディングの方法を考える。</p>	<p>【授業方法】講義・グループワーク 基本的には座学を中心とする講義形式ではあるが、適宜グループワークを用いる。また、当該テーマに関する理論の解説と組織の事例（VTR）を紹介する。</p>	<p>（予習：3時間） 授業で扱うテーマ、問題についての資料を配布し、事後理解を深めるとともに、課題レポート等を課し提出させる。講義の開始時に解説する。</p> <p>（復習：1時間） 次回のテーマに関する参考資料を配布し、テキストの該当箇所と合わせてリーディング・アサインメントを課す。</p>
11	水野	<p>【授業内容】 【ケースメソッド(1)：箱根駅伝チーム①】 駅伝チームの高いモチベーションを引き出すための方策について、グループ討議、ディスカッションを行う。</p>	<p>（授業方法）講義・グループワーク・ディスカッション 受講者参加（主導）型のケーススタディ法を用いる。</p>	<p>（予習：3時間） 授業で扱うテーマ、問題についての資料を配布し、事後理解を深めるとともに、課題レポート等を課し提出させる。講義の開始時に解説する。</p> <p>（復習：1時間） 次回のテーマに関する参考資料を配布し、テキストの該当箇所と合わせてリーディング・アサインメントを課す。</p>
12	水野	<p>【授業内容】 【ケースメソッド(1)：箱根駅伝チーム②】 駅伝チームの高いモチベーションを引き出すための方策について、グループ討議、ディスカッションを行う。</p>	<p>【授業方法】講義・グループワーク・ディスカッション 受講者参加（主導）型のケーススタディ法を用いる。</p>	<p>（予習：3時間） 授業で扱うテーマ、問題についての資料を配布し、事後理解を深めるとともに、課題レポート等を課し提出させる。講義の開始時に解説する。</p> <p>（復習：1時間） 次回のテーマに関する参考資料を配布し、テキストの該当箇所と合わせてリーディング・アサインメントを課す。</p>

